

JP1 Version 10

JP1/Automatic Job Management System 3 - Web Operation Assistant

解説・手引・操作書

3021-3-122

対象製品

P-2W12-3QA4 JP1/Automatic Job Management System 3 - Web Operation Assistant 10-00

製品構成一覧および内訳形名

P-2412-3QA4 JP1/Automatic Job Management System 3 - Web Operation Assistant 10-00 (適用 OS : Windows Server 2003)

P-2A12-3QA4 JP1/Automatic Job Management System 3 - Web Operation Assistant 10-00 (適用 OS : Windows Server 2008)

輸出時の注意

本製品を輸出される場合には、外国為替および外国貿易法ならびに米国の輸出管理関連法規などの規制をご確認の上、必要な手続きをお取りください。

なお、ご不明な場合は、弊社担当営業にお問い合わせください。

商標類

ActiveX は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

AIX は、米国およびその他の国における International Business Machines Corporation の商標です。

Firefox は Mozilla Foundation の登録商標です。

HP C/HP-UX は、Hewlett-Packard Development Company, L.P. の商品名称です。

Internet Explorer は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Linux は、Linus Torvalds 氏の日本およびその他の国における登録商標または商標です。

Microsoft は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Mozilla は、Mozilla Foundation の、米国およびその他の国における商標です。

Oracle と Java は、Oracle Corporation 及びその子会社、関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。

RSA および BSAFE は、米国 EMC コーポレーションの米国およびその他の国における商標または登録商標です。

UNIX は、The Open Group の米国ならびに他の国における登録商標です。

Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Windows Server は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Windows Vista は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

This product includes software developed by the Apache Software Foundation (<http://www.apache.org/>).

This product includes software developed by Ben Laurie for use in the Apache-SSL HTTP server project.

Portions of this software were developed at the National Center for Supercomputing Applications (NCSA) at the University of Illinois at Urbana-Champaign.

This product includes software developed by the University of California, Berkeley and its contributors.

This software contains code derived from the RSA Data Security Inc. MD5 Message-Digest Algorithm, including various modifications by Spyglass Inc., Carnegie Mellon University, and Bell Communications Research, Inc (Bellcore).

Regular expression support is provided by the PCRE library package, which is open source software, written by Philip Hazel, and copyright by the University of Cambridge, England. The original software is available from <ftp://ftp.csx.cam.ac.uk/pub/software/programming/pcre/>

This product includes software developed by Ralf S. Engelschall <rse@engelschall.com> for use in the mod_ssl project (<http://www.modssl.org/>).

This product includes software developed by the University of California, Berkeley and its contributors.

This product includes software developed by IAIK of Graz University of Technology.

本製品には、Henry Spencer により開発されたソフトウェアの改変版が含まれています。

プログラムプロダクト「P-2412-3QA4」および「P-2A12-3QA4」には、EMC Corporation が著作権を有している部分が含まれています。

プログラムプロダクト「P-2412-3QA4」および「P-2A12-3QA4」には、Oracle Corporation またはその子会社、関連会社が著作権を有している部分が含まれています。



本製品は、米国 EMC コーポレーションの RSA BSAFE(R) ソフトウェアを搭載しています。

HITACHI
Inspire the Next

株式会社 日立製作所



その他記載の会社名、製品名は、それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。

マイクロソフト製品の表記について

このマニュアルでは、マイクロソフト製品の名称を次のように表記しています。

このマニュアルでの表記		正式名称
Internet Explorer	Microsoft Internet Explorer	Microsoft(R) Internet Explorer(R)
	Windows Internet Explorer	Windows(R) Internet Explorer(R)
Windows 7		Microsoft(R) Windows(R) 7 Professional
		Microsoft(R) Windows(R) 7 Enterprise
		Microsoft(R) Windows(R) 7 Ultimate
Windows Server 2003	Windows Server 2003	Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise Edition
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Standard Edition
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Enterprise Edition
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Standard Edition
	Windows Server 2003 (x64)	Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise x64 Edition
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Standard x64 Edition
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Enterprise x64 Edition
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Standard x64 Edition
Windows Server 2008		Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Datacenter
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Enterprise
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Standard
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Datacenter
Windows Vista		Microsoft(R) Windows Vista(R) Business

このマニュアルでの表記	正式名称
	Microsoft(R) Windows Vista(R) Enterprise
	Microsoft(R) Windows Vista(R) Ultimate
Windows XP Professional	Microsoft(R) Windows(R) XP Professional Operating System

Windows 7 , Windows Server 2008 , Windows Vista , Windows Server 2003 , および Windows XP Professional を総称して Windows と表記することがあります。

発行

2012 年 10 月 3021-3-122

著作権

Copyright (C) 2012, Hitachi, Ltd.

Copyright (C) 2012, Hitachi Solutions, Ltd.

はじめに

このマニュアルは、JP1/Automatic Job Management System 3 - Web Operation Assistant（以降、JP1/AJS3 - Web Operation Assistant と省略します）について説明したものです。

対象読者

このマニュアルは次の方にお読みいただくことを前提に説明しています。

- JP1/AJS を使ったジョブの自動運転システムを構築したことがある方、運用している方、または運用しようと考えている方
- JP1/AJS3 - Web Operation Assistant を使って、ジョブ、ジョブネットを一括監視したい方

マニュアルの構成

このマニュアルは、次に示す章から構成されています。

第 1 章 概要

JP1/AJS3 - Web Operation Assistant の概要を説明しています。使用例や前提条件なども説明しています。

第 2 章 機能

JP1/AJS3 - Web Operation Assistant の機能について説明しています。

第 3 章 インストールとセットアップ

インストールとセットアップの流れ、および環境設定パラメーターの内容について説明しています。

第 4 章 ユーザー環境設定

ユーザーごとに一括監視の環境をカスタマイズする方法を説明しています。

第 5 章 操作

JP1/AJS3 - Web Operation Assistant の操作方法について説明しています。

第 6 章 画面

JP1/AJS3 - Web Operation Assistant のログイン画面、監視画面、ユーザー環境設定画面、および画面の各フレームについて説明しています。

第 7 章 クラスタシステムでの運用

JP1/AJS3 - Web Operation Assistant のクラスタシステムでの運用について説明しています。

第 8 章 トラブルシューティング

JP1/AJS3 - Web Operation Assistant で障害が発生したときの対処について説明しています。

第 9 章 メッセージ

JP1/AJS3 - Web Operation Assistant から出力されるメッセージについて説明しています。

読書手順

このマニュアルは、利用目的に合わせて章を選択して読むことができます。利用目的別にお読みいただくことをお勧めします。

マニュアルを読む目的	記述箇所
JP1/AJS3 - Web Operation Assistant がどんな製品か知りたい。	1.1 節, 1.2 節, 2 章
インストールやセットアップなど、運用に必要な設定について知りたい。	1.3 節, 1.4 節, 1.5 節, 3 章, 付録 E

マニュアルを読む目的	記述箇所
一括監視の環境のカスタマイズ方法について知りたい。	4 章
操作手順について知りたい。	5 章
画面の表示形式，指定方法について知りたい。	6 章
クラスタシステムでの運用方法を知りたい。	7 章
トラブルの対処方法を知りたい。	8 章
表示されたメッセージの意味を知りたい。	9 章
生成されるファイル・フォルダについて知りたい。	付録 A
JP1/AJS3 - Web Operation Assistant で使用するプロセス一覧について知りたい。	付録 B
JP1/AJS3 - Web Operation Assistant で使用するポート番号について知りたい。	付録 C
JP1/AJS3 - Web Operation Assistant の各制限値について知りたい。	付録 D
各バージョンの変更内容について知りたい。	付録 F
このマニュアルに記載されている用語の意味を知りたい。	付録 G

JP1 Version 8 での製品体系変更について

JP1 Version 8 では，JP1/AJS2 の製品体系に次の変更がありました。

- JP1/AJS2 - Advanced Manager は廃止されました。JP1/AJS2 - Advanced Manager が提供していた組み込みデータベースは，JP1 Version 8 では，JP1/AJS2 - Manager に同梱されています。
- JP1/AJS2 - Light Edition は廃止されました。
- JP1/AJS2 - Client Toolkit は廃止されました。
- JP1/AJS2 - View は，Windows 版だけの提供となりました。

デフォルトのインストール先フォルダ

デフォルトのインストール先フォルダは，次のとおりです。

Windows Server 2003 (x64) および 64 ビット版の Windows Server 2008 の場合

システムドライブ ¥Program Files(x86)¥HITACHI¥JP1AJS2WOA

上記以外の場合

システムドライブ ¥Program Files¥HITACHI¥JP1AJS2WOA

このマニュアルで使用する「Administrators 権限」について

このマニュアルで表記している「Administrators 権限」とは，ローカル PC に対して Administrators 権限を持つユーザーを指します。ローカル PC に対して Administrators 権限を持つユーザーであれば，ローカルユーザー，ドメインユーザー，および ActiveDirectory 環境で動作に違いはありません。

目次

1	概要	1
1.1	導入の目的	2
1.2	JP1/AJS3 - Web Operation Assistant の特長	4
1.3	前提条件	5
1.4	システム構成例	6
1.5	使用上の注意事項	7
2	機能	11
2.1	機能概要	12
2.2	機能詳細	13
2.2.1	状態取得による一覧表示	13
2.2.2	複数ホスト監視	22
2.2.3	一覧表からの操作	22
2.2.4	JP1/AJS3 - View または JP1/AJS2 - View の起動	26
2.2.5	一覧表の更新	26
2.2.6	一括監視環境のカスタマイズ	26
3	インストールとセットアップ	27
3.1	インストールとセットアップの流れ	28
3.1.1	JP1/AJS3 - Manager または JP1/AJS2 - Manager 側のセットアップ	28
3.1.2	JP1/AJS3 - Web Operation Assistant 側のインストールとセットアップ	30
3.2	インストール	33
3.3	JP1/AJS3 - Web Operation Assistant 環境の設定	34
3.3.1	構成定義ファイル（環境設定パラメーター）の定義方法	34
3.3.2	ユーザー環境設定ファイルの定義方法	36
3.3.3	RDB 接続定義ファイルの定義方法	36
3.4	ユーザー認証環境の設定	38
3.5	Web ブラウザーの設定	40
3.5.1	Internet Explorer の場合	40
3.5.2	Firefox の場合	41
3.6	資料採取ツールのセットアップ	42
3.7	SSL サーバー証明書の設定	46
3.7.1	SSL サーバー証明書の設定手順	46
3.7.2	サーバー秘密鍵の作成	46
3.7.3	証明書発行要求の作成	47
3.8	ファイアウォールを通過するための設定	48
3.8.1	ファイアウォールを通過できる構成	48

3.8.2	JP1/AJS3 - Manager または JP1/AJS2 - Manager 側の設定	53
3.8.3	JP1/AJS3 - Web Operation Assistant 側の設定	55
3.9	グローバルバッファ拡張の設定	60
3.10	アンインストール	62

4

4	ユーザー環境設定	63
4.1	環境設定によって一括監視の環境をカスタマイズする方法	64
4.2	ユーザー環境設定ファイルで定義する環境	65
4.2.1	ユーザー環境設定ファイルの形式	65
4.2.2	ユーザー環境設定パラメーター一覧	65
4.2.3	ユーザー環境設定パラメーターの詳細	67
4.2.4	ユーザー環境設定ファイルの編集	73
4.3	[ユーザー環境設定] 画面で変更する環境	74
4.3.1	検索条件のデフォルトの設定	74
4.3.2	状態表示色	74
4.3.3	遅延表示色の優先度	75
4.3.4	状態一覧表の表示項目	76
4.3.5	操作オプションのデフォルト設定	77
4.3.6	自動更新	78

5

5	操作	79
5.1	ログインとログアウト	80
5.1.1	ログイン	80
5.1.2	ログアウト	81
5.2	状態取得による一覧表示	82
5.3	一覧表からの操作	83
5.3.1	操作の実行	83

6

6	画面	85
6.1	画面構成	86
6.2	[ログイン] 画面	89
6.3	[監視] 画面	90
6.3.1	[監視] 画面のフレーム構成	90
6.3.2	タイトルフレーム	91
6.3.3	状態取得条件設定フレーム	91
6.3.4	状態一覧フレーム	95
6.3.5	操作確認フレーム	103
6.3.6	操作実行結果フレーム	110
6.3.7	状態確認フレーム	111
6.4	[ユーザー環境設定] 画面	114

6.4.1	タイトルフレーム	114
6.4.2	設定項目選択フレーム	114
6.4.3	設定フレーム（検索条件のデフォルト設定）	115
6.4.4	設定フレーム（状態表示色）	117
6.4.5	設定フレーム（遅延表示色の優先度）	119
6.4.6	設定フレーム（状態一覧表の表示項目）	120
6.4.7	設定フレーム（操作オプションのデフォルト設定）	125
6.4.8	設定フレーム（自動更新）	130

7	クラスタシステムでの運用	131
7.1	JP1/AJS3 - Manager ホストまたは JP1/AJS2 - Manager ホストの系切り替え時の運用	132
7.1.1	JP1/AJS3 - Manager ホストまたは JP1/AJS2 - Manager ホストの系切り替え時の処理要求	132
7.1.2	JP1/AJS3 - Manager ホストまたは JP1/AJS2 - Manager ホストの系切り替え時のログイン要求	132
7.1.3	JP1/AJS3 - Manager または JP1/AJS2 - Manager の系切り替え時の最新情報取得	132

8	トラブルシューティング	133
8.1	対処の手順	134
8.2	ログ情報	135
8.2.1	ログ情報の種類	135
8.2.2	ログファイルおよびフォルダー一覧	135
8.3	トラブル発生時に採取が必要な資料	137
8.4	資料の採取方法	139
8.5	トラブルへの対処方法	143
8.5.1	Internal Server Error について	143
8.5.2	ログイン画面が表示されない場合について	143
8.5.3	イベントログに、イベントソースが crypt32、イベント ID が 8 のエラーが出力される場合について	143
8.5.4	状態一覧表の [状態] にすべて状態認識不能と表示される場合について	144
8.5.5	監視対象に状態取得されるユニットが存在するのに、ユニットの状態が正常に取得できない場合について	144

9	メッセージ	145
9.1	メッセージの形式	146
9.1.1	メッセージの出力形式	146
9.1.2	メッセージの記載形式	146
9.2	メッセージ一覧	147

付録		165
付録 A	ファイルおよびフォルダー一覧	166
付録 B	プロセス一覧	168

付録 C ポート番号一覧	170
付録 D 制限値一覧	172
付録 E 見積もり	173
付録 E.1 JP1/AJS3 - Web Operation Assistant の処理性能を見積もる	173
付録 E.2 システム性能を見積もる	175
付録 E.3 グローバルバッファを見積もる	175
付録 F 各バージョンの変更内容	177
付録 F.1 10-00 での変更内容	177
付録 F.2 09-50 での変更内容	177
付録 F.3 09-00 での変更内容	177
付録 F.4 08-50 での変更内容	177
付録 F.5 08-00 での変更内容	177
付録 F.6 07-50 での変更内容	177
付録 F.7 07-10 での変更内容	178
付録 G このマニュアルの参考情報	179
付録 G.1 関連マニュアル	179
付録 G.2 このマニュアルでの表記	182
付録 G.3 このマニュアルで使用する英語略	183
付録 G.4 コマンドの文法に使用する記号	183
付録 H 用語解説	185

索引

187

1

概要

この章では、JP1/AJS3 - Web Operation Assistant の導入の目的やシステム構成について説明します。

1.1 導入の目的

1.2 JP1/AJS3 - Web Operation Assistant の特長

1.3 前提条件

1.4 システム構成例

1.5 使用上の注意事項

1.1 導入の目的

JP1/AJSには、ジョブやジョブネットの情報を監視できる機能として次の2種類があります。

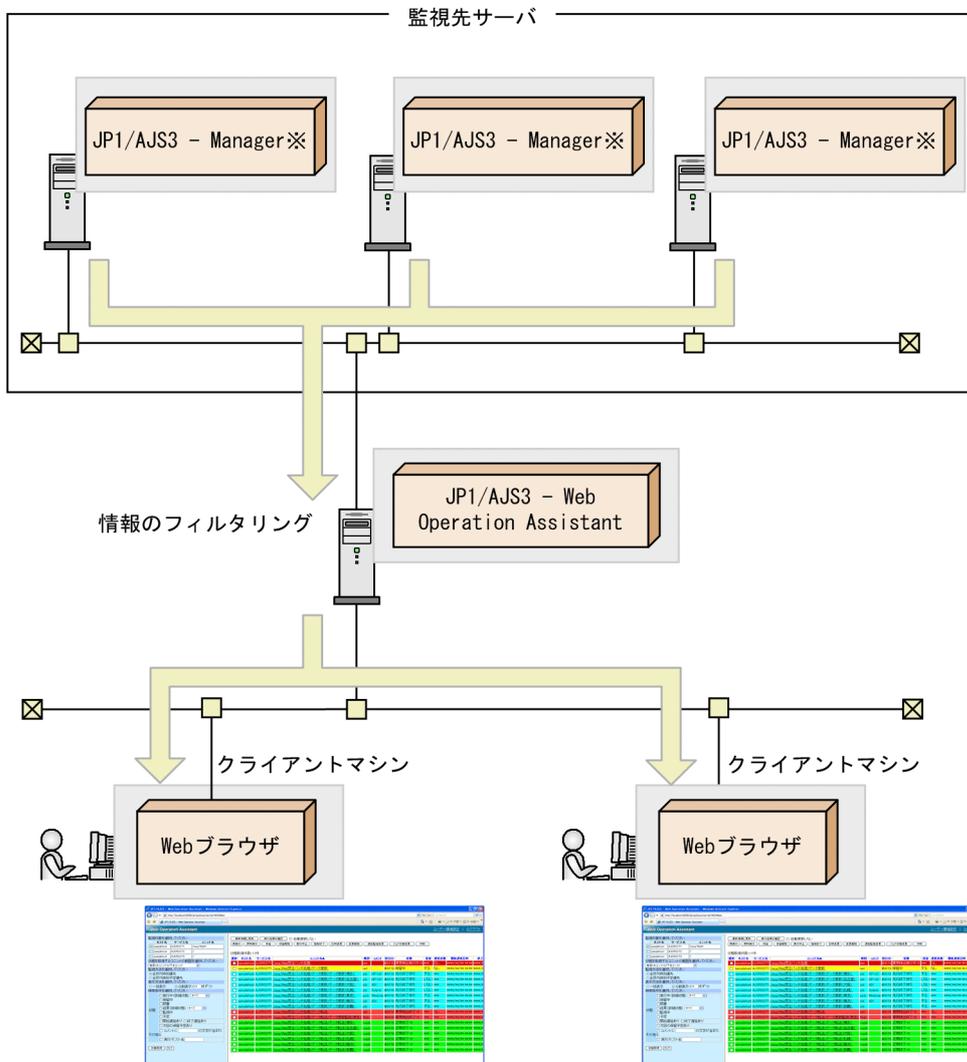
- JP1/AJS3 - View または JP1/AJS2 - View
- JP1/AJS3 Console または JP1/AJS2 Console

しかし、これらの機能では複数マネージャーの監視情報を同時に一覧表示できません。

JP1/AJS3 - Web Operation Assistant を使用すると、複数マネージャー上の監視情報を Web ブラウザー上に一覧表示できます。

JP1/AJS3 - Web Operation Assistant を使用した複数マネージャーの一括監視の概要を次の図に示します。

図 1-1 JP1/AJS3 - Web Operation Assistant の一括監視の概要



注※ JP1/AJS2 - Managerでも可

複数マネージャーの情報を、指定した条件でフィルタリングして取り出し、クライアントの Web ブラウ

ザーに一覧表示します。

また、Web ブラウザー上に表示された一覧表を基に、操作したいジョブやジョブネットを選択して再実行などの操作や、JP1/AJS3 - View または JP1/AJS2 - View を起動して状態や結果の確認などができます。

JP1/AJS3 - Web Operation Assistant は、複数マネージャーのジョブやジョブネットを Web ブラウザー上で一括監視し、一括操作したい場合に有効です。

1.2 JP1/AJS3 - Web Operation Assistant の特長

JP1/AJS3 - Web Operation Assistant の特長を次に示します。

一括監視ができます

複数マネージャーのジョブやジョブネットの情報を Web ブラウザー上一覧表形式で表示し、一括監視ができます。

フィルタリングができます

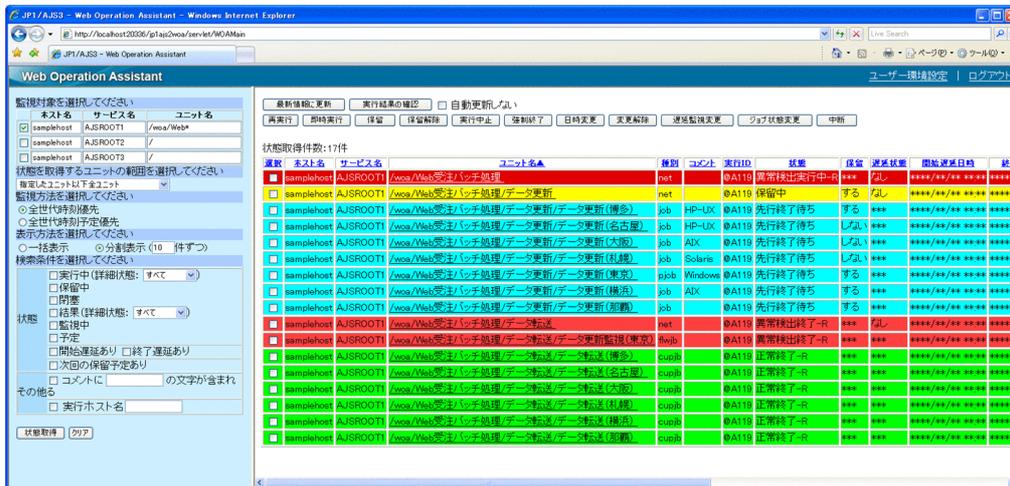
ユニット名や実行状態などをキーにして表示情報をフィルタリングできます。

一括操作ができます

Web ブラウザー上に表示された一覧表を基に、複数マネージャーの複数ユニットに対して、ジョブの再実行などの操作が一度にできます。

[監視] 画面のイメージを次の図に示します。

図 1-2 [監視] 画面のイメージ



1.3 前提条件

JP1/AJS3 - Web Operation Assistant を使用するための前提条件について説明します。

(1) 前提 OS

- Windows Server 2003
- Windows Server 2008

(2) 前提プログラム

- JP1/Base 10-00 以降

(3) クライアントマシン上の前提プログラム

(a) 前提 OS

- Windows XP Professional
- Windows Vista
- Windows 7
- Windows Server 2003
- Windows Server 2008

(b) 前提プログラム

- Internet Explorer 6 以降
- Firefox 3.6 以降

[監視] 画面から JP1/AJS3 - View または JP1/AJS2 - View を起動する場合、次のプログラムも必要です。

- JP1/AJS3 - View 09-00 以降または JP1/AJS2 - View 08-00 以降

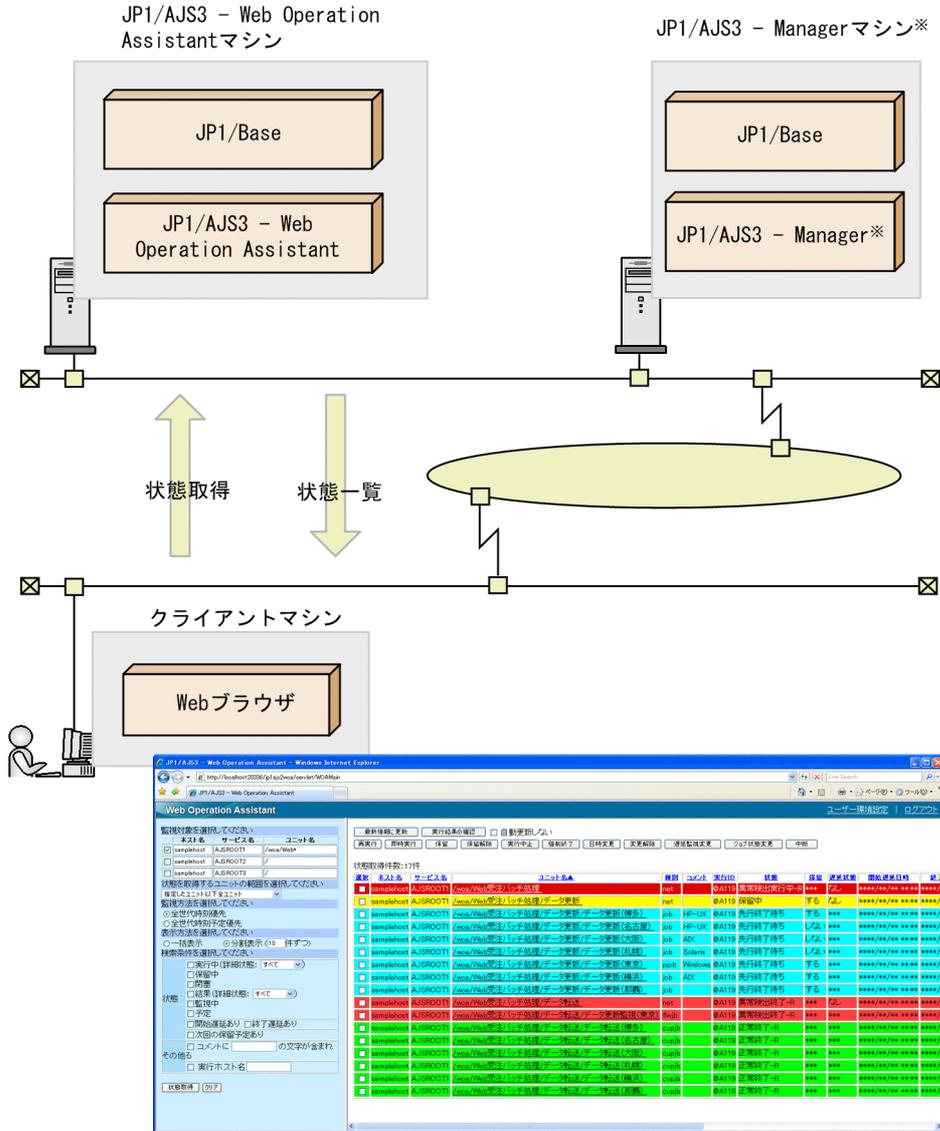
(4) 監視先サーバマシン上の前提プログラム

- JP1/AJS3 - Manager 09-00 以降または JP1/AJS2 - Manager 08-00 以降
- JP1/Base

1.4 システム構成例

JP1/AJS3 - Web Operation Assistant を使用したシステム構成例を次に示します。

図 1-3 JP1/AJS3 - Web Operation Assistant を使用したシステム構成例



注※ JP1/AJS2 - Managerでも可

1.5 使用上の注意事項

(1) 環境に関する注意事項

- JP1/AJS3 - Web Operation Assistant は、表示言語を切り替えての使用はできません。
- JP1/AJS3 - Web Operation Assistant は内部でコマンドをリモート実行するため、監視先のマネージャーホストで文字コード種別が混在する場合は正常に動作しません。このため、監視先の文字コード種別を統一してください。ここでいう監視先の文字コード種別とは、次のものです。
 - 監視先が JP1/AJS3 - Manager の場合
 - ・環境設定パラメーター AJSCHARCODE に指定した文字コード種別
 - ・JP1/AJS3 サービス起動時の OS 上の設定
 - 監視先が JP1/AJS2 - Manager の場合
 - ・[マネージャー環境設定] ダイアログボックスの [論理ホスト共通] タブの [文字コード種別] で指定した内容 (Windows の場合)
 - ・スケジューラーサービス環境設定ファイル (Schedule.conf) の AJSCHARCODE パラメーターに指定した文字コード種別 (UNIX の場合)
 - ・JP1/AJS2 Monitor サービス起動時の OS 上の設定
- JP1/AJS3 - Web Operation Assistant は、監視先のマネージャーと同一の言語環境 (製品の言語種別 (日本語版、英語版など)) のときだけ使用できます。使用できる言語種別の組み合わせを次の表に示します。

			JP1/AJS3 - Manager または JP1/AJS2 - Manager		
			国内版		海外版
			日本語	英語	英語
JP1/AJS3 - Web Operation Assistant	国内版	日本語			
	海外版	英語	×		

(凡例)

- : サポートしている
- : JP1/AJS - Manager が UNIX の場合だけサポートしている
- ×

注

- JP1/AJS - Manager の JP1/AJS サービス起動時の環境変数 LANG に「C」(英語)を設定してください。
- JP1/AJS3 - Web Operation Assistant が動作するマシンと監視先の JP1/AJS3 - Manager または JP1/AJS2 - Manager が動作するマシン、および Web ブラウザーが動作するマシンの間でタイムゾーンの設定が一致していない場合、ジョブやジョブネットの開始日時や操作日時などの時刻情報が正しく表示されないことがあります。これらすべてのマシンでタイムゾーンの設定を同じにしてください。なお、JP1/AJS3 - Web Operation Assistant のタイムゾーンは、[コントロールパネル] - [日付と時刻] の [タイムゾーン] タブで設定された内容を参照します。
- 監視対象スケジューラーサービスのデータベース種別が組み込み DB または HiRDB で監視対象スケジューラーサービスと JP1/AJS3 - Web Operation Assistant との間にパケットフィルタリングや NAT 変換などのファイアウォールが存在する場合、ファイアウォールを通過するための設定が必要です。設定の方法については「3.8 ファイアウォールを通過するための設定」を参照してください。
- JP1/AJS3 - Web Operation Assistant ではリモート実行するコマンドのオプションに "-x no" を指定するため、監視先のマネージャーホストの環境変数 AJSAUTOJUDGE を使用しません。このため、JP1/AJS3 - Web Operation Assistant を使用して、プランニンググループの下にあるユニットを操作および状態取得する場合、対象のユニットは自動選択されません。

1. 概要

- JP1/AJS3 - Web Operation Assistant のサービスのアカウントは、デフォルトのシステムアカウントからユーザーアカウントに変更しないでください。
- JP1/AJS3 - Web Operation Assistant は、JIS 2004 (JIS X 0213:2004) で追加された第 3 水準漢字、第 4 水準漢字を使用できません。

(2) インストールとセットアップに関する注意事項

- JP1/AJS3 - Web Operation Assistant 10-00 以降から自己署名証明書の再作成をすることができなくなりました。09-50 以前の JP1/AJS3 - Web Operation Assistant で作成した自己署名証明書を使用することはできますが、再作成ができません。証明書 をコピーするなど、任意の方法でバックアップしてください。

注

証明書の配置場所については「付録 A ファイルおよびフォルダ一覧」を参照してください。

- サーバー秘密鍵、または SSL サーバー証明書のどちらか一方が存在しない環境 に JP1/AJS3 - Web Operation Assistant をインストールすると、インストール後には JP1/AJS3 WOA HTTP Server サービスが起動できません。

次のどちらかの方法で対処してください。

- インストール前の対処方法

サーバー秘密鍵、または SSL サーバー証明書 を削除したあとに、インストールする。

- インストール後の対処方法

「3.7 SSL サーバー証明書の設定」を参照して、サーバー秘密鍵とサーバー秘密鍵証明書発行要求 (CSR) を再作成し、認証局から入手した SSL サーバー証明書を配置したあとに、JP1/AJS3 WOA HTTP Server サービスを起動する。

または、バックアップしていた自己署名証明書とサーバー秘密鍵を配置したあとに、JP1/AJS3 WOA HTTP Server サービスを起動する。

注

サーバー秘密鍵および SSL サーバー証明書の配置場所については「付録 A ファイルおよびフォルダ一覧」を参照してください。

- JP1/AJS3 - Web Operation Assistant は、自ホスト名から IP アドレスへの変換、および IP アドレスから自ホスト名への変換ができない環境では、正常に動作しません。これらの変換ができるように hosts ファイルまたは DNS サーバを設定してください。

- Windows Server 2008 環境の JP1/AJS3 - Web Operation Assistant を使用するクライアントは、IPv6 環境で使用することができます。

JP1/AJS3 - Web Operation Assistant ホストが IPv6 環境の場合、JP1/AJS3 - Manager を監視することはできません。クライアントが IPv6 環境の場合、JP1/AJS3 - Web Operation Assistant ホストは、IPv4/IPv6 デュアルスタック環境で使用してください。JP1/AJS3 - Web Operation Assistant ホストが、IPv4/IPv6 デュアルスタック環境の場合は、IPv4 形式の IP アドレスでだけ使用できます。

JP1/AJS3 - Web Operation Assistant の IPv4 と IPv6 の使用可否について、次の表に示します。

表 1-1 Web ブラウザーから JP1/AJS3 - Web Operation Assistant ホストへの接続可否

クライアントのネットワーク環境	URL に指定するホスト名の形式	Web ブラウザーから JP1/AJS3 - Web Operation Assistant ホストへの接続可否	
		Windows Server 2003 環境	Windows Server 2008 環境
IPv4 環境	ホスト名		
	IPv4		

クライアントのネットワーク環境	URL に指定するホスト名の形式		Web ブラウザーから JP1/AJS3 - Web Operation Assistant ホストへの接続可否	
			Windows Server 2003 環境	Windows Server 2008 環境
	IPv6		×	×
IPv4/IPv6 デュアルスタック環境	ホスト名	IPv4 で名前解決		
		IPv6 で名前解決	×	
	IPv4			
	IPv6		×	
IPv6 環境	ホスト名		×	
	IPv4		×	×
	IPv6		×	

注

Web ブラウザーのエラーとなり、以下のメッセージが表示されます。

- ・ Internet Explorer の場合：「Internet Explorer ではこのページは表示できません。」
- ・ Firefox の場合：「ページを表示できません」

表 1-2 JP1/AJS3 - Web Operation Assistant ホストから JP1/AJS3-Manager ホストへの接続可否

JP1/AJS3 - Web Operation Assistant ホストのネットワーク環境	状態取得条件設定フレームの監視対象のホスト名		JP1/AJS3 - Web Operation Assistant ホストから JP1/AJS3 - Manager ホストへの接続可否
IPv4 環境	ホスト名		
IPv4/IPv6 デュアルスタック環境	ホスト名	IPv4 で名前解決	
		IPv6 で名前解決	×
IPv6 環境	ホスト名		×

注

ホスト名から IP アドレスを解決できず、KAVI4203-E のエラーとなります。

- ・ [サービス] ウィンドウを開いた状態でアンインストールすると、JP1/AJS3 - Web Operation Assistant のサービスの [スタートアップの種類] が「無効」となり、削除されない場合があります。アンインストールする場合は、[サービス] ウィンドウを閉じてください。
[スタートアップの種類] が「無効」となり、削除されなかった場合はシステムを再起動すると削除されます。また、[スタートアップの種類] が「無効」のまま再インストールした場合、JP1/AJS3 - Web Operation Assistant のサービスが追加されませんのでご注意ください。

(3) 操作時の注意事項

- ・ SSL 通信を使用しない場合、通信データが暗号化されないため、パスワードなどを含む通信データを盗聴されるおそれがあります。
- ・ ログイン後に Web ブラウザーの [戻る] ボタンで [ログイン] 画面に戻って、別の JP1 ユーザーとしてログインし直すことはできません。別の JP1 ユーザーとしてログインし直すには、一度ログアウトしてからログインしてください。
- ・ [ログアウト] ハイパーリンクをクリックしないで Web ブラウザーを終了した場合、1 時間たってサーバ側で自動的にログアウト処理が実行されるまで、ログアウトされません。

1. 概要

- JP1/AJS3 WOA Web Application Server サービスを停止または再起動する場合には、最初に JP1/AJS3 WOA HTTP Server サービスを停止してください。
JP1/AJS3 WOA Web Application Server サービスを最初に停止または再起動すると、正しく停止できないことがあります。
- JP1/AJS3 - Web Operation Assistant が動作するマシンの停止または再起動は、JP1/AJS3 - Web Operation Assistant のサービスを下記の手順で停止したあとに行ってください。この手順以外では、JP1/AJS3 - Web Operation Assistant のサービスが正しく停止できないことがあります。
 1. JP1/AJS3 WOA HTTP Server サービスを停止する。
 2. JP1/AJS3 WOA Web Application Server サービスを停止する。
- JP1/AJS3 - Web Operation Assistant のすべての画面で、右クリックによるポップアップメニューの表示は行われません。
- Web ブラウザーの [戻る] ボタンは使用しないでください。Web ブラウザーの [戻る] ボタンを押して最新情報でないページを表示した場合、そのページから操作するとエラーになり操作できません。
- Web ブラウザーの [更新] ボタンを押して画面を更新した場合、ログイン直後の画面に戻ります。ログインが無効になったあとに更新した場合、ログイン処理が再実行されてログイン直後の画面に戻ります。
- Web ブラウザーが Internet Explorer 7 以降の場合は、画面の拡大率の指定を 100% にして使用してください。
- Web ブラウザーの [ファイル] - [新規作成] - [ウィンドウ] を選択して表示したウィンドウは使用しないでください。また、Web ブラウザーに Internet Explorer 7 以降または Firefox を使用している場合は、Web ブラウザーの [ファイル] - [新規ウィンドウ] で選択したウィンドウと [ファイル] - [新しいタブ] を選択して表示したタブは使用しないでください。
複数の Web ブラウザーで監視する場合は、Web ブラウザーを新規に起動して JP1/AJS3 - Web Operation Assistant のログインの URL を入力するか、または [スタート] - [プログラム] - [JP1_Automatic Job Management System 3 - Web Operation Assistant]メニューから起動してください。
- JP1/AJS3 - Web Operation Assistant のサービスが停止中に [監視] 画面を操作すると、Web ブラウザーでページが表示できないことを示すエラーが表示されます。この状態になった [監視] 画面はすでに無効な状態となっているため、操作しないで Web ブラウザーを閉じて終了させてください。
- Web ブラウザーが Firefox の場合は、[表示] - [ズーム] の設定をインストール直後の設定で使用してください。
表示されている Web ブラウザーのズームの設定がわからないときは、[表示] - [ズーム] - [リセット] を選択するとリセットできます。
- Web ブラウザーが Firefox の場合、アドオン（拡張機能）を導入すると、画面を表示するのに時間が掛かることがあります。必要最小限のアドオンだけを導入している環境で JP1/AJS3 - Web Operation Assistant を使用してください。なお、JP1/AJS3 - Web Operation Assistant では、Firefox のアドオンは使用しません。

2

機能

この章では , JP1/AJS3 - Web Operation Assistant の機能を説明します。

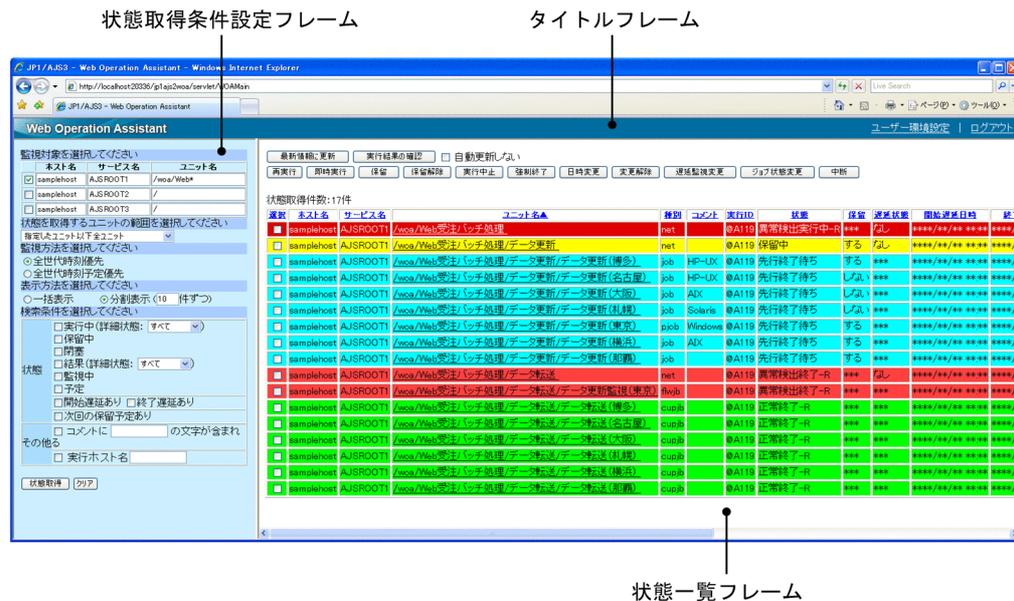
2.1 機能概要

2.2 機能詳細

2.1 機能概要

[監視] 画面の状態取得条件設定フレームでユニット名や実行状態、コメント文字列などの検索条件を指定し [状態取得] ボタンを押すと、その条件に合うジョブやジョブネットの情報が状態一覧フレームに一覧表形式で表示されます。表示された一覧表を基に、操作したいジョブやジョブネットを選択して再実行などの操作や、JP1/AJS3 - View または JP1/AJS2 - View を起動して状態や結果の確認などができます。[監視] 画面イメージを次の図に示します。

図 2-1 [監視] 画面イメージ



環境の設定によっては、状態取得条件設定フレームがない場合もあります。

2.2 機能詳細

この節では、JP1/AJS3 - Web Operation Assistant の機能詳細について説明します。

2.2.1 状態取得による一覧表示

状態取得条件設定フレームで指定した条件を満たすジョブまたはジョブネットの情報を検索し、検索結果が一覧表形式で表示されます。状態取得対象のユニットは、ユニット名を使って指定します。

(1) 監視対象の指定

(a) ユニットの指定

監視対象のユニットを、ホスト名、サービス名、ユニット名で指定します。

ユニット名の指定方法には、絶対パス名でユニット名を指定する方法のほかに、ワイルドカードで指定する方法があります。ワイルドカードで指定する場合、次の表の正規表現を利用できます。

表 2-1 ワイルドカード指定で利用できる正規表現

正規表現	説明
*	0文字以上の任意の文字列
?	任意の1文字

なお、ユニット名の指定時に「¥」(円記号)、「"」(ダブルクォーテーションマーク)、「`」(バッククォーテーションマーク)、「[」(開き大括弧)、および「]」(閉じ大括弧)は使用できません。

(b) ユニット種別の選択

監視対象のユニットとして、指定ユニット配下のユニットも対象にするかどうかを選択できます。配下のユニットも対象にする場合、どの種別のユニットを対象にするかを選択できます。

表 2-2 指定ユニット配下のユニット種別

ユニット種別	説明
指定したユニットだけ	ユニット名に指定したユニットだけを監視対象とします
指定したユニット以下全ユニット	ユニット名に指定したユニット配下の全ユニットを監視対象とします
指定したユニット以下ルートジョブネットだけ	ユニット名に指定したユニット配下のルートジョブネットだけを監視対象とします
指定したユニット以下ジョブネットだけ	ユニット名に指定したユニット配下のジョブネットだけを監視対象とします
指定したユニット以下ジョブだけ	ユニット名に指定したユニット配下のジョブだけを監視対象とします

検索条件に指定するユニット種別と表示されるユニット種別の対応を次の表に示します。

表 2-3 検索条件に指定するユニット種別と表示されるユニット種別の対応

ユニット種別	検索条件に指定するユニット種別				
	指定したユニットだけ	指定したユニット以下全ユニット	指定したユニット以下ルートジョブネットだけ	指定したユニット以下ジョブネットだけ	指定したユニット以下ジョブだけ
ジョブグループ	-	-	-	-	-

2. 機能

ユニット種別	検索条件に指定するユニット種別				
	指定したユニットだけ	指定したユニット以下全ユニット	指定したユニット以下ルートジョブネットだけ	指定したユニット以下ジョブネットだけ	指定したユニット以下ジョブだけ
ルートジョブネット (通常)					-
ルートリモートジョブネット (通常)					-
ルートジョブネット (プランニンググループ配下)					-
リモートルートジョブネット (プランニンググループ配下)					-
ネストジョブネット			-		-
ネストリモートジョブネット			-		-
マネージャジョブグループ	-	-	-	-	-
マネージャジョブネット	-	-	-	-	-
プランニンググループ	-	-	-	-	-
ジョブ			-	-	
ホストリンクジョブネット			-		-

(凡例)

- : 表示される
- : 表示されない (対象とならない)

注

該当するユニットを指定した場合

(2) 表示情報のフィルタリング

一覧の表示では、次の条件でのフィルタリングができます。

指定できる条件		説明
状態	実行状態	<ul style="list-style-type: none"> • 実行中 • 保留中 • 閉塞 • 結果 • 監視中 • 予定 指定した状態だけが表示されます。一つも指定しない場合は、未登録以外のすべての状態が表示されます。「実行中」および「結果」については、詳細状態として「すべて」「正常」「警告」「異常」「警告・異常」のどれかを選択できます。詳細状態を指定しない場合は、「すべて」になります。
	遅延状態	<ul style="list-style-type: none"> • 開始遅延あり • 終了遅延あり 開始遅延、終了遅延状態のユニットが表示されます。
	保留予定	保留予定のあるユニットだけが表示されます。
コメント文字列		指定した文字列をコメント中に含むユニットだけが表示されます。
実行ホスト名		指定したホスト名を実行先とするユニットだけが表示されます。

(a) 条件の組み合わせ方

- 「状態」、「コメント文字列」、「実行ホスト名」の条件を同時に指定した場合、指定した条件すべてを満たすものが選択されます。
- 「状態」条件の中で「実行状態」、「遅延状態」、「保留予定」の状態を同時に指定した場合、指定した状態すべてを満たすものが選択されます。

- 「状態」条件の中で「実行状態」、「遅延状態」の中の各状態を同時に指定した場合、その状態を一つでも満たすものが選択されます。

(b) 指定する状態と JP1/AJS3 - Manager または JP1/AJS2 - Manager 上の状態との対応

次の表に検索条件に指定する状態と JP1/AJS3 - Manager または JP1/AJS2 - Manager 上の状態との対応を示します。

表 2-4 検索条件として指定する状態と JP1/AJS3 - Manager または JP1/AJS2 - Manager 上の状態との対応

JP1/AJS3 - Web Operation Assistant の検索条件		JP1/AJS3 - Manager または JP1/AJS2 - Manager 上の状態	状態の存在有無		
状態	詳細状態		ジョブネット		ジョブ
			ルート	ネスト	
実行中	正常	実行中			
		キューイング	-	-	
	警告	警告検出実行中			-
	異常	異常検出実行中			-
保留中	-	保留中			
閉塞	-	閉塞			
結果	正常	正常終了			
		正常終了 - 偽	-	-	
		計画未実行	-		
		繰り越し未実行			-
		監視正常終了			-
		監視未起動終了			-
		監視中断			
	警告	警告検出終了			
	異常	未実行終了	-		
		異常検出終了			
		順序不正			-
		中断			-
		強制終了			
		起動失敗	-	-	
監視打ち切り終了				-	
終了状態不明	-	-			
監視中	-	監視中			-
予定	-	実行待ち	-	-	
		開始時刻待ち			-
		先行終了待ち	-		

(凡例)

- : 状態が存在する。
- : 状態が存在しない。

(3) 表示方法の選択

一括表示か分割表示が選択できます。

- 一括表示
条件に合う情報が全件 Web ブラウザーの 1 ページに表示されます。
- 分割表示
条件に合う情報のうち、数値入力フィールドに指定した件数が Web ブラウザーの 1 ページに表示されます。条件に合う情報がそれ以上の件数の場合、残りの情報は次のページ以降に表示され、[次の n 件] リンクが表示されます。[次の n 件] リンクをクリックすると、次のページに進みます。2 ページ目以降を表示している場合、[前の n 件] リンクが表示されます (n : データ件数)。
リンクのクリックで前後のページへ移動するときに、表示情報の再取得はされません。自動更新を設定している場合、指定時刻が経過すると最新情報に更新されますが、更新前に表示していたページ番号よりページ数が少なくなった場合は、取得後の最後のページを表示します。

(4) 監視方法の選択

監視対象のジョブネットの世代のうち、どのような状態を優先して表示するか次の二つの監視方法から選択できます。

- 全世代時刻優先
- 全世代時刻予定優先

それぞれの監視方法の表示優先度について説明します。

(a) 表示優先度

監視対象の表示優先度には、結果を優先する場合と予定を優先する場合の 2 とおりがあります。

表 2-5 監視方法と表示優先度

監視方法	表示優先度
全世代時刻優先	結果を優先的に表示する
全世代時刻予定優先	予定を優先的に表示する

それぞれの場合の状態の表示優先度を次に示します。

結果を優先する場合 (全世代時刻優先)

結果を優先する場合の状態の表示優先度は、次のとおりです。

表 2-6 結果を優先する場合の状態の表示優先度

優先度	対象世代の状態	同じ状態の世代が複数あるときの優先順位
1 (高)	実行中	開始時刻 (再実行開始時刻) が現在時刻に近い順
2	保留中	開始予定時刻が現在時刻に近い順
3	開始時刻待ち (再実行時)	その世代が持つ開始時刻が現在時刻に近い順
4	閉塞	-
5	結果	終了時刻が現在時刻に近い順 (再実行も含む)
6	監視中	開始時刻が現在時刻に近い順

優先度	対象世代の状態	同じ状態の世代が複数あるときの優先順位
7 (低)	予定	開始予定時刻が現在時刻に近い順

注

再実行時の世代に限り，通常の世代の開始時刻待ち状態よりも表示優先度が高くなります。通常の開始時刻待ちの世代は「予定」に含まれます。

予定を優先する場合（全世代時刻予定優先）

予定を優先する場合の表示優先度は，次のとおりです。

表 2-7 予定を優先する場合の状態の表示優先度

優先度	対象世代の状態	同じ状態の世代が複数あるときの優先順位
1 (高)	実行中	開始時刻（再実行開始時刻）が現在時刻に近い順
2	保留中	開始予定時刻が現在時刻に近い順
3	開始時刻待ち （再実行時）	その世代が持つ開始時刻が現在時刻に近い順
4	閉塞	-
5	監視中	開始時刻が現在時刻に近い順
6	予定	開始予定時刻が現在時刻に近い順
7 (低)	結果	終了時刻が現在時刻に近い順（再実行も含む）

注

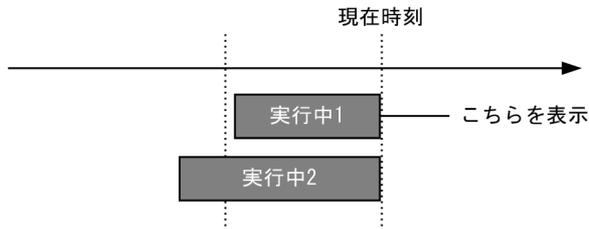
再実行時の世代に限り，通常の世代の開始時刻待ち状態よりも表示優先度が高くなります。通常の開始時刻待ちの世代は「予定」に含まれます。

表 2-6 と表 2-7 からわかるように，「実行中」の世代が最も優先して表示されます。また，同じ状態の世代が複数ある場合は，各状態の開始時刻，開始予定時刻，終了時刻などの時刻が現在時刻に最も近い世代を優先します。

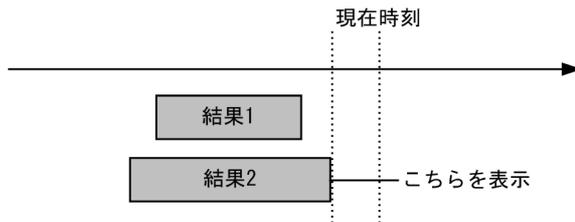
同じ状態の世代が複数ある場合の表示例を次に示します。

図 2-2 同じ状態の世代が複数ある場合の表示例

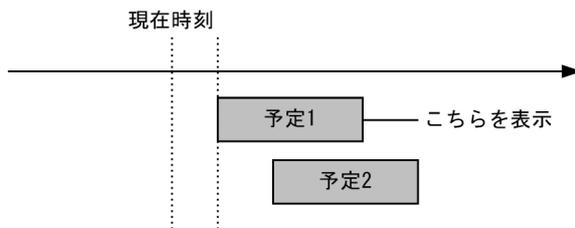
●「実行中」の世代が複数ある場合（「監視中」の場合も同様）



●「結果」の世代が複数ある場合



●「予定」の世代が複数ある場合



(b) 結果優先と予定優先の状態表示例

結果優先の場合と予定優先の場合の、当日対象および全世代対象の状態表示例を次に示します。

ジョブネットの予実績と JP1/AJS3 - Web Operation Assistant の状態表示

監視の対象範囲にある各世代の状態（予実績）と、JP1/AJS3 - Web Operation Assistant で表示される状態を示します。

表 2-8 各世代の状態（予実績）と JP1/AJS3 - Web Operation Assistant の状態表示

各世代の状態（予実績）					JP1/AJS3 - Web Operation Assistant の状態表示	
前日以前	当日			翌日以降	結果優先	予定優先
-	-	-	-	-	(表示なし)	(表示なし)
結果	-	-	-	-	結果	結果
-	結果	-	-	-	結果	結果
-	-	実行中	-	-	実行中	実行中
-	-	-	予定	-	予定	予定
-	-	-	-	予定	予定	予定
結果 1	結果 2	実行中	予定 1	予定 2	実行中	実行中
結果 1	結果 2	-	-	-	結果 2	結果 2

各世代の状態（予実績）					JP1/AJS3 - Web Operation Assistant の状態表示	
前日以前	当日			翌日以降	結果優先	予定優先
結果	-	実行中	-	-	実行中	実行中
結果	-	-	予定	-	結果	予定
結果	-	-	-	予定	結果	予定
-	結果	実行中	-	-	実行中	実行中
-	結果	-	予定	-	結果	予定
-	結果	-	-	予定	結果	予定
-	-	実行中	予定	-	実行中	実行中
-	-	実行中	-	予定	実行中	実行中
-	-	-	予定 1	予定 2	予定 1	予定 1
結果 1	結果 2	実行中	-	-	実行中	実行中
結果 1	結果 2	-	予定	-	結果 2	予定
結果 1	結果 2	-	-	予定	結果 2	予定
結果	-	実行中	予定	-	実行中	実行中
結果	-	実行中	-	予定	実行中	実行中
結果	-	-	予定 1	予定 2	結果	予定 1
-	結果	実行中	予定	-	実行中	実行中
-	結果	実行中	-	予定	実行中	実行中
-	結果	-	予定 1	予定 2	結果	予定 1
-	-	実行中	予定 1	予定 2	実行中	実行中
結果 1	結果 2	実行中	予定	-	実行中	実行中
結果 1	結果 2	実行中	-	予定	実行中	実行中
結果 1	結果 2	-	予定 1	予定 2	結果 2	予定 1
結果	-	実行中	予定 1	予定 2	実行中	実行中
-	結果	実行中	予定 1	予定 2	実行中	実行中

（凡例）

- : 世代なし。

監視の対象範囲に世代（予実績）がない場合や、「起動条件待ち」の世代は、表示の対象外となります。

起動条件が設定されているジョブネットの状態表示

監視対象のジョブネットに起動条件が設定されている場合の状態表示について次に示します。

表 2-9 起動条件付きジョブネットの状態表示

起動条件の成立	状態		JP1/AJS3 - Web Operation Assistant の状態表示	
	起動条件	ルートジョブネット	結果優先	予定優先
不成立	監視中	起動条件待ち	監視中	監視中

2. 機能

起動条件の成立	状態		JP1/AJS3 - Web Operation Assistant の状態表示	
	起動条件	ルートジョブネット	結果優先	予定優先
	監視未起動終了	-	監視未起動終了	監視未起動終了 または 開始時刻待ち
	監視打ち切り終了	-	監視打ち切り終了	監視打ち切り終了 または 開始時刻待ち
	監視中断	-	監視中断	監視中断 または 開始時刻待ち
成立	監視中	実行中 起動条件待ち	実行中	実行中
		結果 起動条件待ち	結果	監視中
	監視打ち切り終了	実行中	実行中	実行中
		監視打ち切り前結果	監視打ち切り終了	監視打ち切り終了 または 開始時刻待ち
		監視打ち切り後結果	結果	結果 または 開始時刻待ち
	監視中断	結果	監視中断	監視中断 または 開始時刻待ち
	監視正常終了	実行中	実行中	実行中
		結果	結果	結果 または 開始時刻待ち

(凡例)

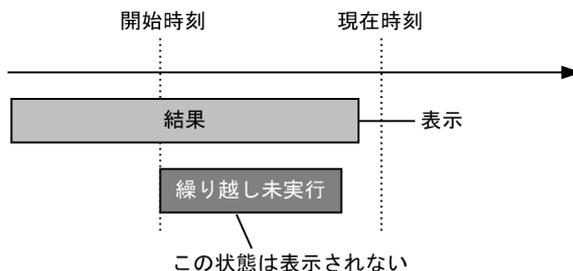
- : 世代なし。

スケジュールスキップ, 多重スケジュールが設定されているジョブネットの状態表示

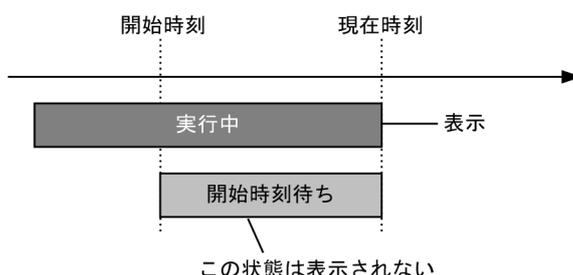
監視対象のジョブネットにスケジュールスキップ, または多重スケジュール(多重起動なし)が設定されている場合の状態表示について次に示します。

図 2-3 スケジュールスキップ・多重スケジュール（多重起動なし）の状態表示例

●スケジュールスキップ時の表示状態



●多重スケジュール（多重起動なし）時の表示状態



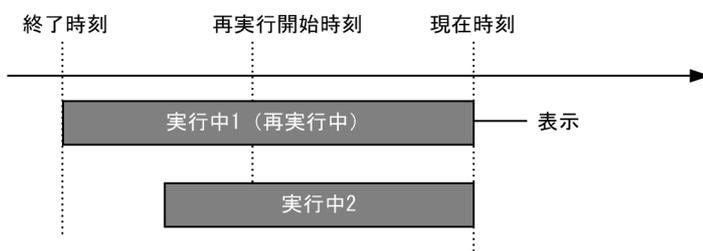
スケジュールスキップを設定しているジョブネットの場合、スキップされた世代は「繰り越し未実行」状態となりますが、スキップされた世代の前世代の結果の方が現在時刻に近いため、「繰り越し未実行」状態は表示されません。

また、多重スケジュール（多重起動なし）を設定しているジョブネットの場合は、前の世代が終了するまで「開始時刻待ち」状態となりますが、前世代の「実行中」の状態の方が優先度が高いため、「開始時刻待ち」状態は表示されません。

再実行したジョブネットの状態表示

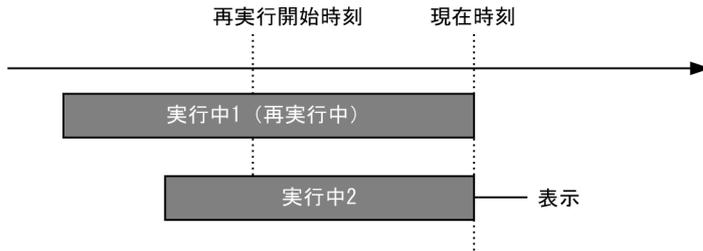
ジョブネットが終了状態になってから再実行した場合は、再実行開始時刻を用いて表示する世代を決定します。次の場合、「実行中 2」の実行開始時刻よりも「実行中 1」の再実行開始時刻の方が現在時刻に近いため、「実行中 1」が表示されます。

図 2-4 ルートジョブネットが終了状態になってから再実行した場合の動作



一方、ルートジョブネットの状態が実行中のときに再実行した場合は、実行開始時刻を用いて表示する世代を決定します。次の例の場合、「実行中 1」の実行開始時刻よりも「実行中 2」の実行開始時刻の方が現在時刻に近いため、「実行中 2」が表示されます。

図 2-5 ルートジョブネットが実行中のときに再実行した場合の動作



(5) 表示項目のソート

一覧表の列項目名をクリックすると、指定した項目をキーに行データがソートされます。表示情報が複数ホストにわたった場合でも、全ホストの情報がまとめてソートされます。分割表示中にソートした場合、全ページのデータがソートされ、ソート後の第 1 ページが表示されます。昇順、降順は次のように指定します。

- 昇順にソートする場合：列項目名を奇数回クリックする
- 降順にソートする場合：列項目名を偶数回クリックする

2.2.2 複数ホスト監視

監視対象の複数のホストを 1 画面で一括監視できます。一覧表にホスト名の項目を表示して、各行データがどのホストの情報かを識別します。ホスト名の項目はデフォルトで表示されます。一覧表をホスト名以外の項目でソートした場合、全ホストの情報がまとめてソートされるため、全ホストの情報を横断的に監視できます。

2.2.3 一覧表からの操作

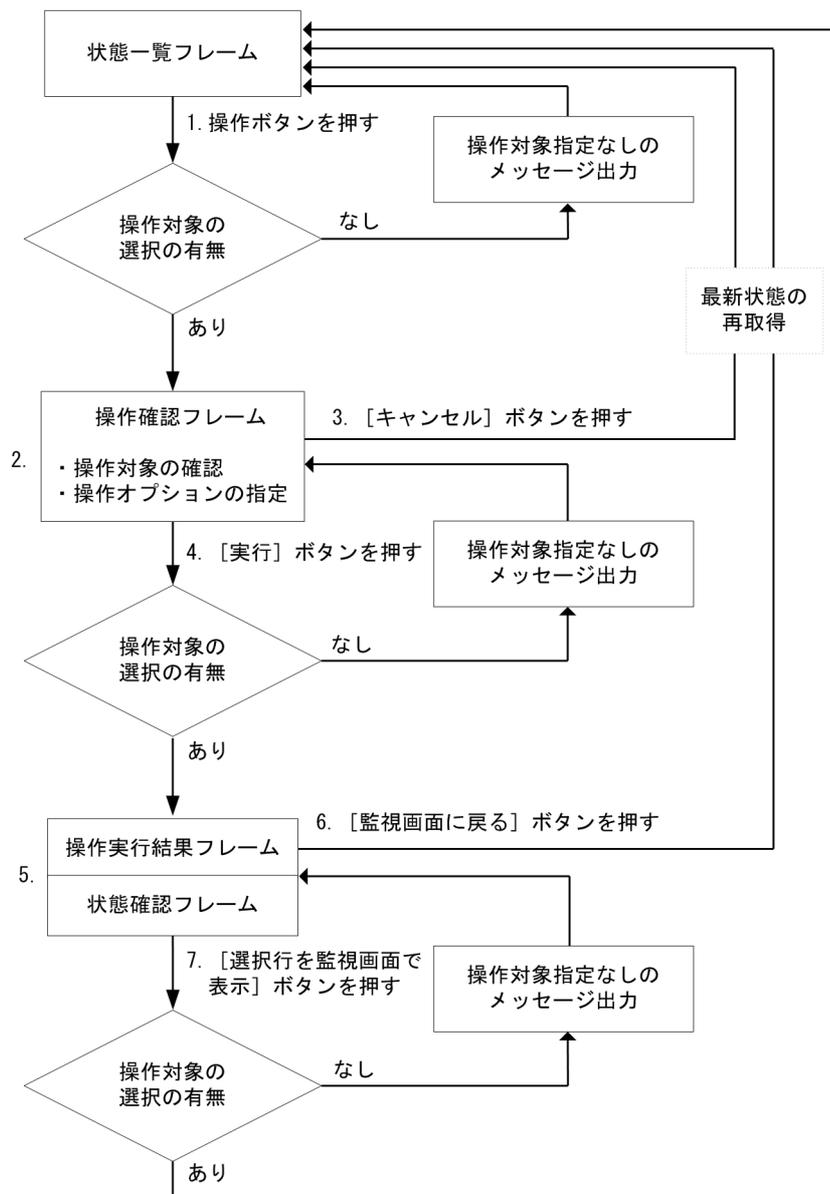
一覧表を表示する状態一覧フレームに次の操作ボタンが表示されます。

- [再実行] ボタン
- [即時実行] ボタン
- [保留] ボタン
- [保留解除] ボタン
- [実行中止] ボタン
- [強制終了] ボタン
- [日時変更] ボタン
- [変更解除] ボタン
- [遅延監視変更] ボタン
- [ジョブ状態変更] ボタン
- [中断] ボタン

一覧から操作対象を選択した後に操作ボタンを押して実行します。

操作ボタンで操作する場合の処理の流れを次の図に示します。

図 2-6 操作ボタンで操作する場合の処理の流れ



処理の流れ（操作の番号は図 2-6 中の番号に対応しています）

1. 操作対象を一つ以上選択し操作ボタンを押すと、操作確認フレームが表示されます。操作対象が一つも選択されていないときは、それを示すメッセージをダイアログボックスで表示し、操作は実行しません。
2. 操作確認フレームでは、実行しようとしている操作に関して指定できるオプションと、選択した操作対象の一覧表が表示されます。操作対象の一覧表は [監視] 画面の一覧表と同じ形式で、操作確認フレームでチェックボックスのチェックをしなければ操作の対象になりません。
3. 操作確認フレームで [キャンセル] ボタンを押した場合、操作は実行されなくて [監視] 画面に戻ります（このとき最新情報が再取得されます）。
4. 操作確認フレームで [実行] ボタンを押した場合、選択された操作対象に対して、選択されたオプションで操作が実行されます。
5. 操作実行結果フレームが表示され、各操作対象について操作の実行結果が一覧表で表示されます。

2. 機能

ユーザー環境設定で状態確認フレームを表示する設定をしている場合は、状態確認フレームも表示されます。

6. 実行結果を確認した後 [監視画面に戻る] ボタンを押すと、[監視] 画面に戻ります（この時点で最新情報が再取得されます）。

7. 状態確認フレームが表示されている場合、実行結果を確認した後 [選択行を監視画面で表示] ボタンを押すと [監視] 画面に戻り、選択された操作対象だけが表示されます。操作対象が一つも選択されていないときは、それを示すメッセージをダイアログボックスで表示し、画面は遷移しません。

操作ボタンによって実行されたコマンドが実行先の JP1/AJS3 - Manager または JP1/AJS2 - Manager でエラーになった場合のログ出力は、そのホスト上で同じコマンドを実行した場合と同様で、システムログや日立統合トレースログにメッセージが出力されます。

なお、ユニット名に「*」（アスタリスク）、「?」（疑問符）、「¥」（円記号）、「"」（ダブルクォーテーションマーク）、「`」（バッククォーテーションマーク）、「[」（開き大括弧）、「】」（閉じ大括弧）のどれかの文字を含むユニットは操作対象として選択できません（状態一覧表の該当する行のチェックボックスが不活性になります）。

再実行、即時実行、日時変更、遅延監視変更、およびジョブ状態変更の操作については、操作確認フレームで次の表に示すオプションを指定できます。

表 2-10 操作時に指定できるオプション

ボタン名	オプション	オプションの内容
再実行 (ルートジョブネット)	再実行方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 異常終了ジョブから ・ 異常終了ジョブの次から ・ 異常終了ジョブネットから ・ 先頭から ・ 警告終了ジョブだけ
	再実行オプション	再実行するルートジョブネットを保留状態にする 異常状態の先行ユニットを警告検出終了にする
再実行 (ネストジョブネットまたはジョブ)	再実行方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指定ユニットから ・ 指定ユニットだけ ・ 指定ユニットの次から
	再実行オプション	再実行で指定したユニットを保留状態にする 異常状態の先行ユニットを警告検出終了にする
即時実行	前倒し変更時の扱い (ルートジョブネット)	次回予定追加 / 次回予定移動
	配下の開始日時	配下の開始日時もずらす
日時変更	開始日時	日時指定 / 相対指定
	前倒し変更時の扱い (ルートジョブネット)	次回予定追加 / 次回予定移動
	配下の開始日時	配下の開始日時もずらす

ボタン名	オプション	オプションの内容
遅延監視変更	開始遅延監視（ルートジョブネット）	<ul style="list-style-type: none"> 変更しない 監視しない 絶対時刻 自ジョブネットの開始予定時刻からの相対
	開始遅延監視（ネストジョブネット）	<ul style="list-style-type: none"> 変更しない 監視しない 絶対時刻 ルートジョブネットの開始予定時刻からの相対 上位ジョブネットの開始予定時刻からの相対 自ジョブネットの開始予定時刻からの相対
	終了遅延監視（ルートジョブネット）	<ul style="list-style-type: none"> 変更しない 監視しない 絶対時刻 自ジョブネットの開始予定時刻からの相対
	終了遅延監視（ネストジョブネット）	<ul style="list-style-type: none"> 変更しない 監視しない 絶対時刻 ルートジョブネットの開始予定時刻からの相対 上位ジョブネットの開始予定時刻からの相対 自ジョブネットの開始予定時刻からの相対
	ジョブネット監視	<ul style="list-style-type: none"> 変更しない 監視しない 実行所要時間
ジョブ状態変更	変更後の状態	<ul style="list-style-type: none"> 変更しない 正常終了 起動失敗 警告検出終了 異常検出終了 計画未実行 終了コードで判定
	変更後の終了コード	変更する 終了コード (-2,147,483,648 ~ 2,147,483,647)

注 監視先の JP1/AJS3 - Manager または JP1/AJS2 - Manager が UNIX の場合、0 ~ 255 以外の値を指定するとエラーになります。

! 注意事項

親子関係にあるユニット（例えば、あるジョブネットとその配下のジョブ）を同時に選択して操作を行わないでください。

2.2.4 JP1/AJS3 - View または JP1/AJS2 - View の起動

(1) Internet Explorer の場合

一覧表のユニット名のハイパーリンクをクリックすると JP1/AJS3 - View または JP1/AJS2 - View を起動できます。

クリックしたユニットがルートジョブネット、またはルートリモートジョブネットの場合は [JP1/AJS3 - View] ウィンドウまたは [JP1/AJS2 - View] ウィンドウが起動し、それ以外の場合は [ジョブネットモニタ] ウィンドウが起動します。

(2) Firefox の場合

一覧表のユニット名のハイパーリンクは表示されません。

JP1/AJS3 - View または JP1/AJS2 - View を起動したい場合は、JP1/AJS3 - View または JP1/AJS2 - View のログイン画面からログインしてください。

2.2.5 一覧表の更新

状態一覧フレームおよび状態確認フレームの、一覧表の更新は次のタイミングで実行されます。

- [最新情報に更新] ボタンを押したとき
現在、状態一覧フレームまたは状態確認フレームに表示されている情報を取得したときと同じ条件で最新情報に更新されます。
- 自動更新
定期的に最新の情報に更新されます。更新間隔はデフォルトで 300 秒ですが、[ユーザー環境設定] 画面で変更できます。
状態一覧フレームまたは状態確認フレームに表示される [自動更新しない] チェックボックスにチェックをすると自動更新を一時的に止められます。また、チェックをしないと自動更新が再開されます。

2.2.6 一括監視環境のカスタマイズ

[監視] 画面の初期状態 (デフォルト) の設定や一覧表示する項目について、ユーザーごとに [ユーザー環境設定] 画面でカスタマイズできます。

[ユーザー環境設定] 画面でカスタマイズできる項目を次に示します。

- 検索条件のデフォルト設定 (状態取得条件設定フレームの初期画面)
- 状態表示色
- 遅延表示色の優先度
- 状態一覧表の表示項目
- 操作オプションのデフォルト設定
- 自動更新

カスタマイズの方法については、「4. ユーザー環境設定」を参照してください。

3

インストールとセットアップ

この章では、JP1/AJS3 - Web Operation Assistant のインストールとセットアップについて説明します。

-
- 3.1 インストールとセットアップの流れ
 - 3.2 インストール
 - 3.3 JP1/AJS3 - Web Operation Assistant 環境の設定
 - 3.4 ユーザー認証環境の設定
 - 3.5 Web ブラウザーの設定
 - 3.6 資料採取ツールのセットアップ
 - 3.7 SSL サーバー証明書の設定
 - 3.8 ファイアウォールを通過するための設定
 - 3.9 グローバルバッファ拡張の設定
 - 3.10 アンインストール
-

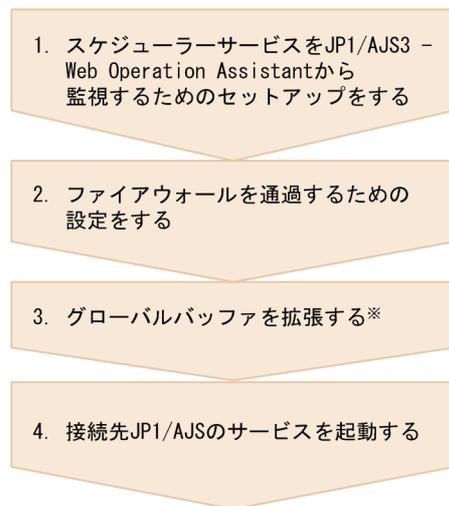
3.1 インストールとセットアップの流れ

JP1/AJS3 - Web Operation Assistant と連携するための JP1/AJS3 - Manager または JP1/AJS2 - Manager 側のセットアップと JP1/AJS3 - Web Operation Assistant 側のインストールとセットアップの流れを説明します。

3.1.1 JP1/AJS3 - Manager または JP1/AJS2 - Manager 側のセットアップ

JP1/AJS3 - Manager または JP1/AJS2 - Manager 側のセットアップ処理の流れを次の図に示します。

図 3-1 JP1/AJS3 - Manager または JP1/AJS2 - Manager 側のセットアップ処理の流れ



注※ JP1/AJS2 - Managerをご使用の場合にだけ必要な手順です。

1. スケジューラーサービスを JP1/AJS3 - Web Operation Assistant から監視するためのセットアップをする
JP1/AJS3 - Manager ホストまたは JP1/AJS2 - Manager ホストで `ajswoarelsetup` コマンドを実行してください。このセットアップコマンドの実行によって、指定したスケジューラーサービスが JP1/AJS3 - Web Operation Assistant から監視できるようになります。ajswoarelsetup コマンドの詳細については、「(1) ajswoarelsetup の文法」を参照してください。
2. ファイアウォールを通過するための設定をする
JP1/AJS3 - Manager ホストまたは JP1/AJS2 - Manager ホストで組み込み DB または HiRDB 使用時にファイアウォールを設置している場合、ファイアウォールを通過するための設定が必要です。設定方法については、「3.8 ファイアウォールを通過するための設定」を参照してください。
3. グローバルバッファを拡張する
監視先に JP1/AJS2 - Manager をご使用の環境で、組み込み DB または HiRDB 使用時に、JP1/AJS3 - Web Operation Assistant の性能を向上させる方法として、グローバルバッファを拡張する方法があります。拡張方法については「3.9 グローバルバッファ拡張の設定」を参照してください。なお、監視先に JP1/AJS3 - Manager をご使用の環境では、本設定は不要です。
4. 監視先 JP1/AJS のサービスを起動する
監視先が JP1/AJS3 - Manager の場合：JP1/AJS3 サービスを起動します。

監視先が JP1/AJS2 - Manager の場合：JP1/AJS2 Monitor サービスを起動します。

(1) ajswoarelsetup の文法

JP1/AJS3 - Manager または JP1/AJS2 - Manager 側のセットアップで使用する ajswoarelsetup コマンドの文法を次に示します。

形式

```
ajswoarelsetup
  [-h 論理ホスト名]
  [-F スケジューラーサービス名]
  {-i 監視元ホスト名|-u}
```

機能

スケジューラーサービスを JP1/AJS3 - Web Operation Assistant から監視するかどうかを設定します。このコマンドによって設定される情報を次に示します。

構成定義情報の設定

スケジューラーサービスを JP1/AJS3 - Web Operation Assistant から監視するための構成定義情報の設定をします。

定義キー	環境設定パラメーター
[JP1_DEFAULT¥JP1AJSMANAGER¥ スケジューラーサービス名] または [論理ホスト名 ¥JP1AJSMANAGER¥ スケジューラーサービス名]	<ul style="list-style-type: none"> ・ -i オプション指定時 "WOARELATION"=dword:00000001 "WOAHOST"="-i オプションの引数値 " ・ -u オプション指定時 "WOARELATION"="dword:00000000 "WOAHOST"=" "

実行権限

Windows の場合：Administrators 権限

UNIX の場合：スーパーユーザー権限

格納先ディレクトリ

Windows の場合

JP1/AJS3 - Manager または JP1/AJS2 - Manager のインストール先フォルダ ¥bin

UNIX の場合

/opt/jplajs2/bin

引数

-h 論理ホスト名

監視対象の JP1 論理ホスト名を指定します。

省略した場合、環境変数 JP1_HOSTNAME の設定があれば、環境設定値が仮定されます。環境変数 JP1_HOSTNAME の指定がない場合は、物理ホストが仮定されます。論理ホスト名として、IP アドレスを指定することはできません。

-F スケジューラーサービス名

監視対象のスケジューラーサービスのサービス名を指定します。指定できる文字数は、1 ~ 30 (単位：バイト) です。

省略した場合、環境変数 AJSCONF の設定があれば、環境変数値が仮定されます。

環境変数 AJSCONF の指定がない場合は、デフォルトのスケジューラーサービスが仮定されます。

-i 監視元ホスト名

3. インストールとセットアップ

スケジューラーサービスを、指定された監視元ホスト上の JP1/AJS3 - Web Operation Assistant から監視できるようにします。指定できる監視元ホスト名の文字数は、1 ~ 255 (単位: バイト) です。監視元ホスト名には、JP1/AJS3 - Web Operation Assistant マシンのホスト名 (コンピュータ名) を指定します。IP アドレスや FQDN 形式のホスト名は指定できません。

-u

スケジューラーサービスを JP1/AJS3 - Web Operation Assistant から監視できないようにします。

注意事項

- このコマンドで指定した監視対象のスケジューラーサービスは、一つの監視元ホストでだけ監視できます。
なお、同一のスケジューラーサービスに対して、監視元ホストを変更して複数回コマンドを実行した場合、最後にコマンドで指定した監視元ホストが有効になります。
- 監視元のホスト名を変更した場合、このコマンドで変更後のホスト名を再設定してください。変更後のホスト名を設定するまで、監視元ホスト上の JP1/AJS3 - Web Operation Assistant から監視できないので注意してください。

戻り値

0	正常終了。
0 以外の値	異常終了。

使用例

スケジューラーサービス (service1) を、監視元ホスト (host1) 上の JP1/AJS3 - Web Operation Assistant から監視する。

```
ajswoarelsetup -i host1 -F service1
```

3.1.2 JP1/AJS3 - Web Operation Assistant 側のインストールとセットアップ

JP1/AJS3 - Web Operation Assistant のインストールとセットアップ処理の流れを次の図に示します。

図 3-2 JP1/AJS3 - Web Operation Assistant 側のインストールとセットアップ処理の流れ



1. JP1/AJS3 - Web Operation Assistant をインストールする
インストールについては「3.2 インストール」を参照してください。
2. JP1/AJS3 - Web Operation Assistant の環境を設定する
JP1/AJS3 - Web Operation Assistant の運用に必要な情報を設定します。
設定方法については「3.3 JP1/AJS3 - Web Operation Assistant 環境の設定」を参照してください。
3. ユーザー認証の環境を設定する
ユーザー認証については「3.4 ユーザー認証環境の設定」を参照してください。
4. Web ブラウザーを設定する
Web ブラウザーの設定については「3.5 Web ブラウザーの設定」を参照してください。
5. 資料採取ツールをセットアップする
資料採取ツールのセットアップについては「3.6 資料採取ツールのセットアップ」を参照してください。
6. SSL サーバー証明書を設定する
SSL 通信を使用すると、Web ブラウザーと JP1/AJS3 - Web Operation Assistant 間の通信が暗号化され、パスワードなどの盗聴が防げます。
SSL 通信を使用するためには、SSL サーバー証明書が必要です。SSL サーバー証明書については、

3. インストールとセットアップ

「3.7 SSL サーバー証明書の設定」を参照してください。

Internet Explorer の場合

JP1/AJS3 - Web Operation Assistant 09-50 までに作成した自己署名証明書を使用する場合、認証局が発行した証明書でないため、Web ブラウザーから最初にアクセスしたときに「セキュリティの警告」メッセージボックスが表示されます。

Firefox の場合

JP1/AJS3 - Web Operation Assistant 09-50 までに作成した自己署名証明書を使用する場合、認証局が発行した証明書でないため、Web ブラウザーから最初にアクセスしたときに「接続の安全性を確認できません」メッセージボックスが表示されます。最初にアクセスしたときに、セキュリティ例外を承認してください。

また、自己署名証明書の有効期間は、2036 年 12 月 31 日までです。

7. ファイアウォールを通過するための設定をする

JP1/AJS3 - Manager ホストまたは JP1/AJS2 - Manager ホストで組み込み DB または HiRDB 使用時にファイアウォールを設置している場合、JP1/AJS3 - Web Operation Assistant でファイアウォールを通過するための設定が必要です。設定方法については、「3.8 ファイアウォールを通過するための設定」を参照してください。

8. アプリケーションサーバーを起動する

Windows の [コントロールパネル] - [管理ツール] - [サービス] で、次に示すサービスを起動します。

JP1/AJS3 WOA Web Application Server

イベントビューアを使って、アプリケーションログに KAVI3000-I メッセージが出力されて起動が完了したことを確認します。なお、ホストの稼働状況によっては起動が完了するまでに数秒から数十秒かかることがあります。

9. HTTP サーバーを起動する

Windows の [コントロールパネル] - [管理ツール] - [サービス] で、次に示すサービスを起動します。

JP1/AJS3 WOA HTTP Server

3.2 インストール

ここでは、JP1/AJS3 - Web Operation Assistant のインストール方法を説明します。

(1) インストールする前に必要な作業

JP1/AJS3 - Web Operation Assistant をインストールする前に JP1/Base のインストールが必要です。

JP1/Base のインストールの詳細については、マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」を参照してください。

(2) インストール手順

1. JP1/AJS3 - Web Operation Assistant をインストールするホストに、Administrators 権限でログインする。
2. すべてのプログラムを終了する。
既存の JP1 シリーズのプログラムが動作している場合、必ず停止しておいてください。
3. JP1/AJS3 - Web Operation Assistant の媒体をセットする。
日立総合インストーラーの画面が表示されます。
4. 日立総合インストーラーの指示に従って必要な情報を入力し、インストールする。
インストール時に定義する情報を次に示します。
 - ユーザー情報
ユーザー名などを入力します。
 - インストール先フォルダ
JP1/AJS3 - Web Operation Assistant をインストールするフォルダを指定します。
 - プログラムフォルダ
プログラムメニュー名を指定します。
5. インストールが終了したら、ホストを再起動する。

これで、JP1/AJS3 - Web Operation Assistant のインストールは終了です。

3.3 JP1/AJS3 - Web Operation Assistant 環境の設定

JP1/AJS3 - Web Operation Assistant の環境をセットアップするには、次に示す三つの定義が必要です。

- 構成定義ファイル（環境設定パラメーター）の定義
- ユーザー環境設定ファイルの定義
- RDB 接続定義ファイルの定義

3.3.1 構成定義ファイル（環境設定パラメーター）の定義方法

JP1/AJS3 - Web Operation Assistant 環境のセットアップに使用する構成定義ファイル（ajs2woa.conf）には、環境設定に必要な情報が定義されています。情報を変更したい場合は、構成定義ファイル（環境設定パラメーター）の定義内容を書き換えてください。

（1）構成定義ファイル（環境設定パラメーター）の定義手順

構成定義ファイル（環境設定パラメーター）は、初期状態ではデフォルト値で定義されています。必要に応じて、JP1/AJS3 - Web Operation Assistant の環境を設定し直してください。

構成定義ファイル（環境設定パラメーター）の定義手順を次に示します。

1. HTTP サーバーを停止する。

JP1/AJS3 - Web Operation Assistant ホスト側で Windows の [コントロールパネル] - [管理ツール] - [サービス] で、次に示すサービスを停止します。
JP1/AJS3 WOA HTTP Server

2. アプリケーションサーバーを停止する。

JP1/AJS3 - Web Operation Assistant ホスト側で Windows の [コントロールパネル] - [管理ツール] - [サービス] で、次に示すサービスを停止します。
JP1/AJS3 WOA Web Application Server

3. 次のファイルをメモ帳などのテキストエディターで開く。

JP1/AJS3 - Web Operation Assistantインストール先フォルダ¥conf¥ajs2woa.conf

4. 必要に応じて、定義内容を変更する。

5. ファイルを保存し、次のコマンドを実行する。

jbssetcnf ファイル名

（jbssetcnf コマンドのパスは、「JP1/Baseインストール先フォルダ¥bin¥jbssetcnf」です）

jbssetcnf コマンドの詳細については、マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」を参照してください。

6. アプリケーションサーバーを起動する。

JP1/AJS3 - Web Operation Assistant ホスト側で Windows の [コントロールパネル] - [管理ツール] - [サービス] で、手順 2 で停止した次のサービスを起動します。
JP1/AJS3 WOA Web Application Server

7. HTTP サーバーを起動する。

JP1/AJS3 - Web Operation Assistant ホスト側で Windows の [コントロールパネル] - [管理ツール] - [サービス] で、手順 1 で停止した次のサービスを起動します。
JP1/AJS3 WOA HTTP Server

設定ファイルの内容が構成定義に反映されます。

！ 注意事項

JP1/Base を前提製品とする JP1 シリーズのプログラムが稼働中の場合には、jbssetcnf コマンドを実行する前に、JP1 シリーズのプログラムを終了させてください。

(2) 構成定義ファイル (環境設定パラメーター) で設定する内容

(a) 構成定義ファイルの環境設定パラメーター一覧

JP1/AJS3 - Web Operation Assistant は、定義キー [JP1_DEFAULT¥JP1AJS2WOA] に構成定義情報を設定できます。

JP1/AJS3 - Web Operation Assistant 構成定義ファイルで定義する環境設定パラメーター一覧を次の表に示します。

表 3-1 環境設定パラメーター一覧 (ajs2woa.conf)

環境設定パラメーター	内容およびデフォルト値
"HNTRLOGLEVEL"=	HNTR に出力するログのレベル デフォルトは「error」
"IPC_TIMEOUT"=	通信タイムアウト時間 デフォルトは「dword:00000000」
"IPCRETRYINTERVAL"=	通信リトライ間隔 デフォルトは「dword:00000001」
"IPCRETRYCOUNT"=	通信リトライ回数 デフォルトは「dword:00000003」

(b) 環境設定パラメーターの定義内容

環境設定パラメーターの定義内容の詳細を次に示します。

"HNTRLOGLEVEL"="{none|error|warn|info}"

統合トレースログに出力するメッセージレベルを次の中から選択して指定します。

none

どのメッセージも出力しません。

error

エラーメッセージを出力します。

warn

エラー、および警告メッセージを出力します。

info

エラー、警告、および情報通知メッセージを出力します。

デフォルトは「error」です。

"IPC_TIMEOUT" =dword : 通信タイムアウト時間

JP1/AJS3 - Manager または JP1/AJS2 - Manager と通信するときに、通信できるまでどのくらい待つか (タイムアウト時間) の秒数を 16 進数で指定します。指定できる範囲は、0 ~ 258 (10 進数で 0 ~ 600) です。デフォルトは「dword:00000000」です。ここで指定した時間待っても通信できない場

3. インストールとセットアップ

合は、エラーとなります。また、dword:00000000 を指定した場合は、OS のタイムアウト時間に依存して制御されます。

“ IPCRETRYINTERVAL ” =dword : リトライ間隔

通信エラー時のリトライ間隔の秒数を 16 進数で指定します。指定できる範囲は、0 ~ A (10 進数で 0 ~ 10) です。デフォルトは「dword:00000001」です。リトライが発生するごとに、ここで指定した値分が加算されます。

“ IPCRETRYCOUNT ” =dword : リトライ回数

通信エラー時のリトライ回数を 16 進数で指定します。指定できる範囲は、0 ~ 64 (10 進数で 0 ~ 100) です。デフォルトは「dword:00000003」です。

3.3.2 ユーザー環境設定ファイルの定義方法

ユーザー環境設定ファイルの各パラメーター値は、初期状態ではデフォルト値で定義されています。必要に応じてパラメーター値を変更してください。

ユーザー環境設定パラメーターの設定手順を次に示します。

1. HTTP サーバーを停止する (インストール直後は停止している)
JP1/AJS3 - Web Operation Assistant ホスト側で Windows の [コントロールパネル] - [管理ツール] - [サービス] で、次に示すサービスを停止します。
JP1/AJS3 WOA HTTP Server
2. アプリケーションサーバーを停止する (インストール直後は停止している)
JP1/AJS3 - Web Operation Assistant ホスト側で Windows の [コントロールパネル] - [管理ツール] - [サービス] で、次に示すサービスを停止します。
JP1/AJS3 WOA Web Application Server
3. 次のショートカットファイルから、ユーザー環境設定ファイルを開く。
JP1/AJS3 - Web Operation Assistant インストール先フォルダ ¥conf¥user.conf
4. 必要に応じて、各ユーザー環境パラメーター値を変更する。
各パラメーター値の変更方法については、「4.2 ユーザー環境設定ファイルで定義する環境」を参照してください。
5. アプリケーションサーバーを起動する。
JP1/AJS3 - Web Operation Assistant ホスト側で Windows の [コントロールパネル] - [管理ツール] - [サービス] で、手順 2 で停止した次のサービスを起動します。
JP1/AJS3 WOA Web Application Server
6. HTTP サーバーを起動する。
JP1/AJS3 - Web Operation Assistant ホスト側で Windows の [コントロールパネル] - [管理ツール] - [サービス] で、手順 1 で停止した次のサービスを起動します。
JP1/AJS3 WOA HTTP Server

3.3.3 RDB 接続定義ファイルの定義方法

監視対象スケジューラーサービスのデータベース種別が組み込み DB または HiRDB の場合、状態取得を行うと、データベース格納件数に依存して性能が低下することがあります。

JP1/AJS3 - Web Operation Assistant では、この性能低下を抑制する設定ができます。

ファイアウォールを設定するのと同様に、RDB 接続定義ファイルを利用して設定します。設定方法につい

では、「3.8.3 JP1/AJS3 - Web Operation Assistant 側の設定」を参照してください。

3.4 ユーザー認証環境の設定

(1) 状態取得による一覧表示のためのユーザー認証の設定

JP1/AJS3 - Web Operation Assistant は、状態取得時、ログインしている JP1 ユーザーのレコードアクセス権をチェックし、アクセス権限がある場合だけ状態取得を実行します。

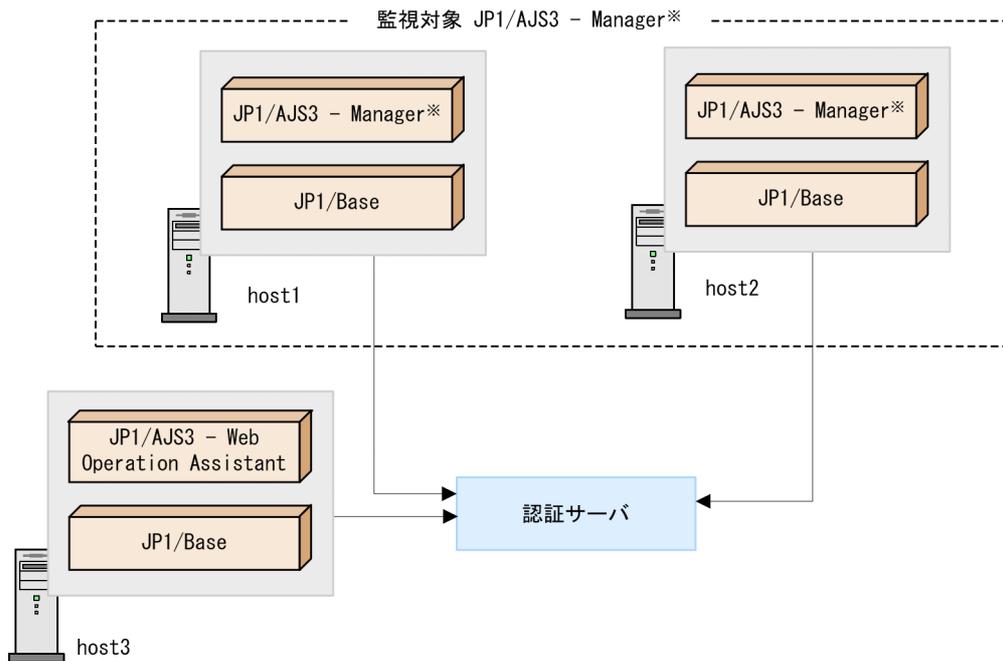
(a) ユーザー認証の設定方法

JP1 ユーザーのアクセス権限を正確にするため、ユーザー認証について次のどちらかの設定をしてください。

- JP1/AJS3 - Web Operation Assistant および監視対象の JP1/AJS3 - Manager または JP1/AJS2 - Manager をすべて同じ認証圏に入れる（各マシン上の JP1/Base で、同じ認証サーバを使用するように設定する）。
- JP1/AJS3 - Web Operation Assistant にログインする JP1 ユーザーに関する JP1 資源グループおよび権限レベルの設定を、すべての認証サーバで同じ設定にする。

正しいユーザー認証の例を次の図に示します。

図 3-3 正しいユーザー認証の例

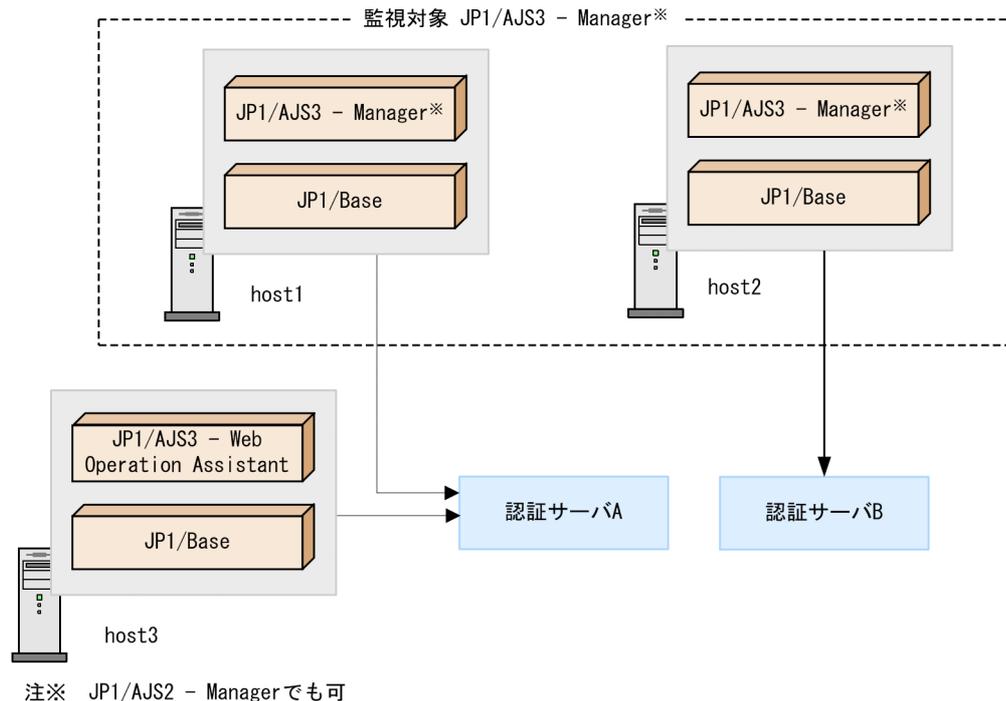


注※ JP1/AJS2 - Manager でも可

(b) 誤ったユーザー認証の例

JP1/AJS3 - Web Operation Assistant と監視対象の JP1/AJS3 - Manager または JP1/AJS2 - Manager の認証圏が異なる場合、認証サーバの設定によっては、本来は監視できないジョブやジョブネットを監視できてしまうおそれがあります。誤ったユーザー認証の例を次に示します。

図 3-4 誤ったユーザー認証の例



ある JP1 ユーザー A について、次のような参照権限を与えている場合

- 認証サーバ A では groupA という JP1 資源グループに対して参照権限を与えている
- 認証サーバ B では groupA について何も権限を与えていない

JP1 ユーザー A は host2 では groupA の JP1 資源グループに属するユニットを参照できません。しかし JP1/AJS3 - Web Operation Assistant は認証サーバ A で認証チェックをするため、JP1/AJS3 - Web Operation Assistant を使用すると JP1 資源グループに属するユニットを参照できてしまいます。

この場合の対処方法を次に示します。

- 認証サーバ A と認証サーバ B の JP1 ユーザーに関する JP1 資源グループおよび権限レベルの設定を、すべて同じ設定にする。
- host2 の認証サーバを認証サーバ A に変更する。または host1 と host3 の認証サーバを認証サーバ B に変更する。

(2) 一覧表からの操作のためのユーザー認証の設定

操作ボタンを押した場合、ログインしている JP1 ユーザーの権限でコマンドが実行されます。一覧表からの操作を実行する JP1 ユーザーに操作権限を与えてください。JP1/AJS3 - View または JP1/AJS2 - View 起動のため、ユニット名のハイパーリンクをクリックした場合、選択したユニットがある JP1/AJS3 - Manager または JP1/AJS2 - Manager に対して、ログインしている JP1 ユーザーのアカウントでログインされます。ログインに成功した場合は、JP1/AJS3 - View または JP1/AJS2 - View へのログイン手続きなしで JP1/AJS3 - View または JP1/AJS2 - View が起動します。ログインに失敗した場合は、JP1/AJS3 - View または JP1/AJS2 - View の [ログイン] 画面が表示されます。

3.5 Web ブラウザーの設定

ここでは、Web ブラウザーの設定方法について説明します。

3.5.1 Internet Explorer の場合

ここでは、Internet Explorer の設定方法について説明します。

(1) Cookie の設定

JP1/AJS3 - Web Operation Assistant では Cookie を使用するため、Web ブラウザーで Cookie を有効にする (Cookie を受け入れる設定にする) 必要があります。Internet Explorer では、[インターネットオプション] 中の [プライバシー] で Cookie の設定を変更できます。詳しい設定方法については、Internet Explorer のヘルプを参照してください。

Cookie が無効な場合、JP1/AJS3 - Web Operation Assistant にログインできません。また、ログイン後に Cookie を無効にした場合、それ以降の状態取得や操作ができなくなります。

(2) SSL 通信を使用する場合の設定

SSL 通信を使用する場合、Web ブラウザーで SSL を使用できる必要があるため、Internet Explorer の [インターネットオプション] 中の [詳細設定] で、[セキュリティ] の設定項目のうち、次に示す項目のどれか一つはチェックされている必要があります。

- [SSL 2.0 を使用する]
- [SSL 3.0 を使用する]
- [TLS 1.0 を使用する]

SSL を使用する設定になっていない場合、SSL 通信用の URL にアクセスしてもログイン画面が表示されません。また、SSL を使用しての監視中に SSL を使用しない設定に変更した場合、それ以降の状態取得や操作ができなくなります。

(3) [監視] 画面から JP1/AJS3 - View または JP1/AJS2 - View を起動する場合の設定

JP1/AJS3 - Web Operation Assistant では、[監視] 画面から JP1/AJS3 - View または JP1/AJS2 - View を起動するために、ActiveX コントロールを使用します。

Internet Explorer の [インターネットオプション] 中の [セキュリティの設定] で [ActiveX コントロールとプラグイン] の「スクリプトを実行しても安全だとマークされていない ActiveX コントロールの初期化とスクリプトの実行」を [無効にする] に設定すると、JP1/AJS3 - View または JP1/AJS2 - View を起動できません。

(4) アクティブスクリプトの設定

JP1/AJS3 - Web Operation Assistant では、アクティブスクリプトを使用します。Internet Explorer の [インターネットオプション] 中の [セキュリティの設定] で [アクティブスクリプト] を [無効にする] に設定していると、JP1/AJS3 - Web Operation Assistant にログインできません。また、ログイン後にアクティブスクリプトの設定を無効にすると、それ以降の状態取得や操作ができなくなります。

3.5.2 Firefox の場合

ここでは、Firefox での設定方法について説明します。

注意事項

Firefox では、[監視] 画面から JP1/AJS3 - View または JP1/AJS2 - View を起動できません。起動したい場合は、JP1/AJS3 - View または JP1/AJS2 - View のログイン画面からログインしてください。

(1) Cookie の設定

JP1/AJS3 - Web Operation Assistant では Cookie を使用するため、Web ブラウザーで Cookie を有効にする (Cookie を受け入れる設定にする) 必要があります。Firefox では、[オプション] 中の [プライバシー] で Cookie の設定を変更できます。詳しい設定方法については、Firefox のヘルプを参照してください。

Cookie が無効な場合、JP1/AJS3 - Web Operation Assistant にログインできません。また、ログイン後に Cookie を無効にした場合、それ以降の状態取得や操作ができなくなります。

(2) SSL 通信を使用する場合の設定

SSL 通信を使用する場合、Web ブラウザーで SSL を使用できる必要があります。Firefox の [オプション] 中の [詳細] の [暗号化] タブで、[プロトコル] の設定項目のうち、次に示す項目のどちらかがチェックされていることを確認してください。

- [SSL 3.0 を使用する]
- [TLS 1.0 を使用する]

SSL を使用する設定になっていない場合、SSL 通信用の URL にアクセスしてもログイン画面が表示されません。また、SSL を使用しての監視中に SSL を使用しない設定に変更した場合、それ以降の状態取得や操作ができなくなります。

(3) Java スクリプトの設定

JP1/AJS3 - Web Operation Assistant では、Java スクリプトを使用します。Firefox の [オプション] から [セキュリティの設定] の [コンテンツ] を選択して、[Java スクリプトを有効にする] をチェックしてください。チェックしない場合、JP1/AJS3 - Web Operation Assistant にログインできません。また、ログイン後に Java スクリプトの設定を無効にすると、それ以降の状態取得や操作ができなくなります。

3.6 資料採取ツールのセットアップ

(1) セットアップ手順

トラブルが発生したときにログ情報を採取するための資料採取ツールをセットアップします。

JP1/AJS3 - Web Operation Assistant では、資料採取ツールの資料採取サンプルバッチファイルを提供しています。

資料採取ツールのサンプルバッチファイルは、JP1/AJS3 - Web Operation Assistant をインストールした後、別のフォルダにコピーしてから使用してください。

なお、Windows の [エクスプローラ] などを使ってフォルダをコピーすると、必要なログ情報だけを採取できます。

資料採取ツールのセットアップ手順を次に示します。

1. [エクスプローラ] などを使って、次に示すサンプルバッチファイルを任意のフォルダにコピーする。
JP1/AJS3 - Web Operation Assistant インストール先フォルダ ¥tools¥_04.bat
2. コピーしたバッチファイルを編集して、ユーザー固有のファイル名に変更する。
バッチファイルの編集にはエディターを使用してください。
次にバッチファイルに記述されている標準値を次に示します。この標準値と異なる場合、バッチファイルの記述を変更してください。
 - @set INST_DIR_HNTRLIB2=%PROGRAMFILES_DIR%¥hitachi¥HNTRLib2
HNTRLib2 のインストール先フォルダを指定します。
 - @set LOG_DIR_DRWTSN=%ALLUSERSPROFILE%¥Documents¥DrWatson
ワトソン博士のログファイルパスを指定します。
 - @set DIR_BACKLOG=%TEMP%¥jp1ajs2¥backlog
ツールで採取した情報の退避先を指定します。

トラブルが発生した場合にメモリーダンプまたはクラッシュダンプが必要となることがあります。トラブル発生時にこれらのダンプを採取する場合は、あらかじめメモリーダンプまたはクラッシュダンプが出力されるように、次の設定をしてください。

メモリーダンプの出力設定

1. コントロールパネルの [システム] をダブルクリックする。
2. [詳細設定] タブの [起動と回復] の [設定] ボタンを押す。
3. [デバッグ情報の書き込み] で、[完全メモリーダンプ] を選択し、[ダンプファイル] に出力先のファイルを指定する。

! 注意事項

メモリーダンプのサイズは、実メモリーのサイズによって異なります。搭載している物理メモリーが大きいと、メモリーダンプのサイズも大きくなります。メモリーダンプを採取できるだけのディスク領域を確保してください。詳細については、Windows のヘルプの「STOP エラー」の項目を参照してください。

クラッシュダンプの出力設定

1. Windows の [スタート] メニューから [ファイル名を指定して実行] を選択する。
[ファイル名を指定して実行] ダイアログボックスが表示されます。

2. [名前]に「drwtsn32」と入力し,[OK]ボタンを押す。
[ワトソン博士]ダイアログボックスが表示されます。
3. [クラッシュ ダンプ ファイルの作成]をチェックし,[クラッシュ ダンプ]に出力先のファイルを指定する。
4. [OK]ボタンを押す。

! 注意事項

クラッシュダンプに出力される情報はJP1だけでなく、ほかのアプリケーションプログラムのトラブル情報も出力されます。また、クラッシュダンプが出力されると、その分ディスク容量が圧迫されます。クラッシュダンプが出力されるように設定する場合は、十分なディスク領域を確保しておいてください。

Windows Server 2008 上で資料を採取する場合の注意事項

Windows Server 2008 では、ワトソンログを取得できません。また、クラッシュダンプやメモリーダンプを自動取得できないため、これに相当する情報については別途、採取する必要があります。採取方法については、「8.4(4) ユーザーダンプを採取する (Windows Server 2008 の場合)」および「8.4(5) 問題レポートを採取する (Windows Server 2008 の場合)」を参照してください。

64bit 版 Windows 上で資料を採取する場合の注意事項

64bit 版 Windows を使用し、Windows on Windows 64 環境下で JP1/AJS の資料採取ツールで資料採取する場合、資料採取サンプルバッチファイルを修正する必要があります。修正方法を次に示します。

1. 資料採取サンプルバッチファイルを任意のフォルダにコピーする。
2. テキストエディターを使用して、コピーしたバッチファイルを次のように編集し、任意のファイル名で保存する。

3. インストールとセットアップ

●修正前

```
@regedit /e "%reg_temp%" "HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Hitachi\JP1\BASE\PathName
@regedit /e "%reg_temp%" "HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Hitachi\JP1\AJS2\PathName
@regedit /e "%reg_temp%" "HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Hitachi\JP1\AJS2
@regedit /e "%reg_temp%" "HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Hitachi\JP1\AJS2V\PathName
@regedit /e "%reg_temp%" "HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Hitachi\JP1\AJS2V
@regedit /e "%reg_temp%" "HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Hitachi\JP1\AJS2C\PathName
@regedit /e "%reg_temp%" "HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Hitachi\JP1\AJS2C
@regedit /e "%reg_temp%" "HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Hitachi\JP1\AJS2CM\PathName
@regedit /e "%reg_temp%" "HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Hitachi\JP1\AJS2\PathName
@regedit /e "%reg_temp%" "HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Hitachi\JP1\AJS2WOA\PathName
@regedit /e "%reg_temp%" "HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Hitachi\JP1\AJS2WOA
@regedit /e "%reg_temp%" "HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Hitachi\JP1\AJS2DA\PathName
@regedit /e "%reg_temp%" "HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Hitachi\JP1\AJS2DA
@set REG_NAME=HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Hitachi\JP1
@set REG_NAME_BASE=HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Hitachi\JP1\BASE
@set REG_NAME_MANAGER=HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Hitachi\JP1\AJS2
@set REG_NAME_VIEW=HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Hitachi\JP1\AJS2V
@set REG_NAME_CLIENT=HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Hitachi\JP1\AJS2C
@set REG_NAME_AJS2CONSOLE=HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Hitachi\JP1\AJS2CM
@set REG_NAME_WOA=HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Hitachi\JP1\AJS2WOA
@set REG_NAME_DA=HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Hitachi\JP1\AJS2DA
```

●修正後

```
@regedit /e "%reg_temp%" "HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\Hitachi\JP1\BASE\PathName
@regedit /e "%reg_temp%" "HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\Hitachi\JP1\AJS2\PathName
@regedit /e "%reg_temp%" "HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\Hitachi\JP1\AJS2
@regedit /e "%reg_temp%" "HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\Hitachi\JP1\AJS2V\PathName
@regedit /e "%reg_temp%" "HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\Hitachi\JP1\AJS2V
@regedit /e "%reg_temp%" "HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\Hitachi\JP1\AJS2C\PathName
@regedit /e "%reg_temp%" "HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\Hitachi\JP1\AJS2C
@regedit /e "%reg_temp%" "HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\Hitachi\JP1\AJS2CM\PathName
@regedit /e "%reg_temp%" "HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\Hitachi\JP1\AJS2\PathName
@regedit /e "%reg_temp%" "HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\Hitachi\JP1\AJS2WOA\PathName
@regedit /e "%reg_temp%" "HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\Hitachi\JP1\AJS2WOA
@regedit /e "%reg_temp%" "HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\Hitachi\JP1\AJS2DA\PathName
@regedit /e "%reg_temp%" "HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\Hitachi\JP1\AJS2DA
@set REG_NAME=HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\Hitachi\JP1
@set REG_NAME_BASE=HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\Hitachi\JP1\BASE
@set REG_NAME_MANAGER=HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\Hitachi\JP1\AJS2
@set REG_NAME_VIEW=HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\Hitachi\JP1\AJS2V
@set REG_NAME_CLIENT=HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\Hitachi\JP1\AJS2C
@set REG_NAME_AJS2CONSOLE=HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\Hitachi\JP1\AJS2CM
@set REG_NAME_WOA=HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\Hitachi\JP1\AJS2WOA
@set REG_NAME_DA=HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\Hitachi\JP1\AJS2DA
```

(2) 資料採取ツールの注意事項

JP1/AJS3 - Web Operation Assistant 09-00 以降，または JP1/AJS2 - Web Operation Assistant 07-10 以降の資料採取ツールと JP1/AJS2 - Web Operation Assistant 07-10 より前のバージョンの資料採取ツールでは，次の表に示す相違があります。

表 3-2 資料採取ツールの相違点

機能	JP1/AJS3 - Web Operation Assistant 09-00 以降，または JP1/AJS2 - Web Operation Assistant 07-10 以降	JP1/AJS2 - Web Operation Assistant 07-10 より前のバージョン
次の資料の採取 <ul style="list-style-type: none"> Windows レジストリ情報 マシン構成情報 サービス起動されている PP 一覧 JP1/Base のファイルリスト情報 	採取する。	採取しない。
初期調査ファイルの分離	初期調査ファイルを専用フォルダに保存する。	初期調査に必要なファイルが分散して出力される。

JP1/AJS2 - Web Operation Assistant 07-10 より前のバージョンの資料採取ツールをカスタマイズして、既存の情報以外の情報を取得していた場合、JP1/AJS2 - Web Operation Assistant 07-10 より前のバージョンから JP1/AJS3 - Web Operation Assistant 09-00 以降にバージョンアップしても JP1/AJS3 - Web Operation Assistant 09-00 以降の資料採取ツールには反映されません。

3.7 SSL サーバー証明書の設定

ここでは、SSL 通信で使用されるサーバー証明書の設定について説明します。

3.7.1 SSL サーバー証明書の設定手順

SSL 通信で使用されるサーバー証明書の設定手順を説明します。

！ 注意事項

JP1/AJS3 - Web OperationAssistant 09-50 まで作成可能であった自己署名証明書は、JP1/AJS3 - Web OperationAssistant 10-00 以降から作成ができなくなりました。ただし、JP1/AJS3 - Web OperationAssistant 09-50 以前のバージョンで使用していた自己署名証明書を使用することはできます。

1. 証明書発行要求 (CSR) を作成して、認証局に提出する。
CSR の作成については、「3.7.3 証明書発行要求の作成」を参照してください。
2. 認証局から取得した証明書を配置する。
認証局から取得した証明書を所定の場所に配置します。証明書を配置する場所については、「付録 A ファイルおよびフォルダー一覧」を参照してください。デフォルトではインストール時に生成された証明書が配置されていますので、取得した証明書で上書きしてください。
3. JP1/AJS3 WOA HTTP Server を再起動する。

注

この証明書は、JP1/AJS3 - Web OperationAssistant 内部で使用するもので、正式な SSL サーバー証明書としては使用できません。

3.7.2 サーバー秘密鍵の作成

サーバー秘密鍵を作成する場合、コマンドプロンプトから次のコマンドを実行してください。

```
ajswoasslc genrsa
```

！ 注意事項

ajswoasslc コマンドを実行する場合、UAC 機能が有効のときは、コマンドプロンプトを管理者として起動する必要があります。コマンドプロンプトを起動する際は、Windows の [スタート] メニューの [コマンドプロンプト] を右クリックし、ショートカットメニューから [管理者として実行] を選択してください。なお、UAC 機能が無効のときは、コマンドプロンプトを管理者として起動する必要はありません。

すでにサーバー秘密鍵が存在する場合、上書き確認のメッセージが出力されます。サーバー秘密鍵の場所については、「付録 A ファイルおよびフォルダー一覧」を参照してください。デフォルトではインストール時に生成されたサーバー秘密鍵が配置されています。

なお、サーバー秘密鍵を再作成した場合、証明書発行要求を再作成し、認証局から SSL サーバー証明書入手したあと、JP1/AJS3 WOA HTTP Server サービスを再起動する必要があります。また、サーバー秘密鍵のビット長は 1,024 ビットです。

注

このサーバー秘密鍵は、JP1/AJS3・Web OperationAssistant 内部で使用するもので、正式なサーバー秘密鍵としては使用できません。

3.7.3 証明書発行要求の作成

証明書発行要求（CSR）を作成する場合、コマンドプロンプトから次のコマンドを実行してください。

```
ajswoaasslc req
```

! 注意事項

ajswoaasslc コマンドを実行する場合、UAC 機能が有効のときは、コマンドプロンプトを管理者として起動する必要があります。コマンドプロンプトを起動する際は、Windows の [スタート] メニューの [コマンドプロンプト] を右クリックし、ショートカットメニューから [管理者として実行] を選択してください。なお、UAC 機能が無効の場合は、コマンドプロンプトを管理者として起動する必要はありません。

すでに CSR が存在する場合、上書き確認のメッセージが出力されます。

なお、証明書発行要求の作成には、サーバー秘密鍵が必要です。

CSR の作成時には、次の表に示す情報を入力できます。各項目の問い合わせに対して Enter キーだけを入力した場合、デフォルト値が仮定されます。

また、ピリオド (.) だけを入力した場合、その項目の設定値が空になります。

表 3-3 証明書発行要求の内容

項目	入力する情報	デフォルト値
Country Name	国コード（大文字 2 文字）	JP
State or Province Name	都道府県名など	なし
Locality Name	市区町村名など	なし
Organization Name	会社名など	なし
Organizational Unit Name	部門名など	なし
Common Name	URL に指定するサーバー名	なし
Email Address	メールアドレス	なし
A challenge password	パスワード	なし
An optional company name	会社名（オプション）	なし

注 どの項目も全角文字は指定できません。

3.8 ファイアウォールを通過するための設定

ここでは、監視対象スケジューラーサービスのデータベース種別が組み込み DB または HiRDB の場合に、ファイアウォールを通過するための設定方法について説明します。

そのほかのファイアウォール環境に必要な設定は、「付録 C ポート番号一覧」を参照してください。

! 注意事項

JP1/AJS3 - Manager 09-00 以降および JP1/AJS2 - Manager 08-00 以降では、スケジューラーサービスのデータベースとして、HiRDB を使用できません。

この節で説明している HiRDB は、JP1 Version 7i JP1/AJS2 - Manager で使用している HiRDB を指します。

3.8.1 ファイアウォールを通過できる構成

監視対象スケジューラーサービスのデータベース種別が組み込み DB または HiRDB で、監視対象スケジューラーサービスと JP1/AJS3 - Web Operation Assistant との間にパケットフィルタリングや NAT 変換機などのファイアウォールが存在する場合、次に示すネットワーク構成で、ファイアウォールを通過するための設定が必要です。

なお、JP1/AJS3 - Web Operation Assistant は、スタティック・モードでのアドレス変換 (NAT) に対応しています。NAPT (IP マスカレード) のような、グローバル IP アドレスとローカル IP アドレスを 1 対複数で変換するような機能には対応していません。

ファイアウォールを通過するための設定が必要なネットワーク構成

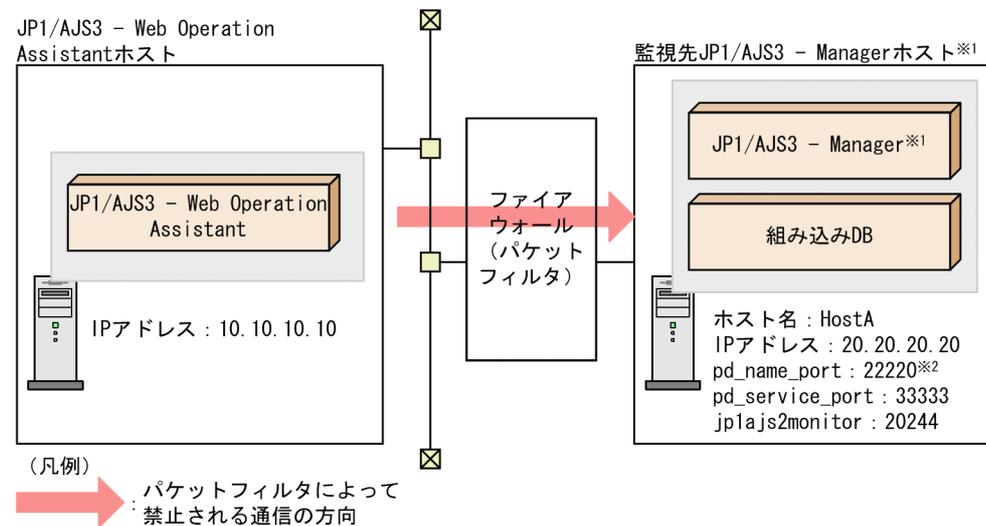
- 監視先の組み込み DB または HiRDB 側にファイアウォール (パケットフィルタ) を設置した場合
- 監視先の組み込み DB または HiRDB 側にファイアウォール (パケットフィルタと NAT) を設置した場合
- JP1/AJS3 - Web Operation Assistant 側にファイアウォール (パケットフィルタ) を設置した場合
- JP1/AJS3 - Web Operation Assistant 側にファイアウォール (パケットフィルタと NAT) を設置した場合

上記ネットワーク構成で必要な組み込み DB の設定について次に示します。HiRDB の設定については、マニュアル「HiRDB システム導入・設計ガイド」を参照してください。設定の詳しい手順については、「3.8.2 JP1/AJS3 - Manager または JP1/AJS2 - Manager 側の設定」、「3.8.3 JP1/AJS3 - Web Operation Assistant 側の設定」を参照してください。

なお、図中の `pd_name_port` は、監視先スケジューラーサービスの環境設定パラメーター `RDBPORT` に設定されている値と同じ値です。監視先が JP1/AJS3 - Manager の場合、これらのパラメーターは、監視先 JP1/AJS3 - Manager ホストで JP1/AJS3 - Manager をインストールすると設定されます。また、監視先が JP1/AJS2 - Manager の場合、これらのパラメーターは、監視先 JP1/AJS2 - Manager ホストで組み込み DB のセットアップコマンド `ajsembddbbuild` を実行すると設定されます。`ajsembddbbuild` コマンドの詳細については、マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 2 セットアップガイド `ajsembddbbuild` コマンド」を参照してください。

(1) 監視先の組み込み DB 側にファイアウォール (パケットフィルタ) を設置した場合

図 3-5 監視先の組み込み DB 側にファイアウォール (パケットフィルタ) を設置した場合



注※1 JP1/AJS2 - Managerでも可
注※2 JP1/AJS2 - Managerの場合は22200

上図のようにファイアウォールが設置され、そのファイアウォールが次のように設定されているとします。

ファイアウォールの設定

- 透過させる IP アドレス : 20.20.20.20
- 透過させるポート番号 : 22220 (監視先が JP1/AJS2 - Manager の場合は 22200), 33333, 20244

この場合、監視先の JP1/AJS3 - Manager ホストまたは JP1/AJS2 - Manager ホストおよび JP1/AJS3 - Web Operation Assistant ホストの設定は次のようになります。

監視先が JP1/AJS3 - Manager ホストの場合の設定

- JP1/AJS3 - Manager の services ファイル
jp1ajs2monitor 20244/tcp
- 組み込み DB のシステム共通定義ファイル
set pd_name_port=22220
set pd_service_port=33333

監視先が JP1/AJS2 - Manager ホストの場合の設定

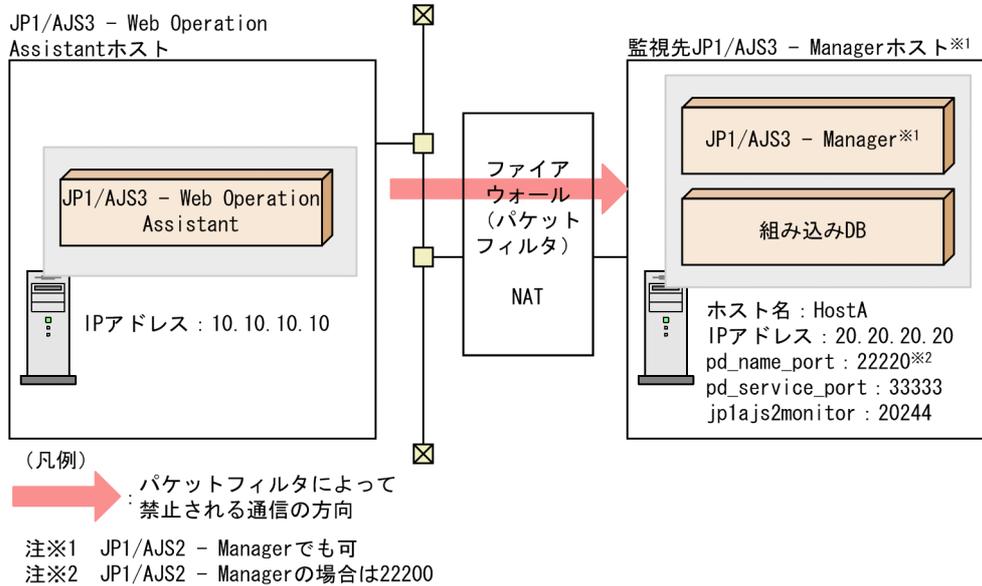
- JP1/AJS2 - Manager の services ファイル
jp1ajs2monitor 20244/tcp
- 組み込み DB のシステム共通定義ファイル
set pd_name_port=22200
set pd_service_port=33333

JP1/AJS3 - Web Operation Assistant ホストの設定

設定が必要なパラメーターはありません。

(2) 監視先の組み込み DB 側にファイアウォール (パケットフィルタと NAT) を設置した場合

図 3-6 監視先の組み込み DB 側にファイアウォール (パケットフィルタと NAT) を設置した場合



上図のようにファイアウォールが設置され、そのファイアウォールが次のように設定されているとします。

ファイアウォールの設定

- 透過させる IP アドレス : 20.20.20.20
- 透過させるポート番号 : 22220 (監視先が JP1/AJS2 - Manager の場合は 22200) , 33333 , 20244
- NAT によるアドレス変換
 10.10.10.30 20.20.20.20

この場合、監視先の JP1/AJS3 - Manager ホストまたは JP1/AJS2 - Manager ホストおよび JP1/AJS3 - Web Operation Assistant ホストの設定は次のようになります。

監視先が JP1/AJS3 - Manager ホストの場合の設定

- JP1/AJS3 - Manager の services ファイル
 jp1ajs2monitor 20244/tcp
- 組み込み DB のシステム共通定義ファイル
 set pd_name_port=22220
 set pd_service_port=33333

監視先が JP1/AJS2 - Manager ホストの場合の設定

- JP1/AJS2 - Manager の services ファイル
 jp1ajs2monitor 20244/tcp
- 組み込み DB のシステム共通定義ファイル
 set pd_name_port=22200
 set pd_service_port=33333

JP1/AJS3 - Web Operation Assistant ホストの設定

- クライアント環境定義
 PDSERVICEPORT=33333

```
PDSERVICEGRP=ajs2
```

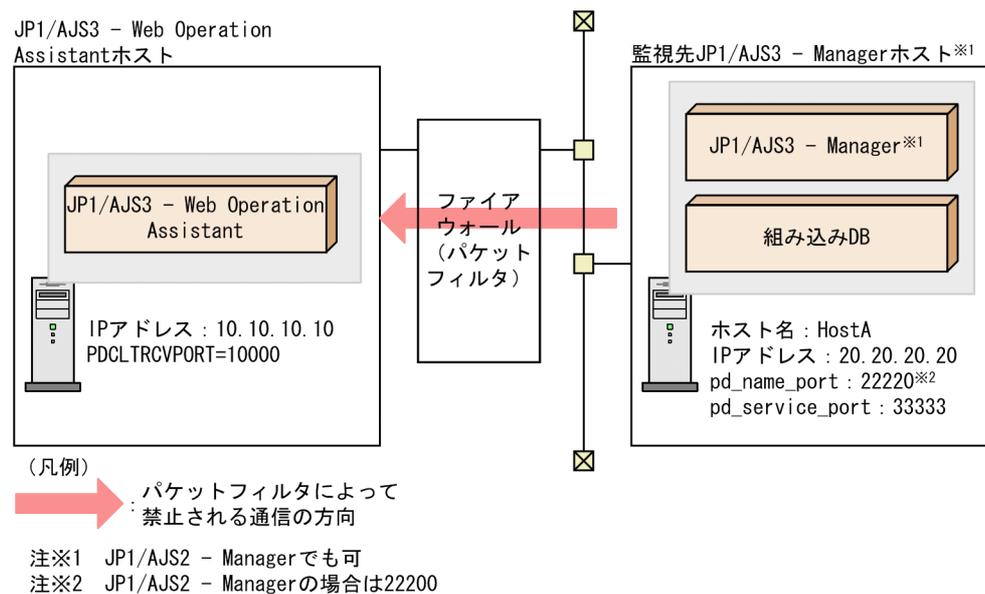
```
PDSRVTYPE=PC
```

- hosts ファイル
10.10.10.30 HostA

注 監視先の JP1/AJS3 - Manager または JP1/AJS2 - Manager が、Windows ホストまたは Linux ホストの場合は「PC」、Linux 以外の UNIX ホストの場合は「WS」にしてください。

(3) JP1/AJS3 - Web Operation Assistant 側にファイアウォール(パケットフィルタ)を設置した場合

図 3-7 JP1/AJS3 - Web Operation Assistant 側にファイアウォール(パケットフィルタ)を設置した場合



上図のようにファイアウォールが設置され、そのファイアウォールが次のように設定されているとします。

ファイアウォールの設定

- 透過させる IP アドレス : 10.10.10.10
- 透過させるポート番号 : 10000

この場合、監視先の JP1/AJS3 - Manager ホストまたは JP1/AJS2 - Manager ホストおよび JP1/AJS3 - Web Operation Assistant ホストの設定は次のようになります。

監視先が JP1/AJS3 - Manager ホストの場合の設定

- 組み込み DB のシステム共通定義ファイル
set pd_name_port=22220

監視先が JP1/AJS2 - Manager ホストの場合の設定

- 組み込み DB のシステム共通定義ファイル
set pd_name_port=22200

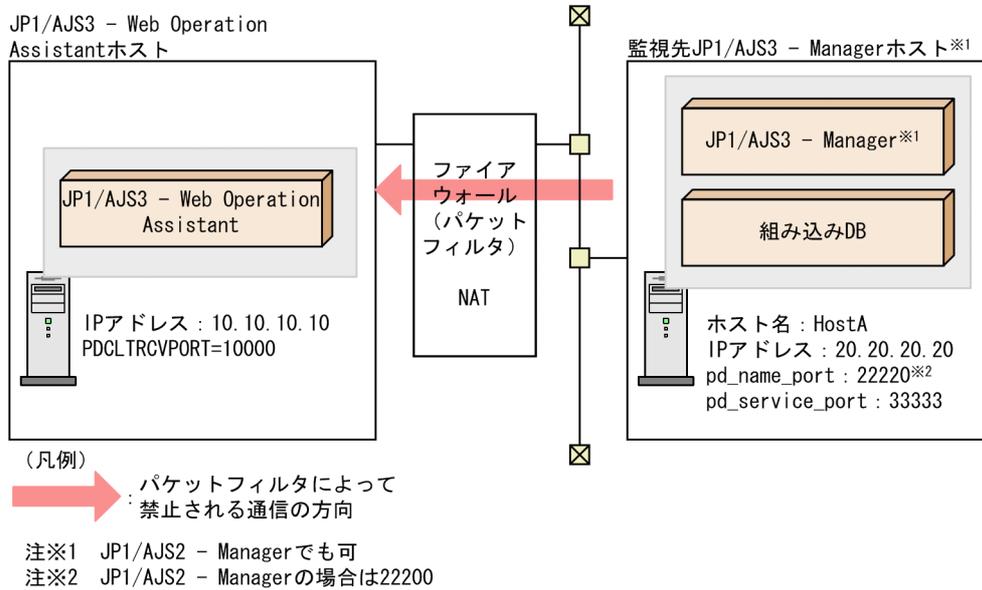
JP1/AJS3 - Web Operation Assistant ホストの設定

- クライアント環境定義
PDCLTRCVPORT=10000

3. インストールとセットアップ

(4) JP1/AJS3 - Web Operation Assistant 側にファイアウォール (パケットフィルタと NAT) を設置した場合

図 3-8 JP1/AJS3 - Web Operation Assistant 側にファイアウォール (パケットフィルタと NAT) を設置した場合



上図のようにファイアウォールが設置され、そのファイアウォールが次のように設定されているとします。

ファイアウォールの設定

- 透過させる IP アドレス : 10.10.10.10
- 透過させるポート番号 : 10000
- NAT によるアドレス変換
10.10.10.10 20.20.20.30

この場合、監視先の JP1/AJS3 - Manager ホストまたは JP1/AJS2 - Manager ホストおよび JP1/AJS3 - Web Operation Assistant ホストの設定は次のようになります。

監視先が JP1/AJS3 - Manager ホストの場合の設定

- 組み込み DB のシステム共通定義ファイル
set pd_name_port=22220

監視先が JP1/AJS2 - Manager ホストの場合の設定

- 組み込み DB のシステム共通定義ファイル
set pd_name_port=22200

JP1/AJS3 - Web Operation Assistant ホストの設定

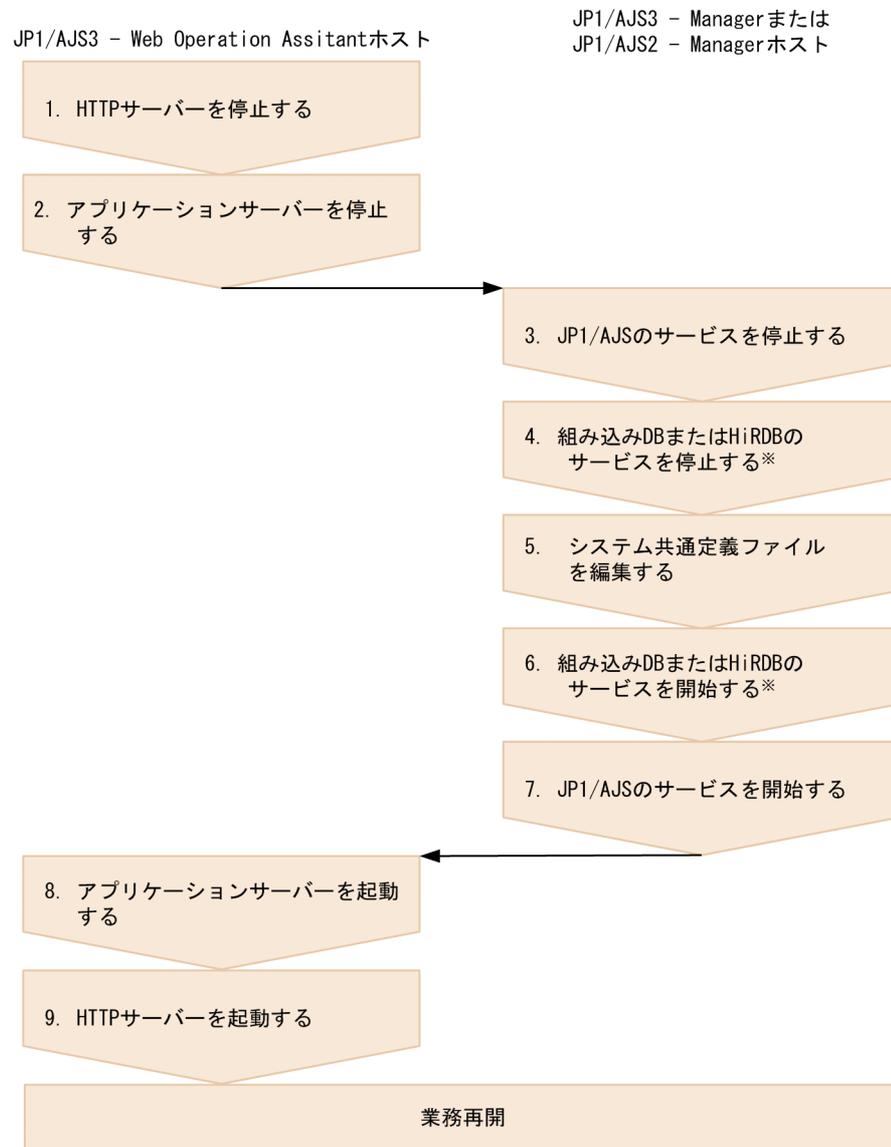
- クライアント環境定義
PDCLTRCVPORT=10000
PDCLTRCVADDR=20.20.20.30

注 監視先の JP1/AJS3 - Manager または JP1/AJS2 - Manager から見た JP1/AJS3 - Web Operation Assistant ホストの IP アドレスを指定してください。

3.8.2 JP1/AJS3 - Manager または JP1/AJS2 - Manager 側の設定

JP1/AJS3 - Manager または JP1/AJS2 - Manager 側でファイアウォールを通過するために必要な設定の流れを次の図に示します。

図 3-9 JP1/AJS3 - Manager または JP1/AJS2 - Manager 側の設定の流れ



注※ JP1/AJS2 - Managerの場合だけ

1. HTTP サーバーを停止する。

JP1/AJS3 - Web Operation Assistant ホスト側で Windows の [コントロールパネル] - [管理ツール] - [サービス] で、次に示すサービスを停止します。

JP1/AJS3 WOA HTTP Server

2. アプリケーションサーバーを停止する。

JP1/AJS3 - Web Operation Assistant ホスト側で Windows の [コントロールパネル] - [管理ツール] - [サービス] で、次に示すサービスを停止します。

JP1/AJS3 WOA Web Application Server

3. インストールとセットアップ

3. JP1/AJS のサービスを停止する。

Windows の [コントロールパネル] - [管理ツール] - [サービス] で、JP1/AJS のすべてのサービスを停止します。

4. 組み込み DB または HiRDB のサービスを停止する。

監視先が JP1/AJS2 - Manager の場合に、組み込み DB または HiRDB のサービスを停止します。

(組み込み DB の場合)

Windows の [コントロールパネル] - [管理ツール] - [サービス] で、次に示すサービスを停止します。

HiRDB/EmbeddedEdition_JAn

(HiRDB の場合)

HiRDB のサービスを停止します。HiRDB のサービスの停止については、マニュアル「HiRDB システム運用ガイド」を参照してください。

5. システム共通定義ファイルを編集する。

(組み込み DB の場合)

組み込み DB のシステム共通定義を編集します。組み込み DB のシステム共通定義および記述方法については、監視先に JP1/AJS3 - Manager を使用している場合はマニュアル「JP1/Automatic Job Management System 3 構築ガイド 1」を、Version8 の JP1/AJS2 - Manager を使用している場合は、マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 2 設計・運用ガイド」を参照してください。

定義ファイル名 : pdsys 格納フォルダ : (組み込み DB 運用フォルダ) ¥conf
--

(HiRDB の場合)

HiRDB のシステム共通定義を編集します。HiRDB のシステム共通定義、記述方法および設定手順については、マニュアル「HiRDB システム定義」を参照してください。

6. 組み込み DB または HiRDB のサービスを開始する。

監視先が JP1/AJS2 - Manager の場合に、組み込み DB または HiRDB のサービスを開始します。

(組み込み DB の場合)

Windows の [コントロールパネル] - [管理ツール] - [サービス] で、手順 4 で停止した次のサービスを起動します。

HiRDB/EmbeddedEdition_JAn

(HiRDB の場合)

HiRDB のサービスを起動します。HiRDB のサービスの起動については、マニュアル「HiRDB システム運用ガイド」を参照してください。

7. JP1/AJS のサービスを開始する。

Windows の [コントロールパネル] - [管理ツール] - [サービス] で、手順 3 で停止したサービスを起動します。

8. アプリケーションサーバーを起動する。

JP1/AJS3 - Web Operation Assistant ホスト側で Windows の [コントロールパネル] - [管理ツール] - [サービス] で、手順 2 で停止した次のサービスを起動します。

JP1/AJS3 WOA Web Application Server

9. HTTP サーバーを起動する。

JP1/AJS3 - Web Operation Assistant ホスト側で Windows の [コントロールパネル] - [管理ツール] - [サービス] で、手順 1 で停止した次のサービスを起動します。

JP1/AJS3 WOA HTTP Server

注 「JAn」は組み込み DB の識別子です。

3.8.3 JP1/AJS3 - Web Operation Assistant 側の設定

JP1/AJS3 - Web Operation Assistant は、監視先スケジューラーサービスのデータベース種別が組み込み DB または HiRDB の場合、状態取得時に JP1/AJS3 - Web Operation Assistant 内の HiRDB クライアントを使用して、監視先スケジューラーサービスで使用している組み込み DB または HiRDB サーバに接続します。

HiRDB クライアントの動作環境は、クライアント環境定義によってカスタマイズできます。JP1/AJS3 - Web Operation Assistant 内の HiRDB クライアントが参照するクライアント環境定義は、RDB 接続定義ファイル (RDBINF.conf) で設定できます。

(1) RDB 接続定義ファイルのセットアップ手順

RDB 接続定義ファイルを使用した、通信に関するセットアップの手順を示します。

1. HTTP サーバーを停止する。

Windows の [コントロールパネル] - [管理ツール] - [サービス] で、次に示すサービスを停止します。

JP1/AJS3 WOA HTTP Server

2. アプリケーションサーバーを停止する。

Windows の [コントロールパネル] - [管理ツール] - [サービス] で、次に示すサービスを停止します。

JP1/AJS3 WOA Web Application Server

3. 次の RDB 接続定義ファイルのモデルファイルを、同じフォルダにコピーする。

JP1/AJS3 - Web Operation Assistantインストール先フォルダ

¥conf¥dbclient¥RDBINF.conf.model

4. 手順 3 でコピーしたファイルの名称を「RDBINF.conf」に変更する。

5. 手順 3 と手順 4 で作成したファイルをメモ帳などのテキストエディターで開き、ネットワーク構成に応じて監視先ホストごとにクライアント環境定義に値を設定する。

クライアント環境定義の設定値については、監視先スケジューラーサービスのデータベースに組み込み DB を使用する場合は「3.8.3(2) RDB 接続定義ファイル」を、HiRDB を使用する場合は、HiRDB のマニュアルを参照してください。

6. アプリケーションサーバーを起動する。

Windows の [コントロールパネル] - [管理ツール] - [サービス] で、手順 2 で停止した次のサービスを起動します。

JP1/AJS3 WOA Web Application Server

7. HTTP サーバーを起動する。

Windows の [コントロールパネル] - [管理ツール] - [サービス] で、手順 1 で停止した次のサービスを起動します。

JP1/AJS3 WOA HTTP Server

3. インストールとセットアップ

(2) RDB 接続定義ファイル

(a) RDBINF.conf.model の内容

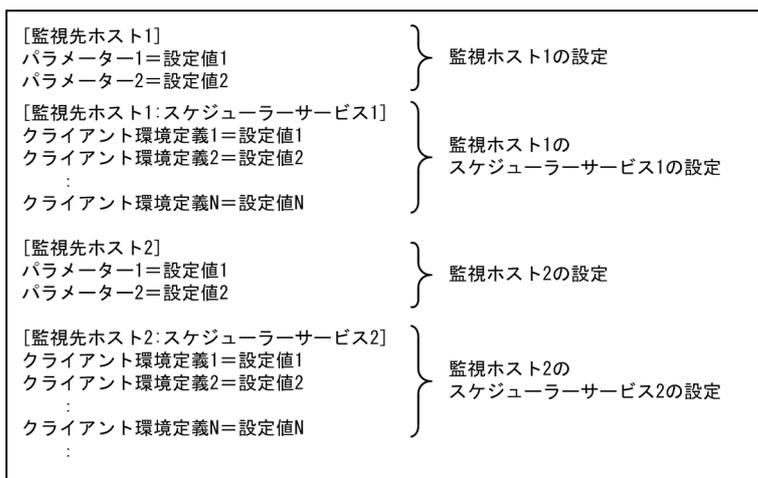
RDB 接続定義ファイルのモデルファイルの内容を次に示します。

```
[OBSERVE_HOSTNAME]
GETSTATUSMODE=
OBSERVESRVTYPE=
[OBSERVE_HOSTNAME:OBSERVE_SCHEDULERSERVICENAME]
PDSERVICEPORT=
PDSERVICEGRP=
PDFESHOST=
PDSRVTYPE=
PDCLTRCVPORT=
PDCLTRCVADDR=
```

(b) RDB 接続定義ファイルの形式

RDB 接続定義ファイルには、パラメーターとクライアント環境定義を設定します。RDB 接続定義ファイルの記述形式を次に示します。

JP1/AJS3 - Web Operation Assistant が同時に複数の監視先に接続する場合、監視先ごとに設定してください。



(c) RDB 接続定義ファイルのパラメーター一覧

ここでは、監視先スケジューラーサービスのパラメーターの内容を説明します。

監視先の指定方法を次に示します。

表 3-4 監視先の指定方法 (RDBINF.conf)

パラメーター	内容	備考
OBSERVE_HOSTNAME	監視先ホスト名を指定します。	検索条件設定フレームで指定された監視先のホスト名と同じ値を指定します。監視先ホストを FQDN 名で指定する場合は、FQDN 形式のホスト名を指定してください。
OBSERVE_SCHEDULERSE RVICENAME	状態取得時に参照するスケジューラーサービス名を指定します。	検索条件設定フレームで指定された監視先のサービス名と同じ値を指定してください。英字は大文字と小文字が区別されます。

監視先スケジューラサービスのデータベース種別が組み込み DB の場合に設定するクライアント環境定義の内容を次に示します。監視先スケジューラサービスのデータベースに HiRDB を使用する場合は、HiRDB のマニュアルを参照してください。

表 3-5 RDB 接続定義ファイルのパラメーター一覧 (RDBINF.conf)

パラメーター	内容
GETSTATUSMODE	監視先への状態取得モードを指定します。
OBSERVESRVTYPE	監視先の組み込み DB サーバまたは HiRDB サーバのサーバ種別 (WS または PC) を指定します。
PDSERVICEPORT	監視先の組み込み DB サーバ上の、クライアント接続用ポート番号を指定します。
PDSERVICEGRP	ajs2 を指定します。
PDSRVTYPE	監視先の組み込み DB サーバの、サーバ種別を指定します。
PDCLTRCVPORT	JP1/AJS3・Web Operation Assistant サーバ上の、クライアントの受信ポート番号を指定します。
PDCLTRCVADDR	JP1/AJS3・Web Operation Assistant ホストの IP アドレスまたはホスト名を指定します。

(d) RDB 接続定義ファイルの設定内容

パラメーターの設定内容

RDB 接続定義ファイルで設定する、パラメーターの設定内容を次に示します。

GETSTATUSMODE= { 0 | 1 }

状態取得モードを指定します。

0

従来と同様の状態取得モードにします。

1

大規模運用時に、運用規模全体サイズに依存しないようにし、性能低下を抑制できる状態取得モードにします。

監視先スケジューラサービスのデータベース種別が組み込み DB または HiRDB (ただし Version 7 以降) の場合に指定してください。「1」を指定した場合は、OBSERVESRVTYPE パラメーターを必ず設定してください。

デフォルトは「0」です。

OBSERVESRVTYPE= { WS | PC }

監視先の組み込み DB サーバまたは HiRDB サーバのサーバ種別を指定します。この指定値は、GETSTATUSMODE パラメーターに「1」を指定した場合だけ有効です。

WS

監視先の組み込み DB サーバまたは HiRDB サーバが HP-UX, Solaris, AIX で稼働する場合に指定します。

PC

監視先の組み込み DB サーバまたは HiRDB サーバが Linux または Windows で稼働する場合に指定します。

注意事項

- GETSTATUSMODE パラメーターに「1」を指定し、OBSERVESRVTYPE パラメーターを指定しない場合は、JP1/AJS3 WOA Web ApplicationServer サービス起動時にエラーが発生して、状態取得できないため必ず指定してください。

3. インストールとセットアップ

- サーバ種別の指定が監視先ホストのサーバ種別と異なる場合、ユニットの状態が正常に取得できないため、サーバ種別は正しく指定してください。

クライアント環境定義の設定内容

RDB 接続定義ファイルで設定する、クライアント環境定義の設定内容を次に示します。

PDSERVICEPORT= クライアント接続用ポート番号 [, 待機系のクライアント接続用ポート番号]

~ 符号なし整数 ((5001 ~ 65535))

JP1/AJS3 - Web Operation Assistant の状態取得のための検索要求受け付けに使用する、監視先の組み込み DB サーバ上のポート番号を指定します。

監視先の組み込み DB サーバ側に、次の環境が両方とも設置されている場合に指定します。

- パケットフィルタリング
- NAT

接続する組み込み DB サーバのシステム定義 `pd_service_port` オペランドで指定した値を指定してください。 `pd_service_port` オペランドについては、監視先に JP1/AJS3 - Manager を使用している場合は、マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 3 構築ガイド 1」を、Version8 の JP1/AJS2 - Manager を使用している場合は、マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 2 設計・運用ガイド」を参照してください。

注意事項

監視先がクラスタ運用をしていて、実行系、待機系のシステム定義の `pd_service_port` オペランドでそれぞれ異なるポート番号を指定している場合、待機系のクライアント接続用ポート番号も一緒に指定してください。ポート番号については、「付録 C ポート番号一覧」を参照してください。

PDSERVICEGRP=`ajs2`

`ajs2` を指定します。

監視先の組み込み DB サーバ側に、次の環境が両方とも設置されている場合に指定します。

- パケットフィルタリング
- NAT

PDSRVTYPE= { `WS` | `PC` }

監視先の組み込み DB サーバのサーバ種別を指定します。

WS

監視先の組み込み DB サーバが HP-UX, Solaris, AIX で稼働する場合に指定します。

PC

監視先の組み込み DB サーバが Linux または Windows で稼働する場合に指定します。

PDCLTRCVPORT= クライアントの受信ポート番号

~ 符号なし整数 ((5001 ~ 65535))

JP1/AJS3 - Web Operation Assistant の状態取得時に監視先スケジューラーサービスで使用する組み込み DB サーバからの検索結果データ受信に使用する JP1/AJS3 - Web Operation Assistant サーバ上のポート番号を指定します。

JP1/AJS3 - Web Operation Assistant 側に、次の環境が設置されている場合に指定します。

- パケットフィルタリング

注意事項

- 複数の監視先スケジューラーサービスに対して同時に状態取得する場合、各監視先で設定した値が重複しないようにポート番号を指定してください。

- OS が自動的に割り当てるポート番号の範囲に含まれないポート番号を指定してください。なお、OS が自動的に割り当てるポート番号の範囲は、OS ごとに異なります。
- ほかのプログラムが使用していないポート番号を指定してください。

ポート番号については、「付録 C ポート番号一覧」を参照してください。

PDCLTRCVADDR={クライアントの IP アドレス | クライアントのホスト名}

~ 符号なし整数 または 識別子 ((最大 256 バイト))

JP1/AJS3・Web Operation Assistant の状態取得時に監視先スケジューラーサービスで使用する組み込み DB サーバからの検索結果データ受信に使用する JP1/AJS3・Web Operation Assistant ホストの IP アドレスまたはホスト名を指定します。ホスト名には FQDN 形式のホスト名も指定できます。

JP1/AJS3・Web Operation Assistant 側に、次の環境が設置されている場合に指定します。

- NAT

IP アドレス

バイトごとにピリオドで区切られた 10 進数で指定します。

(指定例) PDCLTRCVADDR=172.18.131.34

FQDN

FQDN とは、ホスト名とドメイン名とを、ピリオドで結んだ名称のことをいいます。

(指定例) PDCLTRCVADDR=host1.soft.hitachi.co.jp

注意事項

この環境変数に不正な IP アドレスまたはホスト名を指定した場合、状態取得時に組み込み DB サーバからの応答が受け付けられないため、5 分間のタイマー監視後に KAVI3250-E のエラーとなります。

(3) RDB 接続定義ファイル定義時の注意事項

- 1 行に一つのパラメーターを設定してください。
- 同一の監視先を複数記載した場合は、最後に記述した設定が有効になります。
- 同一のパラメーターを複数記述した場合は、最後に記述した設定が有効になります。
- 先頭が「;」(セミコロン)で始まる行は、コメントとして扱われます。
- 監視先およびパラメーターの設定を記述する行に、空白文字は含めないでください。
- 空行は無視されます。

3.9 グローバルバッファ拡張の設定

監視先に JP1/AJS2 - Manager をご使用の環境で、監視対象スケジューラサービスのデータベース種別が組み込み DB または HiRDB の場合に、グローバルバッファを拡張するための設定手順について説明します。

グローバルバッファの拡張手順を次に示します。

1. JP1/AJS のサービスを停止する。

監視先が JP1/AJS2 - Manager の場合は、JP1/AJS2 サービス、JP1/AJS2 Monitor サービス、JP1/AJS2 Console Agent サービスなど、組み込み DB または HiRDB にアクセスするサービスをすべて停止してください。

2. 組み込み DB または HiRDB のサービスを停止する。

監視先が JP1/AJS2 - Manager の場合に、組み込み DB または HiRDB のサービスを停止します。組み込み DB のサービス停止方法の詳細については、マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 2 設計・運用ガイド」を、HiRDB のサービス停止方法の詳細については、マニュアル「HiRDB システム運用ガイド」を参照してください。

3. 組み込み DB または HiRDB のシステム共通定義を変更する。

組み込み DB の場合

組み込み DB のシステム共通定義ファイルを編集し、グローバルバッファの割り当てを変更します。

項目	内容
ファイル名	Windows の場合 組み込み DB 運用ディレクトリ ¥conf¥pdsys UNIX の場合 組み込み DB 運用ディレクトリ /conf/pdsys
オペランド名	pdbuffer
グローバルバッファ名	gbuf04 (pdbuffer -a オプション指定値)
バッファ面数	pdbuffer -n オプション指定値

-n オプションに指定するバッファ面数は、使用している環境に合わせて見積もりが必要です。見積もりについては「付録 E.3 グローバルバッファを見積もる」を参照してください。

(例)

バッファ面数を 1000 から 5000 に拡張する必要がある場合

<変更前>

```
pdbuffer -a gbuf04 -n 1000 -r AJS2INDX -w 20 -l 4
```

<変更後>

```
pdbuffer -a gbuf04 -n 5000 -r AJS2INDX -w 20 -l 4
```

HiRDB の場合

使用している HiRDB のマニュアルを参照してください。

注意事項

システム共通定義ファイルの内容は、pdbuffer オペランドの -n オプション指定値以外は変更しないようにしてください。

また、見積もりの結果、バッファ面数を拡張する必要がない場合、pdbuffer オペランドの -n オプション指定値は変更しないでください。

4. 組み込み DB または HiRDB のサービスを開始する。
監視先が JP1/AJS2 - Manager の場合に、組み込み DB または HiRDB のサービスを開始します。
組み込み DB のサービス起動方法の詳細については、マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 2 設計・運用ガイド」を、HiRDB のサービス起動方法の詳細については、マニュアル「HiRDB システム運用ガイド」を参照してください。
5. JP1/AJS のサービスを開始する。
手順 1 で停止した JP1/AJS のサービスを起動してください。

3.10 アンインストール

ここでは、JP1/AJS3 - Web Operation Assistant のアンインストールについて説明します。

1. JP1/AJS3 - Web Operation Assistant がインストールされているホストに、Administrators 権限でログインする。
2. すべてのプログラムを終了する。
既存の JP1 シリーズのプログラムが動作している場合、必ず停止しておいてください。
3. Windows の [コントロールパネル] で [アプリケーションの追加と削除] を選択する。
アンインストールするプログラムを選択するダイアログボックスが表示されます。
4. JP1/AJS3 - Web Operation Assistant を選択し、[追加と削除] ボタンを押す。
プログラムの削除を確認するダイアログボックスが表示されます。
5. [OK] ボタンを押す。
JP1/AJS3 - Web Operation Assistant がアンインストールされます。
6. 必要に応じて、JP1/AJS3 - Web Operation Assistant で作成したユーザーファイルと、JP1/AJS3 - Web Operation Assistant のインストールフォルダを削除する。

4

ユーザー環境設定

この章では，一括監視環境のカスタマイズについて説明します。

4.1 環境設定によって一括監視の環境をカスタマイズする方法

4.2 ユーザー環境設定ファイルで定義する環境

4.3 [ユーザー環境設定]画面で変更する環境

4.1 環境設定によって一括監視の環境をカスタマイズする方法

ユーザー環境設定によって、一括監視の環境をカスタマイズできます。カスタマイズは、カスタマイズする項目によって次の二つの方法があります

- ユーザー環境設定ファイルで定義する
- [ユーザー環境設定]画面で変更する

(1) ユーザー環境設定ファイルで定義する

JP1 ユーザーごとの環境を JP1/AJS3・Web Operation Assistant マシン上のユーザー環境設定ファイルで定義します。必ずユーザーごとに環境を定義してください。この環境設定ファイルに環境が定義されていないユーザーは JP1/AJS3・Web Operation Assistant にログインできません。

ユーザー環境設定ファイルで定義するのは管理者が定義する（各 JP1 ユーザーが自由に変更できない）項目です。ユーザー環境設定ファイルに対するアクセス権は、OS レベルのパーミッション設定（Windows の NTFS アクセス許可の設定）で管理してください。

ユーザー環境設定ファイルには、ログインする JP1 ユーザーごとに次の情報を定義します。

- [監視]画面のフレーム構成の設定
- 監視対象の設定
- 操作ボタンの表示設定

ユーザー環境設定ファイルに定義した内容を有効にするには、JP1/AJS3 WOA HTTP Server サービスおよび JP1/AJS3 WOA Web Application Server サービスを再起動する必要があります。

(2) [ユーザー環境設定]画面で変更する

JP1 ユーザーが自由に Web 画面上で環境のカスタマイズができます。環境のカスタマイズ情報は JP1 ユーザーごとに保存されるので、ほかの JP1 ユーザーにはその環境は引き継がれません。

Web 画面でカスタマイズできる項目を次に示します。

- 検索条件のデフォルトの設定
- 状態表示色
- 遅延表示色の優先度
- 状態一覧表の表示項目
- 操作オプションのデフォルト設定
- 自動更新

4.2 ユーザー環境設定ファイルで定義する環境

管理者が定義する各 JP1 ユーザーの環境は、JP1/AJS3 - Web Operation Assistant 上のユーザー環境設定ファイルで定義します。JP1/AJS3 - Web Operation Assistant を使用する JP1 ユーザー分の定義が必要です。ユーザー環境設定ファイルの書式およびファイルで定義するユーザー環境設定パラメーターを以降に示します。

4.2.1 ユーザー環境設定ファイルの形式

ユーザー環境設定ファイルは次の形式で記述します。

```
[ JP1 ユーザー名 1 ]
ユーザー環境設定パラメーター 1 = 設定値 1
ユーザー環境設定パラメーター 2 = 設定値 2
      .
      .
ユーザー環境設定パラメーター N = 設定値 N
                                         JP1 ユーザー名 1 の環境定義

[ JP1 ユーザー名 2 ]
ユーザー環境設定パラメーター 1 = 設定値 1
ユーザー環境設定パラメーター 2 = 設定値 2
      .
      .
ユーザー環境設定パラメーター N = 設定値 N
                                         JP1 ユーザー名 2 の環境定義
      .
      .
```

- 先頭が「;」(セミコロン)で始まる行はコメントとして扱われます。
- ユーザー名およびパラメーターの設定を記述する行に空白文字は含めないでください。
- 空行は無視されます。

4.2.2 ユーザー環境設定パラメーター一覧

ユーザー環境設定パラメーターの一覧を次に示します。

表 4-1 ユーザー環境設定パラメーター一覧

分類	ユーザー環境設定パラメーター	内容およびデフォルト値
[監視] 画面のフレーム構成に関する設定	FRAME_TYPE	[監視] 画面のフレーム構成パラメーターの指定は省略できません。
	FRAME_SHOW_STATUSCONFIRM	状態確認フレームの表示 デフォルトは「N」。

4. ユーザー環境設定

分類	ユーザー環境設定パラメーター	内容およびデフォルト値
監視対象に関する設定	OBSERVE_NUM	監視対象スケジューラーサービス数 パラメーターの指定は省略できません。
	OBSERVE_HOSTNAME_SHOW	監視対象ホスト名の表示 デフォルトは「Y」。
	OBSERVE_SERVICENAME_SHOW	監視対象スケジューラーサービス名の表示 デフォルトは「Y」。
	OBSERVE_UNITNAME_SHOW	監視対象ユニット名の表示 デフォルトは「Y」。
	OBSERVE_UNITNAME_WIDTH	監視対象ユニット名の入力フィールド幅 (ピクセル単位指定)。
	OBSERVE_n_CHECK	n 番目の監視対象のチェックボックスの チェック有無 デフォルトは「N」。
	OBSERVE_n_HOSTNAME	n 番目の監視対象のホスト名 パラメーターの指定は省略できません。
	OBSERVE_n_HOSTNAME_TYPE	n 番目の監視対象のホスト名の表示形式 デフォルトは「TEXT」。
	OBSERVE_n_SERVICENAME	n 番目の監視対象のスケジューラーサー ビス名 パラメーターの指定は省略できません。
	OBSERVE_n_SERVICENAME_TYPE	n 番目の監視対象のスケジューラーサー ビス名の表示形式 デフォルトは「TEXT」。
	OBSERVE_n_UNITNAME	n 番目の監視対象のユニット名 デフォルトは「ユニット名の指定なし」。
	OBSERVE_n_UNITNAME_TYPE	n 番目の監視対象のユニット名の表示形 式 デフォルトは「TEXTFIELD」。

分類	ユーザー環境設定パラメーター	内容およびデフォルト値
操作ボタンに関する設定	BUTTON_SHOW	ボタン全体の表示 デフォルトは「Y」。
	BUTTON_RESULT_SHOW	[実行結果の確認] ボタンの表示 デフォルトは「Y」。
	BUTTON_RERUN_SHOW	[再実行] ボタンの表示 デフォルトは「Y」。
	BUTTON_QUICK_SHOW	[即時実行] ボタンの表示 デフォルトは「Y」。
	BUTTON_HOLD_SHOW	[保留] ボタンの表示 デフォルトは「Y」。
	BUTTON_HOLDRELEASE_SHOW	[保留解除] ボタンの表示 デフォルトは「Y」。
	BUTTON_PURGE_SHOW	[実行中止] ボタンの表示 デフォルトは「Y」。
	BUTTON_KILL_SHOW	[強制終了] ボタンの表示 デフォルトは「Y」。
	BUTTON_CHANGETIME_SHOW	[日時変更] ボタンの表示 デフォルトは「Y」。
	BUTTON_RELEASECHANGE_SHOW	[変更解除] ボタンの表示 デフォルトは「Y」。
	BUTTON_CHANGEJOBSTATUS_SHOW	[ジョブ状態変更] ボタンの表示 デフォルトは「Y」。
	BUTTON_CHANGEDELAYMONITOR_SHOW	[遅延監視変更] ボタンの表示 デフォルトは「Y」。
	BUTTON_INTERRUPT_SHOW	[中断] ボタンの表示 デフォルトは「Y」。
	BUTTON_RESULT_DEL_ALL	[すべての実行結果の削除] ボタンの表示および表示する場合の確認メッセージの出力 デフォルトは「SHOW_ASK」。
BUTTON_RESULT_DEL_NORMAL	[正常終了した結果の削除] ボタンの表示および表示する場合の確認メッセージの出力 デフォルトは「SHOW_ASK」。	

4.2.3 ユーザー環境設定パラメーターの詳細

ユーザー環境設定パラメーターの定義内容の詳細を次に示します。

(1) [監視] 画面のフレーム構成に関する設定

FRAME_TYPE={COND|NOCOND}

[監視] 画面のフレーム構成を指定します。

COND

状態取得条件設定フレームありのフレーム構成にします。

NOCOND

状態取得条件設定フレームなしのフレーム構成にします。

状態取得条件設定フレームを非表示にしても、フレーム内の情報に関する環境設定パラメーターの設定は有効です。

4. ユーザー環境設定

このパラメーターの指定は省略できません。

FRAME_SHOW_STATUSCONFIRM={Y|N}

状態確認フレームを表示するかどうかを指定します。

Y

状態確認フレームを表示します。

N

状態確認フレームを表示しません。

デフォルトは「N」です。

(2) 監視対象に関する設定

OBSERVE_NUM= 監視対象スケジューラーサービス数

監視対象スケジューラーサービス数を 1 ~ 10 の 10 進数で指定します。

別のパラメーターで幾つ監視対象を設定しても、有効になるのはこのパラメーターで指定した数だけです。

このパラメーターの指定は省略できません。

OBSERVE_HOSTNAME_SHOW={Y|N}

状態取得条件設定フレームで監視対象のホスト名を表示するかどうかを指定します。ホスト名、スケジューラーサービス名、ユニット名すべてを非表示にはできません。

Y

監視対象ホスト名を表示します。

N

監視対象ホスト名を表示しません。

表示しない設定にしてもホスト名の設定は有効です。

デフォルトは「Y」です。

OBSERVE_SERVICENAME_SHOW={Y|N}

状態取得条件設定フレームで監視対象のスケジューラーサービス名を表示するかどうかを指定します。ホスト名、スケジューラーサービス名、ユニット名すべてを非表示にはできません。

Y

監視対象スケジューラーサービス名を表示します。

N

監視対象スケジューラーサービス名を表示しません。

表示しない設定にしてもスケジューラーサービス名の設定は有効です。

デフォルトは「Y」です。

OBSERVE_UNITNAME_SHOW={Y|N}

状態取得条件設定フレームで監視対象のユニット名を表示するかどうかを指定します。ホスト名、スケジューラーサービス名、ユニット名すべてを非表示にはできません。

Y

監視対象ユニット名を表示します。

N

監視対象ユニット名を表示しません。

表示しない設定にしてもユニット名の設定は有効です。

デフォルトは「Y」です。

OBSERVE_UNITNAME_WIDTH= 監視対象ユニット名の入力フィールド幅

監視対象ユニット名の入力フィールド幅を 150 ~ 5,600 の 10 進数で指定します。

デフォルトは「150」です。範囲外の値を指定した場合は、ログイン時に画面上に、定義値不正のエラーメッセージ (KAVI4001-E) が表示され、その後の処理ができなくなります。

OBSERVE_n_CHECK={Y|N}

状態取得条件設定フレームの n 番目の監視対象のチェックボックスにチェックをするかどうかを指定します。

n は 1 ~ 10 の 10 進数で指定します。

Y

チェックボックスにチェックをします。

N

チェックボックスにチェックをしません。

デフォルトは「N」です。

OBSERVE_n_HOSTNAME= 監視対象 n のホスト名

状態取得条件設定フレームの n 番目の監視対象ホスト名を 255 文字以内の文字列で指定します。

n は 1 ~ 10 の 10 進数で指定します。

指定した監視対象スケジューラーサービス数 (OBSERVE_NUM の値) までのこのパラメーターの指定は省略できません。

また、IP アドレスをホスト名の代わりに指定することはできません。

OBSERVE_n_HOSTNAME_TYPE={TEXT|TEXTFIELD}

状態取得条件設定フレームの n 番目の監視対象ホスト名の表示形式を指定します。

n は 1 ~ 10 の 10 進数で指定します。

TEXT

ホスト名がテキストで表示され、編集できません。

TEXTFIELD

ホスト名がテキストフィールドで表示され、編集できます。

デフォルトは「TEXT」です。

OBSERVE_n_SERVICENAME= 監視対象 n のスケジューラーサービス名

状態取得条件設定フレームの n 番目の監視対象スケジューラーサービス名を 30 文字以内の文字列で指定します。

n は 1 ~ 10 の 10 進数で指定します。

指定した監視対象スケジューラーサービス数 (OBSERVE_NUM の値) までのこのパラメーターの指定は省略できません。

OBSERVE_n_SERVICENAME_TYPE={TEXT|TEXTFIELD}

状態取得条件設定フレームの n 番目の監視対象スケジューラーサービス名の表示形式を指定します。

n は 1 ~ 10 の 10 進数で指定します。

TEXT

スケジューラーサービス名がテキストで表示され、編集できません。

TEXTFIELD

スケジューラーサービス名がテキストフィールドで表示され、編集できます。

デフォルトは「TEXT」です。

OBSERVE_n_UNITNAME= 監視対象 n のユニット名

4. ユーザー環境設定

状態取得条件設定フレームの n 番目の監視対象ユニット名を 930 文字以内の文字列で指定します。

n は 1 ~ 10 の 10 進数で指定します。

このパラメーター省略時はユニット名指定がないと仮定します。

OBSERVE_n_UNITNAME_TYPE={TEXT|TEXTFIELD}

状態取得条件設定フレームの n 番目の監視対象ユニット名の表示形式を指定します。

n は 1 ~ 10 の 10 進数で指定します。

TEXT

ユニット名がテキストで表示され、編集できません。

TEXTFIELD

ユニット名がテキストフィールドで表示され、編集できます。

デフォルトは「TEXTFIELD」です。

OBSERVE_n_UNITNAME の設定を省略時に、このパラメーターの値を TEXT に設定した場合、n 番目の監視対象を指定して状態取得を行うことはできなくなります。

(3) 操作ボタンに関する設定

BUTTON_SHOW={Y|N}

操作ボタン全体について表示するかどうかを指定します。

Y

個々の操作ボタンの表示設定に基づいて操作ボタンを表示します。

N

個々の操作ボタンの表示設定に関係なく操作ボタンを表示しません。

デフォルトは「Y」です。

BUTTON_RESULT_SHOW={Y|N}

[実行結果の確認] ボタンを表示するかどうかを指定します。

Y

[実行結果の確認] ボタンを表示します。

ただし、操作ボタン全体を表示しないよう設定されている場合は表示されません。

N

[実行結果の確認] ボタンを表示しません。

デフォルトは「Y」です。

BUTTON_RERUN_SHOW={Y|N}

[再実行] ボタンを表示するかどうかを指定します。

Y

[再実行] ボタンを表示します。

ただし、操作ボタン全体を表示しないよう設定されている場合は表示されません。

N

[再実行] ボタンを表示しません。

デフォルトは「Y」です。

BUTTON_QUICK_SHOW={Y|N}

[即時実行] ボタンを表示するかどうかを指定します。

Y

[即時実行] ボタンを表示します。

ただし、操作ボタン全体を表示しないよう設定されている場合は表示されません。

N

[即時実行] ボタンを表示しません。

デフォルトは「Y」です。

BUTTON_HOLD_SHOW={Y|N}

[保留] ボタンを表示するかどうかを指定します。

Y

[保留] ボタンを表示します。

ただし、操作ボタン全体を表示しないよう設定されている場合は表示されません。

N

[保留] ボタンを表示しません。

デフォルトは「Y」です。

BUTTON_HOLDRELEASE_SHOW={Y|N}

[保留解除] ボタンを表示するかどうかを指定します。

Y

[保留解除] ボタンを表示します。

ただし、操作ボタン全体を表示しないよう設定されている場合は表示されません。

N

[保留解除] ボタンを表示しません。

デフォルトは「Y」です。

BUTTON_PURGE_SHOW={Y|N}

[実行中止] ボタンを表示するかどうかを指定します。

Y

[実行中止] ボタンを表示します。

ただし、操作ボタン全体を表示しないよう設定されている場合は表示されません。

N

[実行中止] ボタンを表示しません。

デフォルトは「Y」です。

BUTTON_KILL_SHOW={Y|N}

[強制終了] ボタンを表示するかどうかを指定します。

Y

[強制終了] ボタンを表示します。

ただし、操作ボタン全体を表示しないよう設定されている場合は表示されません。

N

[強制終了] ボタンを表示しません。

デフォルトは「Y」です。

BUTTON_CHANGETIME_SHOW={Y|N}

[日時変更] ボタンを表示するかどうかを指定します。

Y

[日時変更] ボタンを表示します。

ただし、操作ボタン全体を表示しないよう設定されている場合は表示されません。

N

4. ユーザー環境設定

[日時変更] ボタンを表示しません。
デフォルトは「Y」です。

BUTTON_RELEASECHANGE_SHOW={Y|N}

[変更解除] ボタンを表示するかどうかを指定します。

Y

[変更解除] ボタンを表示します。
ただし、操作ボタン全体を表示しないよう設定されている場合は表示されません。

N

[変更解除] ボタンを表示しません。
デフォルトは「Y」です。

BUTTON_CHANGEDELAYMONITOR_SHOW={Y|N}

[遅延監視変更] ボタンを表示するかどうかを指定します。

Y

[遅延監視変更] ボタンを表示します。
ただし、操作ボタン全体を表示しないよう設定されている場合は表示されません。

N

[遅延監視変更] ボタンを表示しません。
デフォルトは「Y」です。

BUTTON_CHANGEJOBSTATUS_SHOW={Y|N}

[ジョブ状態変更] ボタンを表示するかどうかを指定します。

Y

[ジョブ状態変更] ボタンを表示します。
ただし、操作ボタン全体を表示しないよう設定されている場合は表示されません。

N

[ジョブ状態変更] ボタンを表示しません。
デフォルトは「Y」です。

BUTTON_INTERRUPT_SHOW={Y|N}

[中断] ボタンを表示するかどうかを指定します。

Y

[中断] ボタンを表示します。
ただし、操作ボタン全体を表示しないよう設定されている場合は表示されません。

N

[中断] ボタンを表示しません。
デフォルトは「Y」です。

BUTTON_RESULT_DEL_ALL={SHOW|SHOW_ASK|HIDDEN}

[すべての実行結果の削除] ボタンを表示するかどうか、および表示する場合の確認メッセージを出力するかどうかを指定します。

SHOW

[すべての実行結果の削除] ボタンを表示します。
このボタンを押した場合、確認メッセージを出力しないですべての実行結果を削除します。

SHOW_ASK

[すべての実行結果の削除] ボタンを表示します。

このボタンを押した場合、KAVI3416-Q メッセージを出力し、[OK] ボタンを押した場合だけすべての実行結果を削除します。

HIDDEN

[すべての実行結果の削除] ボタンを表示しません。
デフォルトは「SHOW_ASK」です。

BUTTON_RESULT_DEL_NORMAL={SHOW|SHOW_ASK|HIDDEN}

[正常終了した結果の削除] ボタンを表示するかどうか、および表示する場合の確認メッセージを出力するかどうかを指定します。

SHOW

[正常終了した結果の削除] ボタンを表示します。
このボタンを押した場合、確認メッセージを出力しないで正常終了した実行結果を削除します。

SHOW_ASK

[正常終了した結果の削除] ボタンを表示します。
このボタンを押した場合、KAVI3416-Q メッセージを出力し、[OK] ボタンを押した場合だけ正常終了した実行結果を削除します。

HIDDEN

[正常終了した結果の削除] ボタンを表示しません。
デフォルトは「SHOW_ASK」です。

(4) ユーザー環境設定パラメーター定義時の注意事項

デフォルトが設定されているユーザー環境設定パラメーターに不正な値を指定した場合、デフォルトが仮定されます。また、省略できないユーザー環境設定パラメーターに不正な値を指定した場合、JP1/AJS3 WOA Web Application Server サービス起動時に KAVI3001-E、および KAVI4001-E メッセージがログに出力され、サービスが起動されます。これらのメッセージが出力されてサービスが起動した状態でログインすると、同メッセージが画面およびログに出力され、ログインできません。この場合は、ユーザー環境設定パラメーターを訂正し、JP1/AJS3 WOA HTTP Server サービスおよび JP1/AJS3 WOA Web Application Server サービスを再起動してからログインしてください。

4.2.4 ユーザー環境設定ファイルの編集

ユーザー環境設定ファイルは次のショートカットファイルから開き、編集できます。

「JP1/AJS3 - Web Operation Assistant インストール先フォルダ ¥conf¥user.conf」

このファイルは JP1/AJS3 - Web Operation Assistant 起動時に読み込まれますが、次の場合エラーになり起動が失敗します（このとき「システム障害通知ログ」および「操作ログ」にログを出力します）。

- ファイルがない場合
- ファイルが読み込めない場合
- 省略できないパラメーターを省略した場合
- 省略できないパラメーターの値が不適切であった場合
- ユーザー名が一つも存在しない場合

4.3 [ユーザー環境設定]画面で変更する環境

各 JP1 ユーザーが自由に画面で変更できる環境の項目について説明します。

4.3.1 検索条件のデフォルトの設定

状態取得条件設定フレームの初期状態の表示内容について、次の表の項目をカスタマイズできます。

表 4-2 検索条件の設定内容

項目	設定内容				
状態を取得するユニット範囲	指定したユニットだけ / 指定したユニット以下全ユニット / 指定したユニット以下ルートジョブネットだけ / 指定したユニット以下ジョブネットだけ / 指定したユニット以下ジョブだけ /				
監視方法	全世代時刻優先 / 全世代時刻予定優先				
表示方法	一括表示 / 分割表示				
	1 ページ当たりの表示件数		20 / 数値 (最大値: 1000)		
取得条件	状態	実行状態	実行中	チェックあり / <u>チェックなし</u>	表示 / 非表示
			保留中	チェックあり / <u>チェックなし</u>	表示 / 非表示
			閉塞	チェックあり / <u>チェックなし</u>	表示 / 非表示
			結果	チェックあり / <u>チェックなし</u>	表示 / 非表示
			監視中	チェックあり / <u>チェックなし</u>	表示 / 非表示
			予定	チェックあり / <u>チェックなし</u>	表示 / 非表示
	遅延	開始遅延あり	チェックあり / <u>チェックなし</u>	表示 / 非表示	
		終了遅延あり	チェックあり / <u>チェックなし</u>	表示 / 非表示	
	保留予定	保留予定あり	チェックあり / <u>チェックなし</u>	表示 / 非表示	
	コメント中に含まれる文字列	チェックあり / <u>チェックなし</u>	空白 / 文字列 (最大長: 80 文字)	表示 / 非表示	
実行ホスト名	チェックあり / <u>チェックなし</u>	空白 / 文字列 (最大長: 255 文字)	表示 / 非表示		

注 下線の値がデフォルトを表す。

4.3.2 状態表示色

各状態の表示色について、次の項目をカスタマイズできます。

表 4-3 状態表示色の設定内容

状態	表示色
開始時刻待ち	空色 / 指定色
開始時刻待ち (保留予定あり)	空色 / 指定色
先行終了待ち	空色 / 指定色
先行終了待ち (保留予定あり)	空色 / 指定色
保留中	黄色 / 指定色

状態	表示色
実行待ち	空色 / 指定色
キューイング	空色 / 指定色
実行中	緑 / 指定色
警告検出実行中	赤 / 指定色
異常検出実行中	赤 / 指定色
正常終了	薄い緑 / 指定色
警告検出終了	薄い赤 / 指定色
異常検出終了	薄い赤 / 指定色
計画未実行	灰色 / 指定色
未実行終了 (実行予定なし)	灰色 / 指定色
未実行終了 (実行予定あり)	灰色 / 指定色
中断	薄い赤 / 指定色
強制終了	薄い赤 / 指定色
順序不正	薄い赤 / 指定色
繰り越し未実行 (実行予定なし)	灰色 / 指定色
繰り越し未実行 (実行予定あり)	灰色 / 指定色
起動失敗	薄い赤 / 指定色
終了状態不明	薄い赤 / 指定色
閉塞	茶色 / 指定色
監視中	緑 / 指定色
監視未起動終了	灰色 / 指定色
監視正常終了	薄い緑 / 指定色
監視打ち切り終了	薄い赤 / 指定色
監視中断	薄い緑 / 指定色
正常終了 - 偽	薄い緑 / 指定色
開始遅延	桃色 / 指定色
開始遅延 (実行中)	濃い桃色 / 指定色
終了遅延	橙色 / 指定色
終了遅延 (実行中)	濃い橙色 / 指定色

注 下線の値がデフォルトを表す。

4.3.3 遅延表示色の優先度

ジョブネットに異常、警告、遅延の状態が同時に発生した場合、どの状態を優先して表示するかを指定できます。デフォルトは [異常 > 警告 > 遅延] です。

[異常 > 警告 > 遅延]

異常、警告、遅延の優先順位で表示する。

[異常 > 遅延 > 警告]

異常、遅延、警告の優先順位で表示する。

[遅延 > 異常 > 警告]

4. ユーザー環境設定

遅延，異常，警告の優先順位で表示する。

4.3.4 状態一覧表の表示項目

一覧表の表示項目について，次の項目をカスタマイズできます。

表 4-4 状態一覧表の表示項目の設定内容

項目		設定内容
ホスト名	表示区分	表示 / 非表示
	項目の幅	自動 / 数値 (単位: ピクセル, 1 ~ 1000 の範囲)
サービス名	表示区分	表示 / 非表示
	項目の幅	自動 / 数値 (単位: ピクセル, 1 ~ 1000 の範囲)
ユニット名	表示区分	表示 / 非表示
	表示方法	完全表示 / 簡易表示
	項目の幅	自動 / 数値 (単位: ピクセル, 1 ~ 1000 の範囲)
	ハイパーリンク化 ¹	する / しない
種別		表示 / 非表示
コメント	表示区分	表示 / 非表示
	項目の幅	自動 / 数値 (単位: ピクセル, 1 ~ 1000 の範囲)
実行 ID		表示 / 非表示
状態		表示 / 非表示
保留		表示 / 非表示
遅延状態		表示 / 非表示
開始遅延日時 ²		表示 / 非表示
終了遅延日時 ²		表示 / 非表示
戻り値		表示 / 非表示
計画一時変更 ³		表示 / 非表示
開始予定日時		表示 / 非表示
開始日時		表示 / 非表示
終了日時		表示 / 非表示
実行ホスト	表示区分	表示 / 非表示
	項目の幅	自動 / 数値 (単位: ピクセル, 1 ~ 1000 の範囲)
所要時間		表示 / 非表示

注

下線の値がデフォルトを表しています。

注 1

Web ブラウザーが Firefox の場合，一覧表のユニット名のハイパーリンクは表示されません。JP1/AJS3 -View または JP1/AJS2 - View を起動したいときは，JP1/AJS3 -View または JP1/AJS2 - View のログイン画面からログインしてください。

注 2

[遅延監視変更] ボタンでの操作の結果は，この項目で確認できます。[遅延監視変更] ボタンを使用して運用する場合は，この項目を表示させて運用することをお勧めします。

注 3

[日時変更] ボタンでの操作の結果は、この項目で確認できます。[日時変更] ボタンを使用して運用する場合は、この項目を表示させて運用することをお勧めします。

項目の幅に「自動」を指定した場合、その項目の内容がセル内で折り返されないように自動的に幅が設定されます。項目の幅を「数値（単位：ピクセル）」で指定した場合、項目の内容が指定幅に収まらなければ折り返して表示されます。ただし、半角英数字が連続する部分では折り返されません。

ユニット名に「簡易表示」を指定した場合、ユニットのラベル名だけが表示されます。

状態一覧表の表示項目をすべて非表示には設定できません。

4.3.5 操作オプションのデフォルト設定

操作確認フレームの初期状態で表示する操作オプションをカスタマイズできます。カスタマイズできる項目を次の表に示します。ただし、操作ボタンが非表示に設定されている場合、その操作ボタンに対するオプションの設定項目は設定できません。

表 4-5 操作ボタンのオプションの設定内容

ボタン名	オプション		設定内容
再実行 (ルートジョブネット)	再実行方法		異常終了ジョブから / 異常終了ジョブの次から / 異常終了ジョブネットから / 先頭から / 警告終了ジョブだけ
	再実行オプション	保留状態にする	チェックあり / チェックなし
		異常状態の先行ユニットを警告検出終了にする	チェックあり / チェックなし
再実行 (ネストジョブネットまたはジョブ)	再実行方法		指定ユニットから / 指定ユニットだけ / 指定ユニットの次から
	再実行オプション	保留状態にする	チェックあり / チェックなし
		異常状態の先行ユニットを警告検出終了にする	チェックあり / チェックなし
即時実行	前倒し変更時の扱い (ルートジョブネット)		次回予定追加 / 次回予定移動
	配下の開始日時	配下の開始日時も ずらす	チェックあり / チェックなし
日時変更	開始日時		日時指定 / 相対指定
	前倒し変更時の扱い (ルートジョブネット)		次回予定追加 / 次回予定移動
	配下の開始日時	配下の開始日時も ずらす	チェックあり / チェックなし

4. ユーザー環境設定

ボタン名	オプション		設定内容
遅延監視変更	開始遅延監視	ルートジョブネット	変更しない / 監視しない / 絶対時刻 / 自ジョブネットの開始予定時刻からの相対
		ネストジョブネット	変更しない / 監視しない / 絶対時刻 / ルートジョブネットの開始予定時刻からの相対 / 上位ジョブネットの開始予定時刻からの相対 / 自ジョブネットの開始予定時刻からの相対
	終了遅延監視	ルートジョブネット	変更しない / 監視しない / 絶対時刻 / 自ジョブネットの開始予定時刻からの相対
		ネストジョブネット	変更しない / 監視しない / 絶対時刻 / ルートジョブネットの開始予定時刻からの相対 / 上位ジョブネットの開始予定時刻からの相対 / 自ジョブネットの開始予定時刻からの相対
	ジョブネット監視		変更しない / 監視しない / 実行所要時間
ジョブ状態変更	変更後の状態		変更しない / 正常終了 / 起動失敗 / 警告検出終了 / 異常検出終了 / 計画未実行 / 終了コードで判定
	変更後の終了コード	変更する	チェックあり / チェックなし

注 下線の値がデフォルトを表す。

4.3.6 自動更新

自動更新機能について、次の表の項目をカスタマイズできます。

表 4-6 自動更新の設定内容

項目	設定内容
自動更新	する / しない
更新間隔 (秒)	<u>300</u> / 数値 (単位: 秒, 30 ~ 3600 の範囲)
自動更新切り替えチェックボックス	表示 / 非表示

注 下線の値がデフォルトを表す。

5

操作

この章では、JP1/AJS3 - Web Operation Assistant の操作方法について説明します。

5.1 ログインとログアウト

5.2 状態取得による一覧表示

5.3 一覧表からの操作

5.1 ログインとログアウト

この節では、JP1/AJS3 - Web Operation Assistant にログインする手順および JP1/AJS3 - Web Operation Assistant からログアウトする手順について説明します。

5.1.1 ログイン

JP1/AJS3 - Web Operation Assistant にログインする手順について説明します。

Windows の [スタート] メニューから起動する (JP1/AJS3 - Web Operation Assistant をインストールしたマシンの場合)

注意事項

Web ブラウザーが Firefox の場合は、Windows の [スタート] メニューから起動できません。

- Windows の [スタート] メニューから、次のどちらかを選択する。
 - SSL 通信を使用する場合
[プログラム] - [JP1_Automatic Job Management System 3 - Web Operation Assistant] - [Web 一括監視 (SSL)] を選択する。
 - SSL 通信を使用しない場合
[プログラム] - [JP1_Automatic Job Management System 3 - Web Operation Assistant] - [Web 一括監視] を選択する。
- [ログイン] 画面が表示されます。
- JP1/AJS3 - Web Operation Assistant へのログインに必要な情報 (JP1 ユーザー名およびパスワード) を入力する。
 - [ログイン] ボタンを押す。
監視の初期画面が表示されます。ログインに失敗した場合は、それを示すメッセージが表示され [ログイン] 画面に戻ります。

Web ブラウザーから起動する (JP1/AJS3 - Web Operation Assistant をインストールしていないマシンの場合)

- Web ブラウザーのアドレスバーに次のどちらかの [ログイン] 画面の URL を入力する。
 - SSL 通信を使用する場合
`https://IP アドレス : ポート番号 /jp1ajs2woa/jsp/Login.jsp`

IP アドレス : JP1/AJS3 - Web Operation Assistant インストールホストの IP アドレス ¹ (ホスト名 ²)
ポート番号 : 20339 (JP1/AJS3 - Web Operation Assistant 用 HTTP サーバー SSL 通信用ポート)
 - SSL 通信を使用しない場合
`http://IP アドレス : ポート番号 /jp1ajs2woa/jsp/Login.jsp`

IP アドレス : JP1/AJS3 - Web Operation Assistant インストールホストの IP アドレス ¹ (ホスト名 ²)
ポート番号 : 20336 (JP1/AJS3 - Web Operation Assistant 用 HTTP サーバーポート)

[ログイン] 画面が表示されます。

注 1

IP アドレスには IPv6 形式の IP アドレスを使用できます。指定できる形式は、グローバルアドレス形式です。「[IPv6 アドレス]: ポート番号」のように IPv6 アドレスを [] で囲み、「:」の後ろにポート番号を指定します。

IPv6 アドレスの指定例を次に示します。

(指定例) `http://[2002:856c:5b59::856c:5b59]:20336/jp1ajs2woa/jsp/Login.jsp`

注 2

JP1/AJS3 - Web Operation Assistant インストールホストのホスト名を指定する場合、ホスト名から IP アドレスを解決できるように、hosts ファイルまたは DNS サーバで設定しておく必要があります。

2. JP1/AJS3 - Web Operation Assistant へのログインに必要な情報 (JP1 ユーザー名およびパスワード) を入力する。
3. [ログイン] ボタンを押す。
監視の初期画面が表示されます。ログインに失敗した場合は、それを示すメッセージが表示され [ログイン] 画面に戻ります。

[ログイン] 画面の説明については、「6.2 [ログイン] 画面」を参照してください。

5.1.2 ログアウト

監視業務を終了する場合、タイトルフレームの [ログアウト] ハイパーリンクをクリックすると、ログアウト確認用のメッセージボックスが表示されます。[OK] ボタンを押すと、[ログイン] 画面に戻ります。[キャンセル] ボタンを押すと、ログアウトしないで [監視] 画面に戻ります。

ログイン後、状態取得などの操作を 1 時間以上何も行わなかった場合、サーバ側で自動的にログアウト処理が実行されます。自動的にログアウトされた場合、ログインし直してください。

5.2 状態取得による一覧表示

監視対象を一覧表示する手順を次に示します。

1. 状態取得条件設定フレームで次の指定をする。

- 監視対象
- 状態を取得するユニット種別
- 監視方法
- 表示方法
- 検索条件

2. [状態取得] ボタンを押す

状態一覧フレームに監視対象が一覧表示されます。

状態取得条件設定フレームでの設定方法については、「6.3.3 状態取得条件設定フレーム」を参照してください。

5.3 一覧表からの操作

状態取得の結果表示される一覧表を使用して各種操作ができます。

5.3.1 操作の実行

一覧表示された情報を使用して各種操作を行う手順を次に示します。

(1) 再実行，即時実行，日時変更，遅延監視変更，ジョブ状態変更

1. 状態一覧フレームの状態一覧表で操作対象データの [選択] チェックボックスにチェックをする。
2. 次のうち，実行したい操作の [操作] ボタンを押す。
 - 再実行
 - 即時実行
 - 日時変更
 - 遅延監視変更
 - ジョブ状態変更

操作確認フレームが表示されます。

3. 選択した操作対象データが正しいか確認する。
4. 操作オプションを指定する。
5. [実行] ボタンを押す。
操作実行結果フレームが表示されます。ユーザー環境設定で状態確認フレームを表示する設定をしている場合は，状態確認フレームも表示されます。
6. 実行結果を確認する。
7. [監視画面に戻る] ボタンまたは [選択行を監視画面で表示] ボタンを押す。
[監視] 画面に戻ります。

補足事項

- 日時変更の操作結果は，状態一覧表の [計画一時変更] で確認できます。この項目は，デフォルトでは表示されませんので，状態一覧表の表示項目設定フレームで表示させるように設定することをお勧めします。
- 遅延監視変更の操作結果は，状態一覧表の [開始遅延監視]，[終了遅延監視] で確認できます。この項目は，デフォルトでは表示されませんので，状態一覧表の表示項目設定フレームで表示させるように設定することをお勧めします。

(2) 保留，保留解除，実行中止，強制終了，変更解除，中断

1. 状態一覧フレームの状態一覧表で操作対象データの [選択] チェックボックスにチェックをする。
2. 次のうち，実行したい操作の [操作] ボタンを押す。
 - 保留
 - 保留解除
 - 実行中止
 - 強制終了
 - 変更解除
 - 中断

操作確認フレームが表示されます。

3. 選択した操作対象データが正しいか確認する。

5. 操作

4. [実行] ボタンを押す。

操作実行結果フレームが表示されます。ユーザー環境設定で状態確認フレームを表示する設定をしている場合は、状態確認フレームも表示されます。

5. 実行結果を確認する。

6. [監視画面に戻る] ボタンまたは [選択行を監視画面で表示] ボタンを押す。

[監視] 画面に戻ります。

状態一覧フレーム、操作確認フレーム、操作実行結果フレーム、および状態確認フレームでの設定方法については、「6.3.4 状態一覧フレーム」、「6.3.5 操作確認フレーム」、「6.3.6 操作実行結果フレーム」、および「6.3.7 状態確認フレーム」を参照してください。

(3) JP1/AJS3 - View または JP1/AJS2 - View の起動

1. 一覧表のユニット名のハイパーリンクをクリックする。

JP1/AJS3 - View または JP1/AJS2 - View が起動します。

注意事項

- JP1/AJS3 - Web Operation Assistant をインストールしていないホスト上で Web ブラウザーから、ホスト名に「localhost」を指定して取得された一覧表のハイパーリンクをクリックし、JP1/AJS3 - View または JP1/AJS2 - View を起動すると、Web ブラウザーが起動しているホストが参照されます。JP1/AJS3 - View または JP1/AJS2 - View を起動する場合は、監視対象のホスト名に「localhost」を指定しないでください。
- Web ブラウザーが Firefox の場合、一覧表のユニット名のハイパーリンクは表示されません。JP1/AJS3 - View または JP1/AJS2 - View を起動したいときは、JP1/AJS3 - View または JP1/AJS2 - View のログイン画面からログインしてください。

6

画面

この章では、JP1/AJS3 - Web Operation Assistant で使用する画面について説明します。

6.1 画面構成

6.2 [ログイン]画面

6.3 [監視]画面

6.4 [ユーザー環境設定]画面

6.1 画面構成

次の表に JP1/AJS3 - Web Operation Assistant の画面構成を示します。

表 6-1 JP1/AJS3 - Web Operation Assistant の画面構成

画面・フレーム名称	機能概要
[ログイン] 画面	JP1/AJS3 - Web Operation Assistant にログインするための画面です。
[監視] 画面	監視対象の状態を監視するための画面です。複数のフレームから構成されます。
状態取得条件設定フレーム	監視対象の状態取得条件を指定するフレームです。
状態一覧フレーム	指定した条件で取得した状態を一覧表示するフレームです。このフレームから JP1/AJS3 - View または JP1/AJS2 - View の起動や、再実行などの操作が実行できます。 状態一覧フレームには、初期画面と状態確認フレームの [選択行を監視画面で表示] ボタンを押して前回操作したユニットを表示する画面とがあります。
操作確認フレーム	状態一覧フレームで操作ボタンを押した場合に表示される操作確認用フレームです。このフレームで操作対象を確認したり、操作オプションを指定したりできます。
操作実行結果フレーム	操作ボタンで実行したコマンドの実行結果が表示されるフレームです。
状態確認フレーム	操作ボタンでコマンドを実行したユニットの状態が表示されるフレームです。このフレームでユニットの状態を確認したり、再操作対象を選択したりできます。
タイトルフレーム	製品名を表示するフレームです。[ユーザー環境設定] および [ログアウト] ハイパーリンクが表示されます。
[ユーザー環境設定] 画面	ログインしているユーザーの環境設定を変更するための画面です。複数のフレームから構成されます。
設定項目選択フレーム	設定する項目のメニューが表示されるフレームです。
設定フレーム	環境設定の内容を設定するフレームです。
タイトルフレーム	製品名を表示するフレームです。[ユーザー環境設定] および [ログアウト] ハイパーリンクが表示されます。

JP1/AJS3 - Web Operation Assistant で表示される画面の遷移を次の図に示します。

図 6-1 画面の遷移

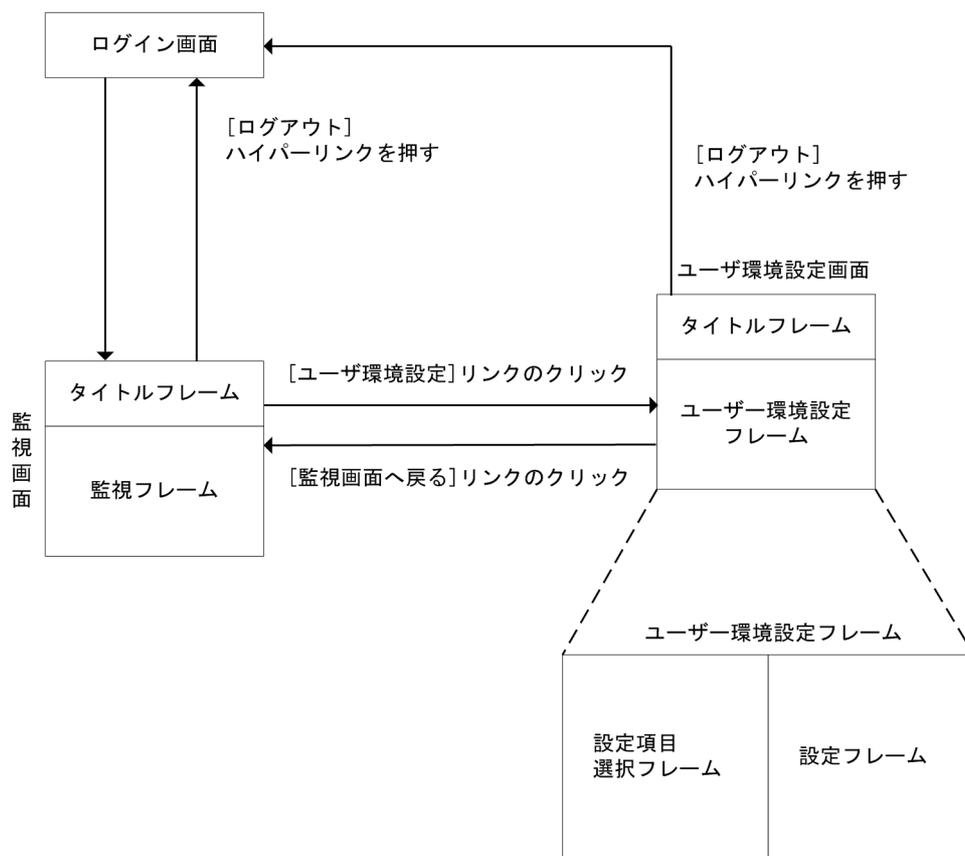
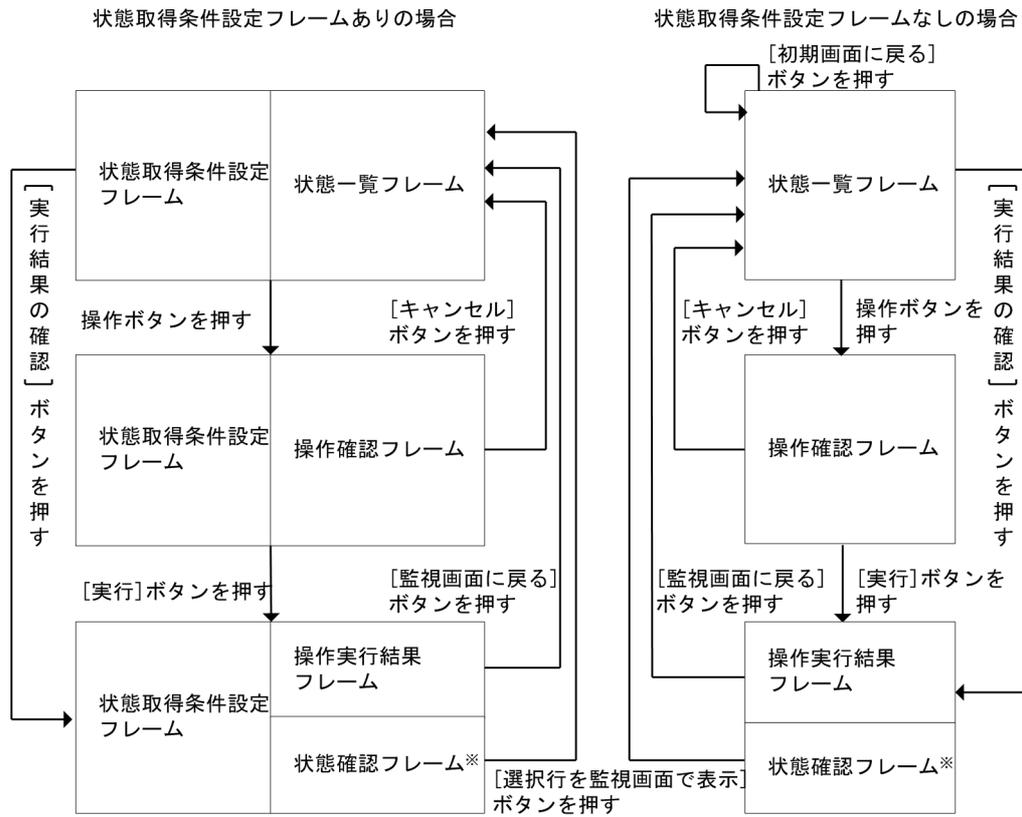


図 6-2 監視フレームの画面遷移



注※

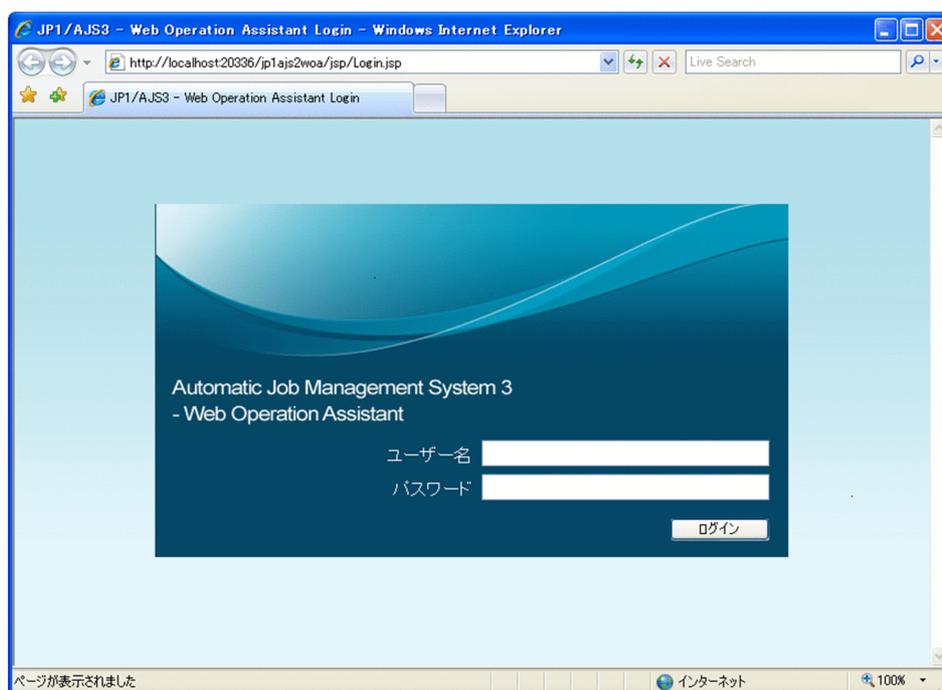
- ・状態確認フレームは、ユーザー環境設定で状態確認フレームを表示する設定をしている場合に表示されます。
- ・状態一覧フレームの [実行結果の確認] ボタンを押して操作実行結果を表示した場合、状態確認フレームは表示されません。

6.2 [ログイン] 画面

JP1/AJS3 - Web Operation Assistant を起動すると,[ログイン] 画面が表示されます。この画面は, JP1/AJS3 - Web Operation Assistant にログインするために使用します。

[ログイン] 画面を次の図に示します。

図 6-3 [ログイン] 画面



表示項目について説明します。

[ユーザー名]

ログインする JP1 ユーザー名を指定します。

[パスワード]

ログインする JP1 ユーザーのパスワードを指定します。入力された文字は「*」で表示されます。

上記の項目を入力して [ログイン] ボタンを押すと,[監視] 画面が表示されます。

6.3 [監視] 画面

監視対象の状態を一覧表示して監視するための画面です。複数のフレームから構成されます。

6.3.1 [監視] 画面のフレーム構成

ユーザー環境設定での状態取得条件設定フレームの有無の設定によって,[監視] 画面のフレーム構成が異なります。それぞれの場合の [監視] 画面のフレーム構成を次の図に示します。ユーザー環境設定での状態取得条件設定フレームの有無の設定については、「4.2 ユーザー環境設定ファイルで定義する環境」を参照してください。

図 6-4 状態取得条件設定フレームがある場合の [監視] 画面のフレーム構成

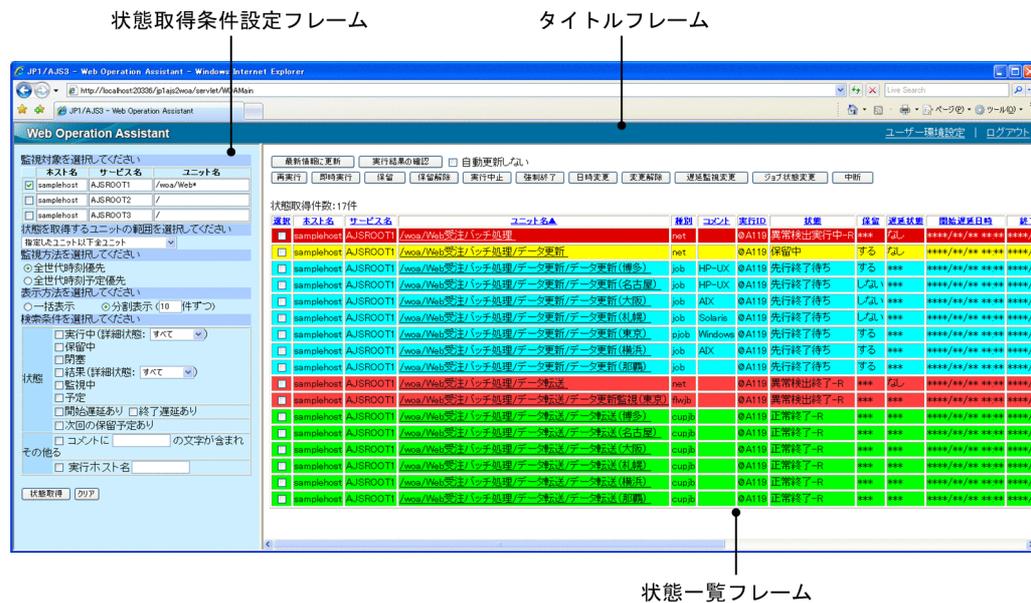


図 6-5 状態取得条件設定フレームがない場合の [監視] 画面のフレーム構成



[監視] 画面のフレーム構成が異なっても、同じフレーム内の表示情報は変わりません。以降、状態取得条件設定フレームがある場合のフレーム構成で説明します。

6.3.2 タイトルフレーム

製品名を表示するフレームです。[ユーザー環境設定] および [ログアウト] ハイパーリンクが表示されます。

タイトルフレームを次の図に示します。

図 6-6 タイトルフレーム



(1) [ユーザー環境設定] ハイパーリンク

このハイパーリンクをクリックすると、[ユーザー環境設定] 画面に切り替わります。

(2) [ログアウト] ハイパーリンク

このハイパーリンクをクリックするとログアウトできます。クリックするとメッセージボックスが表示され、ログアウトしていいか確認します。メッセージボックスで [OK] ボタンを押した場合、ログアウトして [ログイン] 画面へ戻ります。[キャンセル] ボタンを押した場合、ログアウトしないで [監視] 画面に戻ります。

6.3.3 状態取得条件設定フレーム

[監視] 画面の左フレームです。監視対象の状態取得条件を指定するフレームです。

状態取得条件設定フレームを次の図に示します。

図 6-7 状態取得条件設定フレーム

監視対象を選択してください

	ホスト名	サービス名	ユニット名
<input checked="" type="checkbox"/>	samplehost	AJSROOT1	/woa/Web*
<input type="checkbox"/>	samplehost	AJSROOT2	/
<input type="checkbox"/>	samplehost	AJSROOT3	/

状態を取得するユニットの範囲を選択してください

指定したユニット以下全ユニット

監視方法を選択してください

全世代時刻優先
 全世代時刻予定優先

表示方法を選択してください

一括表示 分割表示 (10 件ずつ)

検索条件を選択してください

実行中 (詳細状態:)
 保留中
 閉塞
 結果 (詳細状態:)
 監視中
 予定
 開始遅延あり 終了遅延あり
 次回の保留予定あり

その他 コメントに の文字が含まれる
 実行ホスト名

表示項目と指定方法について説明します。

(1) 監視対象の選択

チェックボックス

表示されている一覧表から監視対象を選択し、チェックボックスをチェックします。一つもチェックをしない状態で [状態取得] ボタンを押した場合、エラーダイアログが出力されます。

[ホスト名]

監視対象のホスト名が表示されます。ユーザー環境設定でホスト名が編集できるように設定している場合、ホスト名がテキストフィールドで表示され、編集できます。チェックボックスをチェックしている場合、テキストフィールドに何も入力されていない状態で [状態取得] ボタンを押すと、エラーダイアログが出力されます。

[サービス名]

監視対象のスケジューラーサービス名が表示されます。ユーザー環境設定でスケジューラーサービス名が編集できるように設定している場合、スケジューラーサービス名がテキストフィールドで表示され、編集できます。チェックボックスをチェックしている場合、テキストフィールドに何も入力されていない状態で [状態取得] ボタンを押すと、エラーダイアログが出力されます。

[ユニット名]

監視対象のユニット名が表示されます。ユーザー環境設定でユニット名が編集できるように設定している場合、ユニット名がテキストフィールドで表示され、編集できます。チェックボックスをチェックしている場合、テキストフィールドに何も入力されていない状態で [状態取得] ボタンを押すと、エラーダイアログが出力されます。

初期値および指定できる値を次の表に示します。

コントロール名	初期値	指定できる値
[ホスト名]テキストフィールド	ユーザー環境設定で指定したホスト名。指定がなければ空白。	255文字以内の文字列（IPアドレス指定はできない）
[サービス名]テキストフィールド	ユーザー環境設定で指定したスケジューラーサービス名。指定がなければ空白。	30文字以内の文字列
[ユニット名]テキストフィールド	ユーザー環境設定で指定したユニット名。指定がなければ空白。	930文字以内の文字列

注 次を示す記号は使用できません。
 \ " [] ' () = ; (セミコロン) : (コロン) , (コンマ)

(2) 状態を取得するユニットの範囲

指定した監視対象のどのユニットについて状態取得をするか、ドロップダウンリストから選択して指定します。ドロップダウンリストは次の構成です。

- [指定したユニットだけ]
- [指定したユニット以下全ユニット]
- [指定したユニット以下ルートジョブネットだけ]
- [指定したユニット以下ジョブネットだけ]
- [指定したユニット以下ジョブだけ]

(3) 監視方法の選択

指定した監視対象をどの監視方法で監視するか、次のラジオボタンで選択します。

- [全世代時刻優先]
- [全世代時刻予定優先]

(4) 表示方法の選択

状態取得結果の表示方法を次のラジオボタンで選択します。

- [一括表示]
 [状態取得] ボタンを押した場合、状態取得結果のすべてを Web ブラウザーの 1 ページで表示します。
- [分割表示]
 [状態取得] ボタンを押した場合、状態取得結果を Web ブラウザーの 1 ページ当たりテキストフィールドで指定された件数ずつ表示します。テキストフィールドの初期値および制限値を次の表に示します。

初期値	指定できる値
ユーザー環境設定で指定した 1 ページ当たりの件数	1 ~ 1000 の数値

テキストフィールドに何も入力されていない状態で [状態取得] ボタンを押した場合、エラーダイアログが出力されます。

(5) 検索条件の選択

(a) 状態

実行状態

指定した状態だけが表示されます。次の状態のチェックボックスがあります。一つもチェックしない状態で [状態取得] ボタンを押した場合はすべての状態を表示します。

- [実行中]

6. 画面

- [保留中]
- [閉塞]
- [結果]
- [監視中]
- [予定]

[実行中], [結果] をチェックした場合、次のドロップダウンリストから詳細状態を指定できます。

- [すべて]
- [正常]
- [警告]
- [異常]
- [警告・異常]

遅延状態

遅延があるユニットだけを表示します。次のチェックボックスがあります。

- [開始遅延あり]
- [終了遅延あり]

保留予定

次のチェックボックスをチェックした場合、保留予定のあるユニットだけを表示します。

- [次回の保留予定あり]

「次回の保留予定あり」で表示できるのは、次のユニットです。

- 保留属性の定義が「する」のユニット
- 一時変更によって保留属性を設定したユニット

保留属性の定義が「前回異常時だけ保留」「前回異常警告時だけ保留」のユニットは、一時変更によって保留属性を設定しないかぎり、保留予定のあるユニットとして表示されません。

(b) その他

コメント中に含まれる文字列

チェックボックスをチェックした場合、テキストフィールドで指定した文字列をコメント中に含むユニットだけを表示します。チェックボックスをチェックしているが、テキストフィールドに何も入力されていない状態で [状態取得] ボタンを押した場合、エラーダイアログが出力されます。テキストフィールドの初期値および制限値を次の表に示します。

初期値	指定できる値
ユーザー環境設定で指定した文字列	80 文字以内の文字列

実行ホスト名

チェックボックスをチェックした場合、テキストフィールドで指定したホストで実行されたジョブだけが表示されます。チェックボックスをチェックしているが、テキストフィールドに何も入力されていない状態で [状態取得] ボタンを押した場合、エラーダイアログが出力されます。テキストフィールドの初期値および制限値を次の表に示します。

初期値	指定できる値
ユーザー環境設定で指定した文字列	255 文字以内の文字列

(6) ボタン

[状態取得] ボタン

[状態取得] ボタンを押すと、このフレームで指定した条件で状態を取得し一覧を表示します。[監視] 画面の右側にどのフレームを表示していても状態一覧フレームに遷移します。条件に合うデータが一

つもなかった場合、その旨のメッセージが出力されます。

[クリア] ボタン

[クリア] ボタンを押すと、このフレームの表示内容を、ユーザー環境設定の設定内容に戻します。

6.3.4 状態一覧フレーム

指定した条件で取得した状態を一覧表示するフレームです。

このフレームから JP1/AJS3・View または JP1/AJS2・View の起動や、再実行などの操作を実行できます。

初期画面と、状態確認フレームの [選択行を監視画面で表示] ボタンを押して前回操作したユニットを表示している画面とでは、次の点が異なります。

- 画面の背景色（前回操作したユニットを表示している画面の背景色は薄い黄色になります）
- 表示されるボタン（「(1) 操作ボタン」を参照してください）
- 状態取得件数表示のタイトル（「(4) 状態一覧表」を参照してください）

それぞれの場合の状態一覧フレームを次の図に示します。

図 6-8 状態一覧フレーム（初期画面）

最新情報に更新
実行結果の確認
 自動更新しない

再実行
即時実行
保留
保留解除
実行中止
強制終了
日時変更
変更解除
遅延監視変更
ジョブ状態変更
中断

状態取得件数: 9件

選択	ホスト名	サービス名	ユニット名▲	種別	コメント	実行ID	状態	保留	遅延状態
<input checked="" type="checkbox"/>	samplehost	AJSROOT1	/woa/Web受注/バッチ処理	net		@A118	実行中	***	なし
<input type="checkbox"/>	samplehost	AJSROOT1	/woa/Web受注/バッチ処理/データ更新	net		@A118	保留中	する	なし
<input type="checkbox"/>	samplehost	AJSROOT1	/woa/Web受注/バッチ処理/データ更新/データ更新(博多)	job	HP-UX	@A118	先行終了待ち	する	***
<input type="checkbox"/>	samplehost	AJSROOT1	/woa/Web受注/バッチ処理/データ更新/データ更新(名古屋)	job	HP-UX	@A118	先行終了待ち	しない	***
<input type="checkbox"/>	samplehost	AJSROOT1	/woa/Web受注/バッチ処理/データ更新/データ更新(大阪)	job	AIX	@A118	先行終了待ち	しない	***
<input type="checkbox"/>	samplehost	AJSROOT1	/woa/Web受注/バッチ処理/データ更新/データ更新(札幌)	job	Solaris	@A118	先行終了待ち	しない	***
<input type="checkbox"/>	samplehost	AJSROOT1	/woa/Web受注/バッチ処理/データ更新/データ更新(東京)	pjob	Windows	@A118	先行終了待ち	する	***
<input type="checkbox"/>	samplehost	AJSROOT1	/woa/Web受注/バッチ処理/データ更新/データ更新(横浜)	job	AIX	@A118	先行終了待ち	する	***
<input type="checkbox"/>	samplehost	AJSROOT1	/woa/Web受注/バッチ処理/データ更新/データ更新(那覇)	job		@A118	先行終了待ち	する	***

開始遅延日時	終了遅延日時	戻り値	計画一時変更	開始予定日時	開始日時	終了日時	実行ホスト	所要時間
****/**/** **	****/**/** **	***	***	2009/07/21 13:54	2009/07/21 13:54:06	****/**/** **	***	****
****/**/** **	****/**/** **	***	***	2009/07/21 13:54	****/**/** **	****/**/** **	***	****
****/**/** **	****/**/** **	***	***	****/**/** **	****/**/** **	****/**/** **	***	****
****/**/** **	****/**/** **	***	***	****/**/** **	****/**/** **	****/**/** **	***	****
****/**/** **	****/**/** **	***	***	****/**/** **	****/**/** **	****/**/** **	***	****
****/**/** **	****/**/** **	***	***	****/**/** **	****/**/** **	****/**/** **	***	****
****/**/** **	****/**/** **	***	***	****/**/** **	****/**/** **	****/**/** **	***	****
****/**/** **	****/**/** **	***	***	****/**/** **	****/**/** **	****/**/** **	***	****
****/**/** **	****/**/** **	***	***	****/**/** **	****/**/** **	****/**/** **	***	****

図 6-9 状態一覧フレーム（前回操作したユニットを表示している画面）

最新情報に更新 初期画面に戻る 実行結果の確認 自動更新しない

再実行 即時実行 保留 保留解除 実行中止 強制終了 日時変更 変更解除 遅延監視変更 ジョブ状態変更 中断

前回操作したユニットを表示しています(件数:9件)

選択	ホスト名	サービス名	ユニット名▲	種別	コメント	実行ID	状態	保留	遅延状態
<input type="checkbox"/>	samplehost	AJSROOT1	/woa/Web受注/バッチ処理	net		@A118	実行中	***	なし
<input checked="" type="checkbox"/>	samplehost	AJSROOT1	/woa/Web受注/バッチ処理/データ更新	net		@A118	保留中	する	なし
<input checked="" type="checkbox"/>	samplehost	AJSROOT1	/woa/Web受注/バッチ処理/データ更新/データ更新(博多)	job	HP-UX	@A118	先行終了待ち	する	***
<input checked="" type="checkbox"/>	samplehost	AJSROOT1	/woa/Web受注/バッチ処理/データ更新/データ更新(名古屋)	job	HP-UX	@A118	先行終了待ち	しない	***
<input checked="" type="checkbox"/>	samplehost	AJSROOT1	/woa/Web受注/バッチ処理/データ更新/データ更新(大阪)	job	AIX	@A118	先行終了待ち	しない	***
<input checked="" type="checkbox"/>	samplehost	AJSROOT1	/woa/Web受注/バッチ処理/データ更新/データ更新(札幌)	job	Solaris	@A118	先行終了待ち	しない	***
<input checked="" type="checkbox"/>	samplehost	AJSROOT1	/woa/Web受注/バッチ処理/データ更新/データ更新(東京)	pjob	Windows	@A118	先行終了待ち	する	***
<input checked="" type="checkbox"/>	samplehost	AJSROOT1	/woa/Web受注/バッチ処理/データ更新/データ更新(横浜)	job	AIX	@A118	先行終了待ち	する	***
<input checked="" type="checkbox"/>	samplehost	AJSROOT1	/woa/Web受注/バッチ処理/データ更新/データ更新(那覇)	job		@A118	先行終了待ち	する	***

開始遅延日時	終了遅延日時	戻り値	計画一時変更	開始予定日時	開始日時	終了日時	実行ホスト	所要時間
****/**/****	****/**/****	***	***	2009/07/21 13:54	2009/07/21 13:54:06	****/**/****	***	****
****/**/****	****/**/****	***	***	2009/07/21 13:54	****/**/****	****/**/****	***	****
****/**/****	****/**/****	***	***	****/**/****	****/**/****	****/**/****	***	****
****/**/****	****/**/****	***	***	****/**/****	****/**/****	****/**/****	***	****
****/**/****	****/**/****	***	***	****/**/****	****/**/****	****/**/****	***	****
****/**/****	****/**/****	***	***	****/**/****	****/**/****	****/**/****	***	****
****/**/****	****/**/****	***	***	****/**/****	****/**/****	****/**/****	***	****
****/**/****	****/**/****	***	***	****/**/****	****/**/****	****/**/****	***	****

(1) 操作ボタン

[最新情報に更新] ボタン

現在表示されている情報を取得したときと同じ条件で最新情報を再取得します。

[初期画面に戻る] ボタン

状態一覧フレームの初期画面が表示されます。

[初期画面に戻る] ボタンは、状態取得条件設定フレームを表示する設定をしていない場合に前回操作したユニットを表示しているときだけ表示されます。

[実行結果の確認] ボタン

操作実行結果フレームが表示されます。

[再実行] ボタン

状態一覧表の [選択] チェックボックスをチェックした行データに対して、再実行を実行します。

[即時実行] ボタン

状態一覧表の [選択] チェックボックスをチェックした行データに対して、即時実行の一時変更を実行します。

[保留] ボタン

状態一覧表の [選択] チェックボックスをチェックした行データに対して、保留の一時変更を実行します。

[保留解除] ボタン

状態一覧表の [選択] チェックボックスをチェックした行データに対して、保留解除の一時変更を実行します。

[実行中止] ボタン

状態一覧表の [選択] チェックボックスをチェックした行データに対して、実行中止の一時変更を実行します。

[強制終了] ボタン

状態一覧表の [選択] チェックボックスをチェックした行データに対して、強制終了を実行します。

[日時変更] ボタン

状態一覧表の [選択] チェックボックスをチェックした行データに対して、開始日時を変更します。

[変更解除] ボタン

状態一覧表の [選択] チェックボックスをチェックした行データに対して、変更解除を実行します。

[遅延監視変更] ボタン

状態一覧表の [選択] チェックボックスをチェックした行データに対して、遅延監視設定を変更します。

[ジョブ状態変更] ボタン

状態一覧表の [選択] チェックボックスをチェックした行データに対して、ジョブの状態を変更します。

[中断] ボタン

状態一覧表の [選択] チェックボックスをチェックした行データに対して、中断を実行します。

(2) 自動更新切り替えチェックボックス

[自動更新しない] チェックボックスをチェックした場合、状態一覧フレームの自動更新処理が一時的に停止されます。チェックを外すと自動更新処理が再開されます。

(3) エラー情報一覧表

[ホスト名]

状態取得中にエラーがあった監視対象のホスト名が表示されます。

[サービス名]

状態取得中にエラーがあった監視対象のスケジューラーサービス名が表示されます。

[ユニット名]

状態取得中にエラーがあった監視対象のユニット名が表示されます。

[エラー情報]

状態取得中のエラー情報が表示されます。

エラー情報一覧表は状態取得した直後の画面だけで表示されます。状態一覧表を分割表示している場合、次のページまたは前のページへ移動したときには表示されません。

(4) 状態一覧表

状態取得件数

状態取得結果の全件数が表示されます。分割表示の場合も全件数が表示されます。状態確認フレームの [選択行を監視画面で表示] ボタンを押して表示した場合は、「前回操作したユニットを表示しています。(件数：N 件) 」と表示されます。

注

N は表示しているユニットの件数です。

前後ページへのハイパーリンク

状態一覧表の表示方法として「分割表示」を指定した場合、前後ページへのハイパーリンクが表示されます。前のページ、次のページがある場合だけ、それぞれに対応するリンクが表示されます。

項目行

項目行の [選択] ハイパーリンクをクリックすると、奇数回目のクリックですべての行のチェック

6. 画面

ボックスにチェックが入り、偶数回目のクリックですべての行のチェックボックスのチェックが消えます。

それ以外の項目名ハイパーリンクをクリックすると、その列のデータが昇順にソートされます。昇順にソートされた列の項目名ハイパーリンクをクリックすると降順にソートされ、降順にソートされた列の項目名ハイパーリンクをクリックすると昇順にソートされます。

[状態]ハイパーリンクでソートした場合の並び順は、次のとおりです。

ソート順序	状態名
1 昇順	状態認識不能 ¹
2	キューイング ²
3	実行中 ²
4	監視中
5	正常終了 ²
6	計画未実行 ²
7	繰り越し未実行
8	監視未起動終了
9	監視正常終了
10	監視打ち切り終了
11	正常終了 - 偽
12	監視中断
13	警告検出実行中 ²
14	警告検出終了 ²
15	異常検出実行中 ²
16	異常検出終了 ²
17	未実行終了 ²
18	中断 ²
19	強制終了 ²
20	順序不正
21	起動失敗 ²
22	終了状態不明 ²
23	閉塞
24	開始時刻待ち ²
25	先行終了待ち
26	保留中 ²
27 降順	実行待ち

注 1

ユニットの状態認識に失敗している状態

注 2

同一状態名に「-R」、「-W」、「-WR」が付く場合のソート順序は次のとおりです。

ソート順序	状態名
1 昇順	" 状態 "
2	" 状態 " -R
3	" 状態 " -W
4 降順	" 状態 " -WR

[選択] チェックボックス

操作ボタンを押した場合、[選択] チェックボックスをチェックした行データが操作の対象になります。

ただし、次の場合にはチェックボックスが不活性になり、操作対象として選択できません。

- ユニット名に「*」「?」「¥」「"」「\」「[]」のどれかの文字が含まれる。
- ユニット種別または状態が不明である。

[ホスト名]

その行データのホスト名が表示されます。

[サービス名]

その行データのスケジューラーサービス名が表示されます。

[ユニット名]

その行データのユニット名が表示されます。ユニット名のあとに (W) が表示されている場合は、ユニットに待ち合わせ条件が設定されています。

Web ブラウザーが Internet Explorer の場合、ユーザー環境設定でユニット名をハイパーリンク化するよう設定すると、ユニット名がハイパーリンクとして表示されます。ハイパーリンクをクリックすると、その行データに対して JP1/AJS3 - View または JP1/AJS2 - View が起動されます。

Web ブラウザーが Firefox の場合、一覧表のユニット名のハイパーリンクは表示されません。JP1/AJS3 - View または JP1/AJS2 - View を起動したいときは、JP1/AJS3 - View または JP1/AJS2 - View のログイン画面からログインしてください。

[ユニット種別]

その行データのユニット種別を表示します。ユニット種別は次の記号で表示されます。

記号	ユニット種別
condn	起動条件ジョブネット (.CONDITION)
net	ジョブネット
rnet	リカバリージョブネット
rmnet	リモートジョブネット
rrnet	リカバリーリモートジョブネット
job	UNIX ジョブ
rjob	リカバリー UNIX ジョブ
pjob	PC ジョブ
rpjob	リカバリー PC ジョブ
qjob	QUEUE ジョブ
rqjob	リカバリー QUEUE ジョブ
netcn	ジョブネットコネクタ
jdjob	判定ジョブ

6. 画面

記号	ユニット種別
rjdjob	リカバリー判定ジョブ
orjob	OR ジョブ
rorjob	リカバリー OR ジョブ
cmsjb	JP1/Cm2 状態通知ジョブ
rcmsjb	リカバリー JP1/Cm2 状態通知ジョブ
evwjb	JP1 イベント受信監視ジョブ
revwjb	リカバリー JP1 イベント受信監視ジョブ
flwjb	ファイル監視ジョブ
rflwjb	リカバリーファイル監視ジョブ
mlwjb	メール受信監視ジョブ
rmlwjb	リカバリーメール受信監視ジョブ
mqwjb	メッセージキュー受信監視ジョブ
rmqwjb	リカバリーメッセージキュー受信監視ジョブ
mswjb	MSMQ 受信監視ジョブ
rmswjb	リカバリー MSMQ 受信監視ジョブ
lfwjb	ログファイル監視ジョブ
rlfwjb	リカバリーログファイル監視ジョブ
ntwjb	Windows イベントログ監視ジョブ
rntwjb	リカバリー Windows イベントログ監視ジョブ
tmwjb	実行間隔制御ジョブ
rtmwjb	リカバリー実行間隔制御ジョブ
evsjb	JP1 イベント送信ジョブ
revsjb	リカバリー JP1 イベント送信ジョブ
mlsjb	メール送信ジョブ
rmlsjb	リカバリーメール送信ジョブ
mqsjb	メッセージキュー送信ジョブ
rmqsjb	リカバリーメッセージキュー送信ジョブ
mssjb	MSMQ 送信ジョブ
rmssjb	リカバリー MSMQ 送信ジョブ
pwljb	ローカル電源制御ジョブ
rpwljb	リカバリーローカル電源制御ジョブ
pwrjb	リモート電源制御ジョブ
rpwrjb	リカバリーリモート電源制御ジョブ
cuujb	カスタム UNIX ジョブ
rcuujb	リカバリーカスタム UNIX ジョブ
cupjb	カスタム PC ジョブ, 引き継ぎ情報設定ジョブ
rcupjb	リカバリーカスタム PC ジョブ, 引き継ぎ情報設定ジョブ
hlnet	ホストリンクジョブネット

また、記号のところにマウスカーソルを移動すると、上記のユニット種別が次の図のようにポップ

アップ表示されます。

名前	種別▼	コメント	実行
1	rmlsjb	在庫データ更新	@t
12	rmlsjb	受注処理	@t
東京)	pjob	Windows	@t
一括処理	pjob		@t
手処理	net	PCジョブ	@t
	net		@t
	net		@t

[コメント]

その行データのコメントが表示されます。

[実行 ID]

その行データの実行 ID が表示されます。

[状態]

その行データの状態が表示されます。

[保留]

その行データの次回実行予定の保留属性が次のように表示されます。

表示内容	説明
する (定義)	保留属性の定義による保留予定
する (一時変更)	保留属性の一時変更による保留予定
しない	保留しない
***	すでに実行を開始している

ルートジョブネットの属性に「前回異常時だけ保留」、または「前回異常警告時だけ保留」を設定している場合、「保留しない」を仮定して保留予定を求めます。

[遅延状態]

その行データの遅延状態が次のように表示されます。

- なし
- 開始遅延
- ネスト開始遅延
- 終了遅延
- ネスト終了遅延

[開始遅延日時]

その行データの開始遅延を検出する日時が表示されます。

開始遅延監視を「しない」に設定してある場合は「****/**/** ** : **」と表示されます。

[終了遅延日時]

その行データの終了遅延を検出する日時が表示されます。

終了遅延監視を「しない」に設定してある場合は「****/**/** ** : **」と表示されます。

[戻り値]

その行データの戻り値が表示されます。

ジョブ以外の場合は「***」と表示されます。

6. 画面

[計画一時変更]

その行データの計画一時変更の有無、および内容が次のように表示されます。

- あり (日時変更)
- あり (連動一時変更)
- なし (前回実行中止)
- なし

監視先のスケジューラーデータベースが ISAM の場合は「***」と表示されます。

[開始予定日時]

その行データの開始予定日時が表示されます。

ジョブの場合は「****/**/** ** : **」と表示されます。

なお、スケジュールされた日時がそのまま開始予定日時として表示されます。

[開始日時]

その行データの開始日時、または再実行開始日時が表示されます。

実行が開始していない場合は「****/**/** ** : ** : **」と表示されます。

[終了日時]

その行データの終了日時が表示されます。

実行が終了していない場合は「****/**/** ** : ** : **」と表示されます。

[実行ホスト]

その行データの実行ホスト名が表示されます。

ジョブ以外の場合や、実行先のエージェントホストで実行が開始されていないジョブの場合は「***」と表示されます。

[所要時間]

その行データの実行所要時間が表示されます。

実行が終了していない場合は「** : ** : **」と表示されます。

注意事項

DB 種別が、組み込み DB (または HiRDB) の場合と ISAM の場合で、次のような違いがあります。

表 6-2 監視対象となるスケジューラーサービスの DB 種別による機能差異

状態	組み込み DB または HiRDB	ISAM
状態一覧表に [保留] が表示された場合	次の項目を表示します。 <ul style="list-style-type: none"> • する (一時変更) • する (定義) • しない 	次の項目を表示します。 <ul style="list-style-type: none"> • する • しない
状態一覧表に表示されたジョブが未実行終了した場合	行データの背景色は、[ユーザー環境設定] 画面の設定フレーム (状態表示色の設定) での、[未実行終了 (実行予定なし)]、または [未実行終了 (実行予定あり)] の設定に従います。	行データの背景色は、[ユーザー環境設定] 画面の「設定フレーム (状態表示色の設定)」での、「未実行終了 (実行予定なし)」の設定に従います。

状態	組み込み DB または HiRDB	ISAM
状態取得条件設定フレームで [開始遅延あり] をチェックして [状態取得] ボタンを押した場合	状態取得できます。	ジョブネットが次のどれかの遅延状態の場合、状態取得できません。 <ul style="list-style-type: none"> 開始遅延なし、ネスト開始遅延あり、終了遅延あり、およびネスト終了遅延あり 開始遅延なし、ネスト開始遅延あり、終了遅延あり、およびネスト終了遅延なし 開始遅延なし、ネスト開始遅延あり、終了遅延なし、およびネスト終了遅延あり
JP1 資源グループが設定されているユニットを状態取得する場合	ユニットを状態取得する場合の権限は、ログインした JP1 ユーザーにマッピングされている OS ユーザーが持つ権限に関係なく、各ユニットに設定されている JP1 資源グループに従います。	ユニットを状態取得する場合の権限は、ログインした JP1 ユーザーにマッピングされている OS ユーザーが Administrators 権限（または root 権限）を持つ場合には、各ユニットに設定されている JP1 資源グループは考慮されません。
起動条件ジョブネット（.CONDITION）配下のイベントジョブが、起動条件を使用しない設定で実行登録された場合	状態一覧表に表示しません。	状態一覧表に表示します。
サスペンド中にユニットが追加された場合（全ユニットが対象）	状態一覧表に表示しません。	状態一覧表に表示します。
状態一覧表に [計画一時変更] が表示された場合	状態一覧表に計画一時変更の有無と内容を表示します。	状態一覧表には常に「***」を表示します。

6.3.5 操作確認フレーム

[状態一覧] 画面で再実行や即時実行などの操作ボタンを押したときに表示される操作確認用フレームです。

このフレームで操作対象を確認したり、操作オプションを指定したりできます。

操作確認フレームを次の図に示します。

図 6-10 操作確認フレーム



(1) 再実行時の [操作オプション] 表

ルートジョブネット用と、ネストジョブネットまたはジョブ用の再実行時の操作オプションを指定します。

再実行時の [操作オプション] 表を次の図に示します。

図 6-11 再実行時の [操作オプション] 表

操作確認(再実行)

操作オプション

区分	再実行方法	再実行オプション
ルートジョブネット	<input checked="" type="radio"/> 異常終了ジョブから <input checked="" type="radio"/> 異常終了ジョブの次から <input type="radio"/> 異常終了ジョブネットから <input type="radio"/> 先頭から <input type="radio"/> 警告終了ジョブだけ	<input type="checkbox"/> 保留状態にする <input type="checkbox"/> 異常状態の先行ユニットを警告検出終了にする
ネストジョブネット またはジョブ	<input checked="" type="radio"/> 指定ユニットから <input type="radio"/> 指定ユニットだけ <input type="radio"/> 指定ユニットの次から	<input type="checkbox"/> 保留状態にする <input type="checkbox"/> 異常状態の先行ユニットを警告検出終了にする

操作対象件数: 2件

選択	ホスト名	サービス名	ユニット名▲	種別	コマ
<input checked="" type="checkbox"/>	samplehost	AJSROOT1	/woa/Web受注/バッチ処理/データ転送	net	
<input checked="" type="checkbox"/>	samplehost	AJSROOT1	/woa/Web受注/バッチ処理/データ転送/データ更新監視(東京)	flwjb	

[ルートジョブネット]

[再実行方法]

ルートジョブネットの再実行方法を次のラジオボタンで指定します。

- [異常終了ジョブから]
- [異常終了ジョブの次から]
- [異常終了ジョブネットから]
- [先頭から]
- [警告終了ジョブだけ]

[再実行オプション]

ルートジョブネットの再実行オプションをチェックボックスで指定します。

- [保留状態にする]
再実行するルートジョブネットを保留状態にします。
- [異常状態の先行ユニットを警告検出終了にする]
異常状態の先行ユニットがある場合に、そのユニットの終了状態を警告終了にします。[異常終了ジョブの次から] ラジオボタンを選択した場合にチェックできます。

[ネストジョブネットまたはジョブ]

[再実行方法]

ネストジョブネットまたはジョブの再実行方法を次のラジオボタンで指定します。

- [指定ユニットから]
- [指定ユニットだけ]
- [指定ユニットの次から]

[再実行オプション]

ネストジョブネットまたはジョブの再実行オプションをチェックボックスで指定します。

- [保留状態にする]
再実行するユニットを保留状態にします。[指定ユニットから] ラジオボタン、または [指定ユ

ニットだけ]ラジオボタンを選択した場合にチェックできます。

- [異常状態の先行ユニットを警告検出終了にする]
異常状態の先行ユニットがある場合に、そのユニットの終了状態を警告終了にします。

(2) 即時実行時の [操作オプション] 表

即時実行時の操作オプションを指定します。

即時実行時の [操作オプション] 表を次の図に示します。

図 6-12 即時実行時の [操作オプション] 表

操作確認(即時実行)

操作オプション

前倒し変更時の扱い (ルートジョブネット)	<input checked="" type="radio"/> 次回予定追加 <input type="radio"/> 次回予定移動
配下の開始日時	<input type="checkbox"/> 配下の開始日時もずらす

操作対象件数:2件

選択	ホスト名	サービス名	ユニット名▲	種別	コメント	実行ID	状態	保留	開始日時
<input checked="" type="checkbox"/>	samplehost	AJSROOT1	/woa/Web受注/バッチ処理	net		@A123	異常検出実行中	***	***/**/
<input checked="" type="checkbox"/>	samplehost	AJSROOT1	/woa/Web受注/バッチ処理/データ転送	net		@A123	異常検出終了	***	***/**/

実行 キャンセル

[前倒し変更時の扱い (ルートジョブネット)]

ルートジョブネットに対してだけ有効になるオプションです。開始時間を前倒しに変更する場合に、変更前の開始時間に実行予定を追加するかどうかを次のラジオボタンで指定します。

- [次回予定追加]
- [次回予定移動]

[配下の開始日時もずらす]

チェックボックスをチェックすると、選択したジョブネットの下にあるすべてのジョブネットの開始時間を相対的に変更できます。チェックしない場合、選択したジョブネットだけ、開始時間が変更されます。

(3) 日時変更時の [操作オプション] 表

日時変更時の操作オプションを指定します。

日時変更時の [操作オプション] 表を次の図に示します。

図 6-13 日時変更時の [操作オプション] 表

操作確認(日時変更)

操作オプション

項目	日時変更オプション
開始日時	<input checked="" type="radio"/> 日時指定 2009年 7月 24日 時 分
	<input type="radio"/> 相対指定 <input checked="" type="radio"/> + <input type="radio"/> - 日 時間 分
	<input type="checkbox"/> 前倒し変更時の扱い <input checked="" type="radio"/> 次回予定追加 <input type="radio"/> 次回予定移動
	<input type="checkbox"/> 配下の開始日時もずらす

操作対象件数:2件

選択	ホスト名	サービス名	ユニット名▲	種別	コメント	実行ID	状態	保留	遅延状態
<input checked="" type="checkbox"/>	samplehost	AJSR00T1	/woa/Web受注バッチ処理	net		@A123	異常検出実行中	***	なし
<input checked="" type="checkbox"/>	samplehost	AJSR00T1	/woa/Web受注バッチ処理/データ転送	net		@A123	異常検出終了	***	なし

実行 キャンセル

[開始日時]

選択したユニットの実行開始日時を次のラジオボタンで指定します。

• [日時指定]

選択したユニットの実行開始日時を絶対時刻で指定します。指定できる値は次のとおりです。

日時	指定できる値
[年]	1994 ~ 2036 年
[月]	1 ~ 12 月
[日]	1 ~ 31 日 (その月の 1 か月の日数)
[時]	0 ~ 47 時
[分]	0 ~ 59 分

初期表示として、[日時変更] ボタンを押した時点の JP1/AJS3 - Web Operation Assistant サーバでの絶対時刻が [年], [月], および [日] に表示されます。

• [相対指定]

変更前のユニットの実行開始日時を基準に、ユニットの実行開始日時を相対日時で指定します。ユニットの実行開始日時を、変更前のユニット実行開始日時よりあとに変更する場合は [+] ラジオボタンを選択します。ユニットの実行開始日時を、変更前のユニット実行開始日時より前に変更する場合は [-] ラジオボタンを選択します。指定できる値は次のとおりです。

日時	指定できる値
[日]	空白文字 , 0 ~ 99 日
[時間]	空白文字 , 0 ~ 47 時間
[分]	空白文字 , 0 ~ 59 分

注 [日], [時間], [分] のすべてに空白文字, または 0 を指定すると, KAVI3014-E メッセージが表示され, エラーになります。

[前倒し時の扱い (ルートジョブネット)]

ルートジョブネットに対してだけ有効になるオプションです。開始時間を前倒しに変更する場合に、変更前の開始時間に実行予定を追加するかどうかを次のラジオボタンで指定します。

- [次回予定追加]
- [次回予定移動]

[配下の開始日時]

チェックボックスをチェックすると、選択したジョブネットの下にあるすべてのジョブネットの開始時間を変更できます。チェックしない場合、選択したジョブネットだけ、開始時間を変更されます。

(4) 遅延監視変更時の [操作オプション] 表

遅延監視変更時の操作オプションを指定します。

遅延監視変更時の [操作オプション] 表を次の図に示します。

図 6-14 遅延監視変更時の [操作オプション] 表

操作確認(遅延監視変更)

操作オプション

項目	区分	遅延監視変更オプション
開始遅延監視	ルートジョブネット	変更しない
	ネストジョブネット	変更しない
終了遅延監視	ルートジョブネット	変更しない
	ネストジョブネット	変更しない
ジョブネット監視		変更しない

操作対象件数:2件

選択	ホスト名	サービス名	ユニット名▲	種別	コメント	実行ID	状態	保留	遅延
<input checked="" type="checkbox"/>	samplehost	AJSROOT1	/woa/Web受注/パッチ処理	net		@A123	異常検出実行中	***	なし
<input checked="" type="checkbox"/>	samplehost	AJSROOT1	/woa/Web受注/パッチ処理/データ転送	net		@A123	異常検出終了	***	なし

[開始遅延監視]

[ルートジョブネット]

ルートジョブネットの開始遅延監視の変更方法を次の中から選択します。

- [変更しない]
- [監視しない]
- [絶対時刻]

開始遅延の監視を始める時刻を絶対時刻で指定します。

指定できる値は [時] が 0 ~ 47 で , [分] が 0 ~ 59 です。

- [自ジョブネットの開始予定時刻からの相対]

選択したジョブネットの開始予定時刻から何分後に遅延監視をするかを分で指定します。指定できる値は [分] が 1 ~ 2,879 です。

[ネストジョブネット]

ネストジョブネットの開始遅延監視の変更方法を次の中から選択します。

- [変更しない]
- [監視しない]
- [絶対時刻]

開始遅延の監視を始める時刻を絶対時刻で指定します。

指定できる値は [時] が 0 ~ 47 で , [分] が 0 ~ 59 です。

- [ルートジョブネットの開始予定時刻からの相対]

選択したジョブネットのルートジョブネットの実行開始予定時刻を基準に、遅延監視時刻を相

- 対的に指定します。
指定できる値は [分] が 1 ~ 2,879 です。
- [上位ジョブネットの開始予定時刻からの相対]
選択したジョブネットの上位ジョブネットの実行開始予定時刻を基準に、遅延監視時刻を相対的に指定します。
指定できる値は [分] が 1 ~ 2,879 です。
 - [自ジョブネットの開始予定時刻からの相対]
選択したジョブネットの開始予定時刻から何分後に遅延監視をするかを分で指定します。指定できる値は [分] が 1 ~ 2,879 です。

[終了遅延監視]

[ルートジョブネット]

ルートジョブネットの終了遅延監視の変更方法を次の中から選択します。

- [変更しない]
- [監視しない]
- [絶対時刻]
終了遅延の監視を始める時刻を絶対時刻で指定します。
指定できる値は [時] が 0 ~ 47 で、[分] が 0 ~ 59 です。
- [自ジョブネットの開始予定時刻からの相対]
選択したジョブネットの開始予定時刻から何分後に遅延監視をするかを分で指定します。指定できる値は [分] が 1 ~ 2,879 です。

[ネストジョブネット]

ネストジョブネットの終了遅延監視の変更方法を次の中から選択します。

- [変更しない]
- [監視しない]
- [絶対時刻]
終了遅延の監視を始める時刻を絶対時刻で指定します。
指定できる値は [時] が 0 ~ 47 で、[分] が 0 ~ 59 です。
- [ルートジョブネットの開始予定時刻からの相対]
選択したジョブネットのルートジョブネットの実行開始予定時刻を基準に、遅延監視時刻を相対的に指定します。
指定できる値は [分] が 1 ~ 2,879 です。
- [上位ジョブネットの開始予定時刻からの相対]
選択したジョブネットの上位ジョブネットの実行開始予定時刻を基準に、遅延監視時刻を相対的に指定します。
指定できる値は [分] が 1 ~ 2,879 です。
- [自ジョブネットの開始予定時刻からの相対]
選択したジョブネットの開始予定時刻から何分後に遅延監視をするかを分で指定します。指定できる値は [分] が 1 ~ 2,879 です。

[ジョブネット監視]

ジョブネットの実行所要時間による終了遅延監視の変更方法を次の中から選択します。

- [変更しない]
- [監視しない]
- [実行所要時間]
ジョブネットの実行所要時間を分で指定できます。指定できる値は 1 ~ 2,879 です。

! 注意事項

すべての項目に [変更しない] を設定して [実行] ボタンを押すと、KAVI3401-I メッセージが表示され、エラーになります。

(5) ジョブ状態変更時の [操作オプション] 表

ジョブ状態変更時の操作オプションを指定します。

ジョブ状態変更時の [操作オプション] 表を次の図に示します。

図 6-15 ジョブ状態変更時の [操作オプション] 表

操作確認(ジョブ状態変更)

操作オプション

項目	ジョブ状態変更オプション
変更後の状態	変更しない
変更後の終了コード	<input type="checkbox"/> 変更する

ホストリンクジョブネットの場合、常に正常終了になります。

操作対象件数: 2件

選択	ホスト名	サービス名	ユニット名▲	種別	コメント	実行ID	状態
<input checked="" type="checkbox"/>	samplehost	AJSROOT1	/woa/Web受注/バッチ処理	net		@A123	異常検出実行中
<input checked="" type="checkbox"/>	samplehost	AJSROOT1	/woa/Web受注/バッチ処理/データ転送	net		@A123	異常検出終了

実行

[変更後の状態]

ジョブ状態変更後のジョブの状態を次の中から選択します。

- [変更しない]
- [正常終了]
- [起動失敗]
- [警告検出終了]
- [異常検出終了]
- [計画未実行]
- [終了コードで判定]

選択したユニットがイベントジョブ、アクションジョブまたは OR ジョブの場合、[終了コードで判定] を選択して実行すると、KAVI3415-E メッセージが表示され、操作できません。

また、判定ジョブの場合、[変更しない] 以外を選択して実行すると、KAVI3415-E メッセージが表示され、操作できません。

[変更後の終了コード]

[変更する] チェックボックスをチェックすると、ジョブ状態変更後の終了コードを - 2,147,483,648 ~ 2,147,483,647 で指定できます。

監視先の JP1/AJS3 - Manager または JP1/AJS2 - Manager が UNIX の場合、0 ~ 255 以外の値を指定して実行した場合、KAVI3415-E メッセージが表示され、操作できません。

また、選択したユニットがホストリンクジョブネットの場合、終了コードを指定しても変更されません。

！ 注意事項

[変更後の状態] に [変更しない] を設定し, [変更後の終了コード] の [変更する] チェックボックスを
 チェックしないで [実行] ボタンを押すと, 操作対象がすべてホストリンクジョブネットの場合を除いて
 KAVI3401-I メッセージが表示され, エラーになります。

(6) 操作対象一覧表

操作対象件数に, 操作対象として選択されている行データの件数が表示されます。

状態一覧表と同じ形式で, 操作ボタンを押した時に選択していた操作対象が表示されます。すべての
 チェックボックスをチェックした状態で表示されます。

(7) ボタン**[実行] ボタン**

チェックボックスをチェックした行データに対して, 指定したオプションで操作が実行されます。

[キャンセル] ボタン

操作を実行しないで, 状態一覧フレームに戻ります。その時に最新情報を取得します。

(8) 注意事項

親子関係にあるユニット (例えば, あるジョブネットとその配下のジョブ) を同時に選択して操作を行わ
 ないでください。

6.3.6 操作実行結果フレーム

操作ボタンで操作を実行した結果が表示されるフレームです。

操作実行結果フレームを次の図に示します。

図 6-16 操作実行結果フレーム

**(1) 操作結果一覧表****[操作対象件数]**

操作を実行した行データの件数が表示されます。

[ホスト名]

その行データのホスト名が表示されます。

[サービス名]

その行データのスケジューラサービス名が表示されます。

[ユニット名]

その行データのユニット名が表示されます。

[操作名]

その行データに対して行われた、操作内容が表示されます。

[操作実行結果]

操作の結果として次のどれかが表示されます。

- 実行中
- 正常終了
- 異常終了

なお、ここに表示されるのは操作の結果で、操作後のユニットの状態ではありません。

[詳細情報]

操作が異常終了した場合に、操作実行時のエラーメッセージが表示されます。

(2) ボタン

[最新情報に更新] ボタン

最新の操作実行結果が表示されます。

[監視画面に戻る] ボタン

状態一覧フレームに戻ります。この時最新情報が取得されます。

[正常終了した結果の削除] ボタン

操作結果一覧表から正常終了したデータをすべて削除します。一度削除されたデータは、表示されません。

[すべての実行結果の削除] ボタン

操作結果一覧表から状態が実行中以外のすべてのデータを削除します。一度削除されたデータは、表示されません。

これらのボタンの処理中には、操作実行結果フレームの各ボタン、および状態取得ボタンは不活性となり、同時に複数の処理はできません。

(3) 表示対象

(a) 操作確認フレームから表示された場合

今回行われた操作の実行結果だけが表示されます。

(b) 状態一覧フレームから表示された場合

ログイン後に行われた操作の操作実行結果がすべて表示されます。[正常終了した結果の削除] ボタン、[すべての実行結果の削除] ボタンによって削除された結果は表示されません。

6.3.7 状態確認フレーム

操作ボタンで操作を実行したユニットの状態が表示されるフレームで、背景色は常に薄い黄色で表示されます。ユーザー環境設定で状態確認フレームを表示する設定をしていない場合は、状態確認フレームは表

6. 画面

示されません。ユーザー環境設定での状態確認フレームの有無の設定については、「4.2 ユーザー環境設定ファイルで定義する環境」を参照してください。

状態確認フレームを次の図に示します。

図 6-17 状態確認フレーム



(1) 状態一覧表

表示される項目は、状態一覧フレームと同じです。詳細は「6.3.4 状態一覧フレーム」を参照してください。

(2) エラー情報一覧表

表示される項目は、状態一覧フレームと同じです。詳細は「6.3.4 状態一覧フレーム」を参照してください。

(3) ボタン

[最新情報に更新] ボタン

最新の状態一覧表が表示されます。

[選択行を監視画面で表示] ボタン

状態一覧フレームに遷移し、状態確認フレームで [選択] チェックボックスにチェックをした操作対象だけを表示します。一つもチェックをしない状態で [選択行を監視画面で表示] ボタンを押した場合、エラーダイアログが出力されます。

状態一覧表に表示されている件数が 0 件の場合、このボタンは表示されません。

(4) 自動更新切り替えチェックボックス

[自動更新しない] チェックボックスをチェックした場合、状態確認フレームの自動更新処理が一時的に停止されます。チェックを外すと自動更新処理が再開されます。

(5) 表示対象

今回操作を行ったユニットが表示されます。直前の操作でネストジョブネットまたはジョブに対して [実行中止] ボタンを押して実行を中止し、正常終了したユニットは表示されません。

6.4 [ユーザー環境設定] 画面

ユーザー環境を設定する画面で、複数のフレームから構成されます。

設定フレームには、設定項目選択フレームで選択した項目に関する設定内容が表示され、設定内容を変更してから [適用] ボタンを押すと、設定内容が変更されます。

[ユーザー環境設定] 画面を次の図に示します。

図 6-18 [ユーザー環境設定] 画面



6.4.1 タイトルフレーム

製品名を表示するフレームで、デザインおよび機能は [監視] 画面のタイトルフレームと同じです。詳細は「6.3.2 タイトルフレーム」を参照してください。

6.4.2 設定項目選択フレーム

[ユーザー環境設定] 画面の左フレームです。設定項目を選択するフレームです。

設定項目選択フレームを次の図に示します。

図 6-19 設定項目選択フレーム

[検索条件のデフォルト設定](#)
[状態表示色](#)
[遅延表示色の優先度](#)
[状態一覧表の表示項目](#)
[操作オプションのデフォルト設定](#)
[自動更新](#)

[監視画面へ戻る](#)

(1) 設定項目選択メニュー

ユーザーが設定できる次の項目がハイパーリンクとして表示されます。

各ハイパーリンクをクリックすると、それぞれの設定画面が設定フレーム（右フレーム）に表示されます。

- 検索条件のデフォルト設定
- 状態表示色
- 遅延表示色の優先度
- 状態一覧表の表示項目
- 操作オプションのデフォルト設定
- 自動更新

(2) [監視画面へ戻る] ハイパーリンク

このハイパーリンクをクリックすると、[監視] 画面へ戻ります。

状態確認フレームの [ユーザー環境設定] ハイパーリンクをクリックして [ユーザー環境設定] 画面を表示している場合に帰る画面を次に示します。

- [ユーザー環境設定] 画面で [適用] ボタンを押して保存していない場合
状態確認フレーム
- [ユーザー環境設定] 画面で [適用] ボタンを押して保存した場合
ログイン直後の [監視] 画面

6.4.3 設定フレーム（検索条件のデフォルト設定）

状態取得条件設定フレームの初期状態の検索条件を設定するフレームです。

検索条件のデフォルト設定フレームを次の図に示します。

図 6-20 検索条件のデフォルト設定フレーム

検索条件のデフォルト設定

項目		設定内容
状態を取得するユニットの範囲		指定したユニット以下全ユニット
監視方法		<input checked="" type="radio"/> 全世代時刻優先 <input type="radio"/> 全世代時刻予定優先
表示方法	表示種別	<input type="radio"/> 一括表示 / <input checked="" type="radio"/> 分割表示
	1ページあたりの表示件数	20 (最大値:1000)
取得条件	状態	<input checked="" type="radio"/> 表示 / <input type="radio"/> 非表示 <input type="radio"/> チェックあり / <input checked="" type="radio"/> チェックなし すべて
		<input checked="" type="radio"/> 表示 / <input type="radio"/> 非表示 <input type="radio"/> チェックあり / <input checked="" type="radio"/> チェックなし
		<input checked="" type="radio"/> 表示 / <input type="radio"/> 非表示 <input type="radio"/> チェックあり / <input checked="" type="radio"/> チェックなし
		<input checked="" type="radio"/> 表示 / <input type="radio"/> 非表示 <input type="radio"/> チェックあり / <input checked="" type="radio"/> チェックなし すべて
		<input checked="" type="radio"/> 表示 / <input type="radio"/> 非表示 <input type="radio"/> チェックあり / <input checked="" type="radio"/> チェックなし
		<input checked="" type="radio"/> 表示 / <input type="radio"/> 非表示 <input type="radio"/> チェックあり / <input checked="" type="radio"/> チェックなし
		<input checked="" type="radio"/> 表示 / <input type="radio"/> 非表示 <input type="radio"/> チェックあり / <input checked="" type="radio"/> チェックなし
		<input checked="" type="radio"/> 表示 / <input type="radio"/> 非表示 <input type="radio"/> チェックあり / <input checked="" type="radio"/> チェックなし
		<input checked="" type="radio"/> 表示 / <input type="radio"/> 非表示 <input type="radio"/> チェックあり / <input checked="" type="radio"/> チェックなし
		<input checked="" type="radio"/> 表示 / <input type="radio"/> 非表示 <input type="radio"/> チェックあり / <input checked="" type="radio"/> チェックなし
		<input checked="" type="radio"/> 表示 / <input type="radio"/> 非表示 <input type="radio"/> チェックあり / <input checked="" type="radio"/> チェックなし
		<input checked="" type="radio"/> 表示 / <input type="radio"/> 非表示 <input type="radio"/> チェックあり / <input checked="" type="radio"/> チェックなし
	<input checked="" type="radio"/> 表示 / <input type="radio"/> 非表示 <input type="radio"/> チェックあり / <input checked="" type="radio"/> チェックなし	
	<input checked="" type="radio"/> 表示 / <input type="radio"/> 非表示 <input type="radio"/> チェックあり / <input checked="" type="radio"/> チェックなし	
	<input checked="" type="radio"/> 表示 / <input type="radio"/> 非表示 <input type="radio"/> チェックあり / <input checked="" type="radio"/> チェックなし	
	<input checked="" type="radio"/> 表示 / <input type="radio"/> 非表示 <input type="radio"/> チェックあり / <input checked="" type="radio"/> チェックなし	
コメント中に含まれる文字列	<input checked="" type="radio"/> 表示 / <input type="radio"/> 非表示 <input type="radio"/> チェックあり / <input checked="" type="radio"/> チェックなし <input type="text"/>	
実行ホスト名	<input checked="" type="radio"/> 表示 / <input type="radio"/> 非表示 <input type="radio"/> チェックあり / <input checked="" type="radio"/> チェックなし <input type="text"/>	

適用 標準値に戻す

(1) 状態を取得するユニットの範囲

初期状態で表示される項目を次の中から選択します。

- [指定したユニットだけ]
- [指定したユニット以下全ユニット]
- [指定したユニット以下ルートジョブネットだけ]
- [指定したユニット以下ジョブネットだけ]
- [指定したユニット以下ジョブだけ]

(2) 監視方法

初期状態で選択される項目を次の中から選択します。

- [全世代時刻優先]
- [全世代時刻予定優先]

(3) 表示方法

(a) 表示種別

初期状態で選択される項目を次の中から選択します。

- [一括表示]
- [分割表示]

(b) 1 ページ当たりの表示件数

初期状態で分割表示件数として表示される値を 1 ~ 1000 の数値で入力します。

(4) 取得条件

(a) 状態

初期状態で各状態を取得条件として表示するかどうか、およびチェックをしておくかどうかを選択します。実行中、結果については、詳細情報を次の状態から選択できます。

- [すべて]
- [正常]
- [警告]
- [異常]
- [警告・異常]

(b) コメント中に含まれる文字列

初期状態でコメント中に含まれる文字列による検索条件を取得条件として表示するかどうか、およびチェックボックスをチェックしておくかどうかを選択します。また、検索文字列として初期状態で表示しておく文字列を 80 文字以内の文字列で指定します。チェックボックスをチェックした場合、文字列の指定は省略できません。

(c) 実行ホスト名

初期状態で実行ホスト名による検索条件を取得条件として表示するかどうか、およびチェックをしておくかどうかを選択します。また、検索文字列として初期状態で表示しておく文字列を 255 文字以内の文字列で指定します。チェックボックスをチェックする場合、文字列の指定は省略できません。

(5) [適用] ボタン

このボタンを押すと、そのフレームで表示している内容を保存します。

変更した設定内容が有効になるのは、設定項目選択フレームの [監視画面へ戻る] ハイパーリンクをクリックして [監視] 画面へ戻ったとき、および次にログインしたときからです。

(6) [標準値に戻す] ボタン

このボタンを押すとフレームの表示内容をデフォルト設定に戻します (デフォルト値は「4.3 [ユーザー環境設定] 画面で変更する環境」を参照)。このボタンを押しても表示内容が変更されるだけで、表示内容の保存はされません。保存する場合は、[適用] ボタンを押してください。

6.4.4 設定フレーム (状態表示色)

状態表示色を設定するフレームです。

状態表示色の設定フレームを次の図に示します。

図 6-21 状態表示色の設定フレーム

状態表示色

状態	表示色	状態	表示色
開始時刻待ち	空色	強制終了	薄い赤
開始時刻待ち(保留予定あり)	空色	順序不正	薄い赤
先行終了待ち	空色	繰り越し未実行(実行予定なし)	灰色
先行終了待ち(保留予定あり)	空色	繰り越し未実行(実行予定あり)	灰色
保留中	黄色	起動失敗	薄い赤
実行待ち	空色	終了状態不明	薄い赤
キューイング	空色	閉塞	茶色
実行中	緑	監視中	緑
警告検出実行中	赤	監視未起動終了	灰色
異常検出実行中	赤	監視正常終了	薄い緑
正常終了	薄い緑	監視打ち切り終了	薄い赤
警告検出終了	薄い赤	監視中断	薄い緑
異常検出終了	薄い赤	正常終了-偽	薄い緑
計画未実行	灰色	開始遅延	桃色
未実行終了(実行予定なし)	灰色	開始遅延(実行中)	濃い桃色
未実行終了(実行予定あり)	灰色	終了遅延	橙色
中断	薄い赤	終了遅延(実行中)	濃い橙色

通用 標準値に戻す

(1) 表示色の選択

各状態に対応するドロップダウンリストから表示色を選択します。次の状態が表示されます。

- [開始時刻待ち]
- [開始時刻待ち (保留予定あり)]
- [先行終了待ち]
- [先行終了待ち (保留予定あり)]
- [保留中]
- [実行待ち]
- [キューイング]
- [実行中]
- [警告検出実行中]
- [異常検出実行中]
- [正常終了]
- [警告検出終了]
- [異常検出終了]
- [計画未実行]
- [未実行終了 (実行予定なし)]
- [未実行終了 (実行予定あり)]
- [中断]
- [強制終了]
- [順序不正]
- [繰り越し未実行 (実行予定なし)]
- [繰り越し未実行 (実行予定あり)]

- [起動失敗]
- [終了状態不明]
- [閉塞]
- [監視中]
- [監視未起動終了]
- [監視正常終了]
- [監視打ち切り終了]
- [監視中断]
- [正常終了 - 偽]
- [開始遅延]
- [開始遅延 (実行中)]
- [終了遅延]
- [終了遅延 (実行中)]

ドロップダウンリストでは次の色から選択します。

- [空色]
- [黄色]
- [緑]
- [薄い緑]
- [赤]
- [薄い赤]
- [茶色]
- [橙色]
- [濃い橙色]
- [桃色]
- [濃い桃色]
- [灰色]
- [濃い灰色]
- [白]

(2) [適用] ボタン

このボタンを押すと、そのフレームで表示している内容を保存します。

変更した設定内容が有効になるのは、設定項目選択フレームの [監視画面へ戻る] ハイパーリンクをクリックして [監視] 画面へ戻ったとき、および次にログインしたときからです。

(3) [標準値に戻す] ボタン

このボタンを押すとフレームの表示内容をデフォルト設定に戻します (デフォルト値は「4.3 [ユーザー環境設定] 画面で変更する環境」を参照)。このボタンを押しても表示内容が変更されるだけで、表示内容の保存はされません。保存する場合は、[適用] ボタンを押してください。

6.4.5 設定フレーム (遅延表示色の優先度)

遅延表示色の優先度を設定するフレームです。

遅延表示色の優先度設定フレームを次の図に示します。

図 6-22 遅延表示色の優先度設定フレーム

遅延表示色の優先度

項目	設定内容
遅延表示色の優先度	<input checked="" type="radio"/> 異常 > 警告 > 遅延
	<input type="radio"/> 異常 > 遅延 > 警告
	<input type="radio"/> 遅延 > 異常 > 警告

適用

標準値に戻す

(1) 遅延表示色の優先度

異常、警告、または遅延の状態が同時に発生した場合、どの状態の表示色で表示するかという優先度をラジオボタンで指定します。

- [異常 > 警告 > 遅延]
異常、警告、遅延の順に優先されます。遅延の状態を、異常と警告の状態よりも低く設定したい場合に選択します。
- [異常 > 遅延 > 警告]
異常、遅延、警告の順に優先されます。遅延の状態を、異常と警告の状態の間に設定したい場合に選択します。
- [遅延 > 異常 > 警告]
遅延、異常、警告の順に優先されます。遅延の状態を、異常と警告の状態よりも高く設定したい場合に選択します。

(2) [適用] ボタン

このボタンを押すと、そのフレームで表示している内容を保存します。

変更した設定内容が有効になるのは、設定項目選択フレームの [監視画面へ戻る] ハイパーリンクをクリックして [監視] 画面へ戻ったとき、および次にログインしたときからです。

(3) [標準値に戻す] ボタン

このボタンを押すとフレームの表示内容をデフォルト設定に戻します（デフォルト値は「4.3 [ユーザー環境設定] 画面で変更する環境」を参照）。このボタンを押しても表示内容が変更されるだけで、表示内容の保存はされません。保存する場合は、[適用] ボタンを押してください。

6.4.6 設定フレーム（状態一覧表の表示項目）

状態一覧表に表示する項目を設定するフレームです。

状態一覧表の表示項目設定フレームを次の図に示します。

図 6-23 状態一覧表の表示項目設定フレーム

状態一覧表の表示項目

項目	設定内容
ホスト名	表示区分 <input checked="" type="radio"/> 表示 / <input type="radio"/> 非表示
	項目の幅 <input checked="" type="radio"/> 自動 <input type="radio"/> 指定幅 (<input type="text"/> ピクセル)
サービス名	表示区分 <input checked="" type="radio"/> 表示 / <input type="radio"/> 非表示
	項目の幅 <input checked="" type="radio"/> 自動 <input type="radio"/> 指定幅 (<input type="text"/> ピクセル)
ユニット名	表示区分 <input checked="" type="radio"/> 表示 / <input type="radio"/> 非表示
	項目の幅 <input checked="" type="radio"/> 自動 <input type="radio"/> 指定幅 (<input type="text"/> ピクセル)
	表示方法 <input checked="" type="radio"/> 完全表示 / <input type="radio"/> 簡易表示
	ハイパーリンク化 <input checked="" type="radio"/> する / <input type="radio"/> しない
種別	表示区分 <input checked="" type="radio"/> 表示 / <input type="radio"/> 非表示
コメント	表示区分 <input checked="" type="radio"/> 表示 / <input type="radio"/> 非表示
	項目の幅 <input checked="" type="radio"/> 自動 <input type="radio"/> 指定幅 (<input type="text"/> ピクセル)
実行ID	表示区分 <input checked="" type="radio"/> 表示 / <input type="radio"/> 非表示
状態	表示区分 <input checked="" type="radio"/> 表示 / <input type="radio"/> 非表示
保留	表示区分 <input checked="" type="radio"/> 表示 / <input type="radio"/> 非表示
遅延状態	表示区分 <input checked="" type="radio"/> 表示 / <input type="radio"/> 非表示
開始遅延日時	表示区分 <input checked="" type="radio"/> 表示 / <input type="radio"/> 非表示
終了遅延日時	表示区分 <input checked="" type="radio"/> 表示 / <input type="radio"/> 非表示
戻り値	表示区分 <input checked="" type="radio"/> 表示 / <input type="radio"/> 非表示
計画一時変更	表示区分 <input checked="" type="radio"/> 表示 / <input type="radio"/> 非表示
開始予定日時	表示区分 <input checked="" type="radio"/> 表示 / <input type="radio"/> 非表示
開始日時	表示区分 <input checked="" type="radio"/> 表示 / <input type="radio"/> 非表示
終了日時	表示区分 <input checked="" type="radio"/> 表示 / <input type="radio"/> 非表示
実行ホスト	表示区分 <input checked="" type="radio"/> 表示 / <input type="radio"/> 非表示
	項目の幅 <input checked="" type="radio"/> 自動 <input type="radio"/> 指定幅 (<input type="text"/> ピクセル)
所要時間	表示区分 <input checked="" type="radio"/> 表示 / <input type="radio"/> 非表示

(1) ホスト名

(a) 表示区分

ホスト名の列を表示するかどうかをラジオボタンで選択します。

(b) 項目の幅

項目の表示幅を次の中からラジオボタンで選択します。

- [自動]
- [指定幅]

[自動] を選択した場合、その項目の内容がセル内で改行されない最小の幅で表示されます。

[指定幅] を選択した場合、その値を 1 ~ 1000 の範囲 (単位 : ピクセル) で指定します。その項目の内容が指定幅より長い場合、その幅に収まるようにセル内で折り返されて表示されます。

6. 画面

補足事項

指定幅が一文字の幅より小さい場合、セル内で一文字ずつ折り返されて表示されます。ただし、半角英数字が連続する部分では折り返されません。

(2) サービス名

(a) 表示区分

サービス名の列を表示するかどうかをラジオボタンで選択します。

(b) 項目の幅

項目の表示幅を次の中からラジオボタンで選択します。

- [自動]
- [指定幅]

[自動] を選択した場合、その項目の内容がセル内で改行されない最小の幅で表示されます。

[指定幅] を選択した場合、その値を 1 ~ 1000 の範囲 (単位: ピクセル) で指定します。その項目の内容が指定幅より長い場合、その幅に収まるようにセル内で折り返されて表示されます。

補足事項

指定幅が一文字の幅より小さい場合、セル内で一文字ずつ折り返されて表示されます。ただし、半角英数字が連続する部分では折り返されません。

(3) ユニット名

(a) 表示区分

ユニット名の列を表示するかどうかをラジオボタンで選択します。

(b) 項目の幅

項目の表示幅を次の中からラジオボタンで選択します。

- [自動]
- [指定幅]

[自動] を選択した場合、その項目の内容がセル内で改行されない最小の幅で表示されます。

[指定幅] を選択した場合、その値を 1 ~ 1000 の範囲 (単位: ピクセル) で指定します。その項目の内容が指定幅より長い場合、その幅に収まるようにセル内で折り返されて表示されます。

補足事項

指定幅が一文字の幅より小さい場合、セル内で一文字ずつ折り返されて表示されます。ただし、半角英数字が連続する部分では折り返されません。

(c) 表示方法

ユニット名の表示方法を次からラジオボタンで選択します。

- [完全表示]
- [簡易表示]

[完全表示] を選択した場合、ユニット名が完全名で表示されます。

[簡易表示] を選択した場合、最上位から上位までのユニットパス名が表示されなくなります。

(d) ハイパーリンク化

ユニット名をハイパーリンクで表示するかどうかをラジオボタンで選択します。Web ブラウザーが Firefox の場合、この項目は表示されません。JP1/AJS3 -View または JP1/AJS2 - View を起動したいときは、JP1/AJS3 -View または JP1/AJS2 - View のログイン画面からログインしてください。

(4) 種別

(a) 表示区分

ユニット種別の列を表示するかどうかをラジオボタンで選択します。

(5) コメント

(a) 表示区分

コメントの列を表示するかどうかをラジオボタンで選択します。

(b) 項目の幅

項目の表示幅を次の中からラジオボタンで選択します。

- [自動]
- [指定幅]

[自動] を選択した場合、その項目の内容がセル内で改行されない最小の幅で表示されます。

[指定幅] を選択した場合、その値を 1 ~ 1000 の範囲 (単位: ピクセル) で指定します。その項目の内容が指定幅より長い場合、その幅に収まるようにセル内で折り返されて表示されます。

補足事項

指定幅が一文字の幅より小さい場合、セル内で一文字ずつ折り返されて表示されます。ただし、半角英数字が連続する部分では折り返されません。

(6) 実行 ID

(a) 表示区分

実行 ID の列を表示するかどうかをラジオボタンで選択します。

(7) 状態

(a) 表示区分

状態の列を表示するかどうかをラジオボタンで選択します。

(8) 保留

(a) 表示区分

保留の列を表示するかどうかをラジオボタンで選択します。

(9) 遅延状態

(a) 表示区分

遅延状態の列を表示するかどうかをラジオボタンで選択します。

(10) 開始遅延日時

(a) 表示区分

開始遅延日時の列を表示するかどうかをラジオボタンで選択します。

(11) 終了遅延日時

(a) 表示区分

終了遅延日時の列を表示するかどうかをラジオボタンで選択します。

(12) 戻り値

(a) 表示区分

戻り値の列を表示するかどうかをラジオボタンで選択します。

(13) 計画一時変更

(a) 表示区分

計画一時変更の列を表示するかどうかをラジオボタンで選択します。

(14) 開始予定日時

(a) 表示区分

開始予定日時の列を表示するかどうかをラジオボタンで選択します。

(15) 開始日時

(a) 表示区分

開始日時の列を表示するかどうかをラジオボタンで選択します。

(16) 終了日時

(a) 表示区分

終了日時の列を表示するかどうかをラジオボタンで選択します。

(17) 実行ホスト

(a) 表示区分

実行ホスト名の列を表示するかどうかをラジオボタンで選択します。

(b) 項目の幅

項目の表示幅を次の中からラジオボタンで選択します。

- [自動]
- [指定幅]

[自動] を選択した場合、その項目の内容がセル内で改行されない最小の幅で表示されます。

[指定幅] を選択した場合、その値を 1 ~ 1000 の範囲 (単位: ピクセル) で指定します。その項目の内容が指定幅より長い場合、その幅に収まるようにセル内で折り返されて表示されます。

補足事項

指定幅が一文字の幅より小さい場合、セル内で一文字ずつ折り返されて表示されます。ただし、半角英数字が連続する部分では折り返されません。

(18) 所要時間

(a) 表示区分

所要時間の列を表示するかどうかをラジオボタンで選択します。

(19) [適用] ボタン

このボタンを押すと、そのフレームで表示している内容を保存します。

変更した設定内容が有効になるのは、設定項目選択フレームの [監視画面へ戻る] ハイパーリンクをクリックして [監視] 画面へ戻ったとき、および次にログインしたときからです。

すべての項目が非表示に設定されている場合、このボタンを押したときにエラーメッセージが表示されません。

(20) [標準値に戻す] ボタン

このボタンを押すとフレームの表示内容をデフォルト設定に戻します（デフォルト値は「4.3 [ユーザー環境設定] 画面で変更する環境」を参照）。このボタンを押しても表示内容が変更されるだけで、表示内容の保存はされません。保存する場合は、[適用] ボタンを押してください。

6.4.7 設定フレーム（操作オプションのデフォルト設定）

操作確認フレームの初期状態で表示する操作オプションを設定するフレームです。

操作オプションのデフォルト設定フレームを次の図に示します。

図 6-24 操作オプションのデフォルト設定フレーム

操作オプションのデフォルト設定（再実行）

区分	再実行方法	再実行オプション
ルートジョブネット	<input checked="" type="radio"/> 異常終了ジョブから <input type="radio"/> 異常終了ジョブの次から <input type="radio"/> 異常終了ジョブネットから <input type="radio"/> 先頭から <input type="radio"/> 警告終了ジョブだけ	<input type="checkbox"/> 保留状態にする <input type="checkbox"/> 異常状態の先行ユニットを警告検出終了にする
ネストジョブネット またはジョブ	<input checked="" type="radio"/> 指定ユニットから <input type="radio"/> 指定ユニットだけ <input type="radio"/> 指定ユニットの次から	<input type="checkbox"/> 保留状態にする <input type="checkbox"/> 異常状態の先行ユニットを警告検出終了にする

操作オプションのデフォルト設定（即時実行）

項目	設定内容
前倒し変更時の扱い (ルートジョブネット)	<input checked="" type="radio"/> 次回予定追加 <input type="radio"/> 次回予定移動
配下の開始日時	<input type="checkbox"/> 配下の開始日時もずらす

操作オプションのデフォルト設定(即時実行)

項目	設定内容
前倒し変更時の扱い (ルートジョブネット)	<input checked="" type="radio"/> 次回予定追加 <input type="radio"/> 次回予定移動
配下の開始日時	<input type="checkbox"/> 配下の開始日時もずらす

操作オプションのデフォルト設定(日時変更)

項目	日時変更オプション
開始日時	<input checked="" type="radio"/> 日時指定 <input type="radio"/> 相対指定
前倒し変更時の扱い (ルートジョブネット)	<input checked="" type="radio"/> 次回予定追加 <input type="radio"/> 次回予定移動
配下の開始日時	<input type="checkbox"/> 配下の開始日時もずらす

操作オプションのデフォルト設定(遅延監視変更)

項目	区分	遅延監視変更オプション
開始遅延監視	ルートジョブネット	変更しない ▼
	ネストジョブネット	変更しない ▼
終了遅延監視	ルートジョブネット	変更しない ▼
	ネストジョブネット	変更しない ▼
ジョブネット監視		変更しない ▼

操作オプションのデフォルト設定(ジョブ状態変更)

項目	ジョブ状態変更オプション
変更後の状態	変更しない ▼
変更後の終了コード	<input type="checkbox"/> 変更する

(1) 再実行時の操作オプション設定

この設定項目は、操作ボタンの表示設定(「4.2.3(3) 操作ボタンに関する設定」を参照)で[再実行]ボタンが表示になっている場合にだけ表示されます。再実行ボタンが非表示になっている場合は次のメッセージが表示されます。

「再実行ボタンが非表示に設定されているため、操作オプションの設定はできません。」

(a) ルートジョブネット

ルートジョブネットを再実行するときの再実行方法および再実行オプションを設定します。再実行方法は次の中からラジオボタンで選択します。

- [異常終了ジョブから]
- [異常終了ジョブの次から]
- [異常終了ジョブネットから]
- [先頭から]
- [警告終了ジョブだけ]

再実行オプションは次のチェックボックスから選択します。

- [保留状態にする]
- [異常状態の先行ユニットを警告検出終了にする]

(b) ネストジョブネットまたはジョブ

ネストジョブネットまたはジョブを再実行するときの再実行方法および再実行オプションを設定します。再実行方法は次の中からラジオボタンで選択します。

- [指定ユニットから]
- [指定ユニットだけ]
- [指定ユニットの次から]

再実行オプションは次のチェックボックスから選択します。

- [保留状態にする]
- [異常状態の先行ユニットを警告検出終了にする]

(2) 即時実行時の操作オプション設定

この設定項目は、操作ボタンの表示設定（「4.2.3(3) 操作ボタンに関する設定」を参照）で [即時実行] ボタンが表示になっている場合にだけ表示されます。即時実行ボタンが非表示になっている場合は次のメッセージが表示されます。

「即時実行ボタンが非表示に設定されているため、操作オプションの設定はできません。」

(a) 前倒し変更時の扱い（ルートジョブネット）

前倒し変更時の扱いとして初期表示される内容を次の中からラジオボタンで設定します。

- [次回予定追加]
- [次回予定移動]

(b) 配下の開始日時

初期表示で [配下の開始日時もずらす] にチェックをしておくかどうかを設定します。

(3) 日時変更時の操作オプション設定

この設定項目は、操作ボタンの表示設定（「4.2.3(3) 操作ボタンに関する設定」を参照）で [日時変更] ボタンが表示になっている場合にだけ表示されます。[日時変更] ボタンが非表示になっている場合は次のメッセージが表示されます。

「日時変更ボタンが非表示に設定されているため、操作オプションの設定はできません。」

(a) 開始日時

開始日時の指定方法を次の中からラジオボタンで設定します。

- [日時指定]
- [相対指定]

(b) 前倒し変更時の扱い（ルートジョブネット）

前倒し変更時の扱いとして初期表示される内容を次の中からラジオボタンで設定します。

- [次回予定追加]
- [次回予定移動]

(c) 配下の開始日時

初期表示で [配下の開始日時もずらす] にチェックをしておくかどうかを設定します。

(4) 遅延監視変更時の操作オプション設定

この設定項目は、操作ボタンの表示設定（「4.2.3(3) 操作ボタンに関する設定」を参照）で [遅延監視変更] ボタンが表示になっている場合にだけ表示されます。 [遅延監視変更] ボタンが非表示になっている場合は次のメッセージが表示されます。

「遅延監視変更ボタンが非表示に設定されているため、操作オプションの設定はできません。」

(a) 開始遅延監視

ルートジョブネット、およびネストジョブネットの開始遅延監視方法として初期表示される内容を設定します。

[ルートジョブネット]

ルートジョブネットの開始遅延監視方法を変更したあとのジョブの状態として初期表示される内容を、次の中から選択します。

- [変更しない]
- [監視しない]
- [絶対時刻]
- 自ジョブネットの開始予定時刻からの相対

[ネストジョブネット]

ネストジョブネットの開始遅延監視方法を変更したあとのジョブの状態として初期表示される内容を、次の中から選択します。

- [変更しない]
- [監視しない]
- [絶対時刻]
- [ルートジョブネットの開始予定時刻からの相対]
- [上位ジョブネットの開始予定時刻からの相対]
- [自ジョブネットの開始予定時刻からの相対]

(b) 終了遅延監視

ルートジョブネット、およびネストジョブネットの終了遅延監視方法として初期表示される内容を設定します。

[ルートジョブネット]

ルートジョブネットの終了遅延監視方法を変更したあとのジョブの状態として初期表示される内容を、次の中から選択します。

- [変更しない]
- [監視しない]
- [絶対時刻]
- [自ジョブネットの開始予定時刻からの相対]

[ネストジョブネット]

ネストジョブネットの終了遅延監視方法を変更したあとのジョブの状態として初期表示される内容を、次の中から選択します。

- [変更しない]
- [監視しない]
- [絶対時刻]
- [ルートジョブネットの開始予定時刻からの相対]

- [上位ジョブネットの開始予定時刻からの相対]
- [自ジョブネットの開始予定時刻からの相対]

(c) ジョブネット監視

ジョブネットの実行所要時間による終了遅延監視方法として初期表示される内容を、次の中から選択します。

- [変更しない]
- [監視しない]
- [実行所要時間]

(5) ジョブ状態変更時の操作オプション設定

この設定項目は、操作ボタンの表示設定（「4.2.3(3) 操作ボタンに関する設定」を参照）で [ジョブ状態変更] ボタンが表示になっている場合にだけ表示されます。 [ジョブ状態変更] ボタンが非表示になっている場合は次のメッセージが表示されます。

「ジョブ状態変更ボタンが非表示に設定されているため、操作オプションの設定はできません。」

(a) 変更後の状態

ジョブ状態変更後のジョブの状態として初期表示される内容を次の中から選択します。

- [変更しない]
- [正常終了]
- [起動失敗]
- [警告検出終了]
- [異常検出終了]
- [計画未実行]
- [終了コードで判定]

(b) 変更後の終了コード

初期表示でジョブ状態変更後のジョブの終了コードを [変更する] にチェックをしておくかどうかを設定します。

(6) [適用] ボタン

このボタンを押すと、そのフレームで表示している内容を保存します。

変更した設定内容が有効になるのは、設定項目選択フレームの [監視画面へ戻る] ハイパーリンクをクリックして [監視] 画面へ戻ったとき、および次にログインしたときからです。

また、「再実行時の操作オプション設定」、「即時実行時の操作オプション設定」、「日時変更時の操作オプション設定」、「遅延監視変更時の操作オプション設定」、および「ジョブ状態変更時の操作オプション設定」がすべて非表示である場合は、このボタンは表示されません。

(7) [標準値に戻す] ボタン

このボタンを押すとフレームの表示内容をデフォルト設定に戻します（デフォルト値は「4.3 [ユーザー環境設定] 画面で変更する環境」を参照）。このボタンを押しても表示内容が変更されるだけで、表示内容の保存はされません。保存する場合は、[適用] ボタンを押してください。

また、「再実行時の操作オプション設定」、「即時実行時の操作オプション設定」、「日時変更時の操作オプション設定」、「遅延監視変更時の操作オプション設定」、および「ジョブ状態変更時の操作オプション設定」がすべて非表示である場合は、このボタンは表示されません。

6.4.8 設定フレーム（自動更新）

自動更新の設定フレームを次の図に示します。

図 6-25 設定フレーム

自動更新

項目	設定内容
自動更新	<input checked="" type="radio"/> する / <input type="radio"/> しない
更新間隔	300 秒
自動更新切り替えチェックボックス	<input checked="" type="radio"/> 表示する / <input type="radio"/> 表示しない

(1) 自動更新

状態一覧フレームおよび操作実行結果フレームの内容を定期的に自動更新するかどうかを設定します。

(2) 更新間隔

状態一覧フレーム、操作実行結果フレームの自動更新間隔を 30 ~ 3,600（単位：秒）の範囲で設定します。

(3) 自動更新切り替えチェックボックス

状態一覧フレームに自動更新切り替えチェックボックス（[自動更新しない] チェックボックス）を表示するかどうかを設定します。

ただし、表示するように設定しても、自動更新を [しない] に設定した場合は表示されません。

(4) [適用] ボタン

このボタンを押すと、そのフレームで表示している内容を保存します。

変更した設定内容が有効になるのは、設定項目選択フレームの [監視画面へ戻る] ハイパーリンクをクリックして [監視] 画面へ戻ったとき、および次にログインしたときからです。

(5) [標準値に戻す] ボタン

このボタンを押すとフレームの表示内容をデフォルト設定に戻します（デフォルト値は「4.3 [ユーザー環境設定] 画面で変更する環境」を参照）。このボタンを押しても表示内容が変更されるだけで、表示内容の保存はされません。保存する場合は、[適用] ボタンを押してください。

7

クラスタシステムでの運用

この章では、クラスタシステムでの運用について説明します。JP1/AJS3 - Web Operation Assistant ホストの系切り替えはできません。クラスタシステムでの運用時、JP1/AJS3 - Manager ホストまたは JP1/AJS2 - Manager ホストの系切り替えが発生した場合の JP1/AJS3 - Web Operation Assistant の運用について説明します。

7.1 JP1/AJS3 - Manager ホストまたは JP1/AJS2 - Manager ホストの系切り替え時の運用

7.1 JP1/AJS3 - Manager ホストまたは JP1/AJS2 - Manager ホストの系切り替え時の運用

JP1/AJS3 - Manager ホストまたは JP1/AJS2 - Manager ホストの系切り替え時の運用について説明します。

7.1.1 JP1/AJS3 - Manager ホストまたは JP1/AJS2 - Manager ホストの系切り替え時の処理要求

JP1/AJS3 - Manager または JP1/AJS2 - Manager の系切り替えを行う場合、系切り替えが完了するまでの間、JP1/AJS3 - Web Operation Assistant からの一括監視（状態取得による一覧表示、および操作）はできません。系切り替えが完了するまでの間、JP1/AJS3 - Web Operation Assistant からの処理要求はエラーになり、Web ブラウザー上にメッセージが表示されます。

すでに処理中の要求もエラーになります。ただし、一覧表からの操作を行っていた場合、JP1/AJS3 - Manager または JP1/AJS2 - Manager 上でその操作が失敗しているとは限りません。このとき、操作実行結果には「実行結果不明」が表示されます。

JP1/AJS3 - Manager または JP1/AJS2 - Manager の系切り替えが終わると JP1/AJS3 - Web Operation Assistant からの処理ができるようになります。このときに再ログインの必要はありません。

7.1.2 JP1/AJS3 - Manager ホストまたは JP1/AJS2 - Manager ホストの系切り替え時のログイン要求

JP1/AJS3 - Manager または JP1/AJS2 - Manager が系切り替え中でも、JP1/AJS3 - Web Operation Assistant へは正常にログインできます。

ただし、ログイン時のデフォルト監視先が設定されている場合、最新情報を取得できないため、ログイン後の画面にエラーメッセージが出力されます。

7.1.3 JP1/AJS3 - Manager または JP1/AJS2 - Manager の系切り替え時の最新情報取得

JP1/AJS3 - Manager または JP1/AJS2 - Manager の系切り替え中に最新情報を取得すると、Web ブラウザー上にエラーメッセージが表示されます。

また、最新情報の取得が実行されているときに JP1/AJS3 - Manager または JP1/AJS2 - Manager の系切り替えが発生した場合も、エラーになります。

JP1/AJS3 - Manager または JP1/AJS2 - Manager の系切り替えが終わると最新情報を取得できるようになります。このときに、再ログインの必要はありません。

8

トラブルシューティング

この章では、トラブル発生時の対処の手順、および採取する必要がある資料について説明します。

-
- 8.1 対処の手順
 - 8.2 ログ情報
 - 8.3 トラブル発生時に採取が必要な資料
 - 8.4 資料の採取方法
 - 8.5 トラブルへの対処方法
-

8.1 対処の手順

JP1/AJS3 - Web Operation Assistant でトラブルが起きた場合の対処の手順を次に示します。

1. 現象の確認

トラブルが発生したときの現象を確認してください。メッセージが出力されている場合は、メッセージの内容を確認してください。各メッセージの要因と対処方法については、「9.2 メッセージ一覧」を参照してください。また、JP1/AJS3 - Web Operation Assistant が出力するログ情報については、「8.2 ログ情報」を参照してください。

2. 資料の採取

トラブルの要因を調べるために資料の採取が必要です。「8.3 トラブル発生時に採取が必要な資料」および「8.4 資料の採取方法」を参照して、必要な資料を採取してください。

3. 問題の調査

採取した資料を基に問題の要因を調査し、問題が発生している部分、または問題の範囲を切り分けてください。

8.2 ログ情報

JP1/AJS3 - Web Operation Assistant を運用しているときに出力されるログ情報について説明します。

8.2.1 ログ情報の種類

ログ情報には次の二つがあります。

- システム障害通知ログ
- 操作ログ

(1) システム障害通知ログ

システム障害通知ログとは、システム側のトラブルを通知する、システム管理者向けのログ情報のことです。

このログ情報は、イベントログ¹および統合トレースログ²に出力されます。

注 1 イベントログは Windows イベントログファイルに出力されます。

注 2 統合トレースログは統合トレースログファイルに出力されます。統合トレースログの採取方法については、マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」を参照してください。

(2) 操作ログ

操作ログとは、ユーザーの Web 画面からの操作を記録するログであり、トラブルが発生した場合に、トラブル発生の経緯を調査するために採取するログ情報のことです。

8.2.2 ログファイルおよびフォルダ一覧

JP1/AJS3 - Web Operation Assistant が出力するデフォルトのログファイルおよびフォルダを次の表に示します。

表 8-1 JP1/AJS3 - Web Operation Assistant のログファイルおよびフォルダ一覧

ログの種類	デフォルトのファイル名・フォルダ名	出力される情報の内容	デフォルトのディスク占有量	最大ディスク占有量	ファイルの切り替え時期
操作ログ	• <code>WOA_Web_Path\log\ajs2woa{1 2}.log</code>	Web 画面の操作ログ	8,192	8,192	ログ設定でのログサイズ

注

「デフォルトのディスク占有量」「最大ディスク占有量」の単位は、「キロバイト」です。

ログファイルおよびフォルダ一覧の表の各列の意味について説明します。

ログの種類

JP1/AJS3 - Web Operation Assistant が出力するログの種類を記載しています。

デフォルトのファイル名・フォルダ名

プログラムをデフォルトでインストールした場合のログファイル名をフルパスで記載しています。次の略称を使用しています。

- `WOA_Web_Path` : JP1/AJS3 - Web Operation Assistant インストール先フォルダ
`¥uCPSB¥CC¥web¥containers¥WOA¥webapps¥j1ajs2woa`

デフォルトのインストール先フォルダを次に示します。

- JP1/AJS3 - Web Operation Assistant インストール先フォルダ: SystemDrive¥Program Files¥Hitachi¥jplajs2woa

デフォルトのディスク占有量

プログラムをデフォルトでインストールして、環境設定がデフォルトの状態で作成した場合のディスク占有量を記載しています。ログファイルが複数ある場合は、その合計量を記載しています。ログファイル容量を変更していない場合は、表で示す容量がログファイル容量となります。

最大ディスク占有量

定義を変更した場合も含めて、ログファイルが最大でどの程度ディスクを使用するのかを記載しています。ログファイルが複数ある場合は、その合計量を記載しています。なお、定義によって変化する値については最大の値を記載しています。

ファイルの切り替え時期

JP1/AJS3 - Web Operation Assistant が出力先のログファイルを切り替えるタイミングを記載しています。値が示されていて、複数あるログファイルの場合、最大ディスク占有量に達したときには、更新日付の古いファイルから上書きされます。

8.3 トラブル発生時に採取が必要な資料

JP1/AJS3 - Web Operation Assistant にトラブルが発生したときに採取が必要な資料を示します。

なお、JP1 では採取が必要な資料を一括採取するための「資料採取ツール」を用意しています。資料採取ツールの初期設定で採取できる資料については、表中に記号で示しています。

(1) OS のログ情報

次に示す OS のログ情報の採取が必要です。

表 8-2 トラブル発生時に採取が必要な OS のログ情報

情報の種類	デフォルトのファイル名	ツールでの採取
Windows イベントログ	イベントログファイル	×
Windows レジストリ情報	-	
hosts ファイル services ファイル	<ul style="list-style-type: none"> システムフォルダ ¥system32¥drivers¥etc¥hosts システムフォルダ ¥system32¥drivers¥etc¥services 	
ワトソンログファイル ¹	システムドライブ ¥Documents and Settings¥All Users¥Application Data¥Microsoft¥Dr Watson¥drwtsn32.log ²	
マシン構成情報 ³	-	
サービス起動されている PP 一覧 ³	-	
ネットワーク構成情報 ³	-	
メモリーダンプ ⁴	-	×
クラッシュダンプ ⁴	-	

(凡例)

: 資料採取ツールで資料を採取できる。

×: 資料採取ツールでは資料を採取できない。

注 1

Windows Server 2008 では、ワトソンログは取得できません。

注 2

資料採取ツールは、ワトソンログファイルをデフォルトのフォルダから取得します。別のフォルダを指定している場合には、資料採取ツールのセットアップが必要です。

注 3

Windows Server 2008 の場合、これらの情報を含めたハードウェア環境、ソフトウェア環境、インターネット環境など、コンピュータに関するさまざまな情報が取得されます。なお、情報採取の終了までに数分掛かることがあります。[システム情報] ダイアログボックスが閉じるまでお待ちください。

注 4

Windows Server 2008 の場合、資料採取ツールでメモリーダンプやクラッシュダンプを取得できません。これらに相当する情報は、トラブルの発生時に手動で採取してください。採取方法については、「8.4(4) ユーザーダンプを採取する (Windows Server 2008 の場合)」および「8.4(5) 問題レポート

を採取する (Windows Server 2008 の場合)」を参照してください。

(2) JP1 の情報

JP1 に関する次の表の情報の採取が必要です。また、監視先の JP1/AJS3 - Manager ホストまたは JP1/AJS2 - Manager ホスト上のファイルの採取も必要です。

表 8-3 トラブル発生時に採取が必要な JP1 の情報

情報の種類	デフォルトのフォルダ名	ツールでの採取
ログファイル定義 ファイル環境設定ファイル	<ul style="list-style-type: none"> ・ JP1/Base インストール先フォルダ ¥log ・ JP1/Base インストール先フォルダ ¥conf¥user_acl ・ JP1/AJS3 - Web Operation Assistant インストール先フォルダ ¥conf 	
統合トレースログフォルダ	システムドライブ ¥Program files¥hitachi¥HNTRLib2	

(凡例)

: 資料採取ツールで資料を採取できる。

8.4 資料の採取方法

トラブルが発生したときに、資料を採取しておくことで、トラブルが発生した原因が調査できます。調査して原因がわかると、発生したトラブルに対処できます。トラブル発生時の資料の採取方法を次に示します。

(1) 資料採取ツールを実行する

資料採取ツールを実行します。資料採取ツールのセットアップについては、「3.6 資料採取ツールのセットアップ」を参照してください。

ツールの実行例を次に示します。

```
c:\>c:\usertools\04.bat
```

資料採取ツールの実行結果は、デフォルトでは「%TEMP%\jplajs2\backlog」下の次のフォルダに出力されます。このファイルをバックアップしてください。

- JP1_DEFAULT\JP1_DEFAULT_1st
第一報用資料が出力されます。
- JP1_DEFAULT\JP1_DEFAULT_2nd
その他全資料が出力されます。

資料採取ツールは、採取する資料を限定するオプションも提供しています。次に資料採取ツールの文法について説明します。

形式

```
_04.bat  
    [-t]  
    [-u]
```

機能

JP1/AJS3 - Web Operation Assistant の各種ログ、OS 情報などの保守情報を取得します。

実行権限

Administrators 権限

引数

```
-t  
    hosts, services ファイルを取得しないときに指定します。
```

```
-u  
    ユーザーダンプを取得しないときに指定します。  
    Windows Server 2008 の場合は取得できません。
```

注意事項

- 採取した資料はこのツールでは圧縮しません。別途圧縮ツールなどで圧縮してください。
- バッチファイルの実行結果を出力したファイルが作成済みの場合、情報の上書きを確認するメッセージが出力されるので、上書きする場合は「y」を、中止する場合は「n」を応答してください。
- 資料採取ツールを実行時に、「プロセスはファイルにアクセスできません。別のプロセスが使用中です。」のメッセージが出力された場合、しばらく経ってから再度資料採取ツールを実行してください。
- Windows Server 2008 で資料採取ツールを実行する場合、UAC 機能が有効のときは、コマンドプ

8. トラブルシューティング

ロンプトを管理者として起動する必要があります。コマンドプロンプトを起動する際は、Windows の [スタート] メニューの [コマンドプロンプト] を右クリックし、ショートカットメニューから [管理者として実行] を選択してください。

管理者権限がない状態で資料採取ツールを実行した場合、Windows Server 2008 では資料採取ツール実行中に UAC 機能による確認ダイアログボックスが何度も表示されます。

なお、UAC 機能が無効のときは、コマンドプロンプトを管理者として起動する必要はありません。

戻り値

0	正常終了。
0 以外の値	異常終了。

出力先

%TEMP%\%jplajs2%\backlog

資料採取ツールのセットアップで、出力先は変更できます。

メッセージ

メッセージ	説明	動作
Finished. Press any key.	処理が正常に終了しました。何かキーを押してください。	ユーザーの応答を待ちます。
Failed. Press any key.	処理が正常に終了しませんでした。何かキーを押してください。 出力された OS のメッセージなどを参照し、エラー要因を取り除いたあとに再度実行してください。	ユーザーの応答を待ちます。
File ファイル名 is exist. Delete to continue? (y/n)	前回実行したときに作成されたファイルが存在します。 削除して処理を継続する場合は「y」を、中止する場合は「n」を押してください。	ユーザーの応答を待ちます。
Directory ディレクトリ名 is exist.Delete to continue? (y/n)	前回実行したときに作成されたディレクトリが存在します。 削除して処理を継続する場合は「y」を、中止する場合は「n」を押してください。	ユーザーの応答を待ちます。
Error exist in option.	オプションの指定に誤りがあります。 正しいオプションを指定して再度実行してください。	処理を終了します。
The collection of detailed information on JP1/Base begins.	JP1/Base の詳細情報の採取を開始します。	処理を継続します。
The collection of detailed information on JP1/Base ended.	JP1/Base の詳細情報の採取を終了します。	処理を継続します。
The collection of Event Log in text format begins.	テキスト形式でイベントログの採取を開始します。	処理を継続します。
The collection of Event Log in text format ended.	テキスト形式でイベントログの採取を終了します。	処理を継続します。

使用例

物理ホストの資料を採取します。

_04.bat

(2) Windows イベントログを確認する

Windows の [イベントビューア] ウィンドウで、Windows イベントログを確認してください。また、ファイルに出力してください。

(3) ダンプファイルを採取する

Windows で STOP エラーが発生すると、メモリーダンプが出力されます。このダンプファイルを採取してください。

また、トラブル発生時には、クラッシュダンプが出力されます。このダンプファイルは資料採取ツールで採取できます。

トラブル発生時にメモリーダンプおよびクラッシュダンプが出力されるようにするには、それぞれ設定が必要です。ログ情報を採取するための設定については、「3.6 資料採取ツールのセットアップ」を参照してください。設定をすれば、これらのダンプファイルは、指定したパスに出力されます。

(4) ユーザーダンプを採取する (Windows Server 2008 の場合)

Windows Server 2008 の場合、資料採取ツールでダンプファイルを取得できないため、JP1/AJS3 - Web Operation Assistant のプロセスがアプリケーションエラーで停止した場合は、エラーダイアログボックスが表示されている状態で、次の操作を行ってください。

注意事項

エラーダイアログボックスを閉じてしまうと正常なダンプが取得できないため、ユーザーダンプを採取できなくなります。ダンプの取得前に誤ってエラーダイアログボックスを閉じてしまった ([OK] ボタンをクリックするなど) 場合は、現象を再現させてエラーダイアログボックスが表示されている状態で操作してください。

1. タスクマネージャを起動する。
タスクマネージャは次のどちらかの手順で起動できます。
 - タスクバーの空いている場所を右クリックして [タスクマネージャ] を選択する。
 - [CTRL] + [SHIFT] + [ESC] キーを押してタスクマネージャを起動する。
2. [タスクマネージャ] ダイアログボックスの [プロセス] タブをクリックする。
3. アプリケーションエラーで停止した JP1/AJS3 - Web Operation Assistant のプロセス名を右クリックし、[ダンプファイルの作成] を選択する。
ユーザーダンプの出力先パスを示すダイアログボックスが表示されます。
4. ユーザーダンプを採取する。

(5) 問題レポートを採取する (Windows Server 2008 の場合)

マシン上の問題点を検出し、それぞれの問題に対する解決策を調査できます。Windows Server 2008 で JP1/AJS3 - Web Operation Assistant のプロセスがアプリケーションエラーで停止した場合、次の手順で問題レポートを採取してください。

1. Windows の [ファイル名を指定して実行] でテキストボックスに「wercon」を入力し、[OK] ボタンをクリックする。
[問題のレポートと解決策] ダイアログボックスが表示されます。
2. 左側の領域で、[問題の履歴の表示] をクリックする。
問題の履歴が一覧で表示されます。
3. 該当する問題をダブルクリックする。

8. トラブルシューティング

問題レポートの詳細が表示されます。

4. [クリップボードにコピー]を選択する。
5. テキストエディターなどにコピーし、保存する。
テキストファイルに保存した問題レポートを、障害調査用の資料として利用してください。

(6) JP1/AJS のプロセスの状態を確認する

Windows の [タスクマネージャ] ウィンドウの [プロセス] タブで、監視先の JP1/AJS3 - Manager または JP1/AJS2 - Manager のプロセスの動作状態を確認してください。

JP1/AJS3 - Manager のプロセスについては、マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 3 トラブルシューティング」にある JP1/AJS3 - Manager のプロセス一覧の説明を参照してください。JP1/AJS2 - Manager のプロセスについては、マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 2 設計・運用ガイド」にある JP1/AJS2 - Manager のプロセス一覧の説明を参照してください。

(7) JP1/AJS3 - Web Operation Assistant のプロセスの状態を確認する

Windows の [タスクマネージャ] ウィンドウの [プロセス] タブで、JP1/AJS3 - Web Operation Assistant のプロセスの動作状態を確認してください。

JP1/AJS3 - Web Operation Assistant のプロセスについては、「付録 B プロセス一覧」を参照してください。

(8) オペレーション内容を確認する

トラブル発生時のオペレーション内容を確認し、記録しておいてください。確認が必要な情報を次に示します。

- オペレーション内容の詳細
- トラブル発生時刻
- マシン構成（各 OS のバージョン、ホスト名、JP1/AJS3 - Web Operation Assistant と JP1/AJS3 - Manager または JP1/AJS2 - Manager や JP1/AJS3 - View または JP1/AJS2 - View との構成など）
マシン構成は [システム情報] を使って調査できます。
- 再現性の有無
- JP1/AJS3 - Web Operation Assistant を利用中の Windows ホストへのログインユーザー名

(9) 画面上のエラー情報を採取する

次に示すハードコピーを採取してください。

- アプリケーションエラーが発生した場合は、操作画面のハードコピー
- エラーメッセージダイアログボックスのハードコピー
詳細ボタンがある場合はその内容をコピーしてください。

(10) その他の情報

その他の必要な情報を採取してください。

- Windows の [イベントビューア] ウィンドウの、[システムログ] および [アプリケーションログ] の内容
- [ヘルプとサポート] の [システム情報] の内容
[ヘルプとサポート] の [システム情報] を印刷してください。

8.5 トラブルへの対処方法

8.5.1 Internal Server Error について

Web ページアクセス時に Internal Server Error が発生した場合、JP1/AJS3 WOA Web Application Server サービスが起動しているか確認してください。なお、このサービスを実行するホストの稼働状況によっては、サービスを起動してから Web ページの処理を受け付けられる状態になるまで数秒から数十秒かかることがあります。

それでも解決しない場合は、システム管理者に連絡して資料を採取してください。

8.5.2 ログイン画面が表示されない場合について

ログイン画面が表示されない場合、Web ブラウザーのアドレスバーに入力する URL を確認してください。URL が正しく、ログイン画面が表示されない場合の対処方法について次に示します。

(1) Internal Server Error が発生する

ログイン画面にアクセスしたときに Internal Server Error が発生する場合については、「8.5.1 Internal Server Error について」を参照してください。

(2) SSL 通信のログイン画面が表示できない

SSL 通信を使用しない場合のログイン画面は表示できるが、SSL 通信を使用する場合のログイン画面は表示できない場合、次のどちらかの方法で対処してください。

- Web ブラウザーが SSL を使用するように設定されていないおそれがあります。「3.5.1(2) SSL 通信を使用する場合の設定」を参照して、Web ブラウザーが SSL を使用できるように設定してください。
- サーバー秘密鍵と SSL サーバー証明書の秘密鍵が一致していないおそれがあります。「3.7 SSL サーバー証明書の設定」を参照して、サーバー秘密鍵、証明書発行要求 (CSR) および SSL サーバー証明書を再作成し、JP1/AJS3 WOA HTTP Server サービスを再起動してください。

8.5.3 イベントログに、イベントソースが crypt32、イベント ID が 8 のエラーが出力される場合について

SSL 通信時、信頼されたルート証明機関に登録されていない認証局から発行された証明書（自己署名証明書など）を使用している場合、信頼されたルート証明機関証明書の自動更新がクライアントマシンで有効になっていると、クライアントマシンのイベントログにイベントソースが crypt32、イベント ID が 8 のエラーが出力されることがあります。

これは、クライアントマシンが、信頼されたルート証明機関証明書の自動更新をしようとして、Microsoft 社の Windows Update Web サイトとの通信に失敗しているために発生しています。

次のどちらかの方法で対処してください。

1. クライアントマシンが Microsoft 社の Windows Update Web サイトと通信できるか確認してください。
2. 信頼されたルート証明機関証明書の自動更新を無効にしてください。
信頼されたルート証明機関証明書の自動更新を無効にする方法については、Microsoft 社の Web サイトなどを参照してください。

8.5.4 状態一覧表の [状態] にすべて状態認識不能と表示される場合について

状態一覧表の [状態] にすべて状態認識不能と表示された場合、監視先マネージャーホストで文字コード種別が混在していることが考えられます。「1.5 使用上の注意事項」を参照して、監視先の文字コード種別を統一してください。

8.5.5 監視対象に状態取得されるユニットが存在するのに、ユニットの状態が正常に取得できない場合について

状態取得条件設定フレームの監視対象や検索条件を見直してください。

また、監視対象スケジューラーサービスのデータベース種別が組み込み DB または HiRDB の場合、RDB 接続定義ファイルの状態取得モードが設定されていないか確認してください。

状態取得モードが設定されている場合は、RDB 接続定義のサーバ種別が正しく設定されているか確認してください。

9

メッセージ

JP1/AJS3 - Web Operation Assistant が出力するメッセージと対処方法について説明します。

9.1 メッセージの形式

9.2 メッセージ一覧

9.1 メッセージの形式

JP1/AJS3・Web Operation Assistant が出力するメッセージの形式と、マニュアルでの記載形式を示します。

JP1/AJS3・Web Operation Assistant では、日本語と英語のメッセージをサポートしています。

9.1.1 メッセージの出力形式

JP1/AJS3・Web Operation Assistant が出力するメッセージの形式を示します。メッセージはメッセージ ID とそれに続くメッセージテキストで構成されます。形式を次に示します。

- KAVInnnn-Z メッセージテキスト

メッセージ ID は、次の内容を示しています。

K

システム識別子を示します。

AVI

JP1/AJS3・Web Operation Assistant のメッセージであることを示します。

nnnn

メッセージの通し番号を示します。

Z

メッセージの種類を示します。

- E：エラー
処理は中断されます。ただし、コマンドで複数の任意名を指定した場合、それぞれの任意名の処理に対して出力されますが、コマンドの処理は続行されます。
- W：警告
メッセージ出力後、処理は続けられます。
- I：通知
ユーザーに情報を知らせます。
- Q：応答要求
ユーザーに応答を促します。
- K：処理継続
処理を続行します。

メッセージレベルとイベントログとの対応について次の表に示します。

表 9-1 イベントログとの対応

メッセージレベル	イベントログの種類	
	レベル	意味
-E	エラー	システムエラー、ジョブの異常終了、監視の失敗など。
-W	警告	ジョブの警告終了、ジョブネットの遅延、設定ファイルの読み込み失敗など。
-I	情報	ジョブの保留通知、ジョブの実行開始、ジョブの正常終了、監視開始通知など。

メッセージレベル	イベントログの種類	
	レベル	意味
-Q	該当しない	該当しない。

JP1/AJS3・Web Operation Assistant がイベントログに出力するイベントは、「ソース」に "JP1/AJS3 Web Operation Assistant"、「イベント ID」に "I" が設定されます。

9.1.2 メッセージの記載形式

このマニュアルでのメッセージの記載形式を示します。ゴシックで書かれている部分は、メッセージが表示されるたびに表示内容が変わる箇所を示しています。ただし、メッセージ中の保守情報には何も表示されない場合があります。また、メッセージをメッセージ ID 順に記載しています。記載形式の例を次に示します。

メッセージ ID

英語メッセージテキスト
日本語メッセージテキスト

メッセージの説明文

(S)

システムの処置を示します。

(O)

メッセージが出力されたときに、オペレーターのとる処置を示します。

9.2 メッセージ一覧

KAVI3000-I

JP1/AJS2 - Web Operation Assistant started.
JP1/AJS2 - Web Operation Assistantが起動しました。

JP1/AJS3 WOA Web Application Server サービスが正常に起動しました。

- (S)
- JP1/AJS3 WOA Web Application Server サービスが起動したことをログに出力します。

KAVI3001-E

JP1/AJS2 - Web Operation Assistant failed to start.
JP1/AJS2 - Web Operation Assistantの起動に失敗しました。

JP1/AJS3 WOA Web Application Server サービスの起動処理中にエラーが発生したため起動に失敗しました。

- (S)
- JP1/AJS3 WOA Web Application Server サービスの起動処理を中断します。
- (O)
- このメッセージの前に、エラーの原因となったメッセージがログ情報に出力されます。ログ情報から原因を調査してください(「8.2 ログ情報」を参照してください)。

KAVI3002-E

JP1/AJS2 - Web Operation Assistant is not running.
JP1/AJS2 - Web Operation Assistantが起動していません。

JP1/AJS3 WOA Web Application Server サービスが起動していないため、ログインできませんでした。

- (S)
- ログイン処理を中断します。
- (O)
- Windows の [コントロールパネル] - [管理ツール] - [サービス] で、JP1/AJS3 WOA Web Application Server サービスが起動しているかどうか確認してください。起動していない場合は、JP1/AJS3 WOA Web Application Server サービスを起動してください。

KAVI3003-I

The [ボタン名] button was pressed on 「ウィンドウ名」ウィンドウ種別。
「ウィンドウ名」ウィンドウ種別で [ボタン名] ボタンが押されました。

JP1/AJS3 - Web Operation Assistant を操作中にボタンが押されたことを通知するメッセージです。

- (S)

JP1/AJS3 - Web Operation Assistant を操作中にボタンが押されたことをログに出力します。

KAVI3004-W

Invalid specification in configuration definition. (項目名)
構成定義に誤った指定があります。(項目名)

構成定義ファイルに誤った指定があるため、環境設定パラメーターのデフォルト値を使用して JP1/AJS3 WOA Web Application Server サービスを起動しました。

- (S)
- 環境設定パラメーターのデフォルト値を使用して JP1/AJS3 WOA Web Application Server サービスの起動処理を続行します。
- (O)
- 構成定義ファイルに定義する環境設定パラメーターを正しく設定してください(「3.3.1 構成定義ファイル(環境設定パラメーター)の定義方法」を参照してください)。設定を変更した後、JP1/AJS3 WOA HTTP Server サービスを停止し、JP1/AJS3 WOA Web Application Server サービスを再起動後、JP1/AJS3 WOA HTTP Server サービスを開始してください。

KAVI3005-E

Login is invalid. Please log in again.
ログインが無効です。ログインしなおしてください。

現在ログインしているセッションはすでに無効になっています。ログインし直してください。なお、ログイン後にウィンドウを新規作成してログアウトした場合、開いている残りのウィンドウについてもログインが無効になります。

- (S)
- 処理を中断します。
- (O)
- ログインし直した後、操作を再実行してください。また、ログイン後に新規作成した複数のウィンドウが開いている場合は、操作するウィンドウを一つにした後、ログインし直してください(「1.5(3) 操作時の注意事項」を参照してください)。

KAVI3006-E

The log output processing could not be initialized. Detailed information (詳細情報1,詳細情報2)
ログ出力処理の初期化に失敗しました。詳細情報(詳細情報1,詳細情報2)

統合トレースログの出力処理に問題があるため、JP1/AJS3 WOA Web Application Server サービスの起動に失敗しました。

- (S)
- JP1/AJS3 WOA Web Application Server サービスの起動処理を中断します。

(O)

システム管理者に連絡して資料を採取してください(「8.4 資料の採取方法」を参照してください)。

KAVI3007-E

The log could not be output. Detailed information (詳細情報 1, 詳細情報 2)
ログの出力に失敗しました。詳細情報(詳細情報 1, 詳細情報 2)

統合トレースログの出力処理に失敗しました。統合トレース機能で問題が発生しているおそれがあります。

(S)

統合トレースログの出力処理を中断します。

(O)

システム管理者に連絡して資料を採取してください(「8.4 資料の採取方法」を参照してください)。

KAVI3008-W

An attempt to terminate the log output processing failed. Detailed information (詳細情報 1, 詳細情報 2)
ログ出力処理の終了に失敗しました。詳細情報(詳細情報 1, 詳細情報 2)

統合トレースログの出力処理の終了に失敗しました。

(S)

JP1/AJS3 WOA Web Application Server サービスの停止処理を続行します。

(O)

システム管理者に連絡して資料を採取してください(「8.4 資料の採取方法」を参照してください)。

KAVI3009-E

Operations can be done only from the page which displays the latest information.
最新情報を表示しているページからしか操作できません。

最後に状態取得を行った JP1/AJS3 - Web Operation Assistant のページ以外から操作できません。

(S)

実行した処理を中断します。

(O)

最後に状態取得を行った JP1/AJS3 - Web Operation Assistant のページを操作するか、再度状態取得を行ってから操作してください。

ログイン後に新規で作成した複数のウィンドウが開いている場合は、操作するウィンドウを一つにした後、ログインし直してください(「1.5(3) 操作時の注意事項」を参照してください)。

KAVI3010-I

RECV : 受信データ

JP1/AJS3 WOA Web Application Server サービスがデータを受信し

たことを通知するメッセージです。

(S)

JP1/AJS3 WOA Web Application Server サービスがデータを受信したことをログに出力します。

KAVI3011-E

The initialization process for remote command failed.
リモートコマンド初期化処理に失敗しました。

コマンドのリモート実行の初期化処理に失敗したため、JP1/AJS3 WOA Web Application Server サービスの起動に失敗しました。

(S)

JP1/AJS3 WOA Web Application Server サービスの起動処理を中断します。

(O)

このメッセージの前に、エラーの原因となったメッセージがログ情報に出力されます。ログ情報から原因を調査してください(「8.2 ログ情報」を参照してください)。

KAVI3012-E

An attempt to initialize the processing of the folder (フォルダ名) has failed.

フォルダ(フォルダ名)の初期化処理に失敗しました。

フォルダの初期化処理に失敗したため、JP1/AJS3 WOA Web Application Server サービスの起動に失敗しました。

(S)

JP1/AJS3 WOA Web Application Server サービスの起動処理を中断します。

(O)

メッセージ中に表示されたフォルダ、またはその配下のフォルダやファイルに SYSTEM と Administrators の両グループのアクセス権限があるか確認してください。

KAVI3013-I

Make Cookie available.
Cookieを有効にしてください。

Web ブラウザーの設定で Cookie が無効になっています。JP1/AJS3 - Web Operation Assistant では Cookie を使用するため、Cookie を有効にする必要があります。

(S)

ログイン処理を中断します。

(O)

Internet Explorer の場合

[インターネットオプション] 中の [プライバシー] の設定で Cookie を有効にしてください。詳しい設定方法については、Internet Explorer のヘルプを参照してください。

Firefox の場合

[オプション] 中の [プライバシー] の設定で Cookie を有

効にしてください。詳しい設定方法については、Firefox のヘルプを参照してください。

KAVI3014-E

Specify (フィールド名)
(フィールド名) を指定してください。

- (S)
処理を中断します。
- (O)
「フィールド名」に値を入力して、再度操作してください。

KAVI3090-I

JP1/AJS2 - Web Operation Assistant is terminated.
JP1/AJS2 - Web Operation Assistantが終了しました。

JP1/AJS3 WOA Web Application Server サービスが正常に終了しました。

- (S)
JP1/AJS3 WOA Web Application Server サービスが終了したことをログに出力します。

KAVI3100-E

The specified user (ユーザー名) is not registered to this system.
指定されたユーザー (ユーザー名) はシステムに登録されていません。

指定された JP1 ユーザーの設定情報がユーザー環境設定ファイルに記述されていないため、ログインできません。

- (S)
ログイン処理を中断します。
- (O)
指定された JP1 ユーザーの設定情報をユーザー環境設定ファイルに記述してください (ユーザー環境設定ファイルの記述方法は、「4.2 ユーザー環境設定ファイルで定義する環境」を参照してください)。

KAVI3200-E

Select observation targets.
監視対象を選択してください。

状態取得条件設定フレームで監視対象が指定されていないため、状態取得できませんでした。

- (S)
状態取得処理を中断します。
- (O)
状態取得条件設定フレームで監視対象を選択後、再度状態取得してください。

KAVI3201-E

No unit satisfies the specified conditions.
指定された条件に一致するユニットは存在しません。

状態取得した結果、指定された条件に一致するユニットは存在しませんでした。

- (S)
状態取得処理を中断します。
- (O)
状態取得条件設定フレームの監視対象や検索条件を見直し、再度状態取得してください。
また、監視対象スケジューラーサービスのデータベース種別が組み込み DB または HiRDB の場合、RDB 接続定義ファイルの状態取得モードが設定されていないか確認してください。
状態取得モードが設定されている場合は、RDB 接続定義ファイルのサーバ種別が正しく設定されているか確認してください。

KAVI3202-E

Input host name.
ホスト名を入力してください。

状態取得条件設定フレームで選択した監視対象のホスト名が指定されていないため、状態取得できませんでした。

- (S)
状態取得処理を中断します。
- (O)
状態取得条件設定フレームで選択した監視対象のホスト名を指定後、再度状態取得してください。

KAVI3203-E

Input scheduler service name.
スケジューラーサービス名を入力してください。

状態取得条件設定フレームで選択した監視対象のスケジューラーサービス名が指定されていないため、状態取得できませんでした。

- (S)
状態取得処理を中断します。
- (O)
状態取得条件設定フレームで選択した監視対象のスケジューラーサービス名を指定後、再度状態取得してください。

KAVI3204-E

Input unit name.
ユニット名を入力してください。

状態取得条件設定フレームで選択した監視対象のユニット名が指定されていないため、状態取得できませんでした。

- (S)
状態取得処理を中断します。
- (O)
状態取得条件設定フレームで選択した監視対象のユニット名を

指定後、再度状態取得してください。

KAVI3207-E

Input the number of rows per page.
表示件数を入力してください。

状態取得条件設定フレームで選択した状態一覧の表示方法が分割表示の場合に、1 ページに表示する件数が指定されていないため、状態取得できませんでした。

(S)
状態取得処理を中断します。

(O)
状態取得条件設定フレームで分割表示の表示件数を指定後、再度状態取得してください。

KAVI3209-E

Input comment string.
コメント文字列を入力してください。

検索条件としてコメントに含まれる文字を利用する場合に、状態取得条件設定フレームでコメントに含まれる文字が指定されていないため、状態取得できませんでした。

(S)
状態取得処理を中断します。

(O)
検索するコメントの文字を指定後、再度状態取得してください。

KAVI3210-E

Input execution host name.
実行ホスト名を入力してください。

検索条件として実行ホスト名を利用する場合に、状態取得条件設定フレームで検索する実行ホスト名が指定されていないため状態取得できませんでした。

(S)
状態取得処理を中断します。

(O)
検索する実行ホスト名を指定後に、再度状態取得してください。

KAVI3211-E

Input complete unit name.
ユニット完全名を入力してください。

状態取得条件設定フレームで選択した監視対象のユニット名が「/」で始まるユニット完全名で指定されていないため、状態取得できませんでした。

(S)
状態取得処理を中断します。

(O)
状態取得条件設定フレームで選択した監視対象のユニット名を「/」で始まるユニット完全名を指定後、再度状態取得してください。

い。

KAVI3212-E

Cannot treat as unit.
ユニットとして扱えません。

状態取得条件設定フレームで選択した監視対象のユニット名に、使用できない次の文字が含まれているため、状態取得できませんでした。

¥ " [] ` () = ; (セミコロン) : (コロン) , (コンマ)

(S)
状態取得処理を中断します。

(O)
状態取得条件設定フレームで選択した監視対象のユニット名を正しく指定して、再度状態取得してください(ユニット名に使用できる文字については「6.3.3 状態取得条件設定フレーム」を参照してください)。

KAVI3220-I

Status acquisition started. : 保守情報
状態取得を開始しました。 : 保守情報

状態取得処理を開始しました。

(S)
状態取得処理を開始したことをログに出力します。

KAVI3221-I

Status acquisition ended. : 保守情報
状態取得を終了しました。 : 保守情報

状態取得処理が終了しました。

(S)
状態取得処理が終了したことをログに出力します。

KAVI3222-I

RDB connection definition has been set up. : 保守情報
RDB接続定義を設定しました。 : 保守情報

RDB 接続定義ファイルに指定されたパラメーターを設定しました。

(S)
RDB 接続定義ファイルに指定されたパラメーターを設定したことをログに出力します。

KAVI3250-E

An error occurred in database. : 保守情報1 保守情報2
データベースアクセス中にエラーが発生しました。 : 保守情報1 保守情報2

監視中の JP1/AJS3 - Manager または JP1/AJS2 - Manager のデータベースへアクセス中に問題が発生したため、状態取得に失敗しました。

(S)

状態取得処理を中断します。

(O)

監視先の JP1/AJS3・Manager または JP1/AJS2・Manager のログ情報から原因を調査し、問題を取り除いてください(監視先が JP1/AJS3・Manager の場合は、マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 3 トラブルシューティング」を、監視先が JP1/AJS2・Manager の場合は、マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 2 設計・運用ガイド 17. トラブルシューティング」を参照してください)。
JP1/AJS3 WOA Web Application Server サービスが起動しているホストと監視先スケジューラーデータベースの組み込み DB または HiRDB との間にファイアウォールが存在する場合、使用しているファイアウォールの設定および RDB 接続定義ファイルの内容を見直してください。RDB 接続定義ファイルおよびその内容については「3.8.3 JP1/AJS3・Web Operation Assistant 側の設定」を参照してください。
問題が解決しない場合は、データベースの構成定義を見直し、誤った定義内容があれば訂正してください(データベースの設定について、監視先が JP1/AJS3・Manager の場合は、マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 3 構築ガイド 1 付録 C 組み込み DB の高度なセットアップ」を参照してください。監視先が JP1/AJS2・Manager の場合は、マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 2 設計・運用ガイド 3.5 使用するデータベースを検討する」を参照してください)。
それでも問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡して資料を採取してください(「8.4 資料の採取方法」を参照してください)。

KAVI3280-I

INFORMATION : (保守情報)

JP1/AJS3・Web Operation Assistant の保守情報を通知するメッセージです。

(S)

JP1/AJS3・Web Operation Assistant の保守情報をログに出力します。

KAVI3281-E

An unexpected error occurred during status acquisition. : (保守情報)
状態取得中に予期しないエラーが発生しました。 : (保守情報)

状態取得中に予期しない問題が発生したため、状態取得に失敗しました。

(S)

状態取得処理を中断します。

(O)

システム管理者に連絡して資料を採取してください(「8.4 資料の採取方法」を参照してください)。

KAVI3282-E

Invalid data was detected during status acquisition. : (保守情報)
状態取得中に不正なデータを検出しました。 : (保守情報)

状態取得中に予期しないデータ形式を検出したため、状態取得に失敗しました。

(S)

状態取得処理を中断します。

(O)

監視先の JP1/AJS3・Manager ホストまたは JP1/AJS2・Manager ホストと JP1/AJS3 WOA Web Application Server サービスが起動しているホストとの間で TCP/IP 通信に問題がないことを確認し、通信できない場合は、ハードウェアを含めたネットワークの設定を見直してください。または、監視先の JP1/AJS3・Manager ホストまたは JP1/AJS2・Manager ホストで文字コード種別が混在していないことを確認し、混在している場合は、文字コード種別の設定を見直してください。詳細については、「1.5(1) 環境に関する注意事項」を参照してください。
問題が解決しない場合は、監視先の JP1/AJS3・Manager または JP1/AJS2・Manager のログ情報から原因を調査し、問題を取り除いてください(監視先が JP1/AJS3・Manager の場合は、マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 3 トラブルシューティング」を参照してください。監視先が JP1/AJS2・Manager の場合は、マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 2 設計・運用ガイド 17. トラブルシューティング」を参照してください)。
それでも問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡して監視先の JP1/AJS3・Manager または JP1/AJS2・Manager の資料を採取してください(監視先が JP1/AJS3・Manager の場合は、マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 3 トラブルシューティング 1.4 資料の採取方法」を参照してください。監視先が JP1/AJS2・Manager の場合は、マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 2 設計・運用ガイド 17.4 資料の採取方法」を参照してください)。

KAVI3283-E

An error occurred in the temporary input file during status acquisition. : (保守情報)
状態取得中にファイルの入力でエラーが発生しました。 : (保守情報)

状態取得中にファイルの読み込みに失敗したため、状態取得に失敗しました。

(S)

状態取得処理を中断します。

(O)

再度状態取得してください。
問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡して資料を採取してください(「8.4 資料の採取方法」を参照してください)。

KAVI3284-E

An error occurred in the monitoring target during status acquisition. : (保守情報)

状態取得中に監視先でエラーが発生しました。 : (保守情報)

状態取得中に監視先の JP1/AJS3・Manager または JP1/AJS2・Manager で問題が発生したため、状態取得に失敗しました。

(S)

状態取得処理を中断します。

(O)

監視先の JP1/AJS3・Manager または JP1/AJS2・Manager のログ情報から原因を調査し、問題を取り除いてください (監視先が JP1/AJS3・Manager の場合は、マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 3 トラブルシューティング」を参照してください。監視先が JP1/AJS2・Manager の場合は、マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 2 設計・運用ガイド 17. トラブルシューティング」を参照してください)。

問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡して監視先の JP1/AJS3・Manager または JP1/AJS2・Manager の資料を採取してください (監視先が JP1/AJS3・Manager の場合は、マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 3 トラブルシューティング 1.4 資料の採取方法」を参照してください。監視先が JP1/AJS2・Manager の場合は、マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 2 設計・運用ガイド 17.4 資料の採取方法」を参照してください)。

KAVI3285-E

The monitoring target JP1/AJS2 could not accept the request. : (保守情報)

監視先の JP1/AJS2 で要求を受け付けられませんでした。 : (保守情報)

監視先の JP1/AJS2・Manager のバージョンが JP1/AJS3・Web Operation Assistant に対応していないため、状態取得に失敗しました。

(S)

状態取得処理を中断します。

(O)

監視先の JP1/AJS2・Manager のバージョンが 08-00 以降が確認してください。監視先の JP1/AJS2・Manager バージョンは 08-00 以降にする必要があります。また、監視先スケジューラデータベースが ISAM の場合、監視先の JP1/AJS2・Manager が状態一覧表の各項目の表示に対応したバージョンが確認してください。表示項目ごとに必要な監視先の JP1/AJS2・Manager のバージョンについては「4.3.4 状態一覧表の表示項目」を参照してください。バージョンが正しいにもかかわらず問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡して資料を採取してください (「8.4 資料の採取方法」を参照してください)。

KAVI3400-I

Select operation targets.

操作対象を選択してください。

状態一覧フレームまたは状態確認フレームで操作対象のユニットが選択されていないため、操作を実行できませんでした。

(S)

実行した操作を中断します。

(O)

操作対象のユニットを選択し、再度操作を行ってください。

KAVI3401-I

Specify the operation options.

操作オプションを指定してください。

操作オプションが指定されていません。

(S)

実行した操作を中断します。

(O)

操作オプションが何も指定されていないか、すべて [変更しない] が指定されています。操作オプションを指定したあと、再度操作を実行してください。

KAVI3410-E

Since the unit under operation, it cannot perform specified operation.

このユニットは、操作実行中のため指定した操作を実行できません。

指定したユニットは、JP1/AJS3・Web Operation Assistant で操作実行中ため、指定した操作を実行できませんでした。

(S)

実行した操作を中断します。

(O)

指定したユニットの操作実行結果を確認し、状態が「実行中」以外になってから再度操作を実行してください。

KAVI3411-I

The object of deletion does not exist.

削除対象が存在しません。

操作実行結果フレームの操作結果一覧表に削除対象の結果が存在していませんでした。

(S)

操作実行結果フレームに表示中の結果の削除処理を中断します。

KAVI3412-I

Performed the next operation to observe. (保守情報)

監視先に対して次の操作を実行しました。(保守情報)

監視先の JP1/AJS3・Manager または JP1/AJS2・Manager に対して操作を実行しました。

- (S)
指定した操作が実行されたことをログに出力します。

KAVI3413-I

The operation (操作名) was performed 実行結果. (保守情報)
操作 (操作名) は、実行結果しました。 (保守情報)

操作の実行結果を通知するメッセージです。

- (S)
操作の実行結果をログに出力します。

KAVI3414-E

The inaccurate command sentence was performed. : 保守情報
不正なコマンド文が実行されました。 : 保守情報

監視先の JP1/AJS3・Manager または JP1/AJS2・Manager で不正なコマンドが実行されたため、操作を実行できませんでした。次の原因が考えられます。

- ネットワークが切断された。
- ネットワークルーティングに問題がある。
- ネットワーク上を流れるデータが壊れた。

- (S)
操作実行処理を中断します。

- (O)
監視先の JP1/AJS3・Manager ホストまたは JP1/AJS2・Manager ホストと JP1/AJS3 WOA Web Application Server サービスが起動しているホストとの間で TCP/IP 通信に問題ないことを確認し、通信できない場合は、ハードウェアを含めたネットワークの設定を見直してください。
問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡して資料を採取してください (監視先が JP1/AJS3・Manager の場合は、「8.4 資料の採取方法」、マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 3 トラブルシューティング 1.4 資料の採取方法」を参照してください。監視先が JP1/AJS2・Manager の場合は、マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 2 設計・運用ガイド 17.4 資料の採取方法」を参照してください)。

KAVI3415-E

The JP1/AJS2 being monitored could not receive the request for the operation (操作名).

監視先の JP1/AJS2 で操作 (操作名) の要求が受け付けられませんでした。

操作オプションに誤りがあり、監視先の JP1/AJS で拒否されたため、操作を実行できませんでした。

- (S)
指定した操作を中断します。
- (O)
操作時に指定したオプションの内容を確認し、エラー要因を取り除いたあとに、操作を再実行してください。
ジョブ状態変更時にこのエラーメッセージが表示された場合は、

監視先の OS 種別を確認し、UNIX の場合は、指定した終了コードの値を確認してください (「2.2.3 一覧表からの操作」を参照してください)。

KAVI3416-Q

Are you sure you want to delete Operation Results (target: 削除範囲)?

操作実行結果を削除します (対象: 削除範囲)。よろしいですか?

操作実行結果を削除するか確認します。

- (S)
応答を待ちます。
- (O)
操作実行結果を削除する場合は [OK] を、取り消す場合は [キャンセル] をクリックしてください。

KAVI3600-E

The user name or password is invalid.
ユーザー名かパスワードに誤りがあります。

JP1 ユーザー名かパスワードに誤りがあったため、ログインできませんでした。

- (S)
ログイン処理を中断します。
- (O)
監視先の認証サーバで登録されている JP1 ユーザー名とパスワードを入力して、ログインしてください。

KAVI3601-Q

Are you sure you want to log out?
ログアウトしてもよろしいですか?

JP1/AJS3・Web Operation Assistant からログアウトするか確認します。

- (S)
応答を待ちます。
- (O)
ログアウトする場合は [OK] を、取り消す場合は [キャンセル] をクリックしてください。

KAVI3602-E

Input user name.
ユーザー名を入力してください。

- [ログイン] 画面で JP1 ユーザー名が入力されていません。
- (S)
ログイン処理を中断します。
- (O)
[ログイン] 画面で JP1 ユーザー名を入力してログイン操作を再実行してください。

KAVI3603-E

Input password.
パスワードを入力してください。

[ログイン] 画面でパスワードが入力されていません。

(S)
ログイン処理を中断します。

(O)
[ログイン] 画面でパスワードを入力してログイン操作を再実行してください。

KAVI3604-I

User (ユーザー名) logged in.
ユーザー (ユーザー名) がログインしました。

ユーザーがログインしたことを通知するためのメッセージです。

(S)
ユーザーがログインしたことをログに出力します。

KAVI3605-I

User (ユーザー名) logged out.
ユーザー (ユーザー名) がログアウトしました。

ユーザーがログアウトしたことを通知するためのメッセージです。

(S)
ユーザーがログアウトしたことをログに出力します。

KAVI3620-E

Cannot connect to Access Control Server.
認証サーバに接続できません。

認証サーバと接続できないため、通信処理を行うことができませんでした。次の原因が考えられます。

- 認証サーバが起動していない。
- JP1/AJS3 WOA Web Application Server サービスが起動しているホストと認証サーバがネットワーク接続されていない。

(S)
認証処理を中断します。

(O)
認証サーバが起動しているか確認してください。また、認証サーバと JP1/AJS3 WOA Web Application Server サービスが起動しているホストとの間で TCP/IP 通信に問題がないことを確認し、通信できない場合は、ハードウェアを含めたネットワークの設定を見直してください。
問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡して監視先の JP1/AJS3 - Manager または JP1/AJS2 - Manager の資料を採取してください (監視先が JP1/AJS3 - Manager の場合は、マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 3 トラブルシューティング 1.4 資料の採取方法」を参照してください。監視先が JP1/AJS2 - Manager の場合は、マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 2 設計・運用ガイド 17.4

資料の採取方法」を参照してください)。

KAVI3800-E

The settings file (ファイル名) was not found.
設定ファイル (ファイル名) が見つかりません。

設定ファイルに問題があるため、JP1/AJS3 WOA Web Application Server サービスの起動に失敗しました。次の原因が考えられます。

- メッセージ中表示されたファイルが存在しない。
- メッセージ中表示されたファイルやその上位のフォルダに SYSTEM と Administrators の両グループのアクセス権限がない。
- メッセージ中表示されたファイルをほかのプログラムで使用している。

(S)
JP1/AJS3 WOA Web Application Server サービスの起動処理を中断します。

(O)
エラー要因を取り除いてください。メッセージ中表示されたファイルが存在しない場合は、モデルファイル をコピーしてファイルを作成し、設定し直してください。

注

モデルファイルはメッセージ中表示されたファイル名に「.model」を付けた名称で存在します。

KAVI3801-E

An error occurred while the settings file (ファイル名) was being input.
設定ファイル (ファイル名) の入力エラーが発生しました。

設定ファイルの読み込みに失敗したため、JP1/AJS3 WOA Web Application Server サービスの起動に失敗しました。JP1/AJS3 WOA Web Application Server サービスの実行環境に一時的な問題が発生したおそれがあります。

(S)
JP1/AJS3 WOA Web Application Server サービスの起動処理を中断します。

(O)
JP1/AJS3 WOA HTTP Server サービスを停止し、JP1/AJS3 WOA Web Application Server サービスを再起動後、JP1/AJS3 WOA HTTP Server サービスを開始してください。
問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡して資料を採取してください (「8.4 資料の採取方法」を参照してください)。

KAVI3802-E

An error occurred while the settings file (ファイル名) was being output.
設定ファイル (ファイル名) の出力エラーが発生しました。

設定ファイルの書き込みに失敗しました。次の原因が考えられます。

- メッセージ中表示されたファイルやその上位のフォルダに SYSTEM と Administrators の両グループのアクセス権限がない。
- JP1/AJS3 Web Operation Assistant をインストールしたマシンの

ディスク容量が不足している。

- メッセージ中に表示されたファイルをほかのプログラムで使用している。

(S)

設定ファイルの出力処理を中断します。

(O)

エラー要因を取り除いてください。

KAVI3803-W

The settings file (ファイル名) was not found. The default setup is assumed and the processing continues.

設定ファイル(ファイル名)が見つかりません。デフォルトの設定を仮定して処理を続行します。

設定ファイルに問題があるため、デフォルト値を利用して JP1/AJS3 WOA Web Application Server サービスを起動しました。次の原因が考えられます。

- メッセージ中に表示されたファイルが存在しない。
- メッセージ中に表示されたファイルやその上位のフォルダに SYSTEM と Administrators の両グループのアクセス権限がない。
- メッセージ中に表示されたファイルをほかのプログラムで使用している。

(S)

デフォルトの設定を仮定して処理を続行します。

(O)

エラー要因を取り除いてください。

メッセージ中に表示されたファイルが存在しない場合は、[ユーザー環境設定] 画面で設定内容を確認してください。設定内容が異なる場合は、再度設定し直してください。

KAVI3804-W

An error occurred while the settings file (ファイル名) was being input. The default setup is assumed and processing continues.

設定ファイル(ファイル名)の入力でエラーが発生しました。デフォルトの設定を仮定して処理を続行します。

設定ファイルの内容に問題があるため、デフォルト値を利用して JP1/AJS3 WOA Web Application Server サービスを起動しました。[ユーザー環境設定] 画面で設定した内容が適応されていないおそれがあります。

(S)

デフォルトの設定を仮定して処理を続行します。

(O)

[ユーザー環境設定] 画面で設定内容を確認し、設定内容が異なる場合は、再度設定し直してください。

KAVI3805-E

Creation of the folder (フォルダ名) went wrong. フォルダ(フォルダ名)の作成に失敗しました。

フォルダの作成に失敗したため、監視を行うために必要なファイルを作成できませんでした。

次の原因が考えられます。

- 作成しようとしたフォルダと同名のファイルが同一階層に存在しているため、フォルダが作成できない。
- (JP1/AJS3 - Web Operation Assistant のインストールフォルダ ¥sys¥dbclient フォルダ) に SYSTEM と Administrators の両グループのアクセス権限がない。
- JP1/AJS3 - Web Operation Assistant をインストールしたマシンのディスク容量が不足している。

(S)

エラーが発生した処理を中断します。

(O)

エラー要因を取り除いてください。

問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡して資料を採取してください(「8.4 資料の採取方法」を参照してください)。

KAVI3900-E

A system error has occurred. : 保守情報
システムエラーが発生しました。 : 保守情報

処理中にシステムエラーが発生しました。JP1/AJS3 WOA Web Application Server サービスの実行環境に問題がある可能性があります。

(S)

エラーが発生した処理を中断します。

(O)

システム管理者に連絡して資料を採取してください(「8.4 資料の採取方法」を参照してください)。

KAVI3902-E

The error which is not expected during operation execution occurred. : 保守情報

操作実行時に予期しないエラーが発生しました。 : 保守情報

操作実行時に予期しないエラーが発生しました。JP1/AJS3 WOA Web Application Server サービスの実行環境に問題がある可能性があります。

(S)

エラーが発生した処理を中断します。

(O)

システム管理者に連絡して資料を採取してください(「8.4 資料の採取方法」を参照してください)。

KAVI3903-E

Insufficient memory occurred. : 保守情報
メモリ不足が発生しました。 : 保守情報

監視先の JP1/AJS3 - Manager または JP1/AJS2 - Manager , または JP1/AJS3 WOA Web Application Server サービスの実行環境でメモリー不足が発生しました。

(S)

エラーが発生した処理を中断します。

(O)

JP1/AJS3 WOA Web Application Server サービスが起動しているホストの物理メモリー使用量を確認してください。
使用できる物理メモリーが不足している場合は、不要なアプリケーションを終了し、使用できる物理メモリーの量を増やしてください (JP1/AJS3 Web Operation Assistant の物理メモリー所要量については、「付録 E.2(1) メモリー所要量を見積もる」を参照してください)。

KAVI3905-E

Unexpected error occurred in JP1/AJS2 - Web Operation Assistant. : 保守情報1 保守情報2 保守情報3 保守情報4
JP1/AJS2 - Web Operation Assistant で予期しないエラーが発生しました。 : 保守情報1 保守情報2 保守情報3 保守情報4

処理中に予期しないエラーが発生しました。JP1/AJS3 WOA Web Application Server サービスの実行環境に問題がある可能性があります。

(S)

エラーが発生した処理を中断します。

(O)

システム管理者に連絡して資料を採取してください (「8.4 資料の採取方法」を参照してください)。

KAVI3906-E

Error occurred in JP1/Base. : 保守情報
JP1/Baseでエラーが発生しました。 : 保守情報

認証サーバ、および監視先の JP1/Base でエラーが発生しました。

(S)

エラーが発生した処理を中断します。

(O)

認証サーバ、および監視先の JP1/Base のログ情報から原因を調査し、問題を取り除いてください (マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」のトラブルシューティングを参照してください)。

KAVI3920-E

Cannot find required class file. : 保守情報1 保守情報2 保守情報3
必要なクラスファイルが見つかりません。 : 保守情報1 保守情報2 保守情報3

操作の実行に必要なクラスファイルがないため、操作を実行できませんでした。JP1/AJS3 - Web Operation Assistant のファイル構成に問題がある可能性があります。

(S)

エラーが発生した処理を中断します。

(O)

JP1/AJS3 - Web Operation Assistant を再インストールしてください。
問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡して資料を採

取してください (「8.4 資料の採取方法」を参照してください)。

KAVI3921-E

Cannot find required method. : 保守情報1 保守情報2 保守情報3
必要なメソッドが見つかりません。 : 保守情報1 保守情報2 保守情報3

操作の実行に必要なメソッドがないため、操作を実行できませんでした。JP1/AJS3 - Web Operation Assistant のファイル構成に問題がある可能性があります。

(S)

エラーが発生した処理を中断します。

(O)

JP1/AJS3 - Web Operation Assistant を再インストールしてください。
問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡して資料を採取してください (「8.4 資料の採取方法」を参照してください)。

KAVI3922-E

Cannot find required file. : 保守情報1 保守情報2
必要なファイルが見つかりません。 : 保守情報1 保守情報2

操作の実行に必要なファイルが見つかりません。JP1/AJS3 - Web Operation Assistant のファイル構成に問題があるおそれがあります。

(S)

エラーが発生した処理を中断します。

(O)

JP1/AJS3 - Web Operation Assistant を再インストールしてください。
問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡して資料を採取してください (「8.4 資料の採取方法」を参照してください)。

KAVI4000-E

The parameter (パラメーター) is not specified by setup of the user (ユーザー名) of a setting file (ファイル名).
設定ファイル (ファイル名) のユーザー (ユーザー名) の設定で、パラメーター (パラメーター) が指定されていません。

必要なパラメーターが設定ファイルに記述されていないため、JP1/AJS3 WOA Web Application Server サービスの起動に失敗しました。

(S)

JP1/AJS3 WOA Web Application Server サービスの起動処理を中断します。

(O)

メッセージ中に表示されたパラメーターを設定ファイルに記述してください (「4.2.3 ユーザー環境設定パラメーターの詳細」を参照してください)。

KAVI4001-E

In the settings of the user (ユーザー名) in the settings file (ファイル名), an invalid value is specified for a parameter (パラメーター).

設定ファイル(ファイル名)のユーザー(ユーザー名)の設定で、パラメーター(パラメーター)に指定された値に誤りがあります。

パラメーターの値が設定ファイルに誤って記述されているため、JP1/AJS3 WOA Web Application Server サービスの起動に失敗しました。

- (S) JP1/AJS3 WOA Web Application Server サービスの起動処理を中断します。
- (O) メッセージ中に表示されたパラメーターの値を修正してください(「4.2.3 ユーザー環境設定パラメーターの詳細」を参照してください)。

KAVI4002-E

Enter the values 下限値・上限値 in the field (フィールド名). (フィールド名)には下限値・上限値の値を入力してください。

「フィールド名」に範囲外の値が入力されました。

- (S) 状態取得処理、操作実行処理、または環境設定の適用処理を中断します。
- (O) 「フィールド名」に「下限値」・「上限値」の値を入力してください。

KAVI4003-E

Enter a character string within 最大長 for (フィールド名). (フィールド名)には最大長文字以内の文字列を入力してください。

「フィールド名」に最大長を超える文字列が入力されました。

- (S) 環境設定の適用処理を中断します。
- (O) 「フィールド名」に「最大長」文字以内の文字列を入力してください。

KAVI4004-E

All display items cannot be made hidden.
表示項目をすべて非表示にすることはできません。

状態一覧表に表示される項目が一つも指定されませんでした。

- (S) 環境設定の適用処理を中断します。
- (O) 状態一覧表の項目を一つ以上表示するように設定してください。

KAVI4005-E

All the items of the scheduler service for monitoring cannot be hidden.

監視対象スケジューラーサービスの項目をすべて非表示にすることはできません。

監視対象のスケジューラーサービスがすべて非表示に設定されているため、JP1/AJS3 WOA Web Application Server サービスの起動に失敗しました。

- (S) JP1/AJS3 WOA Web Application Server サービスの起動処理を中断します。
- (O) ユーザー環境設定ファイルの設定で、監視対象のスケジューラーサービスを一つ以上表示するように設定してください(「4.2.3 ユーザー環境設定パラメーターの詳細」を参照してください)。

KAVI4006-E

項目 do not exist in the settings file (ファイル名).
設定ファイル(ファイル名)に、項目が存在しません。

必要な「項目」が設定ファイルに存在しないため、JP1/AJS3 WOA Web Application Server サービスの起動に失敗しました。

- (S) JP1/AJS3 WOA Web Application Server サービスの起動処理を中断します。
- (O) メッセージ中に表示された項目を設定ファイルに追加してください(「4.2.3 ユーザー環境設定パラメーターの詳細」を参照してください)。

KAVI4007-E

Since 操作ボタン名 buttons are set as hidden, setting of 設定項目 cannot be performed.

操作ボタン名ボタンが非表示に設定されているため、設定項目の設定はできません。

「操作ボタン名」ボタンを表示しない設定になっているため、操作オプションを設定することはできません。

- (S) 操作オプションのデフォルト設定画面の表示処理を中断します。
- (O) 「設定項目」を設定する場合は、ユーザー環境設定ファイルで「操作ボタン名」ボタンを表示するように設定にしてください(「4.2.3 ユーザー環境設定パラメーターの詳細」を参照してください)。

KAVI4008-W

An invalid specification exists in the RDB connection definition. (行番号：指定内容)

RDB接続定義に誤った指定があります。(行番号：指定内容)

RDB 接続定義ファイルに誤った指定があります。

(S)

誤った指定を無視して JP1/AJS3 WOA Web Application Server サービスの起動処理を続行します。

(O)

RDB 接続定義ファイルに定義する監視先名またはパラメーターを正しく指定してください(「3.8.3(2)(e) RDB 接続定義ファイルのパラメーター一覧」を参照してください)。設定を変更したあと、JP1/AJS3 WOA HTTP Server サービスを停止し、JP1/AJS3 WOA Web Application Server サービスを再起動後、JP1/AJS3 WOA HTTP Server サービスを開始してください。

KAVI4009-E

The parameter (パラメーター) is not specified by the setup for monitoring target (監視先名) in the RDB connection definition file.

RDB接続定義ファイルの監視先(監視先名)の設定で、パラメーター(パラメーター)が指定されていません。

必要なパラメーターが RDB 接続定義ファイルに記述されていないため、JP1/AJS3 WOA Web Application Server サービスの起動に失敗しました。

(S)

JP1/AJS3 WOA Web Application Server サービスの起動処理を中断します。

(O)

メッセージ中表示されたパラメーターを RDB 接続定義ファイルに記述してください。RDB 接続定義ファイルおよびその内容については「3.8.3 JP1/AJS3 - Web Operation Assistant 側の設定」を参照してください。

KAVI4010-E

In the settings of the monitoring target (監視先名) in the RDB connection definition file, an invalid value is specified for a parameter (パラメーター) .

RDB接続定義ファイルの監視先(監視先名)の設定で、パラメーター(パラメーター)に指定された値に誤りがあります。

パラメーターの値が RDB 接続定義ファイルに誤って記述されているため、JP1/AJS3 WOA Web Application Server サービスの起動に失敗しました。

(S)

JP1/AJS3 WOA Web Application Server サービスの起動処理を中断します。

(O)

メッセージ中表示されたパラメーターの値を修正してくだ

い。RDB 接続定義ファイルおよびその内容については「3.8.3

JP1/AJS3 - Web Operation Assistant 側の設定」を参照してください。

KAVI4100-E

Execute the command from the administrator console.

管理者権限で実行していないコマンドプロンプト上でコマンドを実行したため、コマンドが拒否されました。

(S)

コマンドの処理を終了します。

(O)

管理者権限で実行しているコマンドプロンプト上でコマンドを再実行してください。

KAVI4200-E

Since a problem was in JP1/AJS2 of observe , operation was interrupted. : 保守情報1 保守情報2

監視先のJP1/AJS2に問題があるため操作を中断しました。 : 保守情報1 保守情報2

監視先の JP1/AJS3 - Manager または JP1/AJS2 - Manager に問題があるため、操作を実行できませんでした。次の原因が考えられます。

- 監視先の JP1/AJS3 - Manager または JP1/AJS2 - Manager に問題がある。
- 監視先の JP1/AJS3 - Manager または JP1/AJS2 - Manager で処理に時間が掛かっている。

(S)

状態取得処理または操作実行処理を中断します。

(O)

監視先の JP1/AJS3 - Manager または JP1/AJS2 - Manager のログ情報から原因を調査し、エラー要因を取り除いてください(監視先が JP1/AJS3 - Manager の場合は、マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 3 トラブルシューティング」を参照してください。監視先が JP1/AJS2 - Manager の場合は、マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 2 設計・運用ガイド 17. トラブルシューティング」を参照してください)。

問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡して監視先の JP1/AJS3 - Manager または JP1/AJS2 - Manager の資料を採取してください(監視先が JP1/AJS3 - Manager の場合は、マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 3 トラブルシューティング 1.4 資料の採取方法」を参照してください。監視先が JP1/AJS2 - Manager の場合は、マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 2 設計・運用ガイド 17.4 資料の採取方法」を参照してください)。

KAVI4201-E

The user-mapping in JP1/Base of observe has failed. : 保守情報1 保守情報2

監視先のJP1/Baseでユーザーマッピングに失敗しました。 : 保守情報1 保守情報2

ユーザーマッピングが失敗したため、操作を実行できませんでした。

(S)

状態取得処理または操作実行処理を中断します。

(O)

JP1/Base のユーザーマッピングの設定に誤りがある場合は、原因を取り除いてください。特に、監視先の JP1/Base のユーザーマッピングの設定に JP1/AJS3- Web Operation Assistant の JP1 ユーザーが追加されていないおそれがあります。JP1 ユーザーが追加されている場合、JP1 ユーザーの操作権限を見直し、操作できる権限があるかどうかを確認してください。詳細については、マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」の「ユーザーを管理する」および「ユーザー管理の設定」について説明している箇所を参照してください。

KAVI4202-E

IO error of a file has occurred. : 保守情報

ファイルの入出力エラーが発生しました。 : 保守情報

ファイルの入出力エラーが発生したため、操作に失敗しました。次の原因が考えられます。

一覧表からの操作時、またはスケジューラーデータベースが ISAM の監視先に対する状態取得時に、このメッセージが出力された場合

- (JP1/AJS3 - Web Operation Assistant のインストールフォルダ %uCPsB%CC%web%containers%WOA%webapps%jplajs2woa%tmp フォルダ) 配下のフォルダやファイルに SYSTEM と Administrators の両グループのアクセス権限がない。
- JP1/AJS3 Web Operation Assistant をインストールしたマシンのディスク容量が不足している。
- (JP1/AJS3 - Web Operation Assistant のインストールフォルダ %uCPsB%CC%web%containers%WOA%webapps%jplajs2woa%tmp%rcmd フォルダ) 配下のファイルをほかのプログラムで使用している。

スケジューラーデータベースが組み込み DB または HiRDB の監視先に対する状態取得時に、このメッセージが出力された場合

- (JP1/AJS3 - Web Operation Assistant のインストールフォルダ %conf%dbclient フォルダ) およびその配下のフォルダやファイルに SYSTEM と Administrators の両グループのアクセス権限がない。
- (JP1/AJS3 - Web Operation Assistant のインストールフォルダ %sys フォルダ) に SYSTEM と Administrators の両グループのアクセス権限がない。
- (JP1/AJS3 - Web Operation Assistant のインストールフォルダ %conf%dbclient フォルダ) 配下のファイルをほかのプログラムで使用している。

- JP1/AJS3 - Web Operation Assistant をインストールしたマシンのディスク容量が不足している。

JP1/AJS3 WOA Web Application Server サービスの起動時、または JP1/AJS3 - Web Operation Assistant へのログイン時に、このメッセージが出力された場合

- (JP1/AJS3 - Web Operation Assistant のインストールフォルダ %conf%dbclient フォルダ) およびその配下のフォルダやファイルに SYSTEM と Administrators の両グループのアクセス権限がない。
- (JP1/AJS3 - Web Operation Assistant のインストールフォルダ %conf%dbclient フォルダ) 配下のファイルをほかのプログラムで使用している。

(S)

状態取得処理または操作実行処理を中断します。

(O)

エラー要因を取り除いてください。エラー要因を取り除いた後、JP1/AJS3 WOA HTTP Server サービスを停止し、JP1/AJS3 WOA Web Application Server サービスを再起動後、JP1/AJS3 WOA HTTP Server サービスを開始してください。

KAVI4203-E

Host name of observe cannot be resolved to IP address. : 保守情報

監視先のホスト名をIPアドレスに解決できません。 : 保守情報

監視先ホストでホスト名解決できなかったため、操作を実行できませんでした。

(S)

状態取得処理または操作実行処理を中断します。

(O)

監視先ホストでホスト名解決できるように設定してください。

KAVI4204-E

It was not connectable with the observe. : 保守情報

監視先に接続できませんでした。 : 保守情報

監視先と接続できなかったため、操作を実行できませんでした。次の原因が考えられます。

- 監視先ホストが JP1/AJS3 - Manager の場合に、JP1/AJS3 サービスが起動していない。
- 監視先ホストが JP1/AJS2 - Manager の場合に、JP1/AJS2 Monitor サービスが起動していない。
- ネットワークに問題がある。
- 監視先ホストの JP1/AJS3 - Manager または JP1/AJS2 - Manager に問題がある。

(S)

状態取得処理または操作実行処理を中断します。

(O)

監視先が JP1/AJS3 - Manager の場合は JP1/AJS3 サービスが、JP1/AJS2 - Manager の場合は JP1/AJS2 Monitor サービスが、

起動していることを確認してください。また、監視先の JP1/AJS3・Manager ホストまたは JP1/AJS2・Manager ホストと JP1/AJS3 WOA Web Application Server サービスが起動しているホストとの間で TCP/IP 通信に問題がないことを確認し、通信できない場合は、ハードウェアを含めたネットワークの設定を見直してください。

問題が解決しない場合は、監視先の JP1/AJS3・Manager または JP1/AJS2・Manager のログ情報から原因を調査し、問題を取り除いてください（監視先が JP1/AJS3・Manager の場合は、マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 3 トラブルシューティング」を参照してください。監視先が JP1/AJS2・Manager の場合は、マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 2 設計・運用ガイド 17. トラブルシューティング」を参照してください）。

それでも問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡して監視先の JP1/AJS3・Manager または JP1/AJS2・Manager の資料を採取してください（監視先が JP1/AJS3・Manager の場合は、マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 3 トラブルシューティング 1.4 資料の採取方法」を参照してください。監視先が JP1/AJS2・Manager の場合は、マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 2 設計・運用ガイド 17.4 資料の採取方法」を参照してください）。

KAVI4205-E

It disconnected observe. : 保守情報

監視先との通信が切断されました。 : 保守情報

監視先との通信が切断されたため、操作を実行できませんでした。

(S)

状態取得処理または操作実行処理を中断します。

(O)

監視先の JP1/AJS3・Manager ホストまたは JP1/AJS2・Manager ホストと JP1/AJS3 WOA Web Application Server サービスが起動しているホストとの間で TCP/IP 通信に問題がないことを確認し、通信できない場合は、ハードウェアを含めたネットワークの設定を見直してください。

問題が解決しない場合は、監視先の JP1/AJS3・Manager または JP1/AJS2・Manager のログ情報から原因を調査し、問題を取り除いてください（監視先が JP1/AJS3・Manager の場合は、マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 3 トラブルシューティング」を参照してください。監視先が JP1/AJS2・Manager の場合は、マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 2 設計・運用ガイド 17. トラブルシューティング」を参照してください）。

それでも問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡して監視先の JP1/AJS3・Manager または JP1/AJS2・Manager の資料を採取してください（監視先が JP1/AJS3・Manager の場合は、マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 3 トラブルシューティング 1.4 資料の採取方法」を参照してください。監視先が JP1/AJS2・Manager の場合は、マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 2 設計・運用ガイド 17.4

資料の採取方法」を参照してください）。

KAVI4206-E

Invalid data received. : 保守情報

不正なデータを受信しました。 : 保守情報

予期しないデータ形式を検出したため、操作を実行できませんでした。

(S)

状態取得処理または操作実行処理を中断します。

(O)

監視先の JP1/AJS3・Manager ホストまたは JP1/AJS2・Manager ホストと JP1/AJS3 WOA Web Application Server サービスが起動しているホストとの間で TCP/IP 通信に問題がないことを確認し、通信できない場合は、ハードウェアを含めたネットワークの設定を見直してください。

問題が解決しない場合は、監視先の JP1/AJS3・Manager または JP1/AJS2・Manager のログ情報から原因を調査し、問題を取り除いてください（監視先が JP1/AJS3・Manager の場合は、マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 3 トラブルシューティング」を参照してください。監視先が JP1/AJS2・Manager の場合は、マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 2 設計・運用ガイド 17. トラブルシューティング」を参照してください）。

それでも問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡して監視先の JP1/AJS3・Manager または JP1/AJS2・Manager の資料を採取してください（監視先が JP1/AJS3・Manager の場合は、マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 3 トラブルシューティング 1.4 資料の採取方法」を参照してください。監視先が JP1/AJS2・Manager の場合は、マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 2 設計・運用ガイド 17.4 資料の採取方法」を参照してください）。

KAVI4207-E

A timeout occurred during interprocess communication. : 保守情報

ネットワーク接続がタイムアウトになりました。 : 保守情報

JP1/AJS3・Manager または JP1/AJS2・Manager からの応答待ちでタイムアウトが発生しました。次の原因が考えられます。

- ネットワークに問題がある。
- 監視先の JP1/AJS3・Manager または JP1/AJS2・Manager に問題がある。
- 監視先の JP1/AJS3・Manager または JP1/AJS2・Manager の処理に時間が掛かっている。

(S)

状態取得処理または操作実行処理を中断します。

(O)

監視先の JP1/AJS3・Manager ホストまたは JP1/AJS2・Manager ホストと JP1/AJS3 WOA Web Application Server サービスが起動しているホストとの間で TCP/IP 通信に問題がないことを確認し、通信できない場合は、ハードウェアを含めた

ネットワークの設定を見直してください。

問題が解決しない場合は、監視先の JP1/AJS3・Manager または JP1/AJS2・Manager のログ情報から原因を調査し、問題を取り除いてください（監視先が JP1/AJS3・Manager の場合は、マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 3 トラブルシューティング」を参照してください。監視先が JP1/AJS2・Manager の場合は、マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 2 設計・運用ガイド 17. トラブルシューティング」を参照してください）。

それでも問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡して監視先の JP1/AJS3・Manager または JP1/AJS2・Manager の資料を採取してください（監視先が JP1/AJS3・Manager の場合は、マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 3 トラブルシューティング 1.4 資料の採取方法」を参照してください。監視先が JP1/AJS2・Manager の場合は、マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 2 設計・運用ガイド 17.4 資料の採取方法」を参照してください）。

KAVI4208-E

The error information from observe was unacquirable. : 保守情報
監視先でのエラー情報が取得できませんでした。 : 保守情報

監視先で問題が発生しましたが、エラー情報を取得できませんでした。次の原因が考えられます。

- (JP1/AJS3 - Web Operation Assistant のインストールフォルダ %uCP5B%CC%web%containers%WOA%webapps%jp1ajs2woa%tmp フォルダ) 配下のフォルダやファイルに SYSTEM と Administrators の両グループのアクセス権限がない。
- JP1/AJS3 - Web Operation Assistant をインストールしたマシンのディスク容量が不足している。
- (JP1/AJS3 - Web Operation Assistant のインストールフォルダ %uCP5B%CC%web%containers%WOA%webapps%jp1ajs2woa%tmp%rcmd フォルダ) 配下のファイルをほかのプログラムで使用している。

(S)

状態取得処理または操作実行処理を中断します。

(O)

エラー要因を取り除いてください。

問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡して資料を採取してください（監視先が JP1/AJS3・Manager の場合は、「8.4 資料の採取方法」、マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 3 トラブルシューティング 1.4 資料の採取方法」を参照してください。監視先が JP1/AJS2・Manager の場合は、マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 2 設計・運用ガイド 17.4 資料の採取方法」を参照してください）。

KAVI4209-E

Communication access was denied at the connection destination. : 保守情報
監視先から通信アクセスが拒否されました。 : 保守情報

認証サーバの JP1/Base が監視先ホストで指定したホスト名または IP アドレスに対して通信しない設定になっているため、操作を実行できませんでした。

(S)

状態取得処理または操作実行処理を中断します。

(O)

認証サーバの JP1/Base の設定で物理ホストに対して受信側バインド方式が IP バインド方式になっているかどうか確認してください（マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」の JP1/Base の通信方式を参照してください）。IP バインド方式の場合は、監視先ホスト名に設定されている IP アドレスまたはその IP アドレスにホスト名解決ができるホスト名を指定してください。

KAVI4210-E

JP1/AJS2 of observe does not correspond to this system. : 保守情報
監視先の JP1/AJS2 がシステムに対応していません。 : 保守情報

監視先の JP1/AJS2・Manager のバージョンが、08-00 以降でないため、操作を実行できませんでした。

(S)

状態取得処理または操作実行処理を中断します。

(O)

監視先の JP1/AJS2・Manager のバージョンが 08-00 以降か確認してください。監視先の JP1/AJS2・Manager のバージョンは 08-00 以降にする必要があります。

バージョンが正しいにもかかわらず問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡して資料を採取してください（「8.4 資料の採取方法」を参照してください）。

KAVI4211-E

The specified scheduler service does not exist. : 保守情報
指定されたスケジューラーサービスが見つかりませんでした。 : 保守情報

監視対象のホストに指定したスケジューラーサービスが定義されていないため、操作を実行できませんでした。

(S)

状態取得処理または操作実行処理を中断します。

(O)

監視対象ホスト名またはスケジューラーサービスが存在することを確認してください。

KAVI4212-E

Error occurred in JP1/Base of connection place. : 保守情報
監視先の JP1/Base でエラー発生しました。 : 保守情報

監視先の JP1/AJS3・Manager または JP1/AJS2・Manager で使用している JP1/Base で問題が発生したため、状態取得または操作を実行できませんでした。

(S)

状態取得処理または操作実行処理を中断します。

(O)

監視先の JP1/AJS3・Manager または JP1/AJS2・Manager で使用している JP1/Base のログ情報から原因を調査し、問題を取り除いてください (マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」のトラブルシューティングを参照してください)。

KAVI4213-E

Error occurred in JP1/AJS2 to observe. (Remote error code : エラーコード)
監視先の JP1/AJS2 でエラーが発生しました。(監視先エラーコード : エラーコード)

監視先の JP1/AJS3・Manager または JP1/AJS2・Manager に問題があるため、操作を実行できませんでした。次の原因が考えられます。

- 監視先の JP1/AJS3・Manager または JP1/AJS2・Manager に問題がある。
- 監視先の JP1/AJS3・Manager または JP1/AJS2・Manager で処理に時間が掛かっている。

(S)

状態取得処理または操作実行処理を中断します。

(O)

監視先の JP1/AJS3・Manager または JP1/AJS2・Manager のログ情報から原因を調査し、エラー要因を取り除いてください (監視先が JP1/AJS3・Manager の場合は、マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 3 トラブルシューティング」を参照してください。監視先が JP1/AJS2・Manager の場合は、マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 2 設計・運用ガイド 17. トラブルシューティング」を参照してください)。

問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡して監視先の JP1/AJS3・Manager または JP1/AJS2・Manager の資料を採取してください (監視先が JP1/AJS3・Manager の場合は、マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 3 トラブルシューティング 1.4 資料の採取方法」を参照してください。監視先が JP1/AJS2・Manager の場合は、マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 2 設計・運用ガイド 17.4 資料の採取方法」を参照してください)。

KAVI4214-E

Setup is not performed to be observed by this host.
当ホストから監視するようにセットアップされていません。

指定されたスケジューラーサービスは、監視先ホストから監視するようにセットアップされていないため、操作を実行できませんでした。

(S)

状態取得処理または操作実行処理を中断します。

(O)

スケジューラーサービスを監視するには、そのスケジューラーサービスのある JP1/AJS3・Manager ホストまたは JP1/AJS2・Manager ホストで `ajswoare1setup` コマンドを実行してください (「3.1.1 JP1/AJS3・Manager または JP1/AJS2・Manager 側のセットアップ」を参照してください)。

KAVI4215-E

An error occurred in the standard output file. : 保守情報
標準出力ファイルでエラーが発生しました。 : 保守情報

標準出力ファイルの書き込みに失敗したため、状態取得または操作を実行できませんでした。次の原因が考えられます。

- (JP1/AJS3 Web Operation Assistant のインストールフォルダ `¥ucPSB¥CC¥web¥containers¥WOA¥webapps¥jp1ajs2woa¥tmp` フォルダ) 配下のフォルダやファイルに SYSTEM と Administrators の両グループのアクセス権限がない。
- JP1/AJS3 Web Operation Assistant をインストールしたマシンのディスク容量が不足している。

(S)

状態取得処理または操作実行処理を中断します。

(O)

エラー要因を取り除いてください。

KAVI4217-E

The following error occurred in the monitor target JP1/AJS2. : (エラー内容)
監視先の JP1/AJS2 で次のエラーが発生しました。(エラー内容)

監視先の JP1/AJS3・Manager または JP1/AJS2・Manager で問題が発生したため、状態取得または操作を実行できませんでした。

(S)

状態取得処理または操作実行処理を中断します。

(O)

メッセージ中に表示されたエラー内容や監視先の JP1/AJS3・Manager または JP1/AJS2・Manager のログ情報から原因を調査し、問題を取り除いてください (監視先が JP1/AJS3・Manager の場合は、マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 3 トラブルシューティング」を参照してください。監視先が JP1/AJS2・Manager の場合は、マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 2 設計・運用ガイド 17. トラブルシューティング」を参照してください)。

問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡して監視先の JP1/AJS3・Manager または JP1/AJS2・Manager の資料を採取してください (監視先が JP1/AJS3・Manager の場合は、マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 3 トラブルシューティング 1.4 資料の採取方法」を参照してください。監視先が JP1/AJS2・Manager の場合は、マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 2 設計・運用ガイド 17.4

資料の採取方法」を参照してください)。

KAVI4218-E

Cannot connect to the RDB destination host (ホスト名) that is set in the scheduler service of the monitored object.

監視対象のスケジューラーサービスで設定されているRDB接続先ホスト (ホスト名) に接続できません。

監視対象のスケジューラーサービスで設定されている RDB 接続先ホストに接続できません。次の原因が考えられます。

- 監視対象のスケジューラーサービスで設定されている環境設定パラメーター「RDB 接続先ホスト名」の値が不正である。
- ネットワークに問題がある。

(S)

状態取得処理を中断します。

(O)

監視対象のスケジューラーサービスで設定されている、環境設定パラメーター「RDB 接続先ホスト名」の値を見直してください(監視先が JP1/AJS3・Manager の場合は、マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 3 構築ガイド 2.2 スケジューラーサービス環境設定」を、監視先が JP1/AJS2・Manager の場合、マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 2 セットアップガイド 4.1.3 スケジューラーファイルの構成を定義する」またはマニュアル「JP1/Automatic Job Management System 2 セットアップガイド 14.1.3 スケジューラーサービス環境設定パラメーターの定義内容」を参照してください)。

また、監視対象のスケジューラーサービスの環境設定パラメーター「RDB 接続先ホスト名」で設定されているホストと JP1/AJS3 WOA Web Application Server サービスが起動しているホストとの間で TCP/IP 通信に問題がないことを確認し、通信できない場合は、ハードウェアを含めたネットワークの設定を見直してください。問題が解決しない場合は、システム管理者に連絡して資料を採取してください(「8.4 資料の採取方法」を参照してください)。

付録

付録 A ファイルおよびフォルダ一覧

付録 B プロセス一覧

付録 C ポート番号一覧

付録 D 制限値一覧

付録 E 見積もり

付録 F 各バージョンの変更内容

付録 G このマニュアルの参考情報

付録 H 用語解説

付録 A ファイルおよびフォルダ一覧

JP1/AJS3 - Web Operation Assistant のファイルとフォルダを使用目的ごとに表に示します。

補足事項

ログのファイルおよびフォルダ一覧については、「8.2.2 ログファイルおよびフォルダ一覧」を参照してください。

表の見方

- ファイルおよびフォルダ一覧の各表では、次の略称を使用しています。
 - WOA_Path* : JP1/AJS3 - Web Operation Assistant インストール先フォルダ
 - SystemDrive* : システムドライブ
 - WOA_Web_Path* : JP1/AJS3 - Web Operation Assistant インストール先フォルダ
¥uCPSB¥CC¥web¥containers¥WOA¥webapps¥jp1ajs2woa
 - WOA_SSL_Path* : JP1/AJS3 - Web Operation Assistant インストール先フォルダ
¥uCPSB¥httpd¥ssl¥bin¥WOACA
- JP1/AJS3 - Web Operation Assistant のインストール先フォルダは、デフォルトでは「*SystemDrive¥Program Files¥Hitachi¥jp1ajs2woa*」です。

表 A-1 ユーザーが参照できるファイルおよびフォルダ一覧

内容	ファイル名・フォルダ名
実行ファイル格納フォルダ	• <i>WOA_Path¥bin</i>
環境設定ファイル格納フォルダ	• <i>WOA_Path¥conf</i>
ユーザー環境設定ファイル ¹	• <i>WOA_Path¥conf¥user.conf</i> ²
RDB 接続定義ファイル格納フォルダ	• <i>WOA_Path¥conf¥dbclient</i>
RDB 接続定義ファイル	• <i>WOA_Path¥conf¥dbclient¥RDBINF.conf.model</i>
readme ファイル	• <i>WOA_Path¥readme.txt</i>
ツールファイル格納フォルダ	• <i>WOA_Path¥tools</i>
サーバー秘密鍵	• <i>WOA_SSL_Path¥httpdkey.pem</i>
証明書発行要求	• <i>WOA_SSL_Path¥httpd.csr</i>
SSL サーバー証明書	• <i>WOA_SSL_Path¥newcert.pem</i>

注 1 編集するには、管理者権限が必要です。

注 2 ショートカットです。

表 A-2 ユーザーが参照または変更する必要のないファイルおよびフォルダ一覧

内容	ファイル名・フォルダ名
HTTP サーバーおよびアプリケーションサーバー格納フォルダ	• <i>WOA_Path¥uCPSB</i>
JP1/AJS3 - Web Operation Assistant 用システムファイルフォルダ	• <i>WOA_Path¥sys</i>

ユーザーが設定する定義ファイルは、ファイルをコピーするなど、任意の方法でバックアップしてください。

JP1/AJS3 - Web Operation Assistant のバックアップ対象ファイルを次の表に示します。

表 A-3 JP1/AJS3 - Web Operation Assistant のバックアップ対象ファイル

内容	ファイル名
[ユーザー環境設定] 設定情報 ¹	・ <i>WOA_Web_Path</i> ¥WEB-INF¥xml¥userconf.xml
構成定義ファイル ¹	・ <i>WOA_Path</i> ¥conf¥ajs2woa.conf
ユーザー環境設定ファイル ¹	・ <i>WOA_Web_Path</i> ¥conf¥user.conf
RDB 接続定義ファイル ¹	・ <i>WOA_Path</i> ¥conf¥dbclient¥RDBINF.conf ²

注 1 編集するには、管理者権限が必要です。

注 2 ファイアウォールを通過するためのセットアップをしている場合、バックアップの対象になります。

付録 B プロセス一覧

JP1/AJS3 - Web Operation Assistant は、HTTP Server 機能、Application Server 機能を使用して実行され、次に示す 4 種類のプロセスで構成されます。

- 親プロセス
親プロセスは、幾つかの子プロセスで構成されます。
- 子プロセス
子プロセスは、幾つかのユーティリティ起動プロセスを起動します。
- ユーティリティ起動プロセス
ユーティリティ起動プロセスは、ユーティリティプロセスを起動します。
- ユーティリティプロセス

次の表にプロセス一覧を示します。なお、表中の親プロセス名と子プロセス名の後ろに記載されている値は、同時に起動できるプロセス数です。

これらのプロセスは次に示すサービスを起動した場合に起動されます。

- JP1/AJS3 WOA Web Application Server
- JP1/AJS3 WOA HTTP Server

表 B-1 JP1/AJS3 - Web Operation Assistant の親プロセスおよび子プロセス一覧

親プロセス名 (プロセス数)	機能	子プロセス名 (プロセス数)	機能
ajswaoscm.exe(1)	JP1/AJS3 WOA Web Application Server サービス (常駐プロセス)	cjstartweb.exe(1)	サブレットサービス (常駐プロセス)
		cjstopweb.exe(1) ²	サブレットサービスの停止 (非常駐プロセス)
httpsd.exe(1) ¹	JP1/AJS3 WOA HTTP Server サービス (常駐プロセス)	httpsd.exe(1) ¹	Web サービス (常駐プロセス)

注 1 JP1/AJS3 WOA HTTP Server サービスのプロセスは、二重起動されます。

注 2 JP1/AJS3 WOA Web Application Server サービスの停止時に起動され、JP1/AJS3 WOA Web Application Server サービスの停止を待たずに即時終了します。

HTTP Server 機能、Application Server 機能のプロセス状態は、[タスクマネージャ] ウィンドウの [プロセス] タブで確認できます。

表 B-2 JP1/AJS3 - Web Operation Assistant の子プロセスおよびユーティリティ起動プロセス一覧

子プロセス名	ユーティリティ起動プロセス名	機能
httpsd.exe	cmd.exe	Web サービス用のログ分割ユーティリティを Windows 上で起動
	cmd.exe	Web サービス用のログ分割ユーティリティを Windows 上で起動

注 保守用のログを分割するためのユーティリティが起動されます。2 種類のログに対してユーティリティを使用するため二つ起動されます。

表 B-3 JP1/AJS3 - Web Operation Assistant のユーティリティ起動プロセスおよびユーティリティプロセス一覧

ユーティリティ起動プロセス名	ユーティリティプロセス名	機能
cmd.exe	rotatelogs.exe	Web サービス用のログ分割ユーティリティ
cmd.exe	rotatelogs.exe	Web サービス用のログ分割ユーティリティ

注 各ユーティリティ起動プロセスからそれぞれユーティリティプロセスが起動されます。

付録 C ポート番号一覧

JP1/AJS3 - Web Operation Assistant で使用するポート番号とファイアウォールを通過するための方向について次の表に示します。

表 C-1 JP1/AJS3 - Web Operation Assistant で使用するポート番号とファイアウォールを通過するための方向

サービス名	ポート番号	用途	ファイアウォールの通過方向
jp1ajs2monitor	20244/tcp	<ul style="list-style-type: none"> 状態取得時に JP1/AJS3 - Web Operation Assistant からの検索要求受け付けに使用する監視先の JP1/AJS3 - Manager または JP1/AJS2 - Manager 上のポート番号と同一のポート 一覧表からの操作時に JP1/AJS3 - Web Operation Assistant からの操作実行要求受け付けに使用する JP1/AJS3 - Manager または JP1/AJS2 - Manager 上のポート番号と同一のポート 	JP1/AJS3 - Web Operation Assistant JP1/AJS3 - Manager または JP1/AJS2 - Manager
jp1ajs2woaweb	20336/tcp	Web ブラウザーから JP1/AJS3 - Web Operation Assistant サーバへの接続要求受け付けに使用するポート	Web ブラウザー JP1/AJS3 - Web Operation Assistant
jp1ajs2woastart	20337/tcp	アプリケーションサーバーの起動要求受け付けに使用するポート	同一サーバー内
jp1ajs2woastop	20338/tcp	アプリケーションサーバーの停止要求受け付けに使用するポート	同一サーバー内
jp1ajs2woassl	20339/tcp	SSL 通信での Web ブラウザーから JP1/AJS3 - Web Operation Assistant サーバへの接続要求受け付けに使用するポート	Web ブラウザー JP1/AJS3 - Web Operation Assistant

注

jp1ajs2monitor は、デフォルトではポート番号 20244 で services ファイルに定義されます。このポート番号は、監視先の JP1/AJS3 - Manager または JP1/AJS2 - Manager ホストで定義されている jp1ajs2monitor と一致させる必要があります。監視先の JP1/AJS2 - Manager とポート番号が異なる場合は一致するように設定してください。JP1/AJS3 - Manager の jp1ajs2monitor についてはマニュアル「JP1/Automatic Job Management System 3 設計ガイド (システム構築編)」にある、ポート番号一覧の説明を参照してください。JP1/AJS2 - Manager の jp1ajs2monitor についてはマニュアル「JP1/Automatic Job Management System 2 設計・運用ガイド」にある、ポート番号一覧の説明を参照してください。

JP1/AJS3 - Web Operation Assistant が使用する JP1/Base の認証サーバーを、JP1/AJS3 - Web Operation Assistant と異なるホストに設置している場合に、JP1/Base で使用されるポート番号とファイアウォールを通過するための方向について次の表に示します。

表 C-2 認証サーバーとの通信で使用するポート番号とファイアウォールを通過するための方向

サービス名	ポート番号	用途	ファイアウォールの通過方向
jp1bsuser	20240/tcp	<ul style="list-style-type: none"> JP1/AJS3 - Web Operation Assistant からの、ログインにおける認証要求受け付けに使用する認証サーバー上のポート番号と同一のポート JP1/AJS3 - Web Operation Assistant からの、状態取得における JP1 資源グループのアクセス権限チェック要求受け付けに使用する認証サーバー上のポート番号と同一のポート 	JP1/AJS3 - Web Operation Assistant JP1/Base (認証サーバー)

監視先のスケジューラーデータベースが組み込み DB または HiRDB で、JP1/AJS3 - Web Operation Assistant との間にファイアウォール (パケットフィルタリングおよび NAT) が存在する場合は、RDB 接続定義ファイルの設定が必要です。RDB 接続定義ファイルの設定方法については、「3.8.3 JP1/AJS3 - Web Operation Assistant 側の設定」を参照してください。

RDB 接続定義ファイルで指定するポート番号およびファイアウォールを通過するための方向について次の表に示します。

表 C-3 RDB 接続定義ファイルで指定するポート番号とファイアウォールの通過方向

RDB 接続定義パラメーター	ポート番号	用途および内容	ファイアウォールの通過方向
PDSERVICEPORT	任意	状態取得時に JP1/AJS3 - Web Operation Assistant からの検索要求受け付けに使用する監視先組み込み DB または HiRDB サーバ上のポート番号と同一のポート	JP1/AJS3 - Web Operation Assistant 監視先スケジューラーサービスの組み込み DB または HiRDB
PDCLTRCVPORT	任意	状態取得時に監視先組み込み DB または HiRDB サーバからの検索結果データ受信に使用するポート	監視先スケジューラーサービスの組み込み DB または HiRDB JP1/AJS3 - Web Operation Assistant

付録 D 制限値一覧

JP1/AJS3 - Web Operation Assistant の制限値を次の表に示します。

表 D-1 制限値一覧

項目	制限値
一つのスケジューラーサービスを監視する JP1/AJS3 - Web Operation Assistant 数	1
一つ Web ブラウザーから一度に指定できる監視対象スケジューラーサービス数	10

注

ユーザー環境設定パラメーターの OBSERVE_NUM で指定します。監視対象スケジューラーサービスは、JP1/AJS3 - Manager または JP1/AJS2 - Manager のホスト名、スケジューラーサービス名、ユニット名を組み合わせで指定します。

付録 E 見積もり

JP1/AJS3 - Web Operation Assistant の運用に必要な資源の見積もりについて説明します。

付録 E.1 JP1/AJS3 - Web Operation Assistant の処理性能を見積もる

JP1/AJS3 - Web Operation Assistant で状態取得を行った場合、その状態取得性能には次の処理が影響します。

- JP1/AJS3 - Manager または JP1/AJS2 - Manager での処理時間
- JP1/AJS3 - Web Operation Assistant での処理時間
- JP1/AJS3 - Manager または JP1/AJS2 - Manager , JP1/AJS3 - Web Operation Assistant , 状態監視用 Web ブラウザー間のデータ転送時間
- 状態監視用 Web ブラウザーの描画時間

上記処理時間は特に状態が取得されるユニット数、および状態が表示されるユニット数に左右されます。

(1) 状態取得時間の見積もり

JP1/AJS3 - Web Operation Assistant の状態取得時間（状態取得開始から全取得情報が画面に表示されるまでの時間）は、次の式で近似値を算出できます。

状態取得時間 = a + b

a :

次の時間の総和。

- JP1/AJS3 - Manager または JP1/AJS2 - Manager での処理時間
- JP1/AJS3 - Web Operation Assistant での処理時間
- JP1/AJS3 - Manager または JP1/AJS2 - Manager , JP1/AJS3 - Web Operation Assistant , 状態監視用 Web ブラウザー間のデータ転送時間

b :

状態監視用 Web ブラウザーの描画時間。

a の処理時間（単位：秒）は次の式で近似値を算出できます。

- 監視対象スケジューラサービスのデータベース種別が ISAM の場合
 $(8 * \text{状態が取得されるユニット数}) / 1000 + 3$
- 監視対象スケジューラサービスのデータベース種別が組み込み DB または HiRDB の場合
 $2 + (3 * \text{監視対象ユニットに含まれるジョブグループ数} + 60 * \text{監視対象ユニットに含まれるルートジョブネット数} + 0.8 * \text{状態が取得されるユニット数}) / 1000$

b の処理時間（単位：秒）は Web ブラウザーの処理性能に依存し、表示されるユニットの件数によって変化します。次の式または表から近似値を求めることができます。

- JP1/AJS3 - Web Operation Assistant で状態が表示されるユニット数が 0 ~ 1,000 件の場合
 $(13 * \text{状態が表示されるユニット数}) / 1000$
- JP1/AJS3 - Web Operation Assistant で状態が表示されるユニット数が 1,000 件以上の場合
 近似値を次の表に示します。

表 E-1 表示されるユニット数が 1,000 件を超える場合の Web ブラウザー描画時間の見積もり値 (Web ブラウザーが Internet Explorer の場合)

状態が表示されるユニット数	Web ブラウザー描画時間 b (単位: 秒)	
	Internet Explorer 8 より前	Internet Explorer 8 以降
1,000	13	13
3,000	100	45
5,000	250	90
8,000	500	150
10,000	850	250

表 E-2 表示されるユニット数が 1,000 件を超える場合の Web ブラウザー描画時間の見積もり値 (Web ブラウザーが Firefox の場合)

状態が表示されるユニット数	Web ブラウザー描画時間 b (単位: 秒)
1,000	13
3,000	40
5,000	70
8,000	100
10,000	150

注

各処理時間は、JP1/AJS3 - Manager インストールマシンまたは JP1/AJS2 - Manager インストールマシン、JP1/AJS3 - Web Operation Assistant インストールマシン、状態監視用 Web ブラウザー使用マシンの性能およびマシン間のデータ転送速度によっても左右されます。

(2) 推奨構成

JP1/AJS3 - Manager または JP1/AJS2 - Manager と JP1/AJS3 - Web Operation Assistant を同一マシンにインストールし、さらに同じマシンから Web ブラウザーを使用した状態監視を行うと、JP1/AJS3 - Manager または JP1/AJS2 - Manager での処理時間、JP1/AJS3 - Web Operation Assistant での処理時間、データ転送時間、描画時間が長くなり、JP1/AJS3 - Manager または JP1/AJS2 - Manager からの応答時間が長くなってしまいます。JP1/AJS3 - Manager または JP1/AJS2 - Manager からの応答時間を短くするために、JP1/AJS3 - Manager または JP1/AJS2 - Manager と JP1/AJS3 - Web Operation Assistant をそれぞれ別マシンにインストールし、状態監視用 Web ブラウザーからの状態監視もまた、別マシンで行うことをお勧めします。

(3) 推奨状態取得方法

状態取得条件設定フレームで表示方法に「分割」を選択した場合で、状態が取得されるユニット数よりも分割表示件数が少ないとき、状態取得時間は、同じ状態が取得されるユニット数で一括表示を選択した状態取得を実施するよりも短くなります。大量のユニットに対して状態取得を実施する場合は、表示方法に「分割」を選択することをお勧めします。また、快適な状態取得を行うための状態取得方法を、表示別に次に示します。

(a) 一括表示

状態取得条件設定フレームで表示方法に「一括表示」を選択した場合で、状態取得を快適に行うには、状態が取得されるユニット数が 1 ~ 1000 程度となるようにしてください。状態が取得されるユニット数を

0 ~ 1000 として状態取得を行った場合、状態取得時間は 1 ~ 41 秒程度です。

注

状態取得時間は「(1) 状態取得時間の見積もり」の式から算出された値です。

(b) 分割表示

状態取得条件設定フレームで表示方法に「分割」を選択した場合、分割表示件数が少ないほど状態取得時間が短くなります。大量のユニット に対して状態取得を実施する場合は、分割表示件数を少なくすることをお勧めします。

注

状態取得の対象となる全体のユニット数が大量にある場合、分割表示をしたときでも、JP1/AJS3 - Web Operation Assistant での処理時間が長くなり、Web ブラウザーの応答時間が長くなる可能性があります。

状態取得の対象ユニット数は、10,000 件以内になるように運用することをお勧めします。

(4) 推奨同時接続 Web ブラウザー数

- 一つの JP1/AJS3 - Web Operation Assistant に多数の Web ブラウザーから接続すると、JP1/AJS3 - Web Operation Assistant での処理時間が長くなり、Web ブラウザーの応答時間が長くなる場合があります。一つの JP1/AJS3 - Web Operation Assistant に接続する Web ブラウザーの最大接続数を 32 程度として運用することをお勧めします。
- 複数の Web ブラウザーから同じ JP1/AJS3 - Manager または JP1/AJS2 - Manager を同時に監視すると、監視先の JP1/AJS3 - Manager または JP1/AJS2 - Manager およびネットワークに対する負荷が非常に大きくなります。同一の JP1/AJS3 - Manager または JP1/AJS2 - Manager に監視が集中しないようにしてください。複数の Web ブラウザーから同じ JP1/AJS3 - Manager または JP1/AJS2 - Manager を監視する場合は、各 JP1/AJS3 - Web Operation Assistant の画面を自動更新しないように設定するか、自動更新間隔を 600 秒以上に設定してください。

付録 E.2 システム性能を見積もる

(1) メモリー所要量を見積もる

JP1/AJS3 - Web Operation Assistant のメモリー所要量については、リリースノートを参照してください。

(2) ディスク占有量を見積もる

JP1/AJS3 - Web Operation Assistant のディスク占有量については、リリースノートを参照してください。

付録 E.3 グローバルバッファを見積もる

(1) グローバルバッファ面数の見積もり

組み込み DB または HiRDB で設定するグローバルバッファの面数は、次の式から見積もってください。

$$\text{バッファ面数} = x * 1520 / 100000 + y$$

x : ユニット状態 (AJSSTAT) テーブルのレコード数

y : 変更前のグローバルバッファ面数

ユニット状態 (AJSSTAT) テーブルのレコード数は、運用条件で想定される最大レコード数としてください。1 個の登録済みルートジョブネットあたりに必要なレコード数は、「(ルートジョブネットおよび下層のネストジョブネット・ジョブの総数) * (保存世代数 + 確定実行登録した予定世代数 + 1)」(保存世代数には、起動条件成立によって生成された枝実行世代数も含まれます) です。

(2) 共用メモリー所要量の見積もり

グローバルバッファを拡張すると、共用メモリーの所要量が増加します。共用メモリー所要量の増分は次の式から見積もってください。

共用メモリーの増分 = $(x - y) * 6516 / 1520$ (キロバイト)

x : 変更後のグローバルバッファ面数

y : 変更前のグローバルバッファ面数

監視先が JP1/AJS2 - Manager の場合、組み込み DB または HiRDB が使用するグローバルバッファ用の共用メモリーセグメントの最大サイズが、システム共通定義の SHMMAX オペランドによって設定されます。

上記の見積もりで算出した共用メモリー所要量の増分値を、SHMMAX オペランドの設定値に加算してください。

SHMMAX オペランドの詳細については次に示すマニュアルを参照してください。

(組み込み DB の場合)

使用している JP1/AJS2 - Manager のバージョンが 08-00 以降の場合は、マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 2 設計・運用ガイド」、07-50 以前の場合はマニュアル「JP1 組み込みデータベース 操作ガイド」を参照してください。

(HiRDB の場合)

マニュアル「HiRDB システム定義」を参照してください。

付録 F 各バージョンの変更内容

各バージョンでの変更内容を次に示します。

付録 F.1 10-00 での変更内容

- クライアントマシンの前提 OS に Windows 7 をサポートした。
- Windows Server 2008 環境の JP1/AJS3 - Web Operation Assistant を使用するクライアントで IPv6 環境を使用できるようにした。
- 自己署名証明書の作成ができなくなった。
- 監視対象ユニット名の入力フィールド幅を変更できるようにした。

付録 F.2 09-50 での変更内容

- Mozilla(R) Firefox(R) に対応した。
- JP1/AJS3 の先行ユニット待ち合わせ機能に対応した。
- JP1/AJS3 の引き継ぎ情報設定ジョブに対応した。
- メッセージの説明を変更した。
- 状態取得の対象となるユニットが大量にある場合の注意事項を追加した。

付録 F.3 09-00 での変更内容

- `ajswaoasslc` コマンドの管理者権限チェックに対応した。

付録 F.4 08-50 での変更内容

- Windows Server 2008 をサポートした。
- ジョブネットコネクタを表示できるようにした。
- ジョブの終了遅延の状態を表示できるようにした。

付録 F.5 08-00 での変更内容

- 状態確認フレームを追加し、操作の実行結果とその操作によって変化したユニットの状態を表示できるようにした。
- 監視対象スケジューラサービスのデータベース種別が組み込み DB または HiRDB で、監視対象スケジューラサービスと JP1/AJS2 - Web Operation Assistant の間にファイアウォールが存在しても接続できるようにした。

付録 F.6 07-50 での変更内容

- 状態一覧フレームから次に示す操作を実行できるようにした。
 - 日時変更
 - 変更解除
 - 遅延監視変更
 - ジョブ状態変更
 - 中断
- 状態一覧表の表示項目に次に示す表示列を追加した。
 - 計画一時変更

- 開始遅延日時
- 終了遅延日時

付録 F.7 07-10 での変更内容

- 使用上の注意事項を追加した。
- メッセージの説明を変更した。
- ファイアウォールを通過するための方向についての説明を追加した。
- システム性能の見積もり方法を追加した。
- 監視対象となるスケジューラサービスの DB 種別による機能差異に、起動条件ジョブネット (.CONDITION) 配下のイベントジョブが、起動条件を使用しない設定で実行登録された場合とサスペンド中にユニットが追加された場合についての差異を追加した。

付録 G このマニュアルの参考情報

付録 G.1 関連マニュアル

関連マニュアルを次に示します。必要に応じてお読みください。

JP1 / AJS3 関連

- JP1 Version 10 JP1/Automatic Job Management System 3 入門 (3021-3-101)
- JP1 Version 10 JP1/Automatic Job Management System 3 導入ガイド (3021-3-102)
- JP1 Version 10 JP1/Automatic Job Management System 3 設計ガイド (システム構築編) (3021-3-103)
- JP1 Version 10 JP1/Automatic Job Management System 3 設計ガイド (業務設計編) (3021-3-104)
- JP1 Version 10 JP1/Automatic Job Management System 3 構築ガイド 1 (3021-3-105)
- JP1 Version 10 JP1/Automatic Job Management System 3 構築ガイド 2 (3021-3-106)
- JP1 Version 10 JP1/Automatic Job Management System 3 運用ガイド (3021-3-107)
- JP1 Version 10 JP1/Automatic Job Management System 3 トラブルシューティング (3021-3-108)
- JP1 Version 10 JP1/Automatic Job Management System 3 操作ガイド (3021-3-109)
- JP1 Version 10 JP1/Automatic Job Management System 3 コマンドリファレンス 1 (3021-3-110)
- JP1 Version 10 JP1/Automatic Job Management System 3 コマンドリファレンス 2 (3021-3-111)
- JP1 Version 10 JP1/Automatic Job Management System 3 連携ガイド (3021-3-112)
- JP1 Version 10 JP1/Automatic Job Management System 3 メッセージ 1 (3021-3-113)
- JP1 Version 10 JP1/Automatic Job Management System 3 メッセージ 2 (3021-3-114)
- JP1 Version 9 JP1/Automatic Job Management System 3 入門 (3020-3-S01)
- JP1 Version 9 JP1/Automatic Job Management System 3 導入ガイド (3020-3-S02)
- JP1 Version 9 JP1/Automatic Job Management System 3 設計ガイド (システム構築編) (3020-3-S03)
- JP1 Version 9 JP1/Automatic Job Management System 3 設計ガイド (業務設計編) (3020-3-S04)
- JP1 Version 9 JP1/Automatic Job Management System 3 構築ガイド 1 (3020-3-S05)
- JP1 Version 9 JP1/Automatic Job Management System 3 構築ガイド 2 (3020-3-S06)
- JP1 Version 9 JP1/Automatic Job Management System 3 運用ガイド (3020-3-S07)
- JP1 Version 9 JP1/Automatic Job Management System 3 トラブルシューティング (3020-3-S08)
- JP1 Version 9 JP1/Automatic Job Management System 3 操作ガイド (3020-3-S09)
- JP1 Version 9 JP1/Automatic Job Management System 3 コマンドリファレンス 1 (3020-3-S10)
- JP1 Version 9 JP1/Automatic Job Management System 3 コマンドリファレンス 2 (3020-3-S11)
- JP1 Version 9 JP1/Automatic Job Management System 3 連携ガイド (3020-3-S12)
- JP1 Version 9 JP1/Automatic Job Management System 3 メッセージ 1 (3020-3-S13)
- JP1 Version 9 JP1/Automatic Job Management System 3 メッセージ 2 (3020-3-S14)

JP1 / AJS2 関連

- JP1 Version 8 JP1/Automatic Job Management System 2 解説 (3020-3-K21)
- JP1 Version 8 JP1/Automatic Job Management System 2 設計・運用ガイド (3020-3-K22)
- JP1 Version 8 JP1/Automatic Job Management System 2 セットアップガイド (3020-3-K23)
- JP1 Version 8 JP1/Automatic Job Management System 2 操作ガイド (3020-3-K24)
- JP1 Version 8 JP1/Automatic Job Management System 2 コマンドリファレンス (3020-3-K25)
- JP1 Version 8 JP1/Automatic Job Management System 2 連携ガイド (3020-3-K27)

- JP1 Version 8 JP1/Automatic Job Management System 2 メッセージ (3020-3-K28)

JP1 関連

- JP1 Version 10 JP1/Integrated Management - Manager 導入・設計ガイド (3021-3-007)
- JP1 Version 10 JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド (3021-3-008)
- JP1 Version 10 JP1/Integrated Management - Manager 運用ガイド (3021-3-009)
- JP1 Version 10 JP1/Integrated Management - Manager 画面リファレンス (3021-3-010)
- JP1 Version 10 JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス (3021-3-011)
- JP1 Version 10 JP1/Integrated Management - Manager メッセージ (3021-3-012)
- JP1 Version 10 JP1/Base 運用ガイド (3021-3-001)
- JP1 Version 10 JP1/Base メッセージ (3021-3-002)
- JP1 Version 10 JP1/Base 関数リファレンス (3021-3-003)
- JP1 Version 9 JP1/Integrated Management - Manager 導入・設計ガイド (3020-3-R76)
- JP1 Version 9 JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド (3020-3-R77)
- JP1 Version 9 JP1/Integrated Management - Manager 運用ガイド (3020-3-R78)
- JP1 Version 9 JP1/Integrated Management - Manager 画面リファレンス (3020-3-R79)
- JP1 Version 9 JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス (3020-3-R80)
- JP1 Version 9 JP1/Integrated Management - Manager メッセージ (3020-3-R81)
- JP1 Version 9 JP1/Base 運用ガイド (3020-3-R71)
- JP1 Version 9 JP1/Base メッセージ (3020-3-R72)
- JP1 Version 9 JP1/Base 関数リファレンス (3020-3-R73)
- JP1 Version 8 JP1/Integrated Management - Manager システム構築・運用ガイド (3020-3-K01)
- JP1 Version 8 JP1/Integrated Management - Manager リファレンス (3020-3-K02)
- JP1 Version 8 JP1/Integrated Management - Manager 機能拡張 (3020-3-K03)
- JP1 Version 8 JP1/Integrated Management - Central Information Master システム構築・運用ガイド (3020-3-K04)
- JP1 Version 8 JP1/Integrated Management - Central Information Master リファレンス (3020-3-K05)
- JP1 Version 8 JP1/Base 運用ガイド (3020-3-K06)
- JP1 Version 8 JP1/Base メッセージ (3020-3-K07)
- JP1 Version 8 JP1/Base 機能拡張 (3020-3-K08)
- JP1 Version 7i JP1 組み込みデータベース 操作ガイド (3020-3-F14)
- JP1 Version 7i JP1 組み込みデータベース メッセージ (3020-3-F15)

その他

- HiRDB Version 7 解説 (UNIX(R) 用)(3000-6-271)
- HiRDB Version 7 システム導入・設計ガイド (UNIX(R) 用)(3000-6-272)
- HiRDB Version 7 システム定義 (UNIX(R) 用)(3000-6-273)
- HiRDB Version 7 システム運用ガイド (UNIX(R) 用)(3000-6-274)
- HiRDB Version 7 コマンドリファレンス (UNIX(R) 用)(3000-6-275)
- HiRDB Version 7 メッセージ (UNIX(R)/Windows(R) 用)(3000-6-278)
- HiRDB Version 7 解説 (Windows(R) 用)(3020-6-271)
- HiRDB Version 7 システム導入・設計ガイド (Windows(R) 用)(3020-6-272)
- HiRDB Version 7 システム定義 (Windows(R) 用)(3020-6-273)
- HiRDB Version 7 システム運用ガイド (Windows(R) 用)(3020-6-274)

- HiRDB Version 7 コマンドリファレンス (Windows(R) 用)(3020-6-275)
- HiRDB Version 7 メッセージ (Windows(R) 用)(3020-6-278)
- HiRDB Version 6 解説 (UNIX(R) 用)(3000-6-231)
- HiRDB Version 6 システム導入・設計ガイド (UNIX(R) 用)(3000-6-232)
- HiRDB Version 6 システム定義 (UNIX(R) 用)(3000-6-233)
- HiRDB Version 6 システム運用ガイド (UNIX(R) 用)(3000-6-234)
- HiRDB Version 6 コマンドリファレンス (UNIX(R) 用)(3000-6-235)
- HiRDB Version 6 メッセージ (UNIX(R)/Windows(R) 用)(3000-6-238)
- HiRDB Version 6 解説 (Windows(R) 用)(3020-6-121)
- HiRDB Version 6 システム導入・設計ガイド (Windows(R) 用)(3020-6-122)
- HiRDB Version 6 システム定義 (Windows(R) 用)(3020-6-123)
- HiRDB Version 6 システム運用ガイド (Windows(R) 用)(3020-6-124)
- HiRDB Version 6 コマンドリファレンス (Windows(R) 用)(3020-6-125)
- HiRDB Version 6 メッセージ (Windows(R) 用)(3020-6-128)
- HiRDB Version 5.0 解説 (UNIX(R) 用)(3000-6-201)
- HiRDB Version 5.0 システム導入・設計ガイド (UNIX(R) 用)(3000-6-202)
- HiRDB Version 5.0 システム定義 (UNIX(R) 用)(3000-6-203)
- HiRDB Version 5.0 システム運用ガイド (UNIX(R) 用)(3000-6-204)
- HiRDB Version 5.0 コマンドリファレンス (UNIX(R) 用)(3000-6-205)
- HiRDB Version 5.0 メッセージ (UNIX(R)/Windows(R) 用)(3000-6-208)
- HiRDB Version 5.0 解説 (Windows(R) 用)(3020-6-111)
- HiRDB Version 5.0 システム導入・設計ガイド (Windows(R) 用)(3020-6-112)
- HiRDB Version 5.0 システム定義 (Windows(R) 用)(3020-6-113)
- HiRDB Version 5.0 システム運用ガイド (Windows(R) 用)(3020-6-114)
- HiRDB Version 5.0 コマンドリファレンス (Windows(R) 用)(3020-6-115)
- HiRDB Version 5.0 メッセージ (Windows(R) 用)(3020-6-118)

このマニュアルでは、HiRDB 関連マニュアルについて、対象 OS およびバージョン番号を省略して表記しています。マニュアルの正式名称とこのマニュアルでの表記を次の表に示します。

正式名称	このマニュアルでの表記
HiRDB Version 7 解説 (UNIX(R) 用)	HiRDB 解説
HiRDB Version 7 解説 (Windows(R) 用)	
HiRDB Version 6 解説 (UNIX(R) 用)	
HiRDB Version 6 解説 (Windows(R) 用)	
HiRDB Version 5.0 解説 (UNIX(R) 用)	
HiRDB Version 5.0 解説 (Windows(R) 用)	
HiRDB Version 7 システム導入・設計ガイド (UNIX(R) 用)	HiRDB システム導入・設計ガイド
HiRDB Version 7 システム導入・設計ガイド (Windows(R) 用)	
HiRDB Version 6 システム導入・設計ガイド (UNIX(R) 用)	
HiRDB Version 6 システム導入・設計ガイド (Windows(R) 用)	
HiRDB Version 5.0 システム導入・設計ガイド (UNIX(R) 用)	
HiRDB Version 5.0 システム導入・設計ガイド (Windows(R) 用)	

正式名称	このマニュアルでの表記
HiRDB Version 7 システム定義 (UNIX(R) 用)	HiRDB システム定義
HiRDB Version 7 システム定義 (Windows(R) 用)	
HiRDB Version 6 システム定義 (UNIX(R) 用)	
HiRDB Version 6 システム定義 (Windows(R) 用)	
HiRDB Version 5.0 システム定義 (UNIX(R) 用)	
HiRDB Version 5.0 システム定義 (Windows(R) 用)	
HiRDB Version 7 システム運用ガイド (UNIX(R) 用)	HiRDB システム運用ガイド
HiRDB Version 7 システム運用ガイド (Windows(R) 用)	
HiRDB Version 6 システム運用ガイド (UNIX(R) 用)	
HiRDB Version 6 システム運用ガイド (Windows(R) 用)	
HiRDB Version 5.0 システム運用ガイド (UNIX(R) 用)	
HiRDB Version 5.0 システム運用ガイド (Windows(R) 用)	
HiRDB Version 7 コマンドリファレンス (UNIX(R) 用)	HiRDB コマンドリファレンス
HiRDB Version 7 コマンドリファレンス (Windows(R) 用)	
HiRDB Version 6 コマンドリファレンス (UNIX(R) 用)	
HiRDB Version 6 コマンドリファレンス (Windows(R) 用)	
HiRDB Version 5.0 コマンドリファレンス (UNIX(R) 用)	
HiRDB Version 5.0 コマンドリファレンス (Windows(R) 用)	
HiRDB Version 7 メッセージ (UNIX(R)/Windows(R) 用)	HiRDB メッセージ
HiRDB Version 7 メッセージ (Windows(R) 用)	
HiRDB Version 6 メッセージ (UNIX(R)/Windows(R) 用)	
HiRDB Version 6 メッセージ (Windows(R) 用)	
HiRDB Version 5.0 メッセージ (UNIX(R)/Windows(R) 用)	
HiRDB Version 5.0 メッセージ (Windows(R) 用)	

付録 G.2 このマニュアルでの表記

このマニュアルでは、日立製品およびそのほかの製品の名称を省略して表記しています。また、英略語を使用しています。このマニュアルでの表記と正式名称を次の表に示します。

このマニュアルでの表記			正式名称
JP1/AJS	JP1/AJS3	JP1/AJS3 - Manager	JP1/Automatic Job Management System 3 - Manager
		JP1/AJS3 - Agent	JP1/Automatic Job Management System 3 - Agent
		JP1/AJS3 - View	JP1/Automatic Job Management System 3 - View
	JP1/AJS2	JP1/AJS2 - Manager	JP1/Automatic Job Management System 2 - Manager
		JP1/AJS2 - Agent	JP1/Automatic Job Management System 2 - Agent
		JP1/AJS2 - View	JP1/Automatic Job Management System 2 - View
JP1/AJS2 - Advanced Manager			JP1/Automatic Job Management System 2 - Advanced Manager

このマニュアルでの表記		正式名称
JP1/AJS2 - Light Edition		JP1/Automatic Job Management System 2 - Light Edition
JP1/AJS2 - Client Toolkit		JP1/Automatic Job Management System 2 - Client Toolkit
JP1/AJS3 - Web Operation Assistant		JP1/Automatic Job Management System 3 - Web Operation Assistant
JP1/AJS2 - Web Operation Assistant		JP1/Automatic Job Management System 2 - Web Operation Assistant
JP1/IM	JP1/IM - Manager	JP1/Integrated Management - Manager
	JP1/IM - View	JP1/Integrated Management - View
		JP1/Integrated Manager - View
	JP1/IM - Central Console	JP1/Integrated Manager - Central Console
	JP1/IM - Central Scope	JP1/Integrated Manager - Central Scope
JP1/IM - CM	JP1/Integrated Management - Central Information Master	
	JP1/Integrated Manager - Central Information Master	
JP1/IM - Planning Operation		JP1/Integrated Management - Planning Operation
Firefox	Mozilla Firefox	Mozilla(R) Firefox(R)

注 バージョン 7 の製品です。

付録 G.3 このマニュアルで使用する英語略

このマニュアルで使用する英語略を次に示します。

英語略	正式名称
DB	Database
DNS	Domain Name System
FQDN	Fully Qualified Domain Name
ISAM	Indexed Sequential Access Method
JIS	Japanese Industrial Standard code
NAT	Network Address Translator
OS	Operating System
PC	Personal Computer
RDB	Relational Database
TCP/IP	Transmission Control Protocol/Internet Protocol
UAC	User Account Control
WWW	World Wide Web

付録 G.4 コマンドの文法に使用する記号

コマンド、およびパラメーターの説明で使用する記号を次の表に示します。

記号	意味と例
 (ストローク)	複数の項目に対して項目間の区切りを示し、「または」の意味を示します。 (例) 「A B C」は、「A, B, または C」を示します。
{ } (波括弧)	この記号で囲まれている複数の項目の中から、一組の項目を必ず選択します。項目と項目の区切りは「 」で示します。 (例) 「{A B C}」は、「A, B, または C のどれかを必ず指定する」ことを示します。
[] (角括弧)	この記号で囲まれている項目は、任意に指定できます (省略できます)。 (例) 「[A]」は、「必要に応じて A を指定する」ことを示します (必要でない場合は、A を省略できます)。 「[B C]」は、「必要に応じて B, または C を指定する」ことを示します (必要でない場合は、B および C を省略できます)。
... (点線)	この記号の直前に示された項目を繰り返して複数指定できます。なお、項目を複数指定する場合は、項目の区切りに 1 バイトの空白文字 (半角スペース) を使用します。 (例) 「A B...」は、「A のあとに、B を複数指定できる」ことを示します。
_ (下線)	括弧で囲まれているすべての項目を省略したときに、システムが採用する値を示します。 (例) 「[_ B]」は、「A および B を指定しなかった場合、システムは A を採用する」ことを示します。
~ (波記号)	この記号の前に示された項目が、記号 ~ に続く <>, (()), 《 》などの規則に従わなければならないことを示します。
(角括弧)	指定できる文字や構文要素などを示します。 文字 漢字, かたかな, 英大文字, 英小文字, 数字の集まり。 数字 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 英字 A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z ¥ # @ 英数字 英字および数字。 記号名称 英字で始まる 8 文字以内の英数字。 符号なし整数 数字または数字の集まり。 16 進数字 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 A B C D E F ファイル名 ファイルに付ける、システムが規定している名称。 パス名 パスを構成するフォルダを、「¥」で区切って並べた名称。
(()) (二重括弧)	指定できる値の範囲を示します。
《 》 (二重角括弧)	省略したときにシステムが仮定する値を示します。 例 帳票保存日数 ~ 数字 ((0 ~ 365)) 《365》を省略すると、帳票保存日数として "365" を指定したことになります。

付録 H 用語解説

(英字)

JP1/Base

イベントサービス機能を提供するプログラムです。サービスの起動順序を制御したり、JP1 イベントを送受信したりできます。また、JP1/Base は、JP1/IM、JP1/AJS3、および JP1/Power Monitor の前提プログラムです。JP1/IM、および JP1/AJS3 を使ったシステムを導入する場合、JP1 ユーザーの操作を制限する機能を提供します。

JP1 ユーザー

JP1/AJS3 または JP1/IM を使用するときのユーザー名です。JP1 ユーザーとして認証サーバに登録すると、管理対象（資源）へのアクセスが制御されます。

(ア行)

打ち切り時間

ジョブを実行したとき、ジョブからの応答がなかったり終了しなかったりした場合に、ジョブを強制的に打ち切るまでの時間です。

運用日

ジョブネットを実行する日です。

(カ行)

環境設定パラメーター

JP1/AJS3 の運用に必要な各種情報を定義するためのパラメーターで、環境設定ファイルの中に記述します。例えば、JP1/AJS3 のユニット情報を格納するディレクトリを指定したり、syslog メッセージの出力の可否を指定したりします。

環境設定ファイル

スケジューラーサービスの環境やジョブの実行環境など、JP1/AJS3 の運用に必要な情報を設定するファイルです。

クラスタシステム

クラスタシステムとは、複数のサーバシステムを連携して一つのシステムとして運用するシステムで、障害が発生しても業務を継続できるようにすることを目的としています。業務を実行中のサーバ（実行系）で障害が発生すると、待機していた別のサーバ（待機系）が業務の処理を引き継ぎます。実行「系」から待機「系」へ業務を切り替えるので、「系切り替えシステム」とも呼びます。

なお、クラスタシステムという用語には、並列処理による負荷分散機能という意味もありますが、このマニュアルでは、系を切り替えて業務の中断を防ぐ機能のことだけを指します。

(サ行)

実行 ID

最上位ジョブネットの実行予定の一つに対して一つ割り振られる番号のことです。

ジョブ

コマンド、シェルスクリプト、Windows 実行ファイルなどの集まりです。

ジョブグループ

複数の業務を分類して管理するためのフォルダです。

ジョブネット

実行順序を関連づけたジョブの集まりです。ジョブネットを実行すると、ジョブネット中のジョブが実行順序に従って自動的に実行されます。

ジョブネットワーク要素

ジョブネットワークを定義するための要素です。これらの要素を総称して「ユニット」とも呼びます。

スケジューラーサービス

ジョブネットを実行するスケジュールを管理し、スケジュールに従って、処理を実行します。スケジューラーサービスは、スケジューラーサービス名と同じ名称のルートジョブグループ配下のユニットを管理します。

スケジューラーサービスは、一つのマネージャーで複数起動できます。スケジューラーサービスを複数起動すると、スケジューラーサービスごとにルートジョブグループを管理できるようになります。例えば、スケジューラーサービスを業務ごとに分けて起動すると、それぞれのスケジューラーサービスが、ほかのスケジューラーサービスの影響を受けることなく、独立して業務（ジョブネットおよびジョブ）を並行実行できます。

正常終了

ジョブネットの正常終了は、ジョブネットに定義した処理がすべて正しく実行されて、ジョブネットが終了することです。

ジョブの正常終了は、ジョブが正しく実行されて終了することです。

(ナ行)

ネストジョブネット

ジョブネット中に定義したジョブネットです。

(ヤ行)

ユニット

ジョブネットワーク要素の総称です。

索引

B

BUTTON_CHANGEDELAYMONITOR_SHOW 72
BUTTON_CHANGEJOBSTATUS_SHOW 72
BUTTON_CHANGETIME_SHOW 71
BUTTON_HOLD_SHOW 71
BUTTON_HOLDRELEASE_SHOW 71
BUTTON_INTERRUPT_SHOW 72
BUTTON_KILL_SHOW 71
BUTTON_PURGE_SHOW 71
BUTTON_QUICK_SHOW 70
BUTTON_RELEASECHANGE_SHOW 72
BUTTON_RERUN_SHOW 70
BUTTON_RESULT_DEL_ALL 72
BUTTON_RESULT_DEL_NORMAL 73
BUTTON_RESULT_SHOW 70
BUTTON_SHOW 70

F

FRAME_SHOW_STATUSCONFIRM 68
FRAME_TYPE 67

H

HNTRLOGLEVEL 35

I

IPC_TIMEOUT 35
IPCRETRYCOUNT 36
IPCRETRYINTERVAL 36

J

JP1/AJS3 - ViewまたはJP1/AJS2 - Viewの起動 26,
84

O

OBSERVE_HOSTNAME_SHOW 68
OBSERVE_n_CHECK 69
OBSERVE_n_HOSTNAME 69
OBSERVE_n_HOSTNAME_TYPE 69
OBSERVE_n_SERVICENAME 69
OBSERVE_n_SERVICENAME_TYPE 69
OBSERVE_n_UNITNAME 69
OBSERVE_n_UNITNAME_TYPE 70
OBSERVE_NUM 68
OBSERVE_SERVICENAME_SHOW 68

OBSERVE_UNITNAME_SHOW 68
OBSERVE_UNITNAME_WIDTH 69
OS のログ情報 137

R

RDBINF.conf.model の内容 56
RDB 接続定義ファイル 56
RDB 接続定義ファイルのパラメーター一覧 56

S

SSL サーバー証明書の設定 46

W

Web ブラウザーの設定 40
 Firefox の場合 41
 Internet Explorer の場合 40

あ

アンインストール 62

い

一覧表からの操作 22, 83
一覧表の更新 26
一括監視環境のカスタマイズ 26
一括監視の環境をカスタマイズする方法 64
一括表示 16
インストール手順 33
インストールとセットアップ 27
インストールとセットアップに関する注意事項 8
インストールとセットアップの流れ 28

か

[開始日時] 102
[開始予定日時] 102
概要 1
各バージョンの変更内容 177
画面 85
画面構成 86
環境設定パラメーター一覧 35
環境に関する注意事項 7
環境の設定 34
[監視] 画面 90
[監視] 画面イメージ 12
[監視画面に戻る] ボタン 111

[監視]画面のフレーム構成に関する設定 67
 [監視画面へ戻る]ハイパーリンク 115
 監視対象 n のスケジューラーサービス名 69
 監視対象 n のホスト名 69
 監視対象 n のユニット名 69
 監視対象スケジューラーサービス数 68
 監視対象に関する設定 68
 監視対象の指定 13
 監視対象の選択 92
 監視対象ユニット名の入力フィールド幅 69
 監視方法の選択 16, 93

き

機能 11
 [キャンセル]ボタン 110
 [強制終了]ボタン 96

く

クラスタシステムでの運用 131
 クラッシュダンプ 42
 [クリア]ボタン 95
 グローバルバッファ拡張の設定 60

け

系切り替え時の運用 132
 検索条件の選択 93
 検索条件のデフォルトの設定 74

こ

更新間隔 130
 [コメント] 101
 コメント中に含まれる文字列 94

さ

サーバー秘密鍵 46
 再実行時の操作オプション設定 126
 再実行時の[操作オプション]表 104
 [再実行]ボタン 96
 最新情報に更新 26
 [最新情報に更新]ボタン(状態確認フレーム) 112
 [最新情報に更新]ボタン(状態フレーム) 96
 [最新情報に更新]ボタン(操作実行結果フレーム) 111
 最大ディスク占有量(Windowsの場合) 136

し

システム構成例 6

システム障害通知ログ 135
 [実行ID] 101
 [実行結果の確認]ボタン 96
 実行状態 93
 [実行中止]ボタン 96
 [実行ホスト] 102
 実行ホスト名 94
 [実行]ボタン 110
 自動更新 26, 78, 130
 自動更新切り替えチェックボックス 97, 130
 [自動更新しない]チェックボックス 97
 [終了日時] 102
 使用上の注意事項 7
 [状態] 101
 状態 93
 状態一覧表(状態一覧フレーム) 97
 状態一覧表(状態確認フレーム) 112
 状態一覧表の表示項目 76
 状態一覧フレーム 95
 状態確認フレーム 111
 状態取得件数 97
 状態取得条件設定フレーム 91
 状態取得による一覧表示 13
 状態取得による一覧表示(操作) 82
 [状態取得]ボタン 94
 状態表示色 74
 状態を取得するユニットの範囲 93
 証明書発行要求 47
 [初期画面に戻る]ボタン 96
 ジョブ状態変更時の操作オプション設定 129
 [ジョブ状態変更]ボタン 97
 [所要時間] 102
 資料採取ツールのセットアップ 42
 資料の採取方法 139

す

[すべての実行結果の削除]ボタン 111

せ

制限値一覧 172
 [正常終了した結果の削除]ボタン 111
 設定項目選択フレーム 114
 設定フレーム(検索条件のデフォルト設定) 115
 設定フレーム(自動更新) 130
 設定フレーム(状態一覧表の表示項目) 120
 設定フレーム(状態表示色) 117
 設定フレーム(操作オプションのデフォルト設定) 125
 設定フレーム(遅延表示色の優先度) 119

前後ページへのハイパーリンク 97
 全世代時刻優先 16
 全世代時刻予定優先 16
 [選択行を監視画面で表示] ボタン 112
 前提条件 5

そ

操作 79
 操作オプションのデフォルト設定 77
 操作確認フレーム 103
 操作結果一覧表 110
 操作実行結果フレーム 110
 操作時に指定できるオプション 24
 操作時の注意事項 9
 操作対象一覧表 110
 操作ボタン (状態一覧フレーム) 96
 操作ボタンに関する設定 70
 操作ログ 135
 即時実行時の操作オプション設定 127
 即時実行時の [操作オプション] 表 105
 [即時実行] ボタン 96

た

タイトルフレーム (監視画面) 91
 タイトルフレーム (ユーザー環境設定画面) 114

ち

遅延監視変更時の操作オプション設定 128
 [遅延監視変更] ボタン 97
 [遅延状態] 101
 遅延状態 94
 遅延表示色の優先度 75
 [中断] ボタン 97

て

デフォルトのディスク占有量 (Windows の場合)
 136
 デフォルトのファイル名・フォルダ名 135

と

導入の目的 2
 特長 4
 トラブルシューティング 133
 トラブル発生時に採取が必要な資料 137

に

日時変更時の操作オプション設定 127

[日時変更] ボタン 97

は

ハイパーリンク化 123

ひ

表示項目のソート 22
 表示情報のフィルタリング 14
 表示方法の選択 16, 93
 表示優先度 16

ふ

ファイアウォールを通過するための設定 48
 ファイアウォールを通過できる構成 48
 ファイルおよびフォルダ一覧 166
 ファイルの切り替え時期 (Windows の場合) 136
 複数ホスト監視 22
 プロセス一覧 168
 分割表示 16

へ

[変更解除] ボタン 97

ほ

ポート番号一覧 170
 [保留] 101
 [保留解除] ボタン 96
 保留属性 101
 [保留] ボタン 96
 保留予定 94

ま

前倒し変更時の扱い 127

み

見積もり 173

め

メモリーダンプ 42

も

[戻り値] 101

ゆ

ユーザー環境設定 63

- [ユーザー環境設定]画面 114
- [ユーザー環境設定]画面で変更する環境 74
- [ユーザー環境設定]ハイパーリンク 91
- ユーザー環境設定パラメーター一覧 65
- ユーザー環境設定ファイルの形式 65
- ユーザー環境設定ファイルの編集 73
- ユーザー認証環境の設定 38
- [ユニット種別] 99
- ユニット種別の選択 13
- ユニットの指定 13

ろ

- ログアウト 81
- [ログアウト]ハイパーリンク 91
- ログイン 80
- [ログイン]画面 89
- ログ情報 135
- ログの種類 (Windows の場合) 135
- ログファイルおよびフォルダー一覧 135